

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (48)

かこしま県民交流センター建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

垂水・宮之城 島津家屋敷跡

2003・3

鹿児島県立埋蔵文化財センター





上空から見た垂水・宮之城島津家屋敷跡周辺



遺跡から鹿児島城本丸跡を望む



屋敷跡出土遺物(1)



屋敷跡出土遺物(2)

序 文

本報告書は、かごしま県民交流センター建設に伴って発掘調査が実施された垂水・宮之城島津家屋敷跡に関する報告書です。この屋敷跡は、旧鹿児島県庁地内に位置し平成8年に現在の鹿児島県庁に移転するまで県政の中核をなした地でもあります。

旧鹿児島県庁舎が建設される以前の江戸時代には、島津家一門の垂水島津家と宮之城島津家の屋敷が建っていた場所でもあります。近年では、江戸時代の遺跡に関しても発掘調査が実施され多くの成果が上がっています。これらの成果により、当時の生活・文化などがより解明されると思われれます。本報告書が、調査・研究や啓発・普及などにおいて幅広く活用されることを願います。

最後になりましたが、発掘調査並びに報告書作成について、関係機関はじめ多くの方々より御指導と御協力を賜りました。ここに感謝の意を表します。

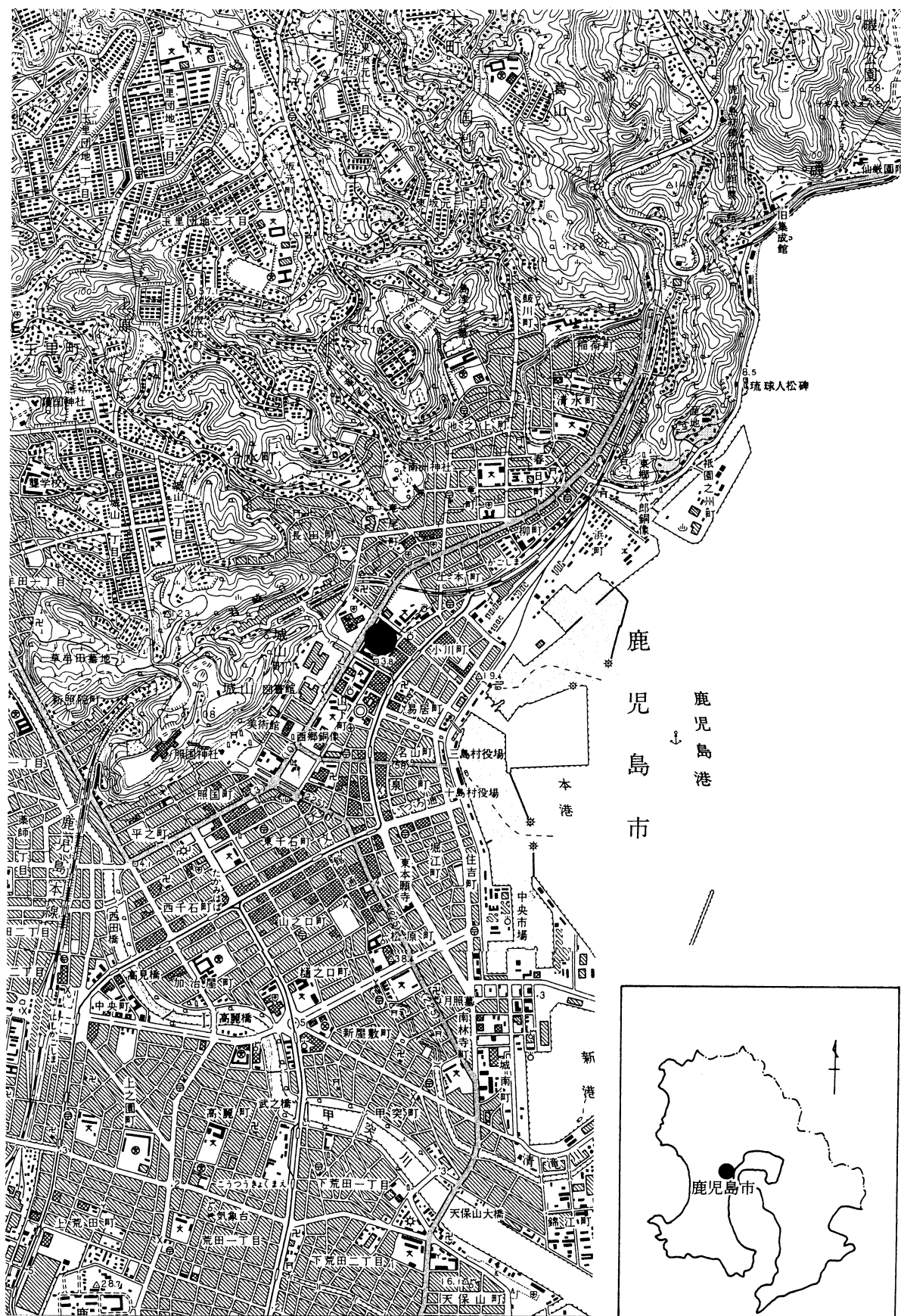
平成15年3月

鹿児島県立埋蔵文化財センター

所 長 井 上 明 文

報告書抄録

ふりがな	たるみず・みやのじょう しまづけ やしきあと							
書名	垂水・宮之城島津家屋敷跡							
副書名	かごしま県民交流センター建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書							
シリーズ番号	48							
編著者名	黒川忠広							
編集機関	鹿児島県立埋蔵文化財センター							
所在地	〒899-4461 鹿児島県国分市上之段1175番地1 TEL 0995-48-5811							
発行年月日	2003年3月20日							
フリガナ	フリガナ	コード		北緯	東経	調査期間	面積 m ²	調査原因
所蔵遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
垂水・宮之城 島津家屋敷跡	鹿児島県鹿児島 市山下14-50	0046		31° 35' 44"	130° 33' 35"	H11・5・10 ～ H11・6・4 H12・6・5 ～ H12・7・27	3,350m ²	かごしま 県民交流 センター 建設
所蔵遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
垂水・宮之城 島津家屋敷跡		江戸時代	屋敷境溝 根石 土坑		磁器 陶器 土器 瓦・瓦質土器 木器 金属器 古銭			



遺跡位置図 (2.5万分の1)

例 言

- 1 本書は、かごしま県民交流センター建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、鹿児島県総務部の依頼を受けて鹿児島県立埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 発掘調査における測量・実測・写真撮影等は、平成11・12年度の調査担当者がおこなった。
- 4 整理作業は県立埋蔵文化財センターでおこなった。
- 5 本書掲載の測量・実測図、出土遺物の実測及び浄書は、整理作業員の協力を得て整理担当者がおこなった。
なお、出土遺物の実測及び浄書の1部は、(株)九州文化財研究所に委託した。
- 6 報告書作成の基礎作業に関し、関明恵・橋口亘両氏の協力を得た。
- 7 出土遺物の写真撮影は、黒川忠広がおこない鶴田静彦・福永修一・横手浩二郎各氏の協力を得た。
- 8 遺物番号は、本文及び挿図・図版の番号と一致する。
- 9 本書に用いたレベル数値は全て海拔絶対高である。
- 10 堂満幸子氏・渡辺芳郎氏・橋口亘氏より玉稿を賜った。
- 11 出土した遺物は、県立埋蔵文化財センターで保管・活用する。

本 文 目 次

序 文	
抄 録	
例 言	
第1章 調査に至る経過	1
第1節 調査に至るまでの経緯	1
第2節 調査の組織	1
第3節 調査の経過	2
第2章 遺跡の位置と環境	2
第1節 遺跡の位置	2
第2節 歴史的環境	2
第3章 調査の概要	5
第1節 発掘調査の概要	5
第2節 各調査区の層位	6
第3節 整理作業及び分類等の方針について	6
第4章 垂水島津家屋敷跡の調査	10
第1節 概要	10
第2節 遺構	10
第3節 遺物	10
第5章 宮之城島津家屋敷跡の調査	17
第1節 概要	17
第2節 遺構	17
第3節 遺物	17
第6章 調査のまとめ	97
第1節 遺構について	97
第2節 遺物について	97
第3節 垂水・宮之城島津家屋敷跡の変遷	98
第4節 総括	98
付 編	99

挿 図 目 次

第1図 周辺遺跡位置図	4
第2図 発掘調査区	5
第3図 調査区内の層位	6
第4図 垂水島津家調査区全体図	10
第5図 垂水島津家遺構実測図	11
第6図 垂水島津家出土遺物実測図(1)	12
第7図 垂水島津家出土遺物実測図(2)	13
第8図 垂水島津家出土遺物実測図(3)	14
第9図 垂水島津家出土遺物実測図(4)	15
第10図 垂水島津家出土遺物実測図(5)	16
第11図 垂水島津家出土遺物実測図(6)	17
第12図 宮之城島津家遺構配置図	18
第13図 宮之城島津家遺構実測図(1)	19
第14図 宮之城島津家遺構実測図(2)	20
第15図 掃きだめ状遺構内出土遺物実測図	21
第16図 屋敷境溝上面土坑内出土遺物実測図(1)	22
第17図 屋敷境溝上面土坑内出土遺物実測図(2)	23
第18図 屋敷境溝上面土坑内出土遺物実測図(3)	24
第19図 土坑1内出土遺物実測図	25
第20図 土坑2内出土遺物実測図(1)	25
第21図 土坑2内出土遺物実測図(2)	26
第22図 土坑2内出土遺物実測図(3)	27
第23図 宮之城島津家出土遺物実測図(1)	28
第24図 宮之城島津家出土遺物実測図(2)	29
第25図 宮之城島津家出土遺物実測図(3)	30
第26図 宮之城島津家出土遺物実測図(4)	31
第27図 宮之城島津家出土遺物実測図(5)	32
第28図 宮之城島津家出土遺物実測図(6)	33
第29図 宮之城島津家出土遺物実測図(7)	34
第30図 宮之城島津家出土遺物実測図(8)	35
第31図 宮之城島津家出土遺物実測図(9)	36
第32図 宮之城島津家出土遺物実測図(10)	37
第33図 宮之城島津家出土遺物実測図(11)	38
第34図 宮之城島津家出土遺物実測図(12)	39
第35図 宮之城島津家出土遺物実測図(13)	40
第36図 宮之城島津家出土遺物実測図(14)	41
第37図 宮之城島津家出土遺物実測図(15)	42
第38図 宮之城島津家出土遺物実測図(16)	43
第39図 宮之城島津家出土遺物実測図(17)	44
第40図 宮之城島津家出土遺物実測図(18)	45
第41図 宮之城島津家出土遺物実測図(19)	46
第42図 宮之城島津家出土遺物実測図(20)	47
第43図 宮之城島津家出土遺物実測図(21)	48
第44図 宮之城島津家出土遺物実測図(22)	49
第45図 宮之城島津家出土遺物実測図(23)	50
第46図 宮之城島津家出土遺物実測図(24)	51
第47図 宮之城島津家出土遺物実測図(25)	52
第48図 宮之城島津家出土遺物実測図(26)	53
第49図 宮之城島津家出土遺物実測図(27)	54
第50図 宮之城島津家出土遺物実測図(28)	55
第51図 宮之城島津家出土遺物実測図(29)	56
第52図 宮之城島津家出土遺物実測図(30)	57

第53図	宮之城島津家出土遺物実測図 (31)	58	第67図	宮之城島津家出土遺物実測図 (45)	72
第54図	宮之城島津家出土遺物実測図 (32)	59	第68図	宮之城島津家出土遺物実測図 (46)	73
第55図	宮之城島津家出土遺物実測図 (33)	60	第69図	宮之城島津家出土遺物実測図 (47)	74
第56図	宮之城島津家出土遺物実測図 (34)	61	第70図	宮之城島津家出土遺物実測図 (48)	75
第57図	宮之城島津家出土遺物実測図 (35)	62	第71図	宮之城島津家出土遺物実測図 (49)	76
第58図	宮之城島津家出土遺物実測図 (36)	63	第72図	宮之城島津家出土遺物実測図 (50)	77
第59図	宮之城島津家出土遺物実測図 (37)	64	第73図	宮之城島津家出土遺物実測図 (51)	78
第60図	宮之城島津家出土遺物実測図 (38)	65	第74図	宮之城島津家出土遺物実測図 (52)	79
第61図	宮之城島津家出土遺物実測図 (39)	66	第75図	宮之城島津家出土遺物実測図 (53)	80
第62図	宮之城島津家出土遺物実測図 (40)	67	第76図	宮之城島津家出土遺物実測図 (54)	81
第63図	宮之城島津家出土遺物実測図 (41)	68	第77図	宮之城島津家出土遺物実測図 (55)	82
第64図	宮之城島津家出土遺物実測図 (42)	69	第78図	宮之城島津家出土遺物実測図 (56)	83
第65図	宮之城島津家出土遺物実測図 (43)	70	第79図	明治10年鹿児島略絵図	98
第66図	宮之城島津家出土遺物実測図 (44)	71	第80図	明治42年発行地図	98

表 目 次

第1表	周辺遺跡地名表	3	第12表	宮之城島津家屋敷跡 出土遺物一覧表 (6)	91
第2表	垂水島津家屋敷跡出土遺物一覧表 (1)	84	第13表	宮之城島津家屋敷跡 出土遺物一覧表 (7)	92
第3表	垂水島津家屋敷跡出土遺物一覧表 (2)	85	第14表	宮之城島津家屋敷跡 出土遺物一覧表 (8)	93
第4表	垂水島津家屋敷跡出土遺物一覧表 (3)	85	第15表	宮之城島津家屋敷跡 出土遺物一覧表 (9)	94
第5表	宮之城島津家屋敷跡遺構内出土 遺物一覧表 (1)	85	第16表	宮之城島津家屋敷跡 出土遺物一覧表 (10)	95
第6表	宮之城島津家屋敷跡遺構内出土 遺物一覧表 (2)	86	第17表	宮之城島津家屋敷跡 出土遺物一覧表 (11)	96
第7表	宮之城島津家屋敷跡 出土遺物一覧表 (1)	86	第18表	宮之城島津家屋敷跡 出土遺物一覧表 (12)	97
第8表	宮之城島津家屋敷跡 出土遺物一覧表 (2)	87	第19表	宮之城島津家屋敷跡 出土遺物一覧表 (13)	97
第9表	宮之城島津家屋敷跡 出土遺物一覧表 (3)	88			
第10表	宮之城島津家屋敷跡 出土遺物一覧表 (4)	89			
第11表	宮之城島津家屋敷跡 出土遺物一覧表 (5)	90			

図 版 目 次

巻頭1	上空から見た垂水・宮之城島津家屋敷 跡周辺、遺跡から鹿児島城本丸跡を望 む、屋敷跡出土遺物 (1)			すり鉢形・捏ね鉢形・植木鉢形・甕形	118
巻頭2	屋敷跡出土遺物 (2)		図版16	蓋形	119
図版1	屋敷跡から鹿児島城を望む、作業風景	104	図版17	瓦	120
図版2	垂水島津家屋敷跡遺構検出状況	105	図版18	防衛食容器	121
	宮之城島津家屋敷跡A区遺構検出状況	105	図版19	古銭	122
図版3	屋敷境溝検出状況	106	図版20	H11年度発掘作業員	123
図版4	掃きだめ状遺構検出状況	107		H12年度発掘作業員	123
	宮之城島津家屋敷跡B区遺構検出状況	107		整理作業の様子・整理指導の様子	123
図版5	土坑1検出状況	108		鹿児島陶磁器研究会の様子	123
	垂水島津家土層断面	108		H14年度整理作業員	123
	宮之城島津家土層断面	108		曳家工事前の旧鹿児島県庁舎本館	123
	遺構実測風景	108			
図版6	掃きだめ状遺構出土遺物	109			
図版7	土坑2出土遺物、碗形2・3類 猪口形・高坏形	110			
図版8	碗形1類	111			
図版9	碗形4・5・6類	112			
図版10	皿形	113			
図版11	皿形8類・器台形・ひょうそく形	114			
図版12	鉢形・鬚水入れ形	115			
図版13	瓶形	116			
図版14	注口形	117			
図版15	火入れ鉢形・壺形・徳利形				

第1章 調査に至る経過

第1節 調査に至るまでの経緯

鹿児島県教育委員会は、文化財の保護・活用を図るため、各開発関係機関との間で、事業区内における文化財の有無及びその取り扱いについて協議し、諸開発との調整を図っている。

この事前協議制に基づき、鹿児島県総務部県庁舎跡地対策事務局（平成12年4月より県民交流センター整備事務局と改称：以下事務局、平成14年度から環境生活部）は、平成8年に移転した鹿児島市山下町の旧県庁舎跡地利用事業を計画し、事業区内の埋蔵文化財の有無について、鹿児島県教育委員会文化財課（以下文化財課）に照会した。

事業区周辺は、鹿児島城下の武家屋敷が所在していたところであり、照会を受けた文化財課では、平成9年度に事業区内の試掘調査を実施した。その結果、3,350㎡にわたって近世の遺構・遺物の存在が確認された。

この結果をもとに、遺跡の取り扱いについて事務局・文化財課・県立埋蔵文化財センターの三者で協議をおこない、現状保存や設計変更が不可能であることから、記録保存のための緊急発掘調査を実施することとした。平成11年度には、このうち旧県庁舎本館部分の曳家工事にかかる部分の650㎡について、平成12年度には、かごしま県民交流センター建設区域の2,700㎡について全面調査を実施した。

第2節 調査の組織

発掘調査（平成11・12年度）

起回事業主体 鹿児島県総務部
県民交流センター整備事務局
（旧：県庁舎跡地対策事務局）

調査主体 鹿児島県教育委員会
企画・調整 鹿児島県教育庁文化財課
調査責任者

鹿児島県立埋蔵文化財センター
所 長
吉永 和人（平成11年度）
井上 明文（平成12年度）

調査企画者 鹿児島県立埋蔵文化財センター
次長兼総務課長
黒木 友幸（平成11・12年度）

調査課長
戸崎 勝洋（平成11年度）
新東 晃一（平成12年度）

調査課長補佐
新東 晃一（平成11年度）
立神 次郎（平成12年度）

主任文化財主事兼第一調査係長
青崎 和憲（平成11・12年度）

主任文化財主事
中村 耕治（平成11・12年度）

調査担当 鹿児島県立埋蔵文化財センター
調査課長
戸崎 勝洋（平成11年度）
主任文化財主事兼第一調査係長
青崎 和憲（平成12年度）

文化財主事
大久保浩二（平成12年度）

文化財研究員
黒川 忠広（平成11年度）

調査事務 鹿児島県立埋蔵文化財センター
総務係長
有村 貢（平成11・12年度）

主 事

溜池 佳子（平成11・12年度）

報告書作成（平成14年度）

事業主体 鹿児島県環境生活部
県民交流センター整備事務局

調査主体 鹿児島県教育委員会
企画・調整 鹿児島県教育庁文化財課
調査責任者 鹿児島県立埋蔵文化財センター
所 長 井上 明文

調査企画者 鹿児島県立埋蔵文化財センター
次長兼総務課長 田中 文雄
調査課長 新東 晃一
調査課長補佐 立神 次郎
主任文化財主事兼第一調査係長
池畑 耕一

主任文化財主事 中村 耕治

調査担当 鹿児島県立埋蔵文化財センター
文化財研究員 黒川 忠広

調査事務 鹿児島県立埋蔵文化財センター
総務係長 前田 昭信
主 査 栗山 和己

指導者 近世文書研究家 堂満 幸子
鹿児島大学 渡辺 芳郎
坊津町教育委員会 橋口 亘

発掘調査作業員

平成11年度

安部松伊都子	宇都ハル子	上床久美子
大平 悟	大平カナエ	田中チエ子
谷口 ノリ	深海ミチ子	寺光ミツ子
松下 ミキ	森園セツ子	米永ミチ子
脇 藤雄	脇 タミ子	脇 ツルエ
脇 俊子		

平成12年度

有田ナミエ	岩重テル子	内村 幸子
内村 正	内村 貢	梶原須美子
仮屋園睦子	川添 一徳	川畑 隆雄
川畑チリ子	川崎 和子	行徳 勉
新屋サチ子	田屋敷義則	土井 利彦
遠矢 逸子	遠矢 一光	泊 すみ江
西園 政子	原田 重夫	古川 和一
別府 明	溝口 文義	三田ミヨ子
南 良子	彌勒 和子	森木田ユキエ
森木田義則	盛満 米徳	安田 種夫
脇 エミ子	脇田 フミ	

整理作業員

江原 裕子	梯 チヨ子	槐島 洋子
那須マリ子	辻田 由美	土井 明子

なお、発掘調査から報告書作成に至るまで鹿児島陶磁器研究会をはじめ、様々な方々より御指導をいただいた。ここに記して感謝したい。

網屋にしき	有川孝行	安荘玲子	今村敏照
上杉彰紀	上床 真	大武 進	岡部安代
川東美登里	栗林文夫	齊藤千鶴	重久淳一
下鶴 弘	白坂美枝子	関 一之	鶴田静彦
鶴 みつ子	出口 浩	中村和美	中村ひろみ
深野信之	福永修一	掘田孝博	前田裕子
松村真希子	宗岡克英	柳田晴子	山崎省一
湯之上さゆり	横手浩二郎	吉満庄司	

第3節 調査の経過

発掘調査は、平成11年5月10日～6月4日までの実働18日と、平成12年6月5日～7月27日までの実働35日にかけて実施した。

報告書作成は、平成14年度に県立埋蔵文化財センターで実施した。以下、日誌抄をもとに経過を記したい。

平成11年度

- 5月10日 調査開始。道具搬入及び作業員への業務内容等のオリエンテーションを実施。重機を用いて表土を剥ぐ。
D区を設定する。
- 11日 D区掘り下げ。明治時代の布基礎検出。
- 12日 D区の大半が攪乱を受けていることが判明する。
- 13日 B区の表土剥ぎに着手。大半が攪乱を受けていることが判明。
- 14日 D区の削平範囲等を測量。
- 17日 D区の下層確認。江戸時代以前は砂層が厚く堆積し、地表下3m前後で湧水が発生。
- 18日 午後より雨天のため、遺物水洗作業を実施する。
- 19日 A区表土剥ぎ。遺物・遺構なし。
攪乱の状況等を写真撮影。
- 20日 A区を埋め戻す。
- 21日 B区を人力で掘り下げ。
- 24日 雨天のため、遺物水洗作業を実施。
- 25日～27日 D区の根石等の遺構検出作業。
- 6月1日 重機によりA・B区の埋め戻し。
- 2日 D区の遺構写真撮影・実測。

- 3日 ベルトコンベアー等を搬出。
D区の埋め戻し。
- 4日 各調査区の埋め戻し状況最終確認。
道具搬出、周辺清掃を実施し発掘調査を終了する。

平成12年度

- 6月5日 調査開始。A区から調査着手。
- 6日 島津家の家紋を記した陶器片が出土。
- 7日 天保二朱金が出土。B区表土剥ぎ。
- 8日 A区土坑1の下部に板材が検出。
- 13日 木製品出土。
- 19日 安全パトロール巡回。
- 23日 土坑1下部より検出された石垣の清掃。屋敷境の溝である可能性が高まる。根石等の写真撮影実施。
- 26日 予想以上の遺構が検出され、実測支援体制が組まれる。
- 7月3日 7月の作業開始。
- 4日 C区の表土剥ぎ。A区検出の溝の延長に留意して掘り下げる。
- 5日 セスナによる航空写真撮影を実施。
- 6日 「中村八兵衛」という銘の記された硯が出土。
- 10日 写真測量を実施。
- 12日 C区人力で掘り下げ。炭化物を多く含んだ整地層あり、遺物が多量に含まれている。
- 17日 B区検出の根石ポイント平板測量。
- 24日 鹿児島大学渡辺芳郎氏来跡。
- 26日 発掘機材等の搬出。
- 27日 埋め戻し作業実施。
発掘調査を終了し、現地引き渡し。

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置

垂水・宮之城島津家屋敷跡は、鹿児島市山下町14番50号に位置する。

遺跡の所在する鹿児島市は、薩摩半島中央部の東側に位置している。市域は南北に長く、桜島の東側を飛び地として約288km²の面積を有している。鹿児島市は、薩摩藩の城下町として栄え現在でも本県の政治経済の中心地と繁栄している。

地形は、市内全域に南九州特有のシラスが堆積しており、市の北東部は200m～400mの急崖が錦江湾と接している。これが始良カルデラの西側壁である。市の西部から南部にかけては、薩摩半島を南北に走る南薩山地区から東へ緩やかに傾斜して錦江湾へと続く丘陵及び低台地から成っている。

市内の低地部分は、シラス台地を浸食しながら狭い谷や舌状の台地、独立丘陵等の様々な変化に富んだ地形を有しながら錦江湾へと注ぐ甲突川、田上川、稻荷川、長田川等の中小河川によって形成された沖積地である。

第2節 歴史的環境

鹿児島市には、旧石器時代から近世に至るまでの多数の遺跡が存在している。ここでは、各時代ごとにその概要を述べていきたい。

旧石器時代の遺跡としては、九州自動車道建設に伴って発掘調査が実施された加治屋園遺跡や加栗山遺跡などの細石器文化期の遺跡が挙げられる。加治屋園遺跡においては、凝灰岩質頁岩を用いた細石刃核が「加治屋園型」

あるいは「加治屋園技法」として南九州の重要な細石刃技法の1つに位置づけられている。

縄文時代草創期の遺跡には、下福元町の掃除山遺跡が著名である。ここでは、竪穴住居跡や煙道付き炉穴や配石遺構などの遺構や隆帯文土器などの遺物が多数発見され、定住生活の萌芽期の様相を知る上で貴重なものとして位置づけられている。横井・竹ノ山遺跡では、該期の石鏃が出土している。土器や石鏃といった縄文的様相のもの、細石刃とがどのような関係にあるのかを解明する遺跡として注目されている。

早期には、川上町加栗山遺跡が九州自動車道建設に伴って発掘調査され、17基の竪穴住居跡や連穴土坑、集石などの遺構や南九州貝殻文系土器などの多数の遺物が出土している。この他にも、伊佐之原遺跡、鹿大桜ヶ丘団地遺跡など該期の様相が窺い知れる遺跡が多く発見されている。また、南九州を代表する土器型式である前平式土器の標識遺跡となった前平遺跡も吉野町に位置している。これら縄文時代早期の遺跡の立地場所の多くは、その地理的な特徴などから中世山城としても後世に土地利用がなされており、結果として攪乱されてしまっている状況も見ることが出来る。

中期には、春日町に位置する春日町遺跡がある。この遺跡から出土した土器型式は、河口氏によって春日式土器として型式設定されている。これまでは前期として位置づけられていたが、現在では瀬戸内地方との関わり合いなどから中期に位置づけられている。

後期は、草野貝塚が著名である。昭和23年の発見以来、多くの研究者に注目され数回の発掘調査が実施されている。その成果は、該期の土器編年に重要な手がかりを与

えると共に、釣り針や髪針等の骨角器や動物遺存体などの通常残りにくい遺物の発見によって当時の文化を解明する手がかりとして高く評価されている。

弥生時代では、前期の遺跡として魚見町の魚見ヶ原遺跡がある。当遺跡からは、竪穴住居跡や掘立柱建物跡や多数の土坑、道跡など該期の集落を構成する様々な施設が見つかっている。前期末から中期にかけては北麓遺跡があり、溝状遺構から一括に近い状態で土器が出土している。この資料をもとに、該期の土器型式として北麓式土器が提唱されている。

古墳時代は、鹿大構内の遺跡から大規模な集落が発見され、当時のムラのあり方を考察できる良好な遺跡が多数見つかっている。

中世になると、島津氏の居城として東福寺城、清水城、内城が築かれ、これに伴って上町地区が城下町として発展を見せた。

関ヶ原の戦いの後に、鹿児島城（鶴丸城）が築かれ城下町の形成がなされた。この鹿児島城は、18代島津家久によって慶長末から寛永初期（1620年代）に築城されたと言われている。これまでに数回の発掘調査が実施され、多数の遺構・遺物が発見されている。だが、明治期以降の度重なる造成等のため、必ずしも残存状況は良好とは言えない場所も多い。この他に、九州新幹線鹿児島ルー

ト建設に伴って発掘調査された寿国寺跡からは、三国名勝図会に記されている池の基礎などが確認されている。

さて、鹿児島城下すなわち現在の市街地には多くの近世遺跡が存在している。発掘調査によって、先に挙げた鹿児島城の他に名山遺跡や浜町遺跡、造士館・演武館などの成果が上がっている。これらの消費地の他に、薩摩焼の窯跡の発掘調査も実施されている。堅野（冷水）窯跡は、1978年に発掘調査が実施され、その成果は薩摩焼研究の基礎資料として重要な役割を果たしている。この他にも、長田窯跡や稲荷窯跡などの生産遺跡が存在しているが、特に稲荷窯跡に関しては、周辺の宅地化が進み、僅かに祠が残存しているのみである。現在のところ、数少ない採集品から生産品の特徴をつかみ取ることはできない。

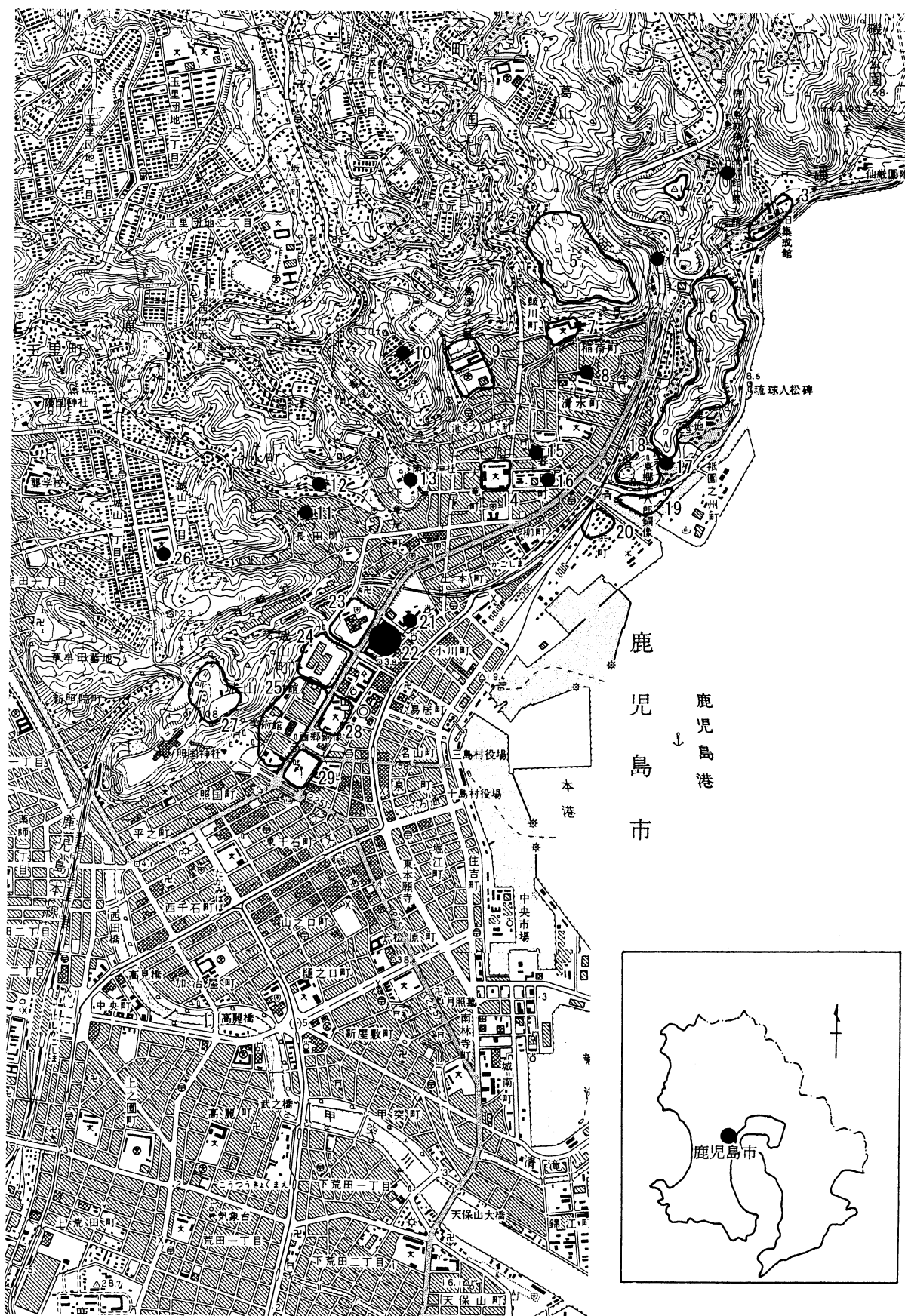
この他に、寺院跡の発掘調査も多くの成果が認められる。島津家の菩提寺でもある福昌寺や大乘院、大竜寺や先に挙げた寿国寺などがこれに当たる。鹿児島は、明治時代の廃仏毀釈で寺院を徹底的に破壊しており、これらの様相は僅かな文献資料と発掘調査による成果とに頼らざるを得ない。このように、近世遺跡の発掘調査成果は、該期の鹿児島を知る最も有効な手段の1つとして位置づけられている。

第1表 周辺遺跡地名表

番号	遺跡名	所在地	時代	主な遺構・遺物	備考
1	雀ヶ宮遺跡	吉野町七社島堀	古墳		
2	前平遺跡	吉野町雀ヶ宮前平	縄文早	前平式土器	前平式の標識遺跡
3	集成館跡	吉野町	近世		
4	滝ノ上火薬製造所跡	吉野町滝ノ上	近世		
5	清水城跡	稲荷町	縄文・中世	前平式土器	
6	東福寺城跡	清水町	中世・近世		
7	大乘院跡	稲荷町	近世	排水溝	
8	稲荷窯跡	稲荷町	近世	薩摩焼・窯道具	開窯1842(天保13)年か?
9	福昌寺跡	池ノ上町20-57	近世	薩摩焼	島津家菩提寺
10	丸岡遺跡	坂元町たんたとう丸岡	縄文		
11	長田窯跡	長田町	近世	薩摩焼・窯道具	開窯1763(宝暦13)年
12	堅野(冷水)窯跡	冷水町	近世	薩摩焼・窯道具	開窯1620(元和6)年
13	南洲神社	上竜尾町	縄文	前平式	
14	大竜寺跡(内城跡)	池之上町	縄文・中世・近世		
15	若宮神社	池之上町	縄文	西平式・市来式	
16	春日町遺跡	春日町	縄文	春日式・阿高式・指宿式・西平式	春日式の標識遺跡
17	田之浦窯跡	清水町	近世	薩摩焼・窯道具	開窯1870(明治3)年
18	浜崎城跡	清水町字田ノ浦	中世		
19	祇園之洲砲台跡	清水町10-7	近世		薩英戦争関連施設
20	浜町遺跡	浜町	近世	薩摩焼	抱真院、神明宮、島津山城殿下屋敷跡
21	琉球館跡	小川町	近世		
22	垂水・宮之城島津家屋敷跡	山下町14-50	近世	屋敷境溝・薩摩焼・染付	本報告
23	鹿児島城廐跡	城山町	近世		私学校跡
24	鹿児島城本丸跡	城山町	近世	薩摩焼・染付	
25	鹿児島城二ノ丸跡	城山町	近世	薩摩焼・染付	
26	夏陰城跡	長田町字夏陰	中世		
27	上山城跡	新照院町41-1	中世		
28	名山遺跡	名山町	近世	石組排水溝・薩摩焼・染付	喜入家屋敷と永吉島津家との境界溝の可能性
29	造士館・演武館跡	山下町	近世	薩摩焼	

◆参考文献

- 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2002 『寿国寺・梅落遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(40)
 小山富士雄・田澤金吾 1941 『薩摩焼の研究』 座右實刊行會
 鹿児島県教育委員会 1983 『鹿児島城本丸跡』鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(26)
 鹿児島県教育委員会 1992 『鹿児島城二ノ丸跡』鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(60)
 鹿児島市教育委員会 1998 『祇園之洲砲台跡』鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(23)
 河口貞徳 1955 「鹿児島県における貝殻条痕土器」『鹿児島県考古学会紀要』第4号 鹿児島県考古学会
 鹿児島市 1955 『鹿児島のおいたち』



第1図 周辺遺跡位置図 (2.5万分の1)

第3章 調査の概要

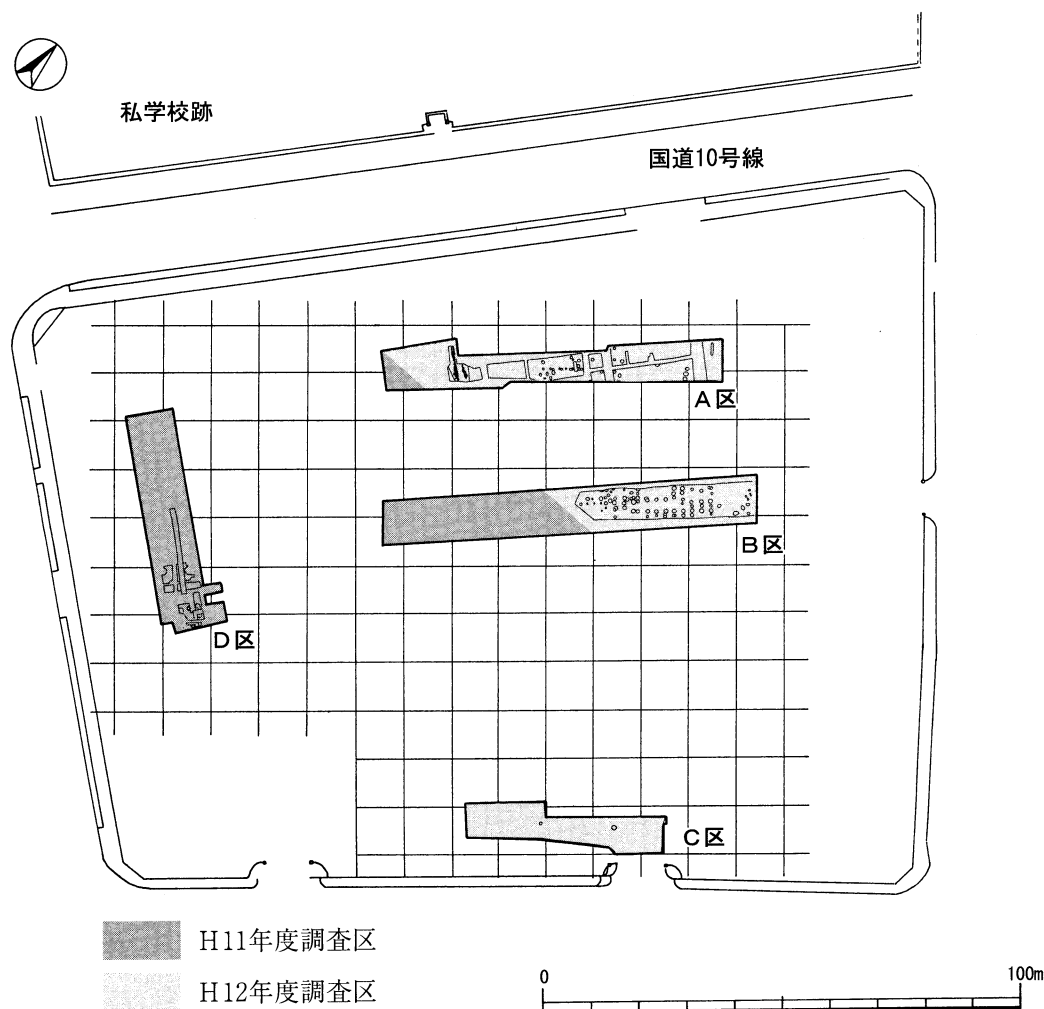
第1節 発掘調査の概要

発掘調査は、大きく4カ所の調査区からなり、この内西側（A区）及び中央調査（B区）区に関しては2カ年にまたがって調査を実施した。重機で、現代の盛り土等を除去し黒色土以下を人力で掘り下げていった。各調査区は、多くの部分で近現代の攪乱を受けており、部分的にしか残存していない区もある。また、調査対象区内は江戸期に垂水・宮之城島津家屋敷が位置していた場所であるが、両屋敷の境は調査着手段階では分けることが出来なかった。だが、平成12年度の調査において屋敷境の溝

状遺構が検出され、南側調査区（D区）が垂水島津家、A～C区が宮之城島津家の敷地であると判断した。

現場での遺構実測は、近現代の造成土以下のものを対象とし明治時代以降と判断したものについては写真等での記録に留めた。また、平成12年度はB区に関して写真測量による遺構実測業務を委託実施している。なお、平成12年度は遺構実測等において支援体制を組織して対応を行った。

遺物の取り上げは、全て調査区一括で行った。廃棄土坑として認識できたものを除き、水洗作業を実施した後に現場廃棄した遺物もある。



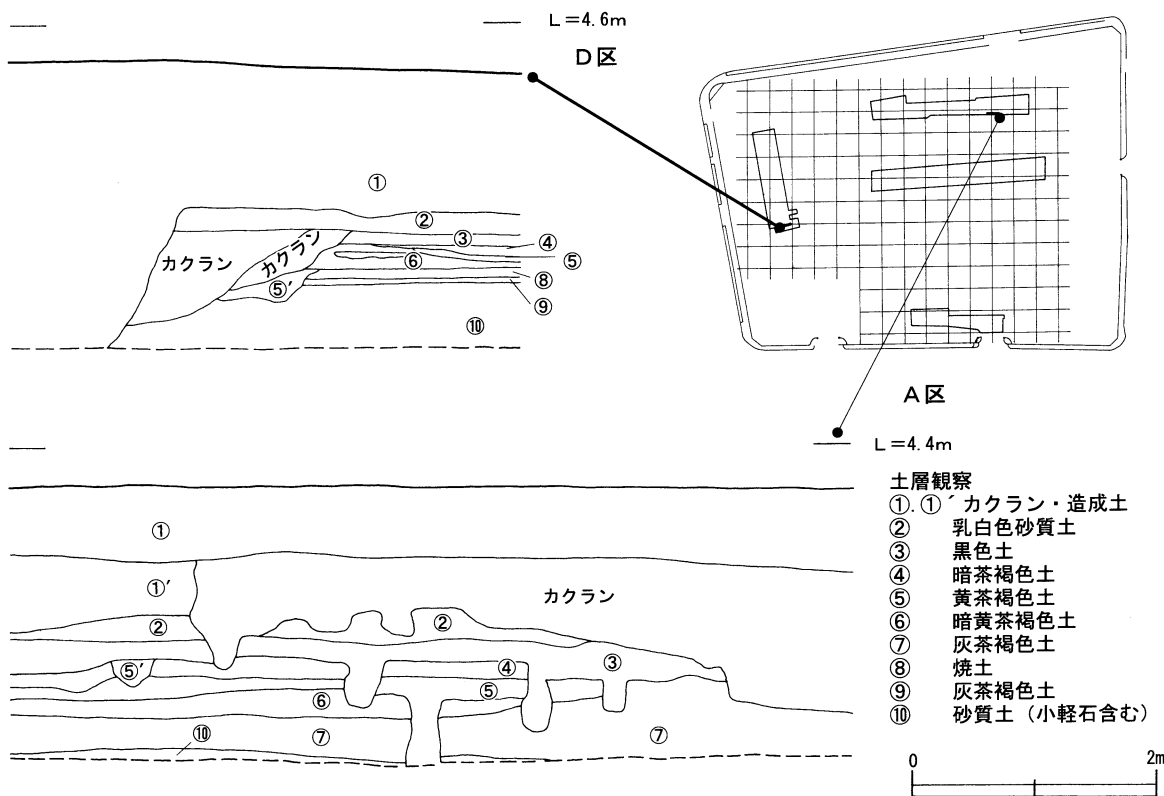
第2図 発掘調査区

第2節 各調査区の層位

層位は、各調査区共に明治時代以降の造成土が1m程度堆積しており、特に敷地中央部分の盛土は厚く、敷地内排水を考慮したものと思われる。その下位に黒色土が残存している。この黒色土中から、江戸時代の遺構や陶磁器などの遺物が発見された。なお、部分的に炭化物の層が認められた。これは、詳細な時期の特定には至らなかったが、文献によると江戸時代に城下に火災が発生していたことが記されており、それを裏付けるものと思われる。

江戸時代を中心とした遺構・遺物の出土するこの黒色土は水分を含んでおり、下位へ行くにしたがい湧水が認められた。この層の下位には、砂層が厚く堆積している。

遺物の取り上げに関しては、本来層位別実施すべきところであるが、攪乱が多く、また、層位は安定して堆積しておらず、これらの要因により現場での層位別取り上げは実施出来ていない。このため、遺物は各調査区一括で取り上げている。このため、近現代のものから江戸時代のものまでが混在してしまっている。



第3図 調査区内の層位

第3節 整理作業及び分類等の方針について

整理作業は平成14年度に県立埋蔵文化財センターで実施した。遺物の分類は、橋口亘氏、関明恵氏の協力の下、内藤町遺跡等の報告書分類を参考に進めていった。

両屋敷跡から出土した遺物は、それぞれの特徴などによって第1群から第4群に大別した。

これらの中では、陶磁器が両屋敷跡出土遺物の中で最も多い。分類は、原則として器形を優先させ、器形の中でそれぞれに応じた特徴を抽出して細分類を行っている。

これらの報告は、器形順にそれぞれ磁器→陶器の順で報告を行った。この中で、産地は特に優先はさせていないが、同類の場合極力近くにレイアウトできるように努

めている。ただし、産地の推定は肉眼観察であり客観性に欠ける部分も存在している。

なお、産地は国産の場合は藩ないし地域を、国外産の場合は国名を示した。次に、系統などを示した。

第2群以下の遺物に関しては、陶磁器ほどの出土量はない。この内、金属製品と思われる資料も出土しているが、錆などの腐食が激しく図化できたものは少ない。

次に、各器種ごとの概念を提示したい。

今回報告するに当たっては、極力器形を重視した。よって、同一の用途が考えられるが異なる分類に属したり、異なる用途のものが同一分類内で捉えられるなどの矛盾点も存在している。

器形等の分類

第1群 陶磁器

碗形

片手で持ち上げられる程度の大きさで重量で、口縁部に華やかな装飾が施されていないもの。

- 1類 口縁部が外反せず、胴部から丸みを帯びて立ち上がる口縁部形態を呈する。施釉の状態によって3つに細分した。
 - ・1a類 口縁部内面・見込み共に施釉されているもの。
 - ・1b類 口縁部内面が無釉のもの。
 - ・1c類 見込みが蛇ノ目釉剥のもの。
- 2類 口縁部から高台にかけて直線的な胴部を呈し、高台も垂直に接地する。いわゆる広東碗である。
- 3類 口縁部が外反するもの。
 - ・3a類 見込みに目跡が見られないもの。
 - ・3b類 見込みが目跡が見られるもの。
- 4類 胴部に明瞭な屈曲を有する。いわゆる腰折碗である。
- 5類 口縁部から胴部にかけて円筒形状の器形を呈し、胴部下半から強い屈曲で底部に至る。いわゆる半筒碗である。
 - ・5a類 全面施釉のもの。
 - ・5b類 口縁部内面が無釉のもの。
- 6類 胴部が膨らみを持って屈曲するもの。いわゆる筒丸碗である。
- 7類 1～6類以外のものを一括した。
- 8類 碗形の可能性が高いが、全体の形状が不明なもの。

皿形

底部から湾曲ないし屈曲または直行して立ち上がるもので、見込みが浅いもの。1～8類に細分したが、1～7類までは高台を有するもので、8類のみ高台がない。

- 1類 小型のものを一括した。
 - ・1a類 外面に縦位の条線が施され、菊花状を呈しているもの。
 - ・1b類 内面が花卉状を呈するもの。
 - ・1c類 小型で内外面共に装飾が施されていない。見込みが蛇ノ目釉剥のものが多い。
- 2類 口縁部が外反しないもの。やや丸みを帯びて立ち上がる。
- 3類 口縁部が直行するもの。
 - ・3a類 見込みに目跡が見られないもの。
 - ・3b類 見込みが蛇ノ目釉剥のもの。
- 4類 口縁部が外反するもの。
 - ・4a類 見込みに目跡が見られないもの。
 - ・4b類 見込みが蛇ノ目釉剥のもの。
- 5類 胴部からの立ち上がり強いもの。
- 6類 上面観が方形ないし長方形のもの。
- 7類 高台のあるもので、1から6類に分類できないものを一括した。
- 8類 高台がないものを一括した。
 - ・8a類 底部が糸切底のもの。目跡には、砂目や胎土目等があるが、目跡には関係なく口唇部から口縁部外面にかけてススが付着しているものが多い。
 - ・8b類 糸切底以外のもの。

猪口形

口径5cm前後の小型の碗形や、桶形のいわゆるそば猪口を猪口形とした。

- 1類 小型で外面に縦位の条線が施されるもの。
- 2類 小型で桶形の形状のもの。
- 3類 小型で口縁部が外反しないもの。
- 4類 小型で口縁部が外反するもの。
- 5類 小型で1～4類に細分できなかったものを一括した。
- 6類 7cm前後のもので桶形を呈するもの。

鉢形

碗形であれば、口縁部に華やかな装飾が施されているものや、大型のものを鉢形に分類した。皿形であれば、やや見込みの深いものをここに分類した。

- 1類 器高が浅いもの。
- 2類 器高が深めのもの。
- 3類 大型のもの。
- 4類 台付き鉢を一括した。
- 5類 器形が不明のもの。

段重・合子形

口縁部径と底部径がほぼ同一で、浅いもの。積み重ねや蓋が付くために、口唇部は釉剥げである。

鬚水入れ形

上面観が楕円形あるいは小判形を呈する。口縁部径と底部径はほぼ同一である。

鳥鉢・餌猪口形

穿孔のある取っ手を有した小型の容器を一括した。

火入鉢形

鉢形の器形で、内面が無釉のものを一括した。

- 1類 脚を持たないもの。碗形や筒形、あるいは瓜形などの器形のものがある。口唇部に敲打痕が見られるものもある。
- 2類 脚を持つもの。口唇部は平坦面を有している。

高坏形

坏もしくは皿形などに台が付いたもの。磁器製のものより陶器製の出土が多い。

- 1類 中実もしくはわずかに中空の脚部を有するもの。
 - ・1a類 坏部がいわゆる小杯状のもの。
 - ・1b類 坏部が皿形のもの。
- 2類 中空の脚部を有するもの。ここでは、陶器に限って認められるものである。1類と違い、大型の製品も見られる。
- 3類 坏や皿形以外のものに脚部が見られるもの。

瓶形

口縁部が外反し、筒形の頸部を有し胴部が膨らむもの。

- 1類 頸部に把手などが付くもの。
- 2類 胴部に獅子頭などを貼付ける。重量がありずっしりとして安定感のあるものが多い。
- 3類 全体像がはっきりしない破片を一括した。

壺形

口縁部径より胴部径が大きいもの。

- 1類 小型で頸部が短く口径が胴部径に比べ著しく小さいもの。
- 2類 比較的口径が広いもの。
 - ・ 2 a類 口唇部の幅が狭く平坦面を持たないもの。
 - ・ 2 b類 口唇部の幅が広く平坦面を有するもの。
 - ・ 2 c類 太い玉縁状の口縁部を呈するもの。
- 3類 全体像がはっきりしないものを一括した。

徳利形

口縁部径は小さめで、頸部が長く胴部は楕円形ないし長胴形を呈するもの。

釜形

最大径が胴部にあり、その部分にやや長めの垂下した突帯状の返しが付く。

土鍋形

口縁部に逆U字状の取っ手が付く。

器台形

皿部と円筒形状の受部とを有するもの。受部の口唇部と皿部の外面下半が無軸のものが多い。底部は無軸で糸切底である。

ひょうそく形

中央部に芯出しなどの軸受けを有するもの。

- 1類 高坏形の器形を呈し、坏部中央に軸受けを有するもの。
- 2類 皿形の器形の中央部に軸受けがある。

注口形

胴部に注口部を有するもの。大半の資料が袋状の胴部を呈し、蓋を伴うものと思われる。胴部下半から底部にかけてススが付着しているものが多い。1～4類は、吊り手の受部があり、5類は握り手がある。

- 1類 ため口状の注口部を有する。逆三角形の小足が付くものと付かないものがある。
 - ・ 1 a類 注口部直下に足が付くもの。
 - ・ 1 b類 注口部直下以外に足が付くもの。
 - ・ 1 c類 ため口状の注口部を有するが足が付かないもの。
- 2類 鉄砲口状の注口部を有するもの。
- 3類 舌状の注口部を有するもの。
- 4類 長胴形の胴部を呈するもの。
- 5類 握り手が付くもの。
- 6類 注口部あるいは底部が不明なものを一括した。

擂り鉢形

内面に、櫛目文を施すもの。口縁部形態や注口部の有無などから8類に細分した。

- 1類 口縁部を折り返すもの。1点のみが確認された。
- 2類 口縁部が外反するもので、如意状を呈するもの。
- 3類 口縁部がL字状を呈するもの。

- 4類 口縁部がT字状を呈するもの。
- 5類 口縁部の断面形態が3角形状のもの。
- 6類 口縁部が肥厚しないもの。
- 7類 注口部付きのもの。
- 8類 その他を一括した。小型のものや、高台の付くものなどがある。

捏ね鉢形

平底の底部から直線的な胴部へと至るもの。1類とした浅鉢形に関しては、甕形などの蓋としても用いられている場合もあり、全てが捏ね鉢としての用途を想定することはできない。

- 1類 浅鉢形を呈するもの。
 - ・ 1 a類 口縁部形態がT字状のもの。
 - ・ 1 b類 口縁部形態がL字状のもの。
 - ・ 1 c類 口縁部形態が直行するもの。
- 2類 やや器高の高いもの。小型のものもある。
- 3類 2類の器形に、注口部を有するもの。注口の形態には、舌状のものと筒状のものがある。
- 4類 その他を一括した。

甕形

比較的大型のもので、口縁部径が広い。

- 1類 口縁部が逆L字状口縁を呈するもの。口縁部が外反するが、頸部でややしまり胴部が膨らむ。胴部には突帯が巡る。大型の製品が多い。
- 2類 口縁部がT字状を呈するもの。
 - ・ 2 a類 口縁部形成に際し、粘土を折り返してT字状の口縁部を作出するもの。
 - ・ 2 b類 口縁部外面が幅広のもので肩部に突帯が巡るものが多い。
 - ・ 2 c類 胴部が直線的なもの。口縁部肥厚帯の両端を摘むものや下端を摘むものが見られる。
- 3類 口唇部の両端が張り出すもの。
- 4類 口縁部が外反するもの。

植木鉢形

底部中央部に穴が穿たれているもので、内外面共に無軸の鉢形を植木鉢形とした。これに類する資料としては、甕等の底部に予め溝を彫り込んで、敲くとそこだけが円形に剥離して植木鉢形を呈するものがある。このようにして剥離された陶器は、メンコに極めて類似している。あるいは、これまでメンコとしてきたものは、このような結果生じたものとも考えられる。

- 1類 口縁部が直行し、口唇部が僅かに内側へ肥厚するもの。
- 2類 口縁部がL字状を呈する。口縁部肥厚帯の両端を摘むものや下端のみを摘むものなどがある。

蓋形

容器にかぶせる蓋を一括した。本来は、碗形や鉢形、注口形のものなどとセットを成す。つまみの有無やその形状によって細分した。

- 1類 高台があるもの。口縁部の形状には、丸みを呈するものと、やや端反り気味のものがある。
- 2類 帯状のつまみがあるもの。
- 3類 球状のつまみがあるもの。
- 4類 球状のつまみが付き、穿孔があるもの。

- 5類 つまみのあるもので1から4類に分類できなかったものを一括した。
 6類 つまみの見られないもの。
 7類 1～6類に分類できなかったものを一括した。

その他

1・2個体もしくは数点のみの出土のものを一括した。この中には、茶入と思われる資料も存在している。詳細は、観察表を参照されたい。

第2群 土器

土器は、皿形や鉢形を中心に出土している。C区において土坑状にまとまって出土している部分があるが、それ以外の部分に関しては、特に際だった出土傾向は示さない。

皿形

器高が低く、底径が広い。口縁端部にスス付着が多く見られる皿状のもの。

ひょうそく形

小型のもので、口縁部に幅広の橋状の貼付を行う。中央部に穿孔が施されており、その周辺はススの付着が著しい。

焙烙形

皿にフライパン状の握り手が付いたもの。底面にススの付着が著しいものが多い。また、中には取っ手部分に六ぼう星を墨書している資料なども見られる。

鉢形

- 1類 扁平な足が付かないもの。
 2類 扁平な足が付くもの。
 3類 口縁部が極めて広く面を形成しているもの。外形が方形を呈するものもある。

第3群 瓦・瓦質土器

瓦は各区において比較的まとまって出土している。しかし、軒瓦以外は今回は報告の対象から外している。

第4群 第1群から第3群に属さないものを一括した。

焼き継ぎのある資料

磁器において、破損した箇所を焼き継いでいる資料である。2点が確認できた。

熔着痕のある資料

複数の資料が、窯入れの際に熔着したものである。図化した資料の他に数点出土している。

土製・陶磁製品

人形やミニチュア、土面などを一括した。出土量は少ない。

鉛製品

2点出土している。この内1点は、西南戦争時に使用されたものと類似している。

ガラス製品

ガラス製品を一括した。出土量は少ない。

金属製品

金属製品は、大半の資料が脆く、風化や錆などで図化するに至らなかった。ここでは、キセルのみを図化し掲載した。長いものや、短いものなど様々なバリエーションが見られる。火入れ鉢形の中には、口唇部が敲打により、剥離しているものなどが認められることから、喫煙が行われていたことがうかがえる。

石製品

石製品は、小型のものでは、硯が出土している。また、砥石状の石製品には、天正九年の線刻が施されている。大型のものでは、石臼や笠などが出土している。

木製品

木製品は、用途あるいは形状の不明なものが出土している。蓋状製品と下駄を図化した。
 下駄は一本造りのものと差し歯のものが出土している。

古銭

古銭は、洪武通宝や寛永通宝などが出土している。垂水島津家屋敷跡からは、道光通宝が1点出土し、宮之城島津家屋敷跡からは、二朱金や一銭も出土している。

◆参考文献

- 始良町教育委員会 1995 『元立院窯跡』
 始良町埋蔵文化財発掘調査報告書(6)
 加治木町教育委員会 1995 『山元古窯跡』
 加治木町埋蔵文化財発掘調査報告書(1)
 加治木町教育委員会 2001 『弥勒窯跡』
 加治木町埋蔵文化財発掘調査報告書(3)
 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2000
 『浜町遺跡』 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(25)
 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2002
 『寿国寺跡他』 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(40)
 鹿児島県歴史資料センター黎明館 1998
 『薩摩焼発祥400周年記念展 世界のさつま』
 鹿児島市教育委員会 1992 『大龍遺跡』
 鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(15)
 鹿児島陶磁器研究会 2002 『からから記念号』
 社団法人 鹿児島県共済会南風病院 1978
 『堅野(冷水)窯址』 南風病院女子寮建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
 新宿区内藤町遺跡調査会 1992 『内藤町遺跡』
 橋口 亘 2002 「鹿児島県地域における16～19世紀の陶磁器出土様相～鹿児島県地域の近世陶磁器流通～」『鹿児島地域史研究』2
 渡辺芳郎 2000 「近世薩摩焼播鉢考」『鹿児島考古』第34号
 鹿児島県考古学会

第4章 垂水島津家屋敷跡の調査

第1節 概要

垂水島津家屋敷跡は、曳家工事に伴い平成11年度に調査したD区と、A・B区の屋敷境溝以南である。調査区内は、溝状の攪乱や土坑状の攪乱が多く認められ、遺構・遺物の残存状況は悪い。A・B区に関しては全て攪乱されている状況であった。

遺物等の取り上げは調査区一括で行い、明らかに近現代の遺物であるものを除き全てを持ち帰り、整理作業の段階で選別作業を実施した。なお、セメント等の混入する土坑状の攪乱層からは多量の獣骨も見つかっている。

第2節 遺構（第5図）

（1）切石溝

詳細な時期を特定することはできなかった。内部には、砂の堆積が認められる。L字状に屈曲し、さらに支線状に分岐する。なお、溝の両側に凝灰岩の切石を配列しているが、大半は抜き取りや攪乱などによって消失している。

（2）焼土溝

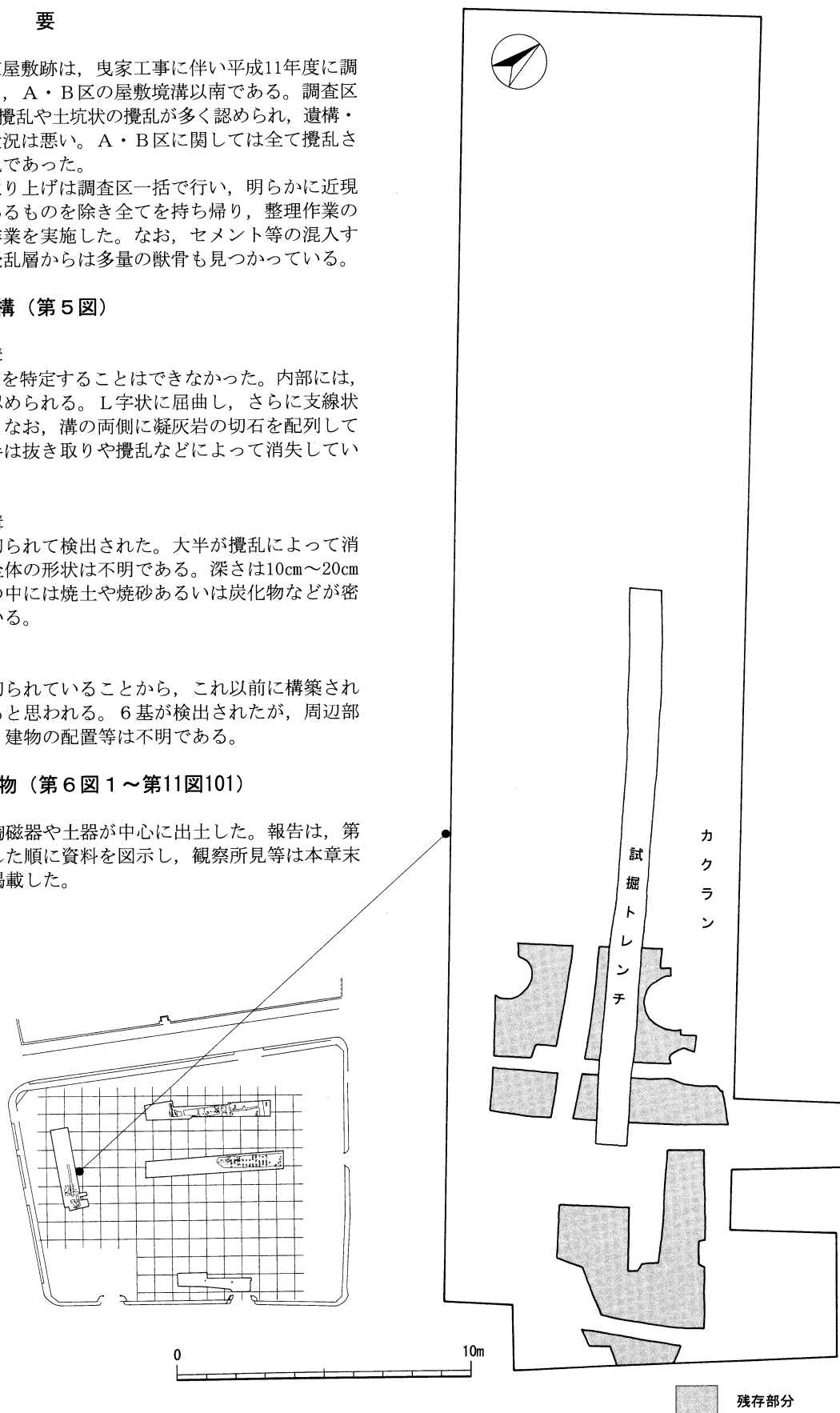
切石溝に切られて検出された。大半が攪乱によって消失しており全体の形状は不明である。深さは10cm～20cm程度で、この中には焼土や焼砂あるいは炭化物などが密に堆積している。

（3）根石

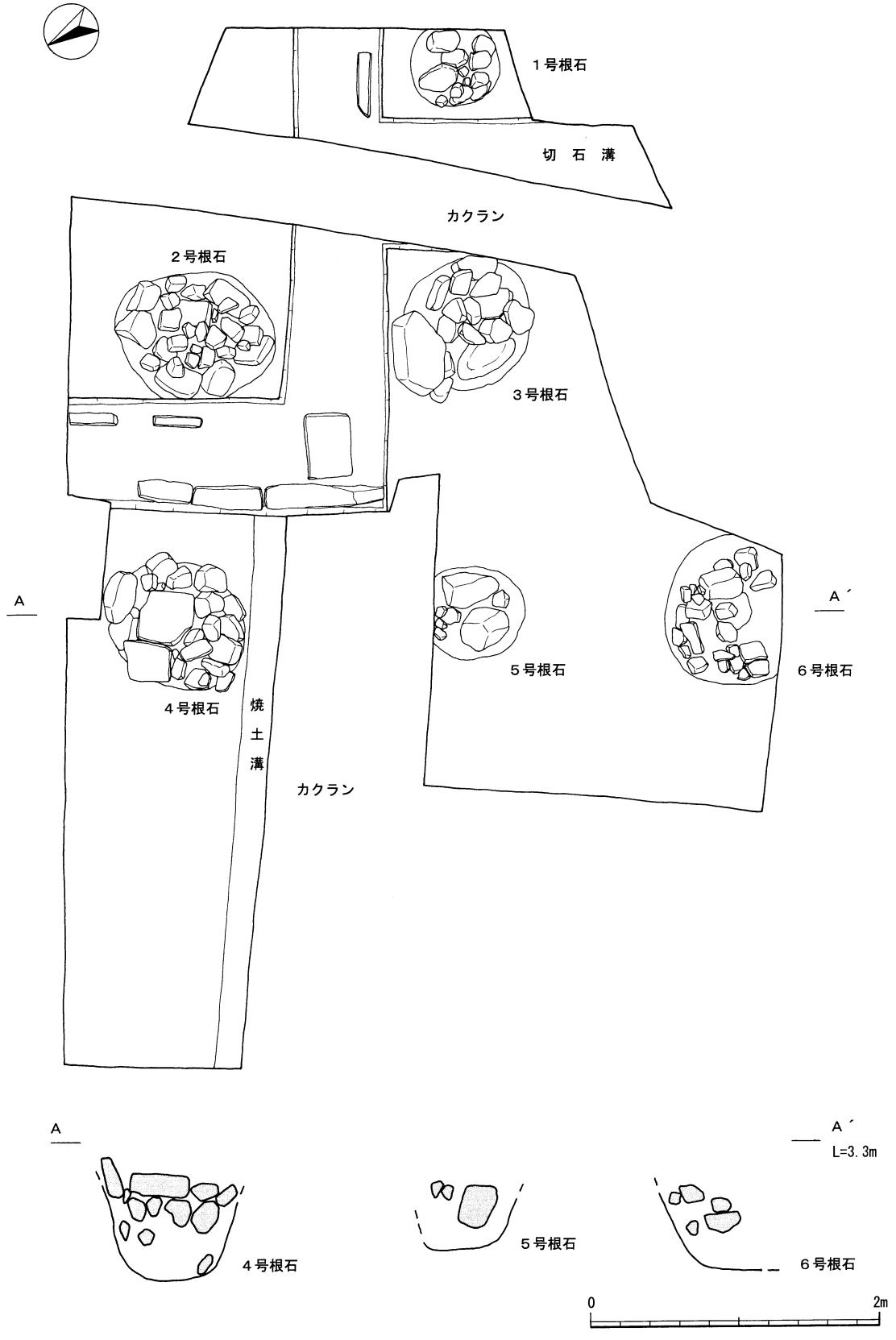
切石溝に切られていることから、これ以前に構築されたものであると思われる。6基が検出されたが、周辺部に攪乱が多く建物の配置等は不明である。

第3節 遺物（第6図1～第11図101）

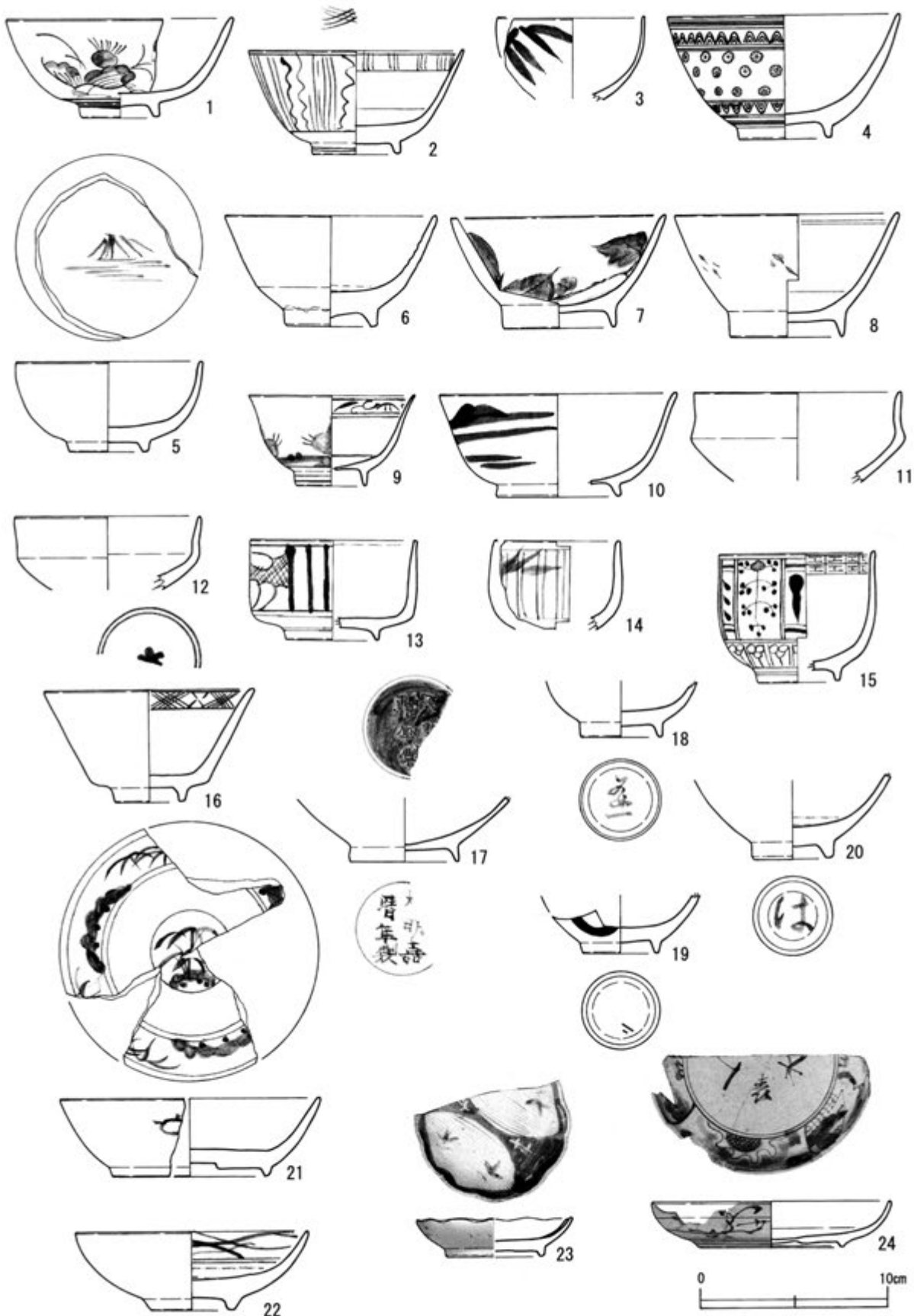
遺物は、陶磁器や土器が中心に出土した。報告は、第3章に提示した順に資料を図示し、観察所見等は本章末に一括して掲載した。



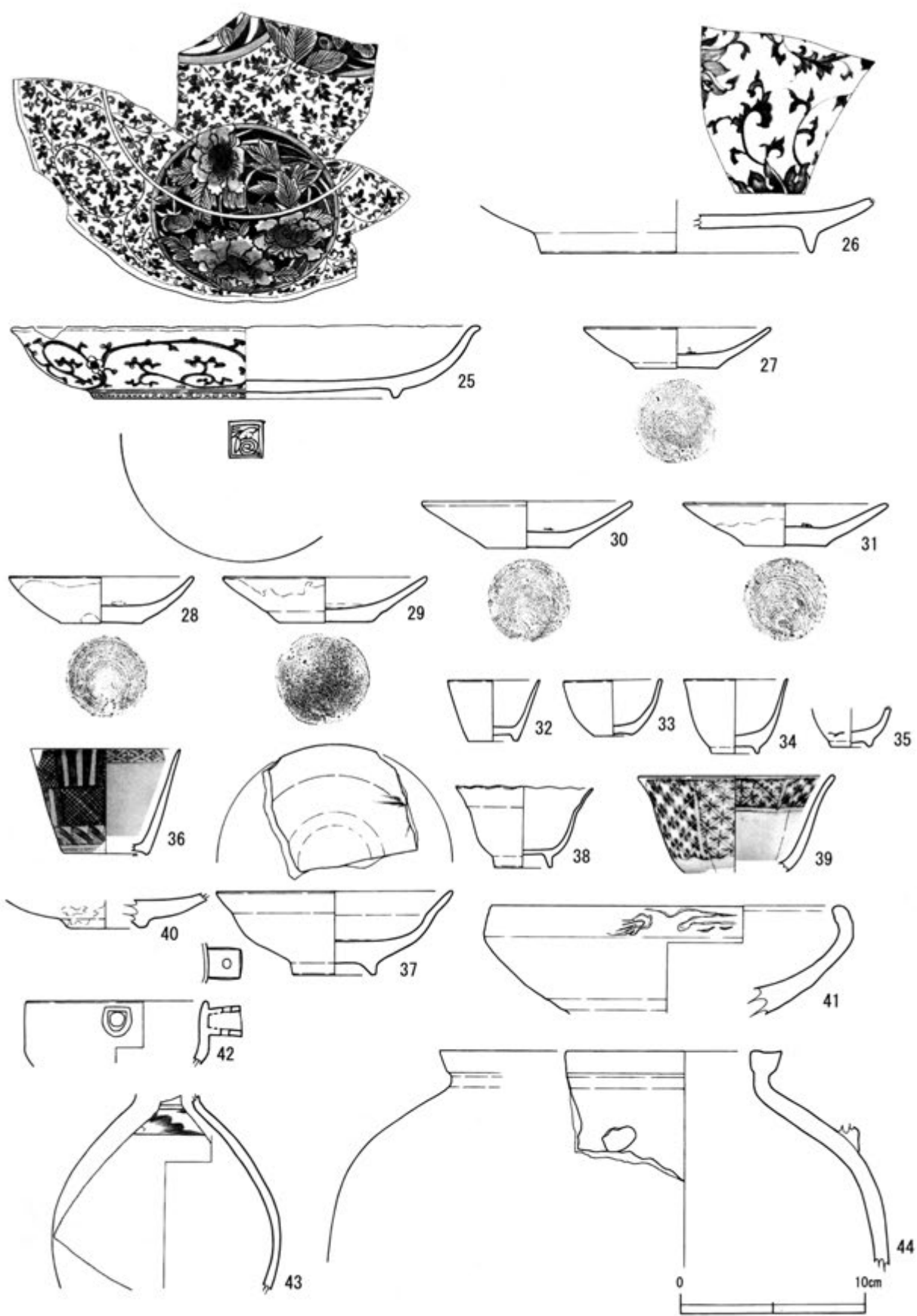
第4図 垂水島津家調査区全体図



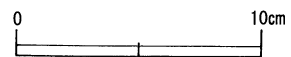
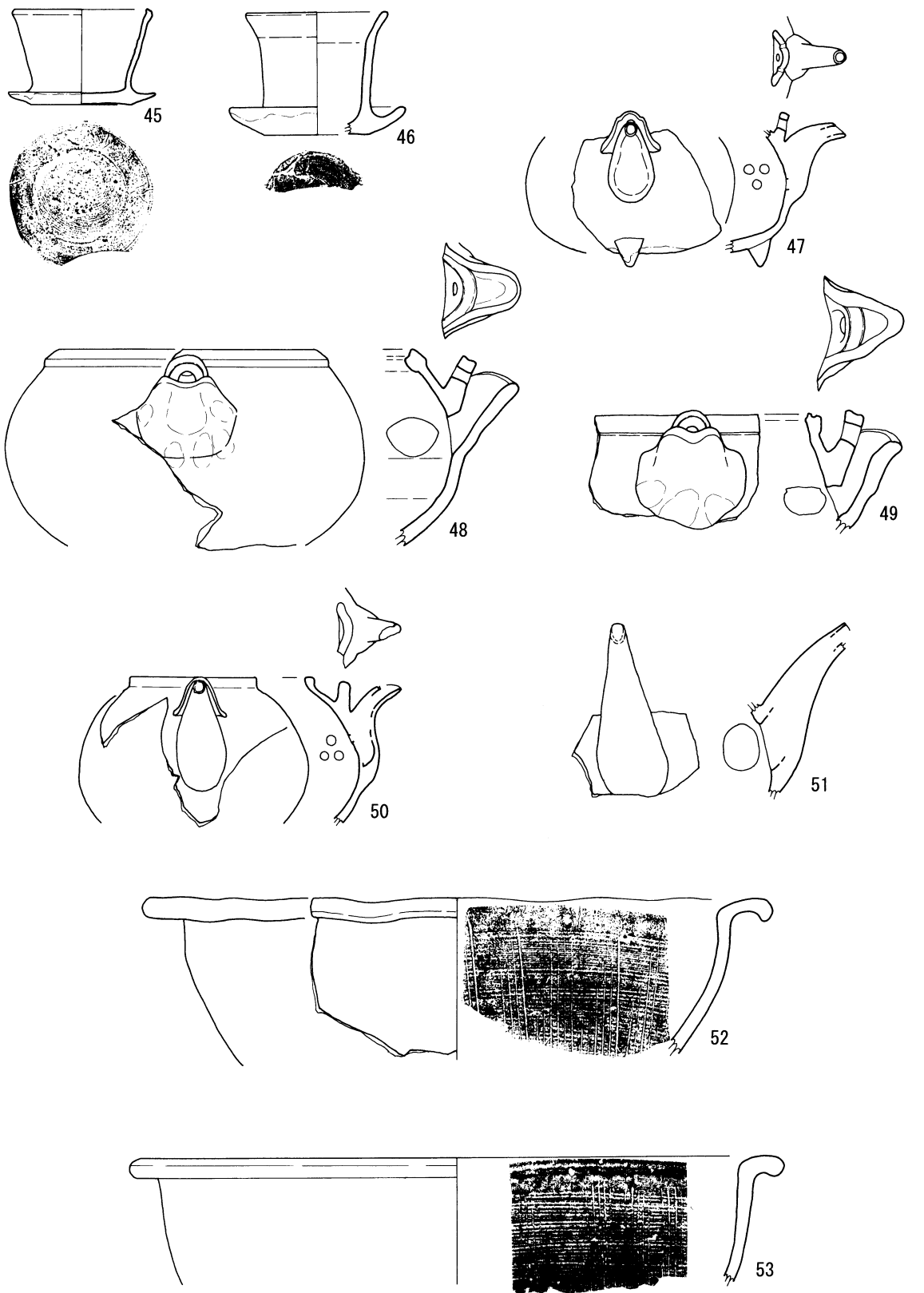
第5図 垂水島津家遺構実測図



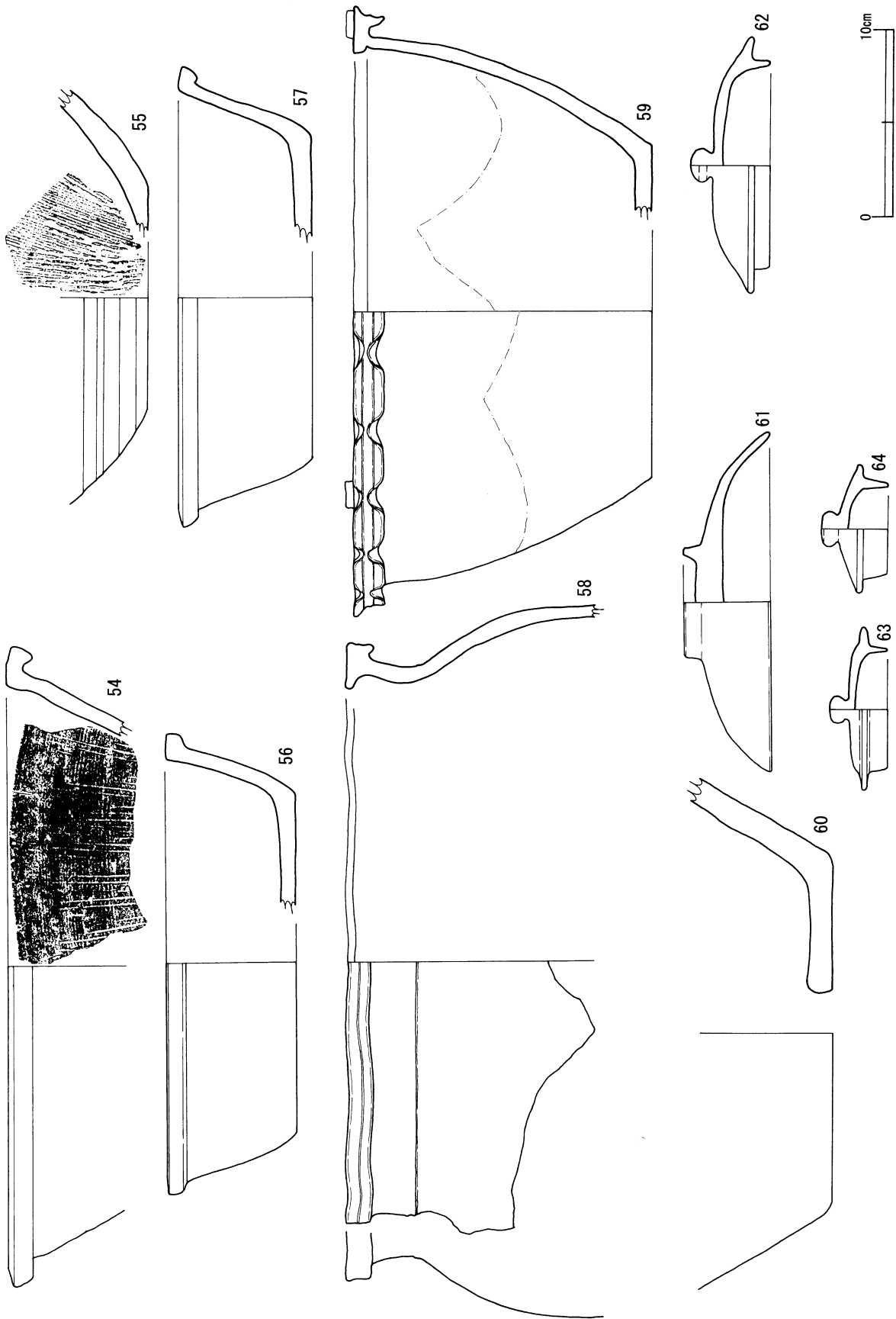
第6図 垂水島津家出土遺物実測図(1)



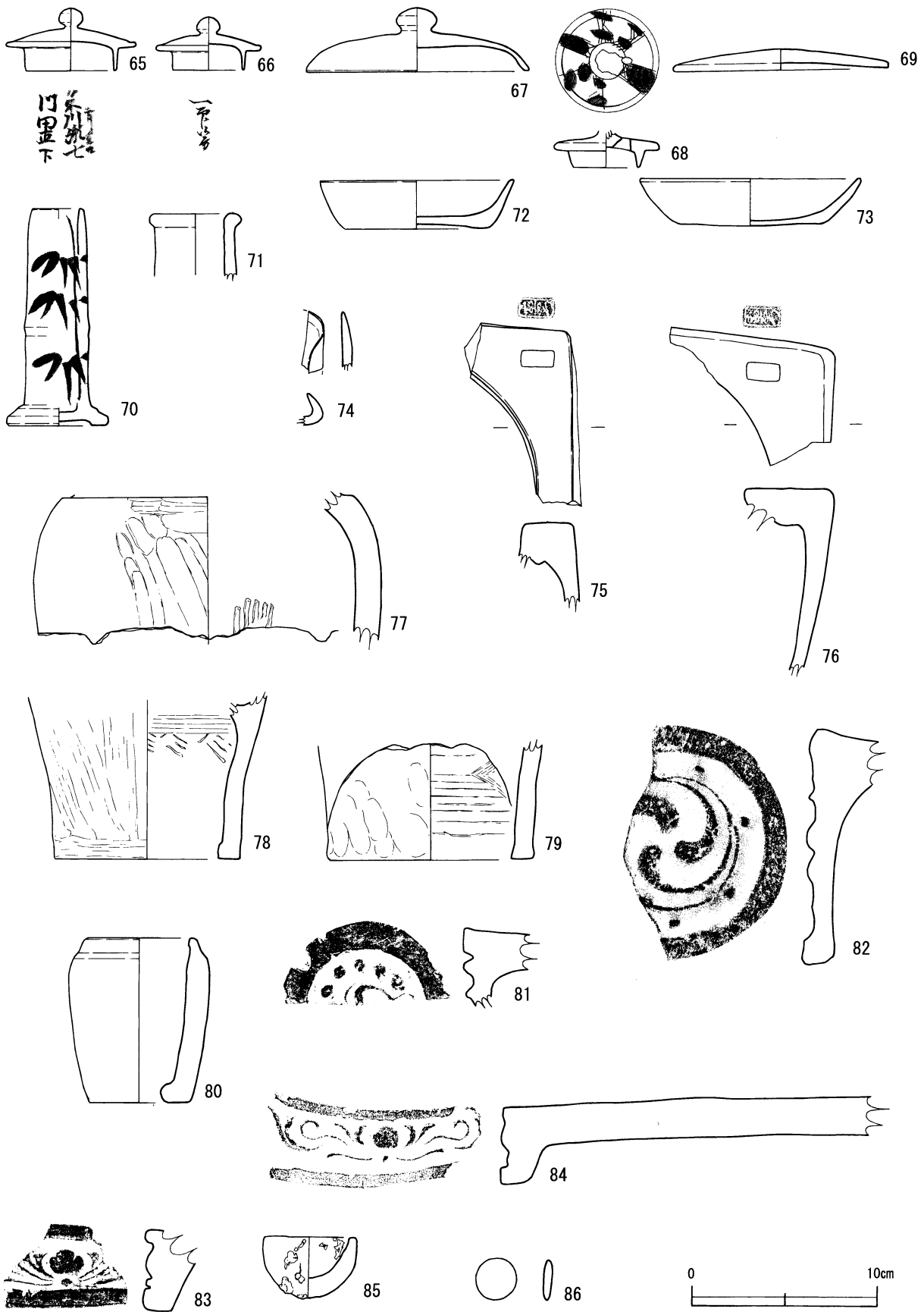
第7図 垂水島津家出土遺物実測図(2)



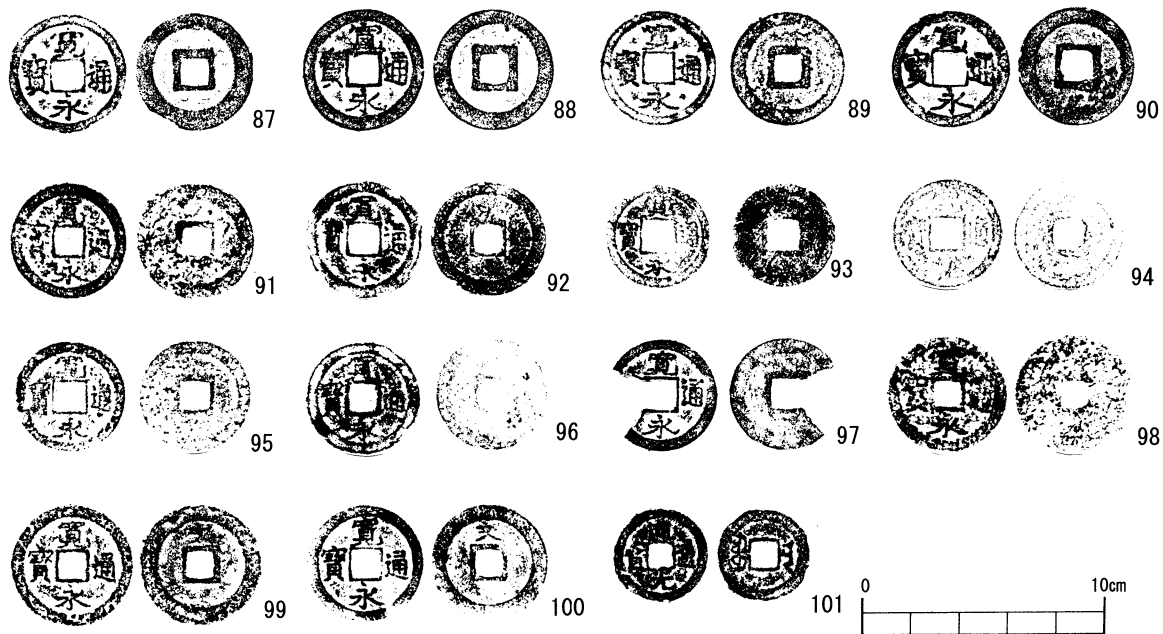
第8図 垂水島津家出土遺物実測図(3)



第9図 垂水島津家出土遺物実測図(4)



第10図 垂水島津家出土遺物実測図(5)



第11図 垂水島津家出土遺物実測図(6)

第5章 宮之城島津家屋敷跡の調査

第1節 概要

宮之城島津家屋敷跡は、平成11・12年に発掘調査を実施した。A・B・C区の中で、A区検出の屋敷境溝以北を当屋敷跡とした。重機で表土を除去した後、平成11年度に判明した江戸時代該当層である黒色土上面から下層にかけて人力で掘り下げを実施した。この中でも、B区に関しては比較的根石の残存状況が良い。ただし、A区は明治時代以降の攪乱により大半が消失している。C区に関しては礎石や根石等の痕跡はほとんど認められなかった。

遺物の出土傾向は、A区に高坏形などの仏具類が多く、C区は甕形や壺形などの比較的大型のものが多い。残念ながら、屋敷の痕跡等が判明せず、この傾向が屋敷の部屋割り等に結びつくかは不明である。

第2節 遺構

(1) 屋敷境溝 (第13図)

屋敷境溝はA区において検出された。当初、遺物が集中して検出され、これを除去する過程で板材や杭等が検出され、その下層から両側に石垣を伴う溝が確認された。なお、両石垣内からも遺物が多量に出土している。屋敷境上面土坑として報告を行っており、これを参照されたい。

(2) 根石 (第14・15図)

A区32基・B区88基が検出された。大半のものが土坑状の掘り込みを伴う。この土坑内に凝灰岩の大型礫を入

れ込み、軟弱な地盤を補強しているものと思われる。中には、瓦や軽石などが混入されているものも見られる。ただし、この中からは陶磁器片は確認されていない。

(3) 掃きだめ状遺構 (第15図1～18)

掃きだめ状遺構は、A区において検出された。しかし、この内の半分は明治時代以降の基礎によって消失している。一括で取り上げた遺物の多くは、薩摩藩内産の磁器が多く端反り碗がその主体を占めている。

(4) 遺物廃棄土坑

① 屋敷境溝上面土坑 (第16図19～第18図73)

A区において検出された屋敷境の上面から掘り込まれている。最終的には、溝の大部分を覆う。この中からは、「新案特許第82464号 名古屋 八神幸助」と記された遺物が出土している。この特許は大正13年6月16日に取得されていることが分かっている。

② 土坑1 (第19図74～81)

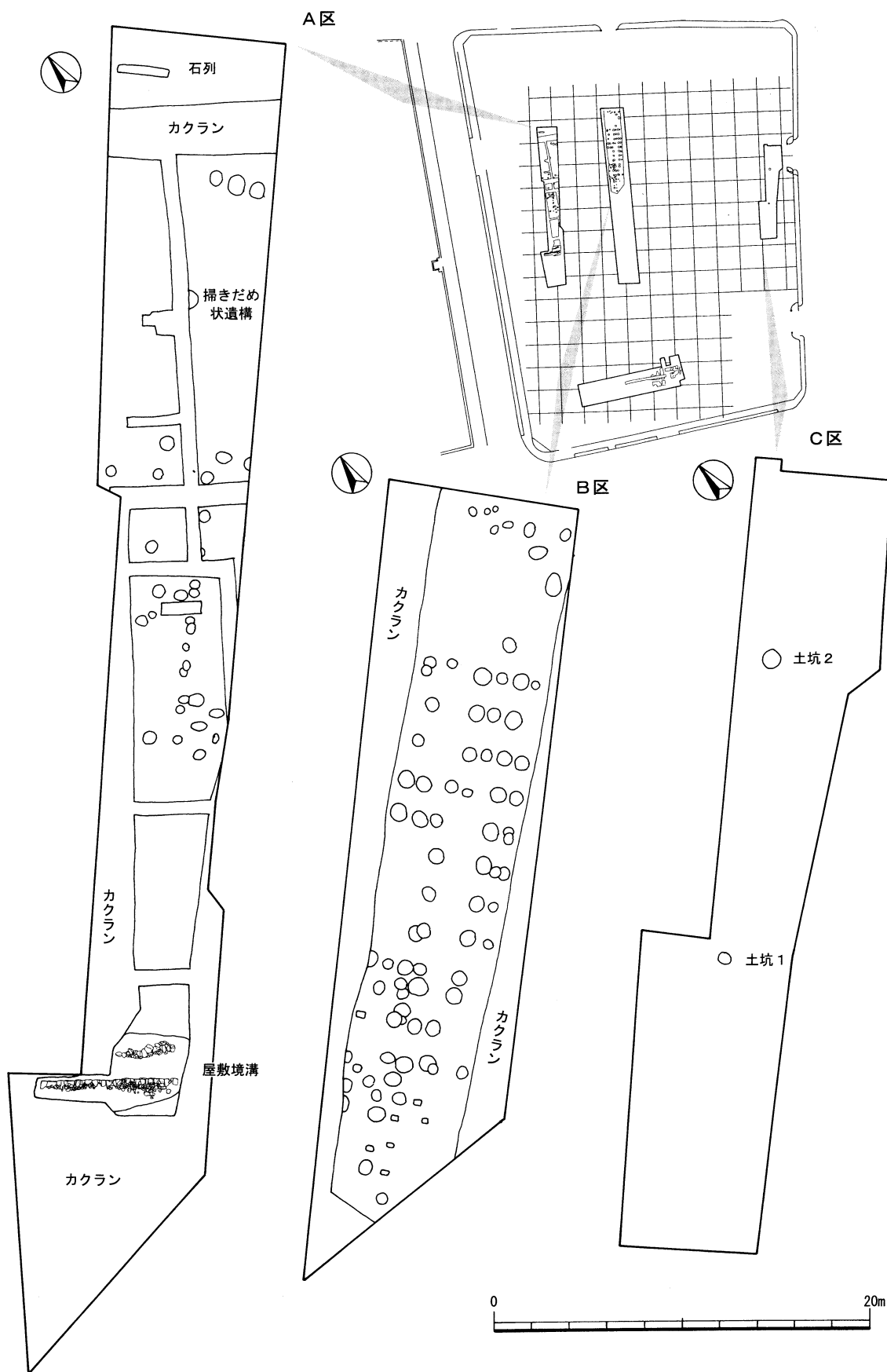
C区において検出された。土器の皿形が多くまとまって出土している。

③ 土坑2 (第20図82～98)

C区において検出された。

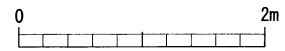
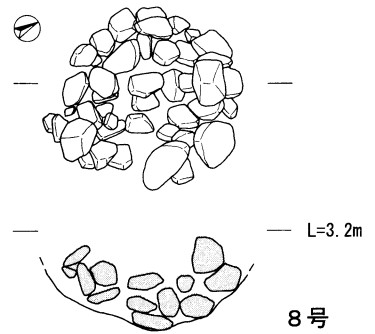
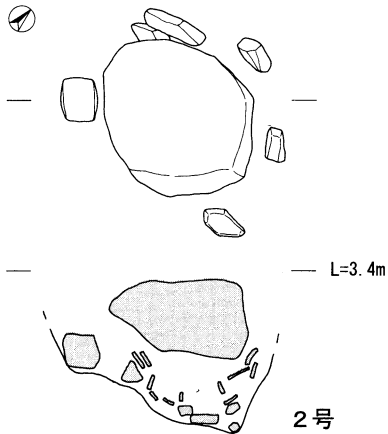
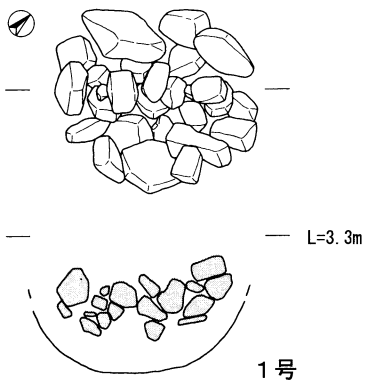
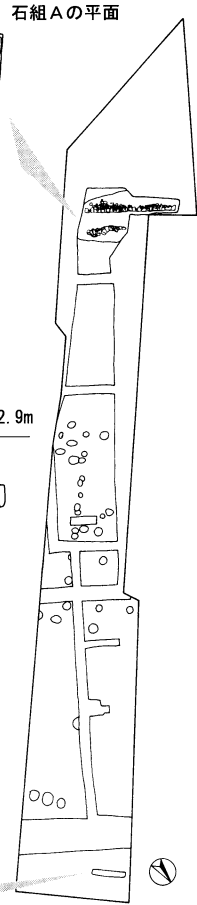
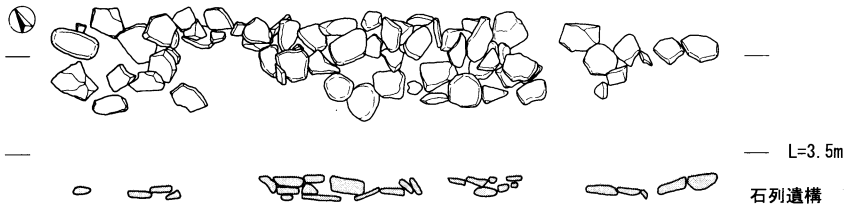
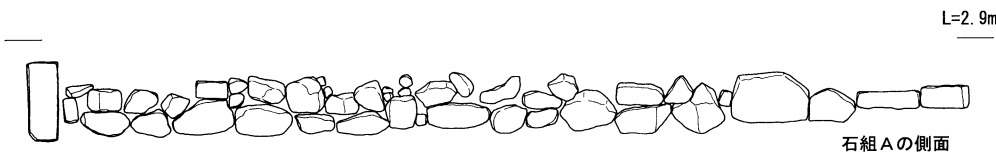
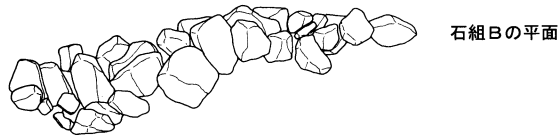
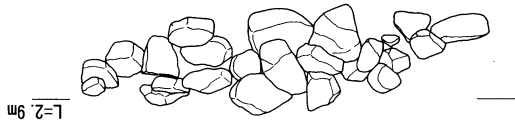
第3節 遺物 (第23図99～第78図914)

詳細は章末の観察表を参照されたい。

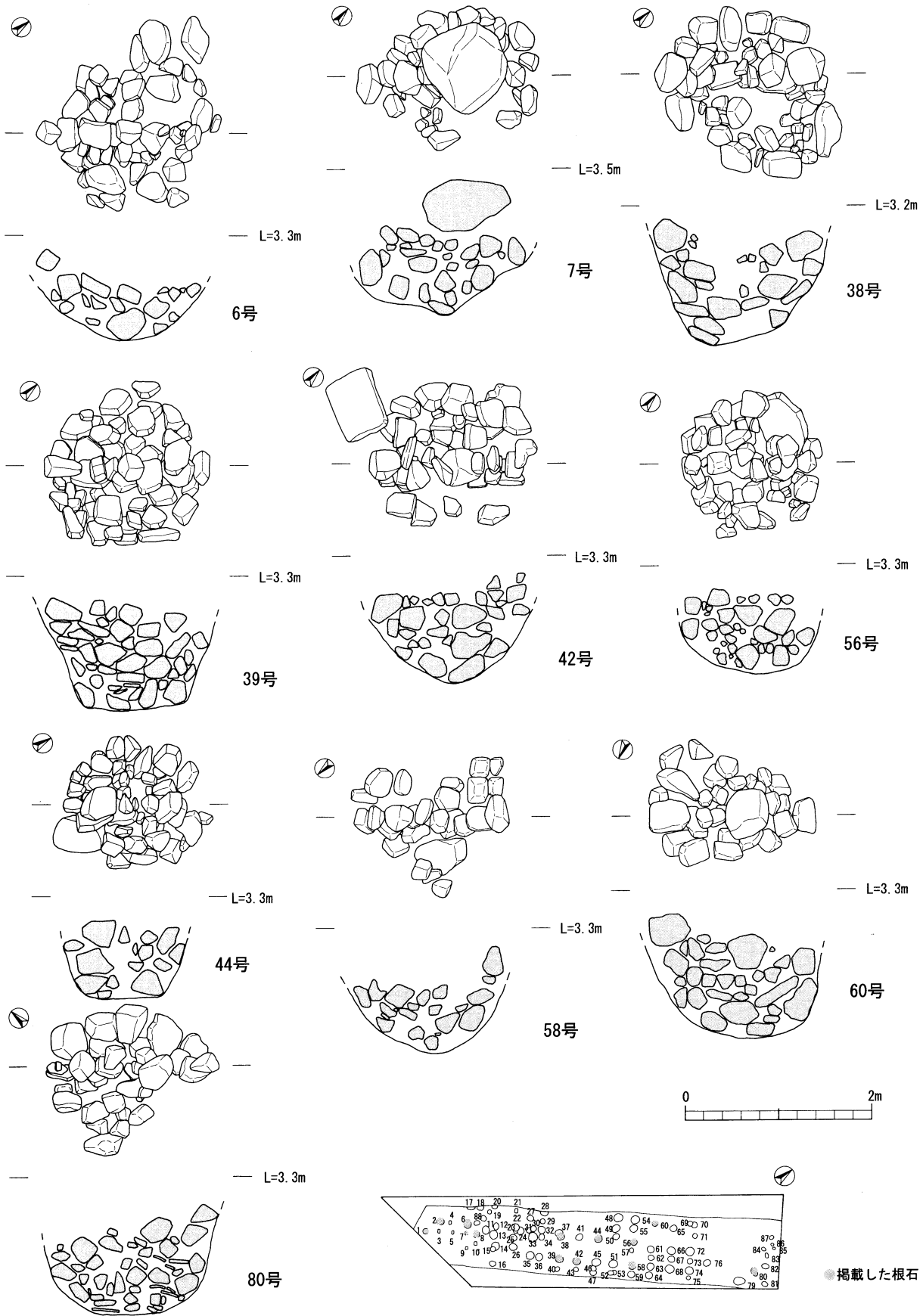


第12図 宮之城島津家遺構配置図

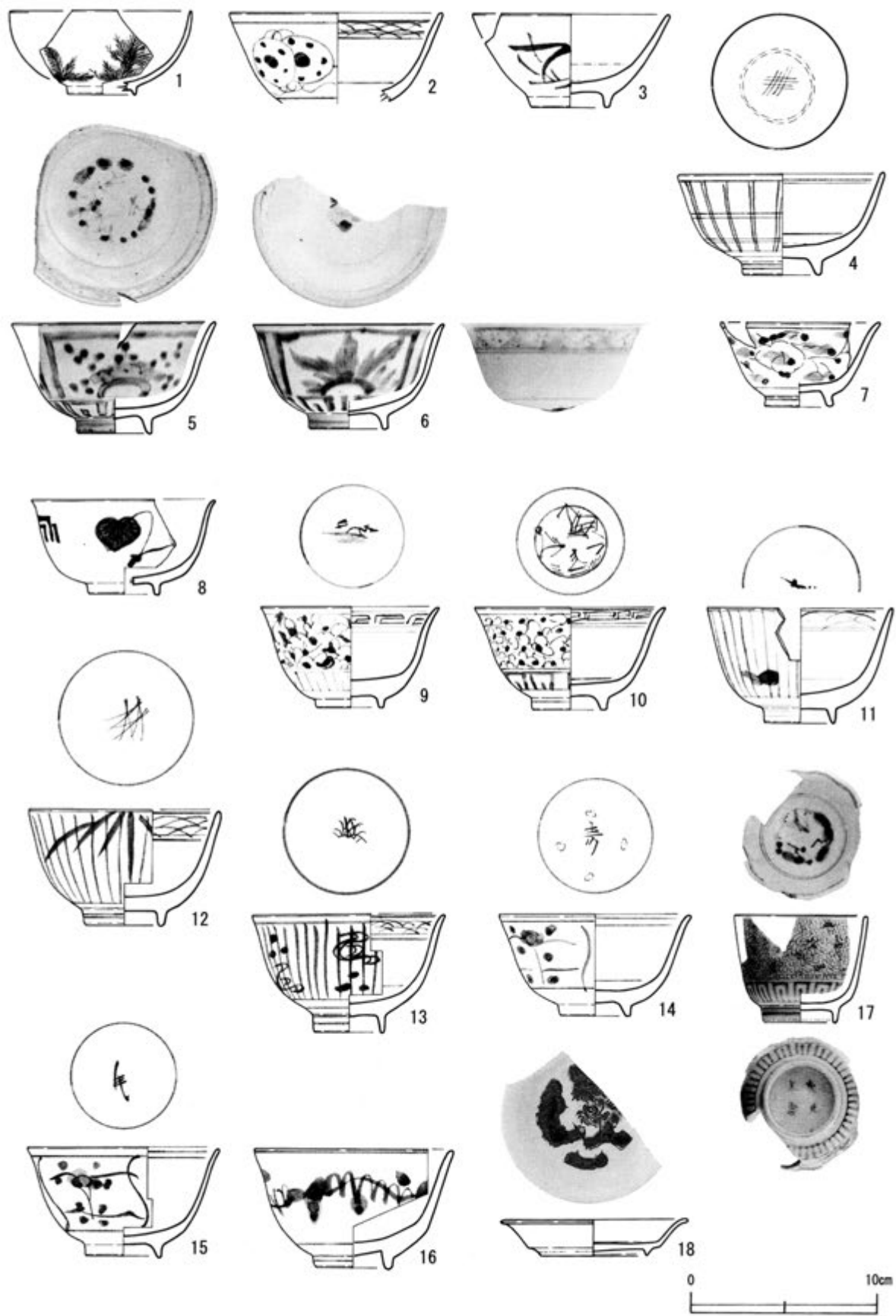
垣間の石群



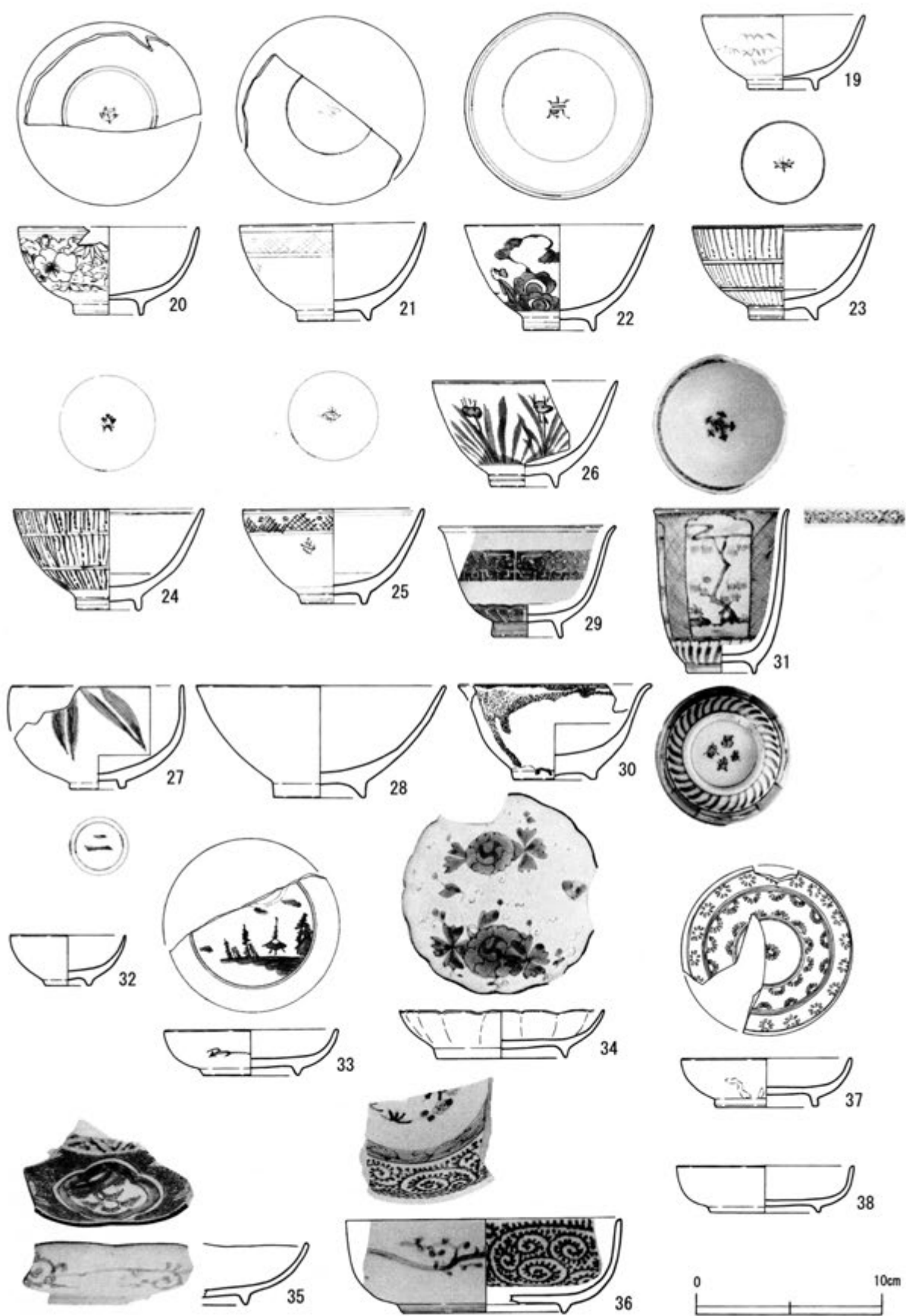
第13図 宮之城島津家遺構実測図(1)



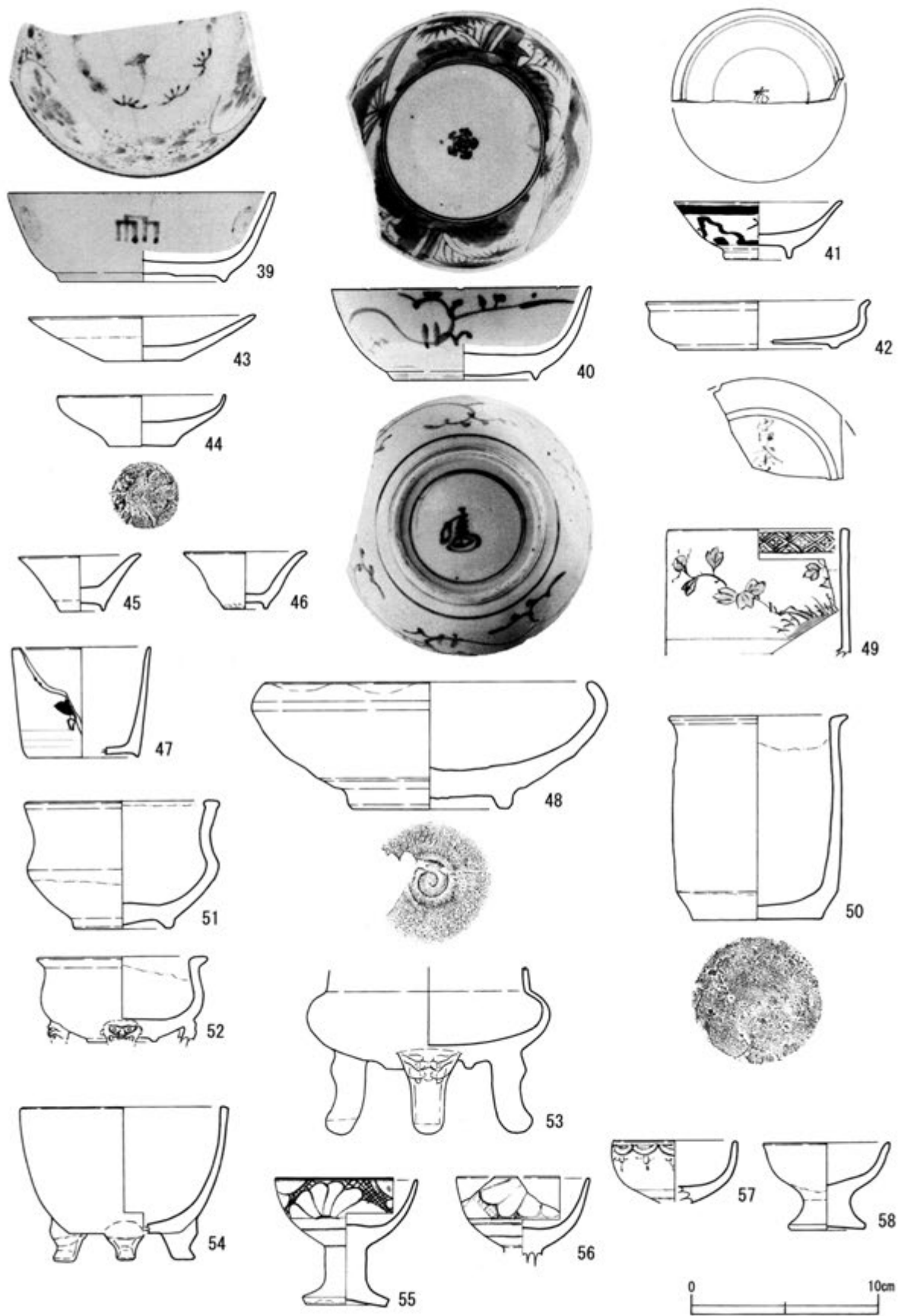
第14図 宮之城島津家遺構実測図(2)



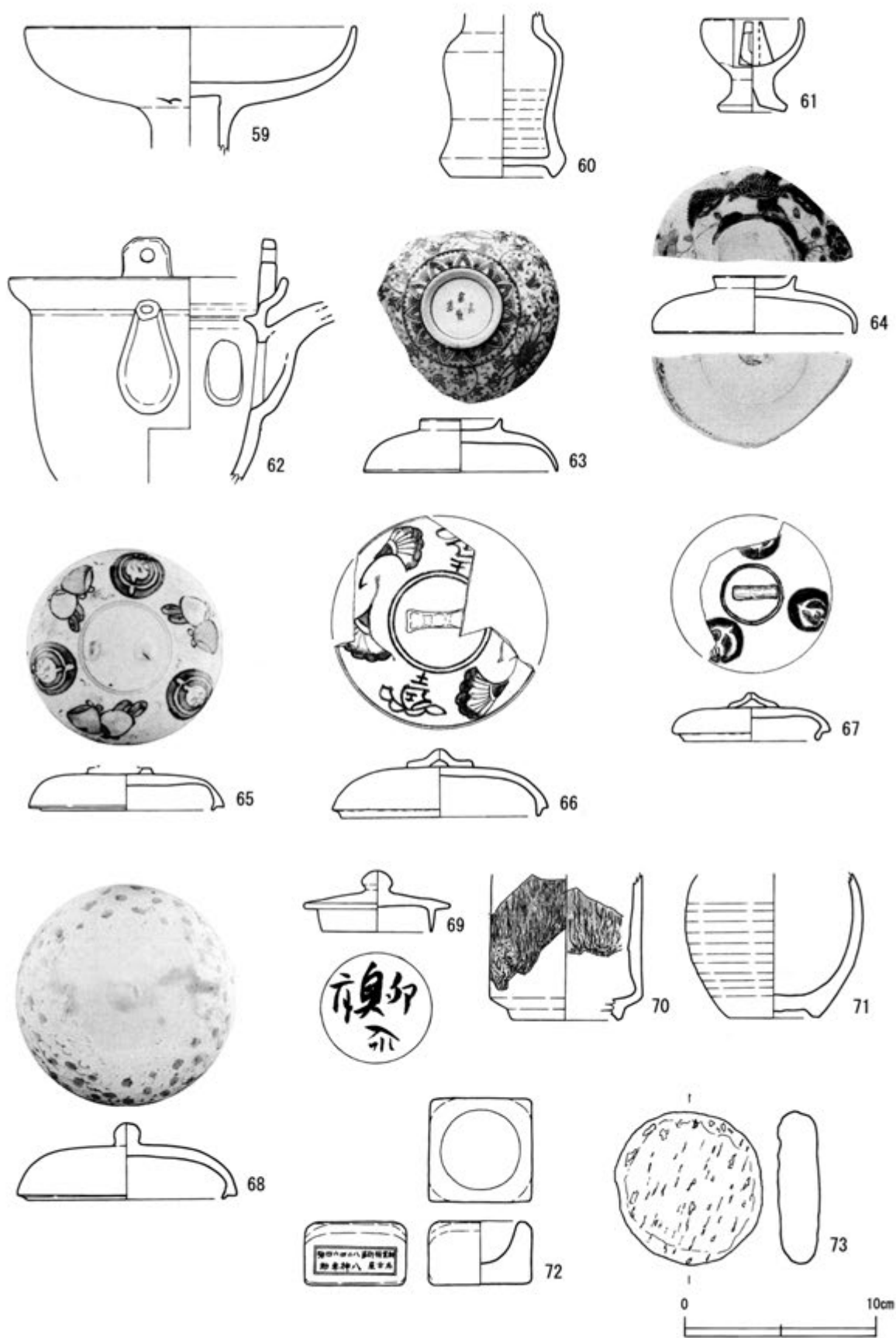
第15図 掃きだめ状遺構内出土遺物実測図



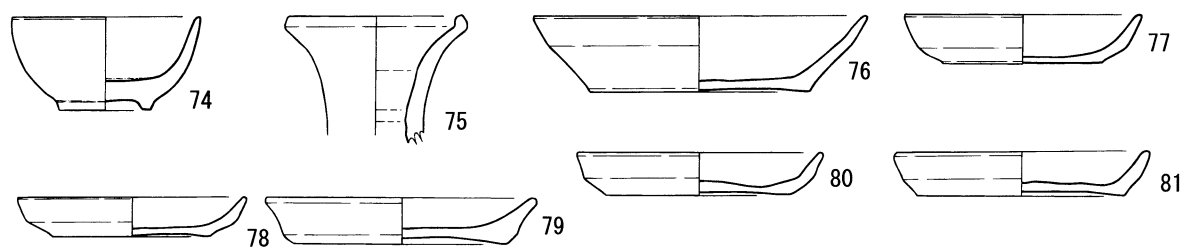
第16図 屋敷境溝上面土坑内出土遺物実測図(1)



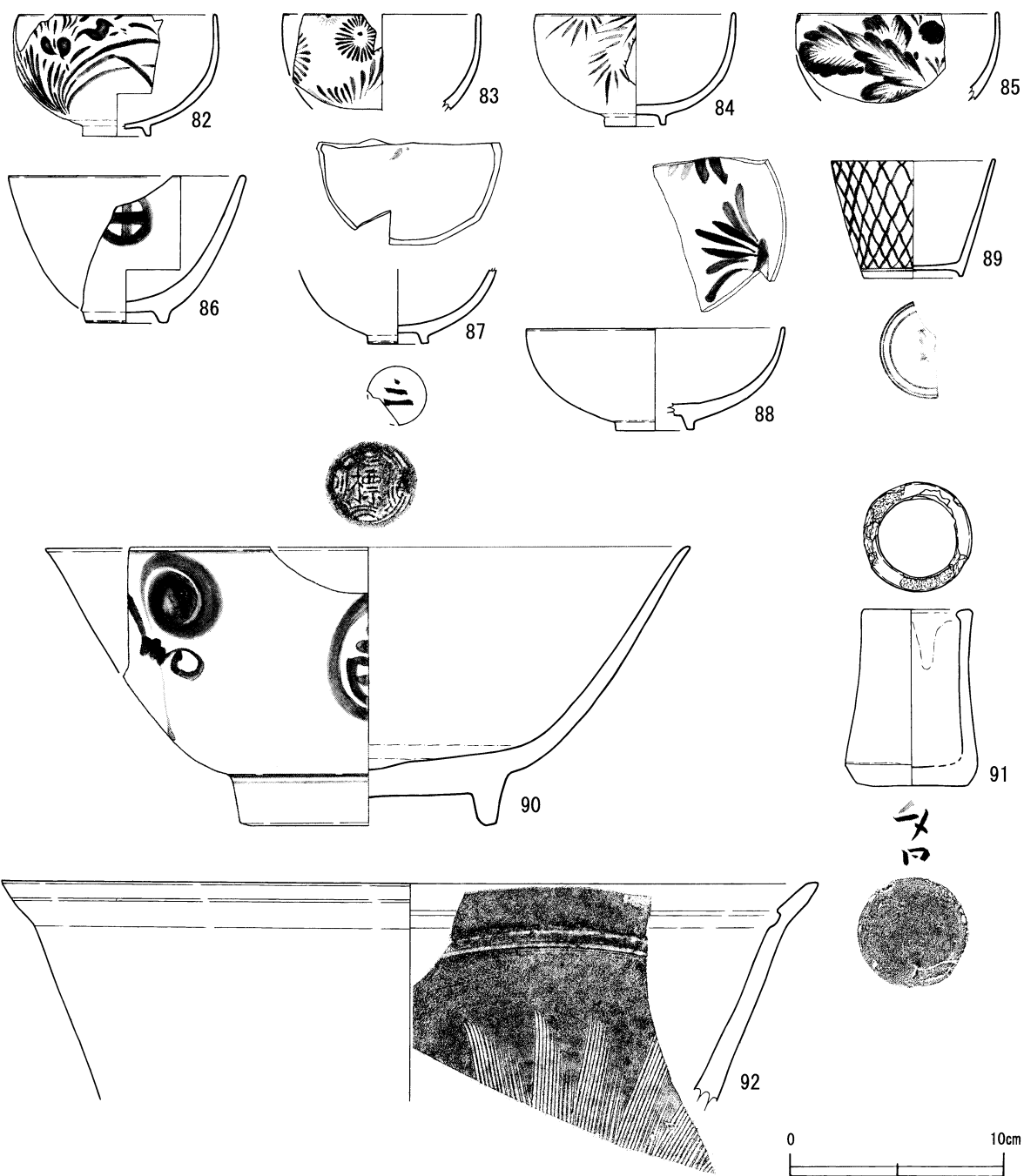
第17図 屋敷境溝上面土坑内出土遺物実測図(2)



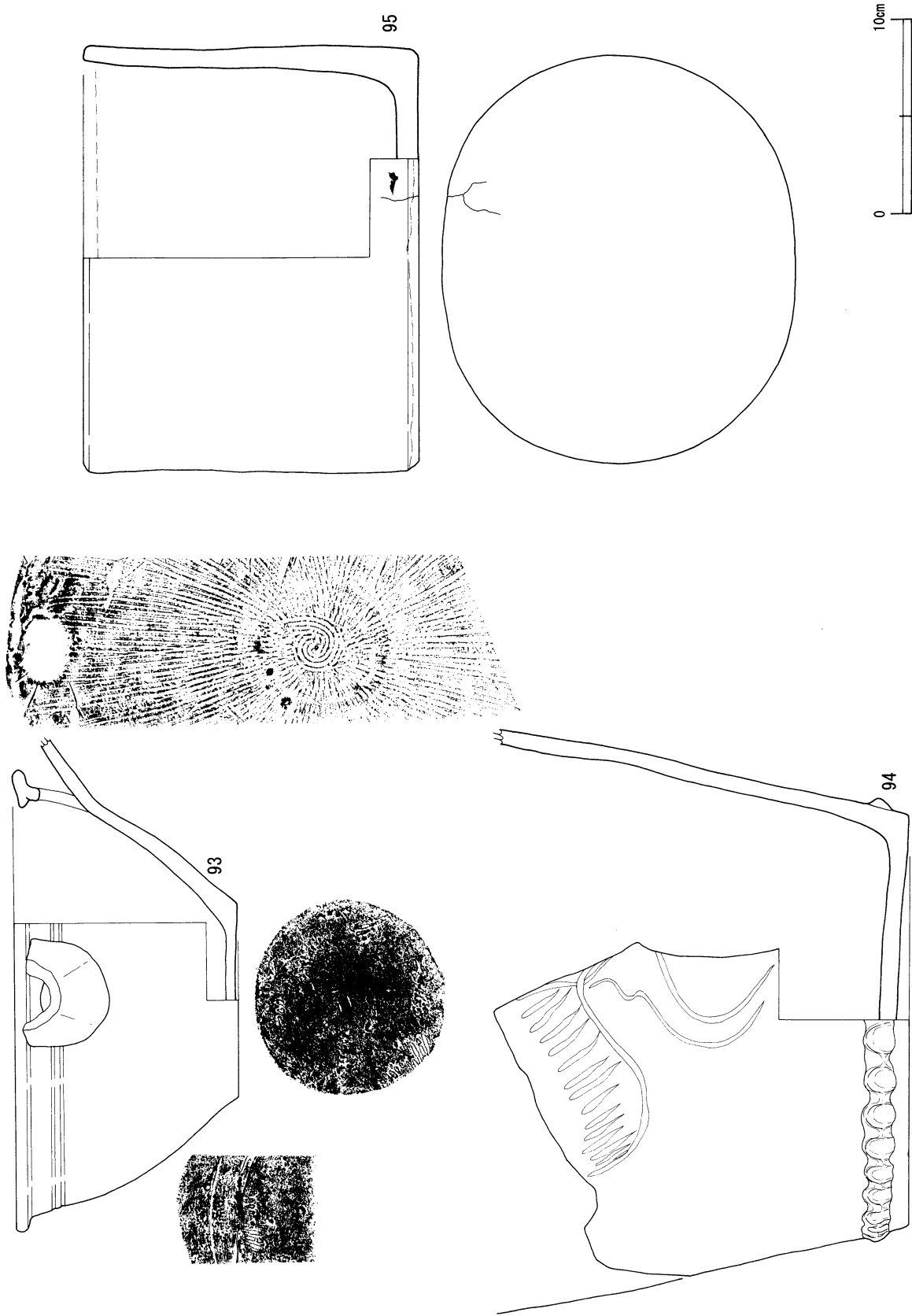
第18图 屋敷境溝上面土坑内出土遺物実測図(3)



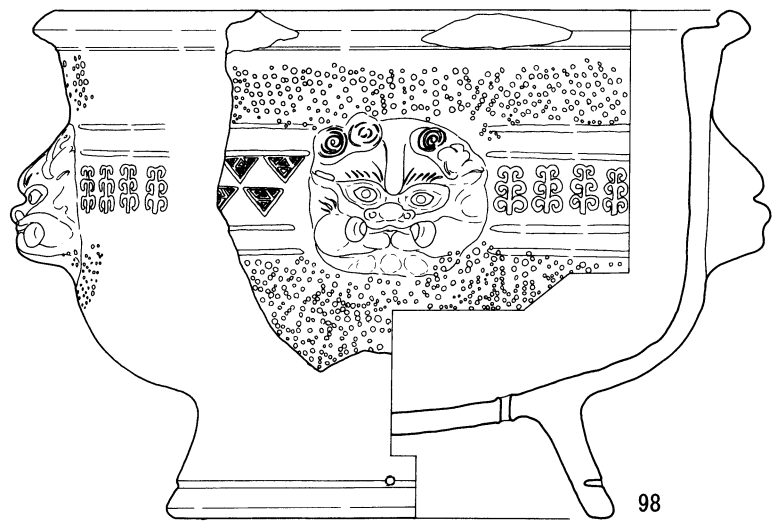
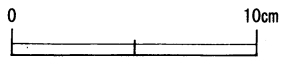
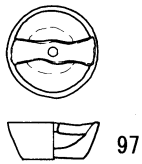
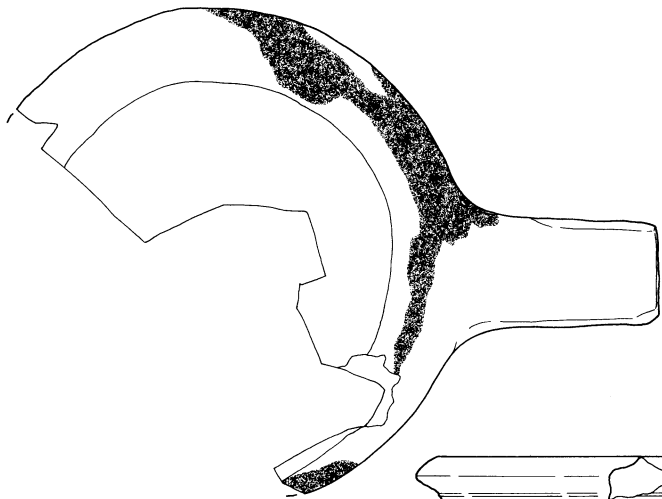
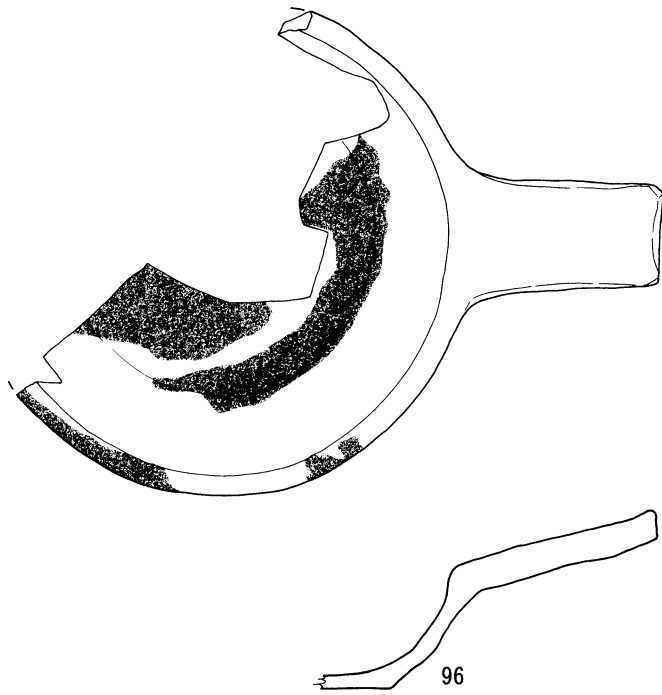
第19图 土坑1内出土遺物実測図



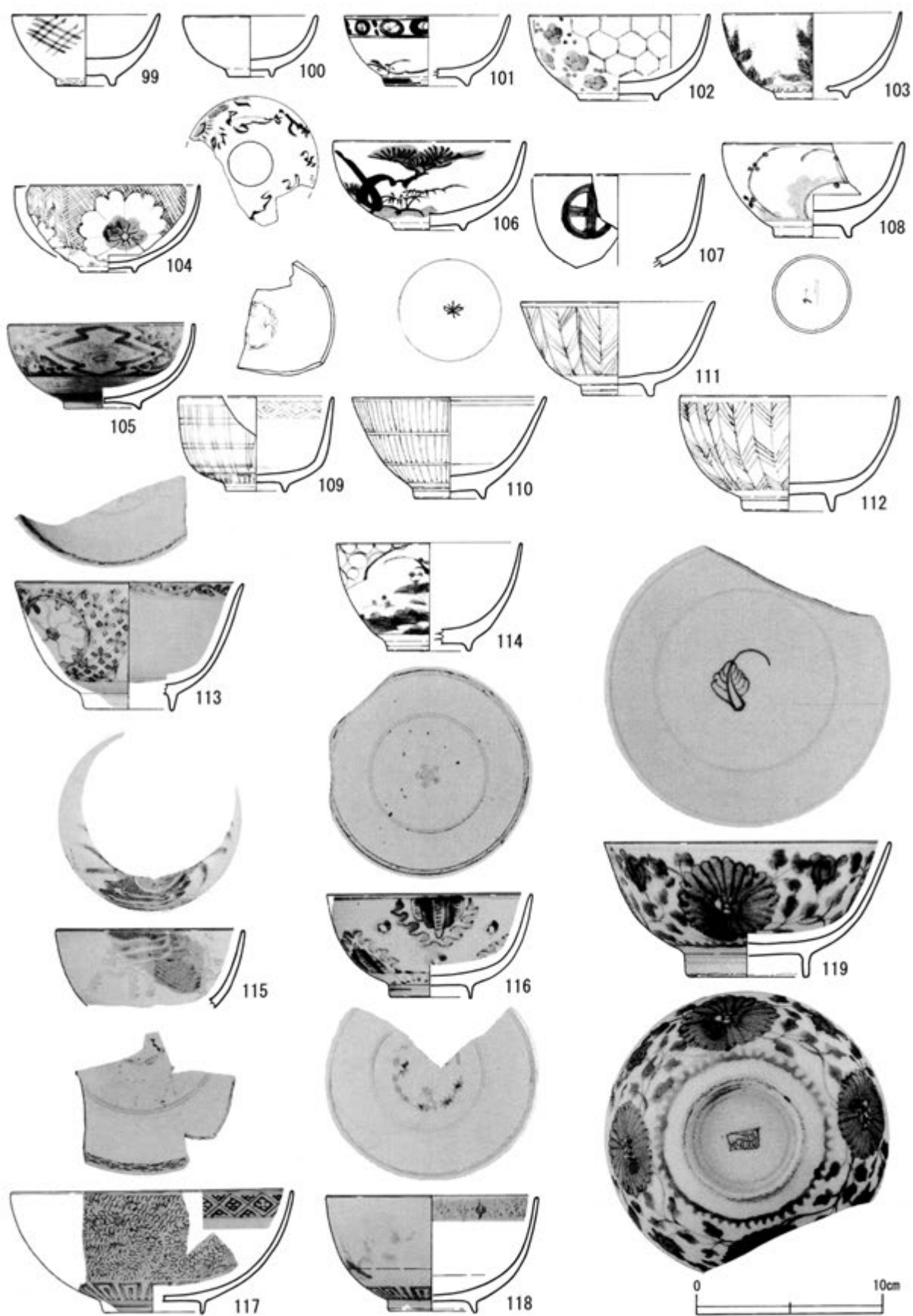
第20图 土坑2内出土遺物実測図(1)



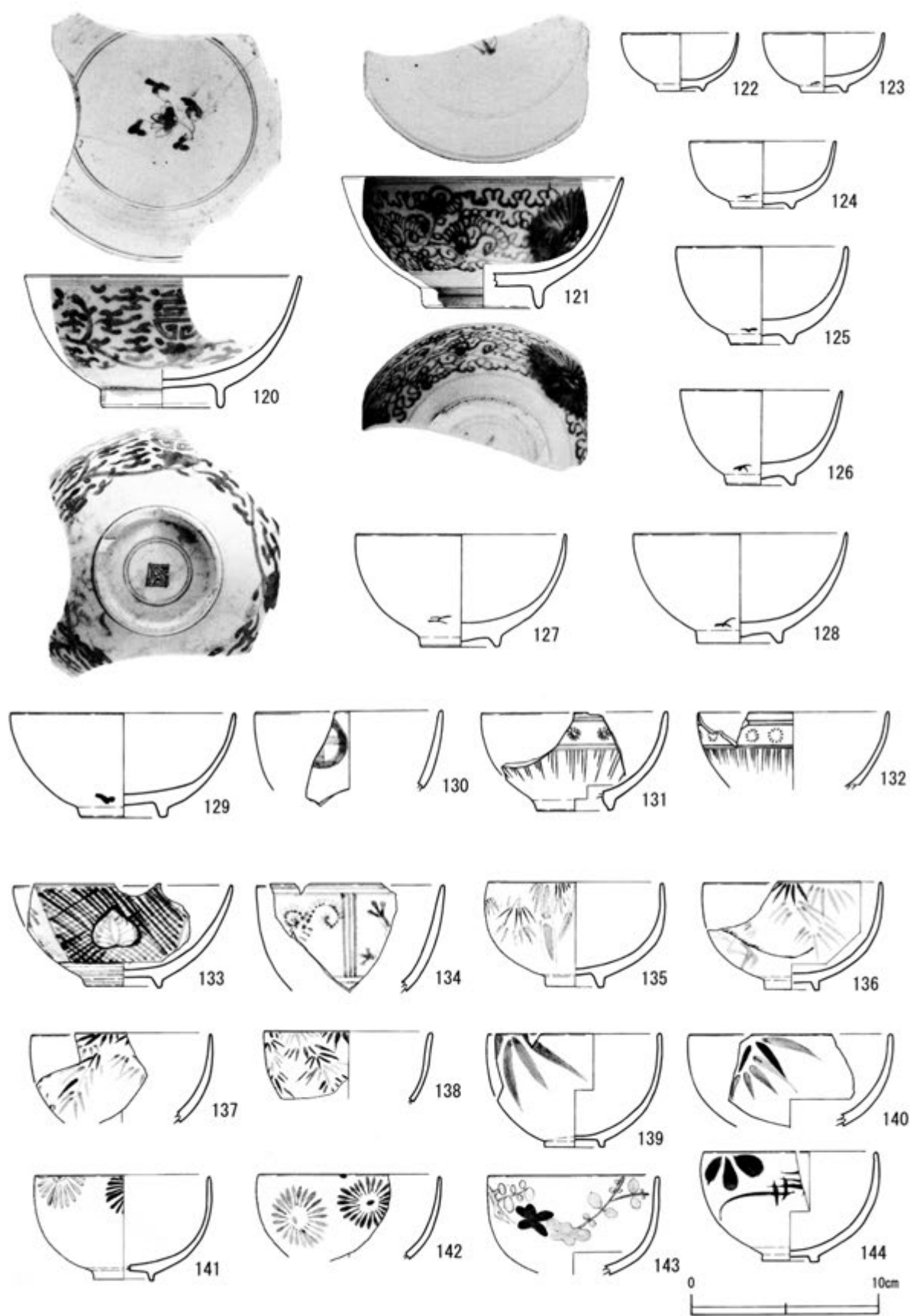
第21图 土坑2内出土遗物实测图(2)



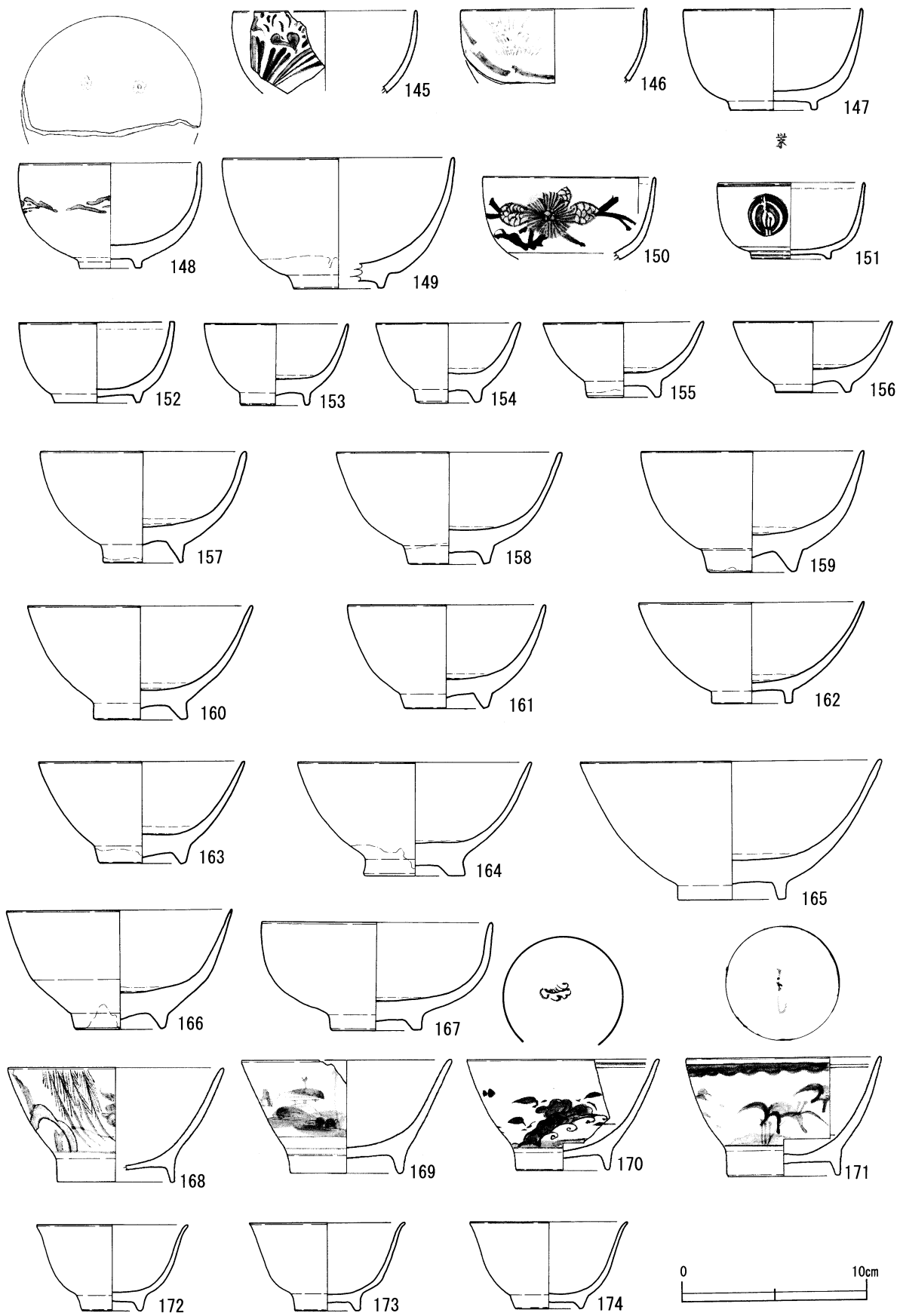
第22图 土坑2内出土遗物实测图(3)



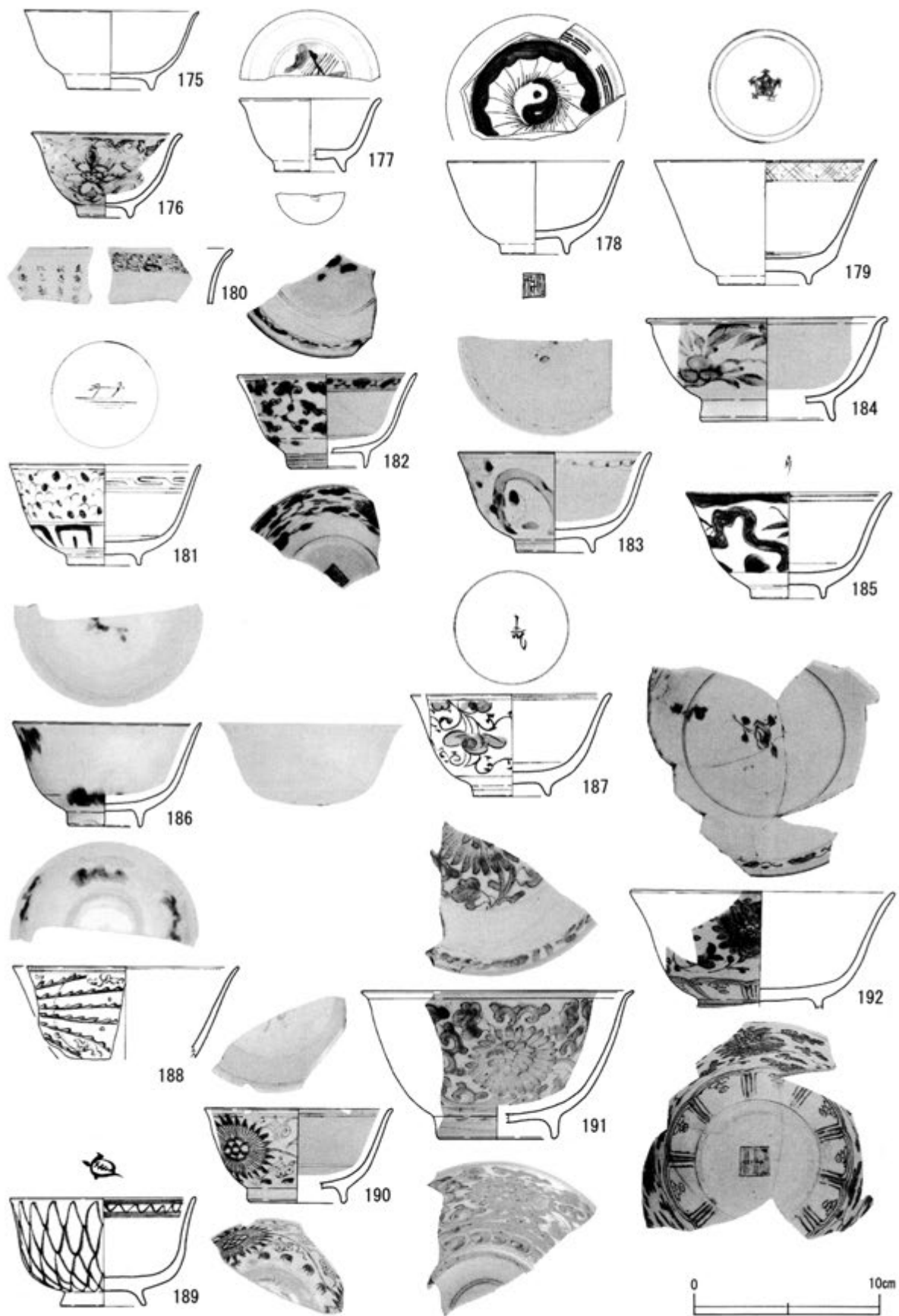
第23図 宮之城島津家出土遺物実測図(1)



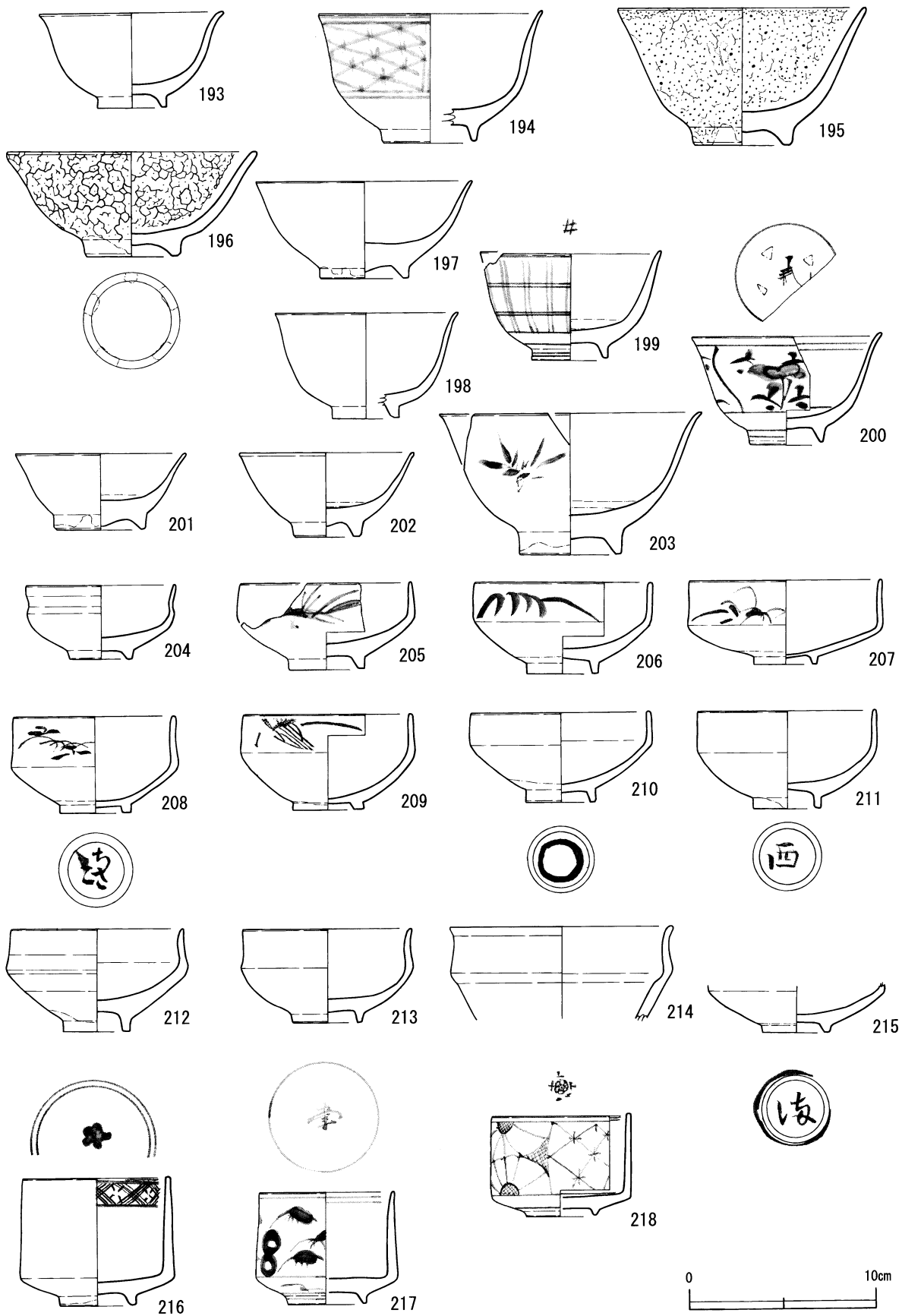
第24図 宮之城島津家出土遺物実測図(2)



第25図 宮之城島津家出土遺物実測図(3)



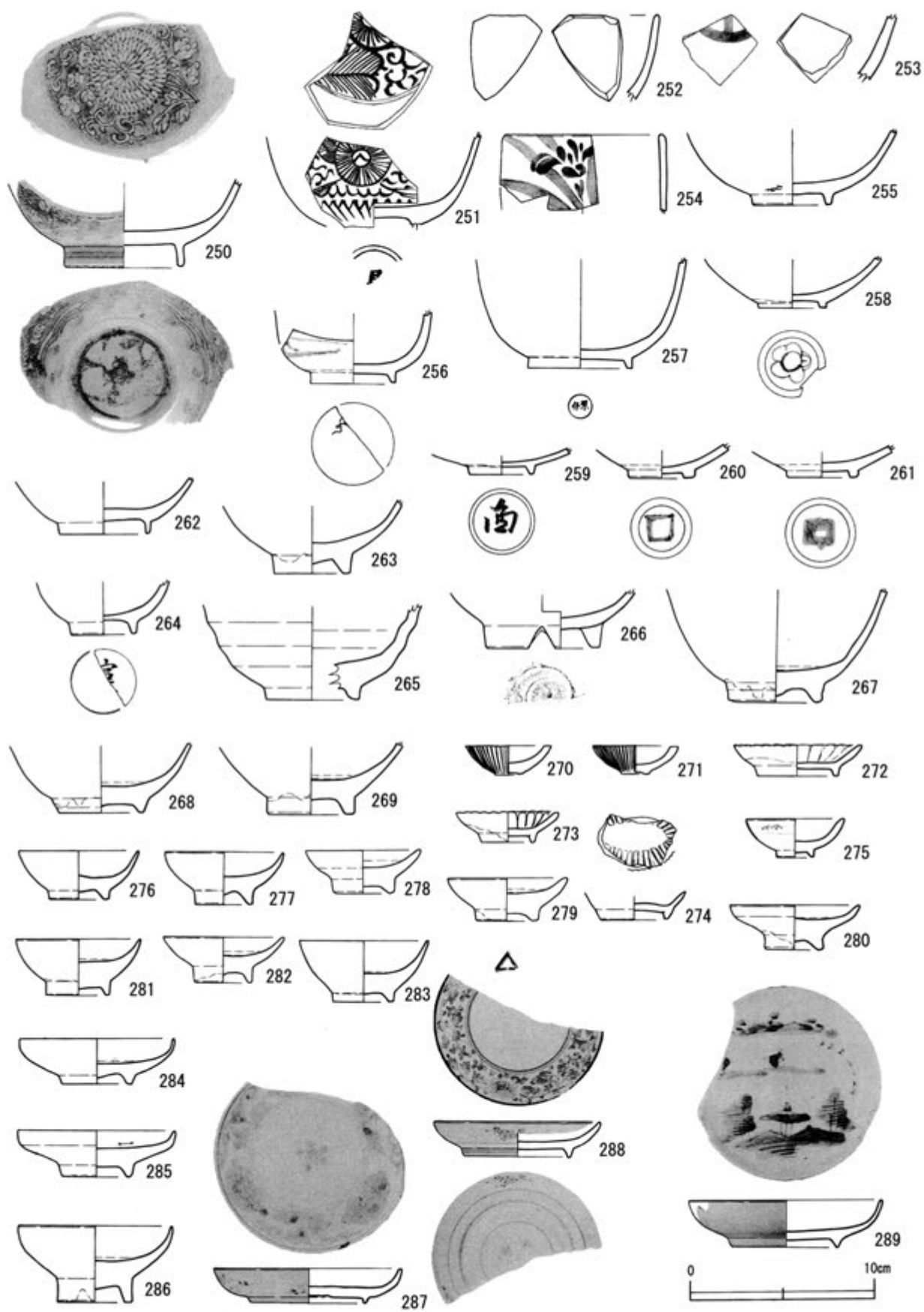
第26図 宮之城島津家出土遺物実測図(4)



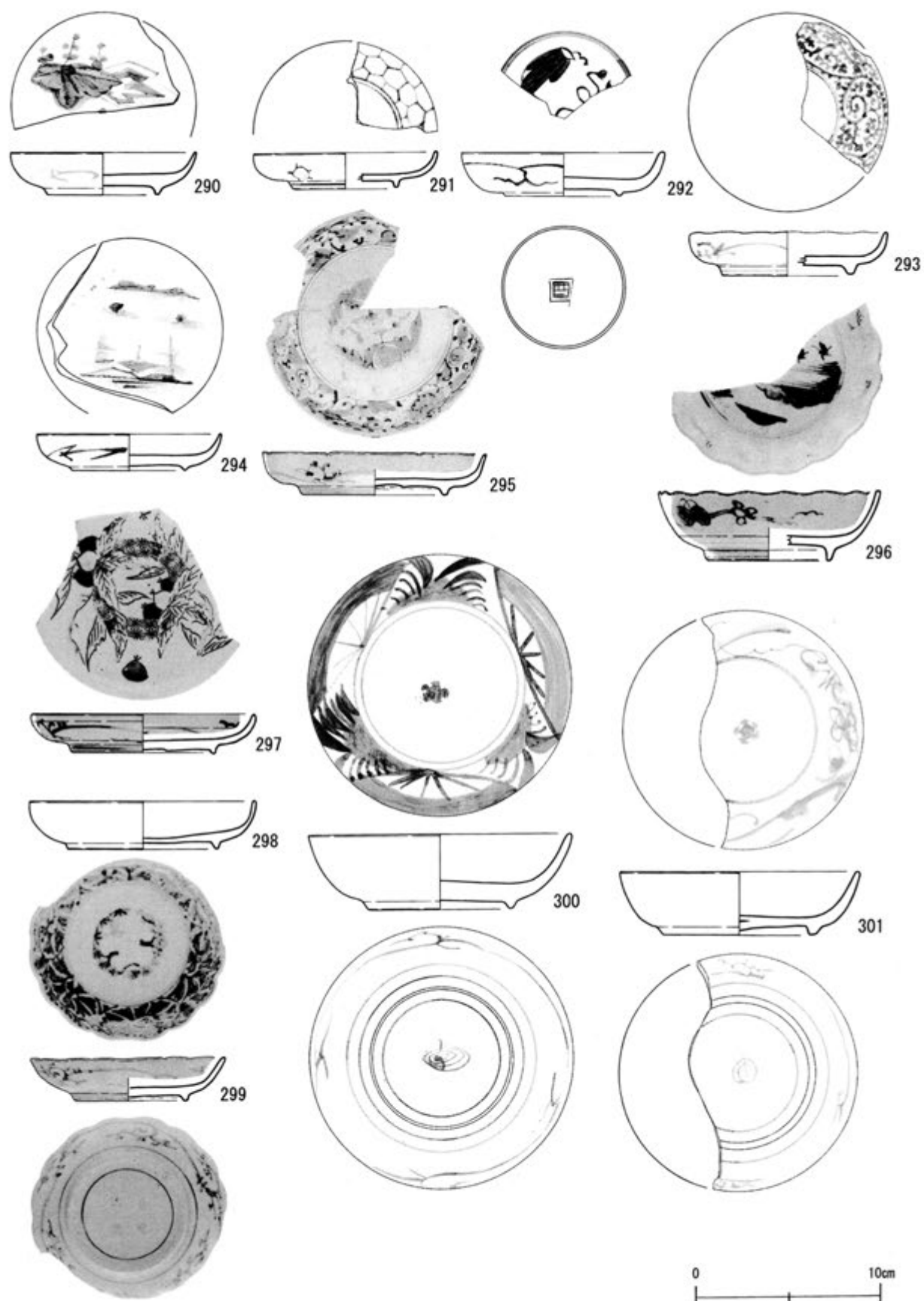
第27図 宮之城島津家出土遺物実測図(5)



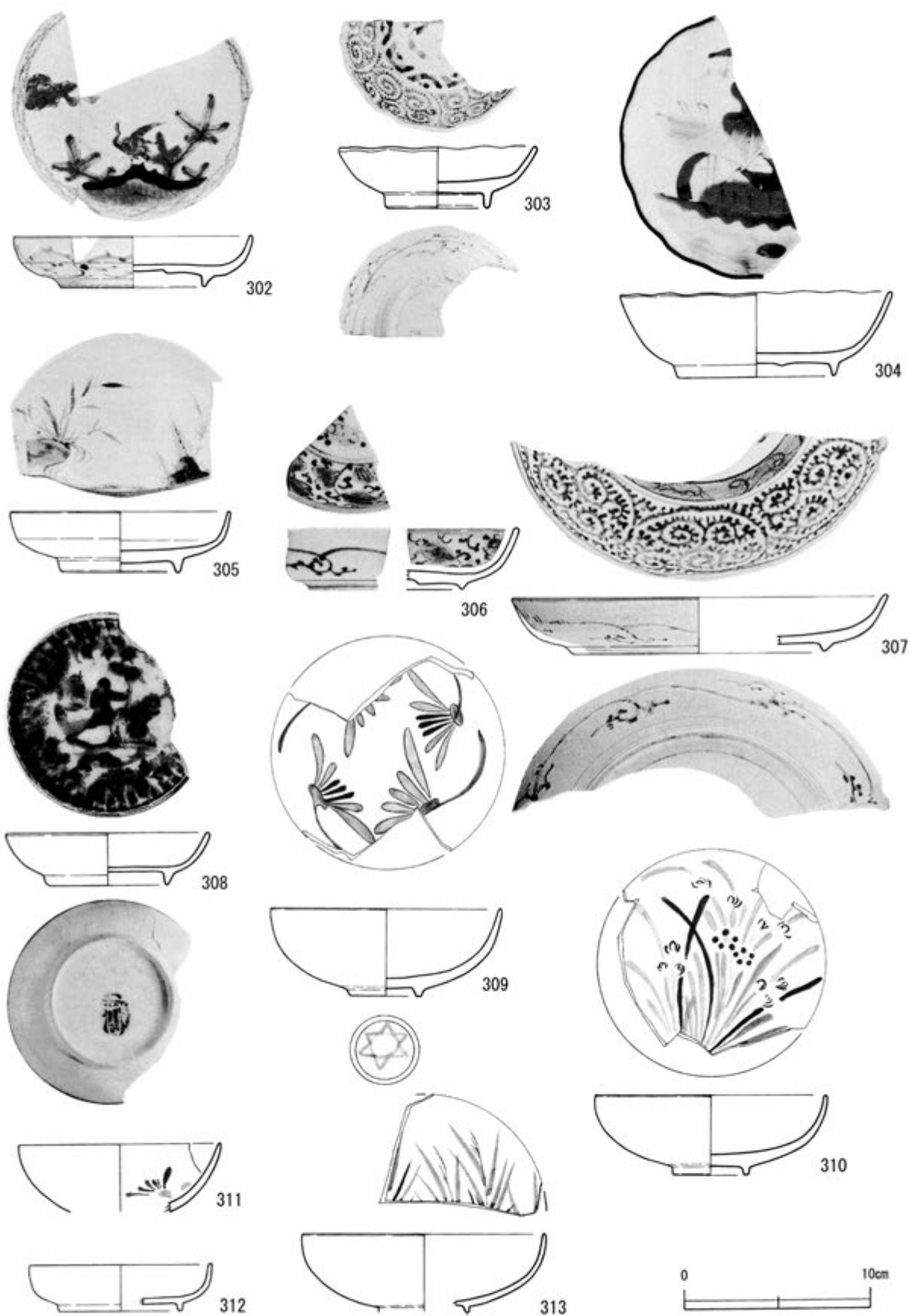
第28図 宮之城島津家出土遺物実測図(6)



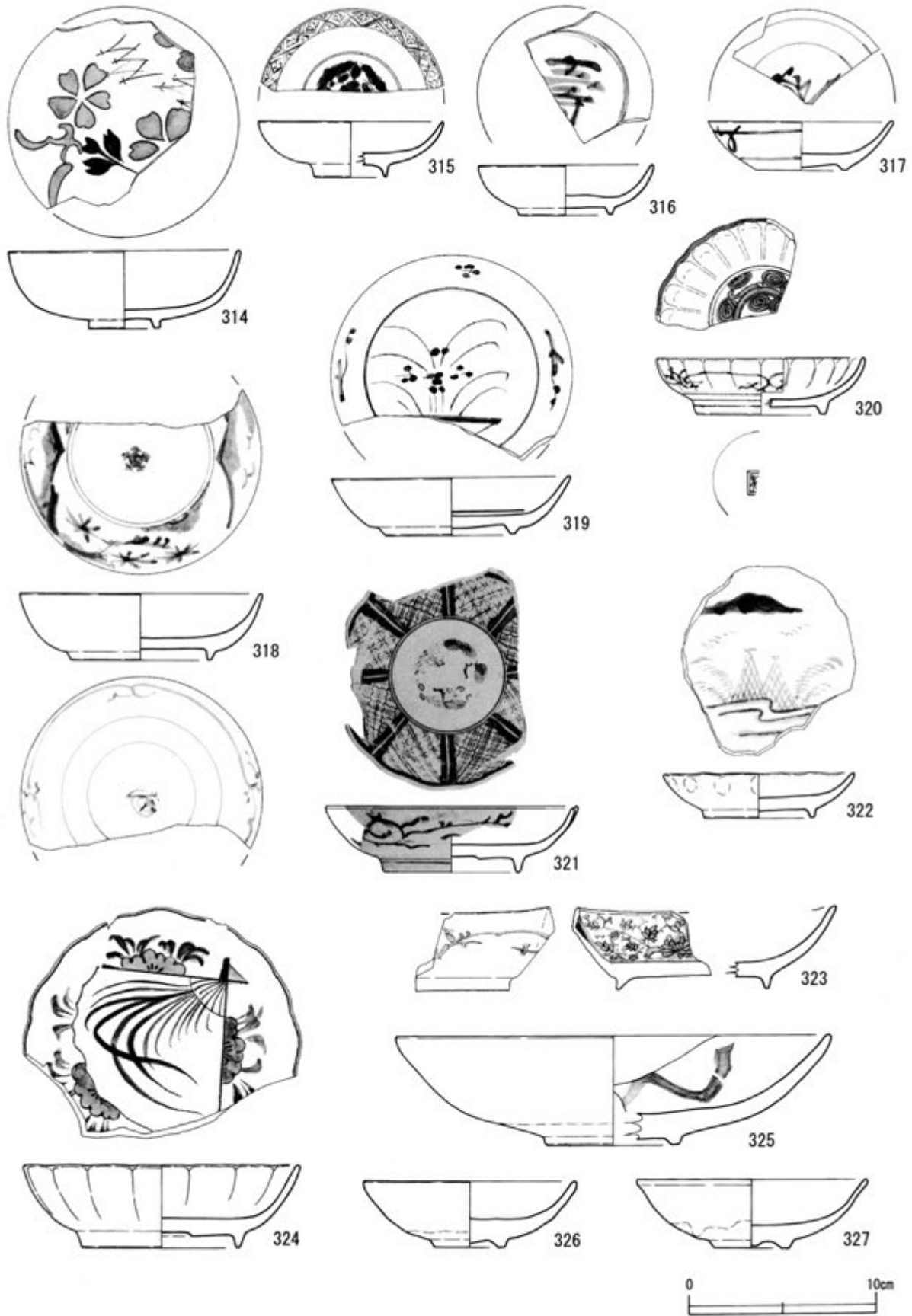
第29図 宮之城島津家出土遺物実測図(7)



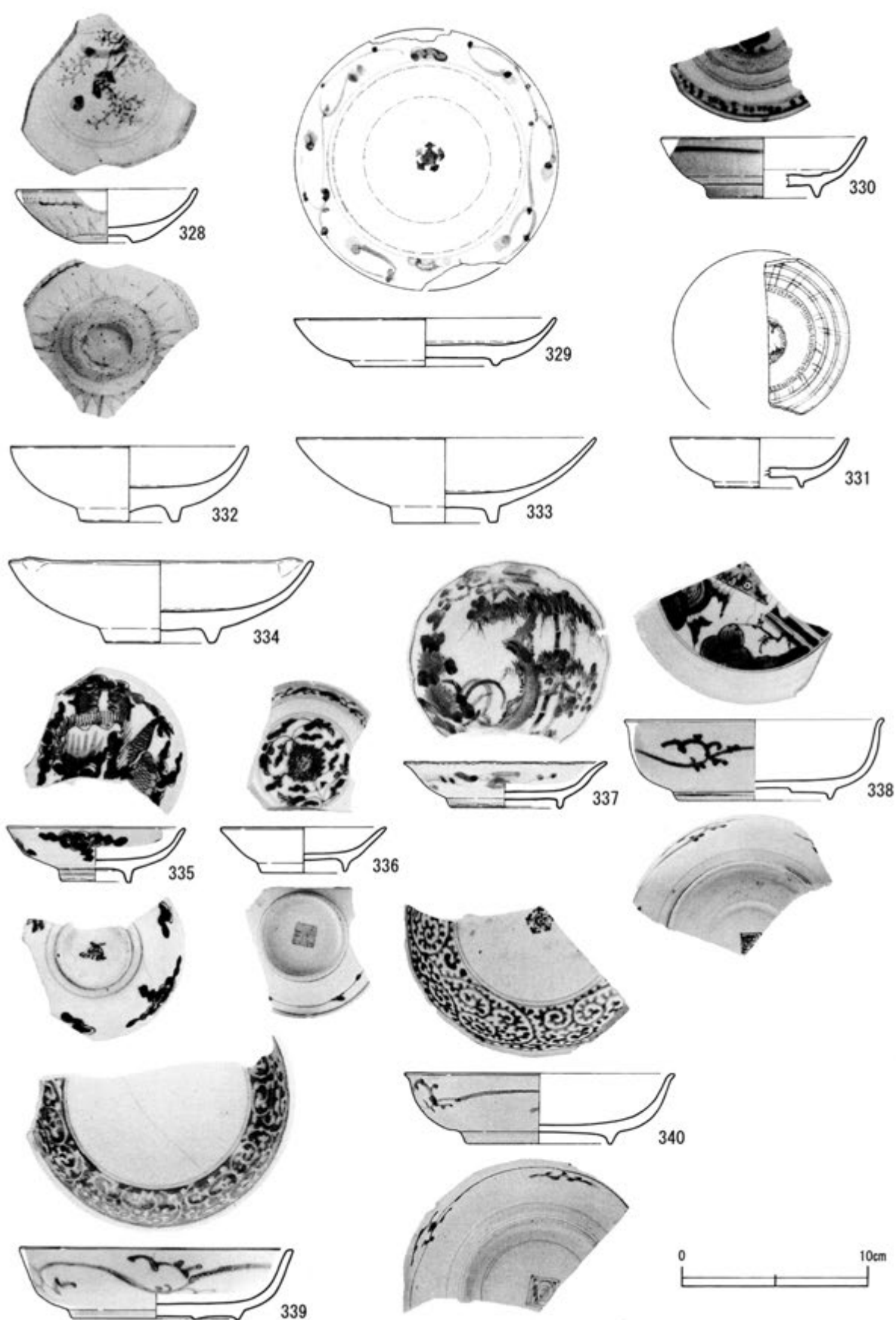
第30図 宮之城島津家出土遺物実測図(8)



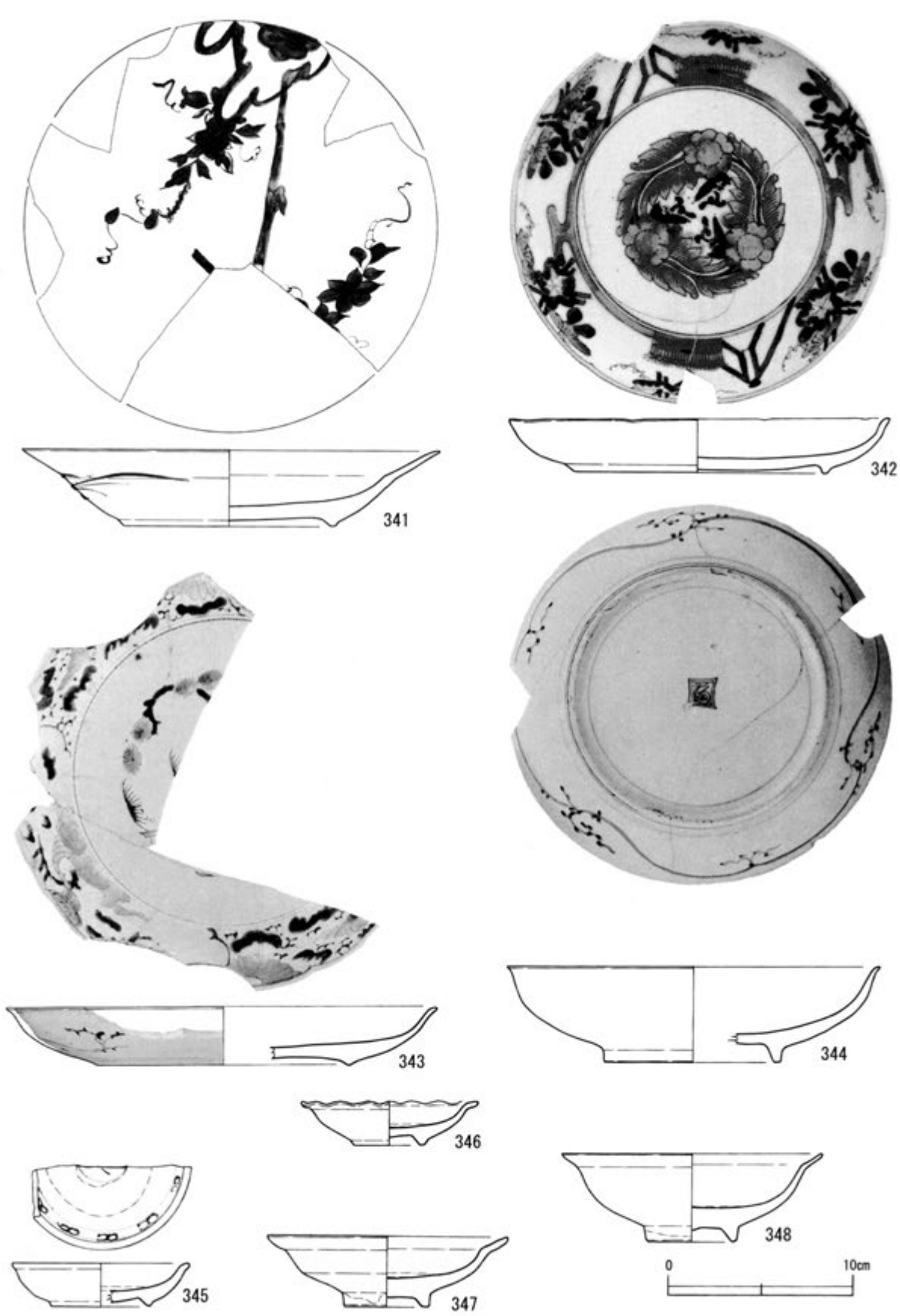
第31図 宮之城島津家出土遺物実測図(9)



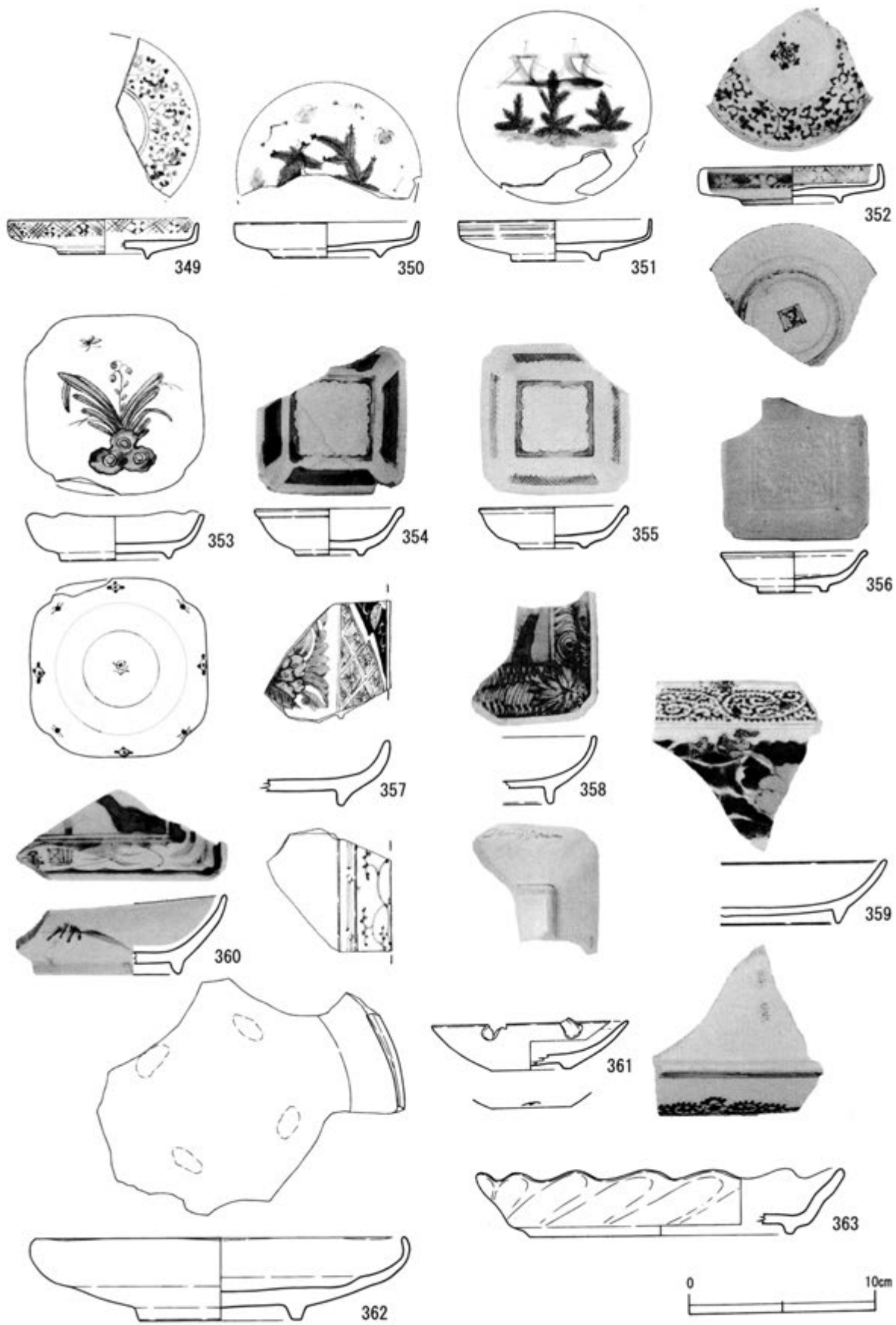
第32図 宮之城島津家出土遺物実測図(10)



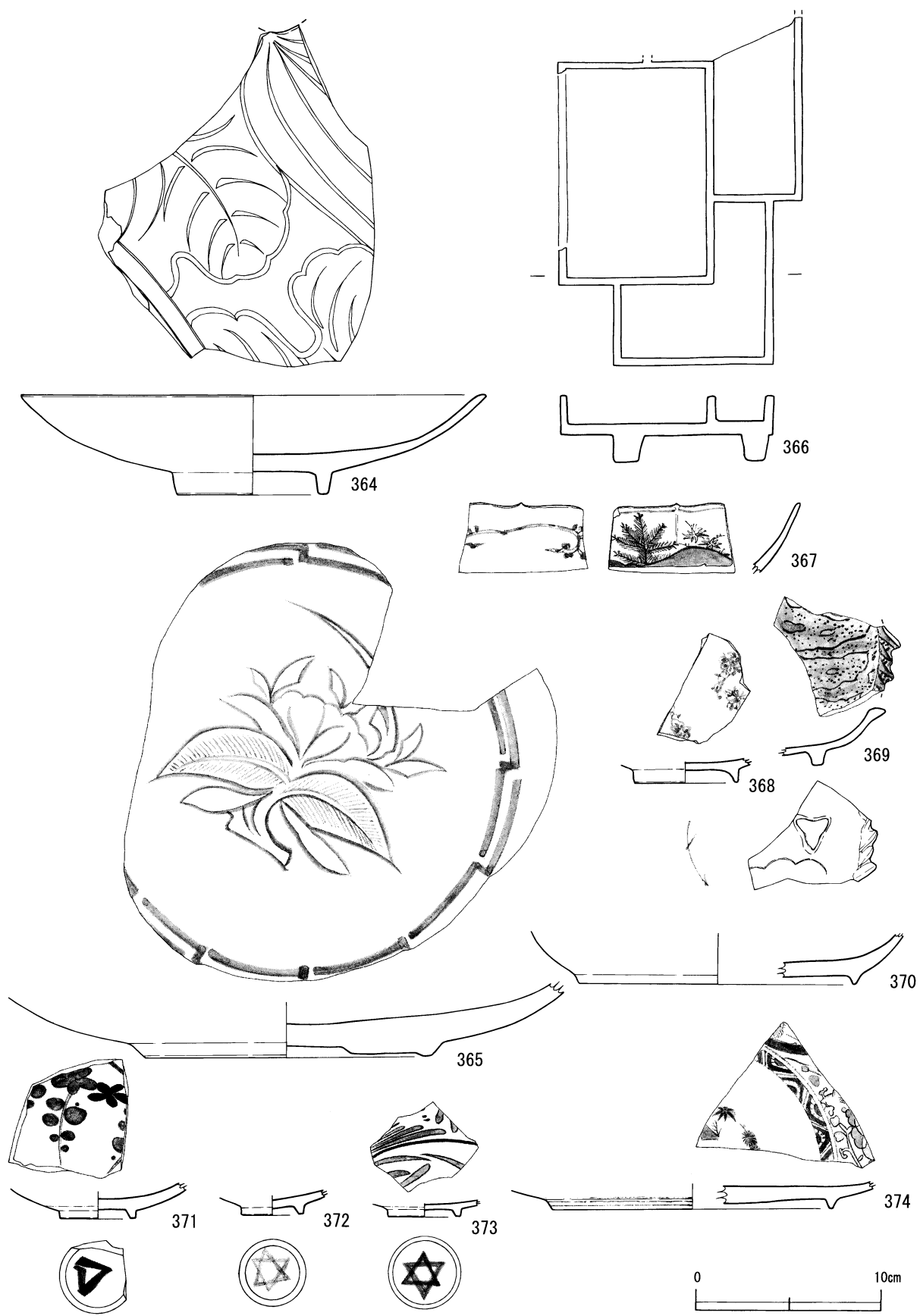
第33図 宮之城島津家出土遺物実測図(11)



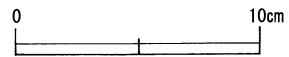
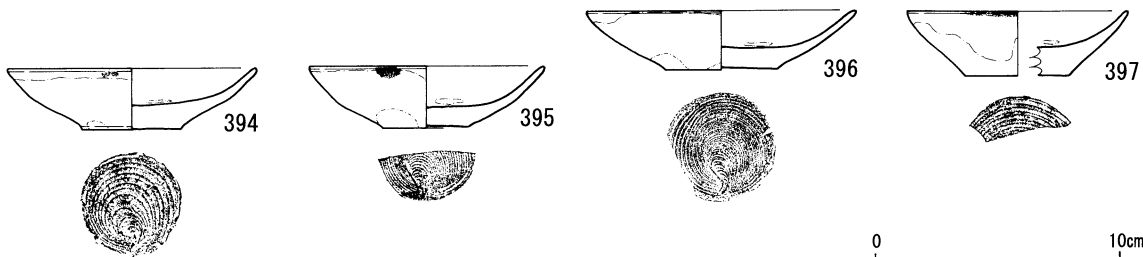
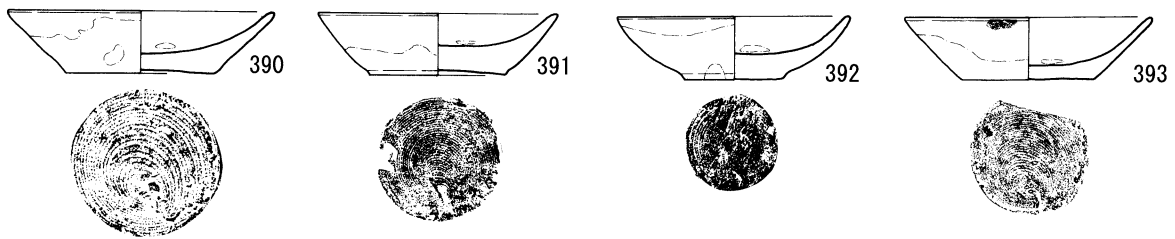
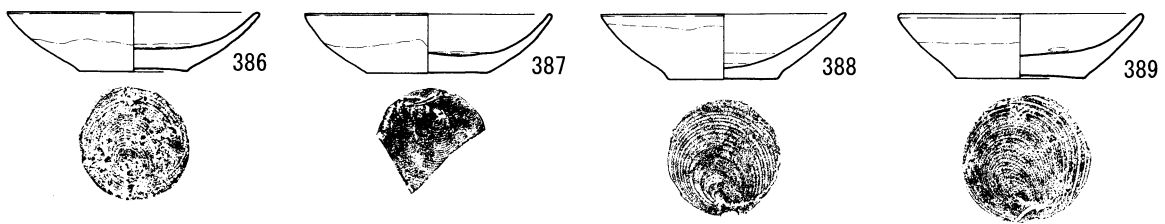
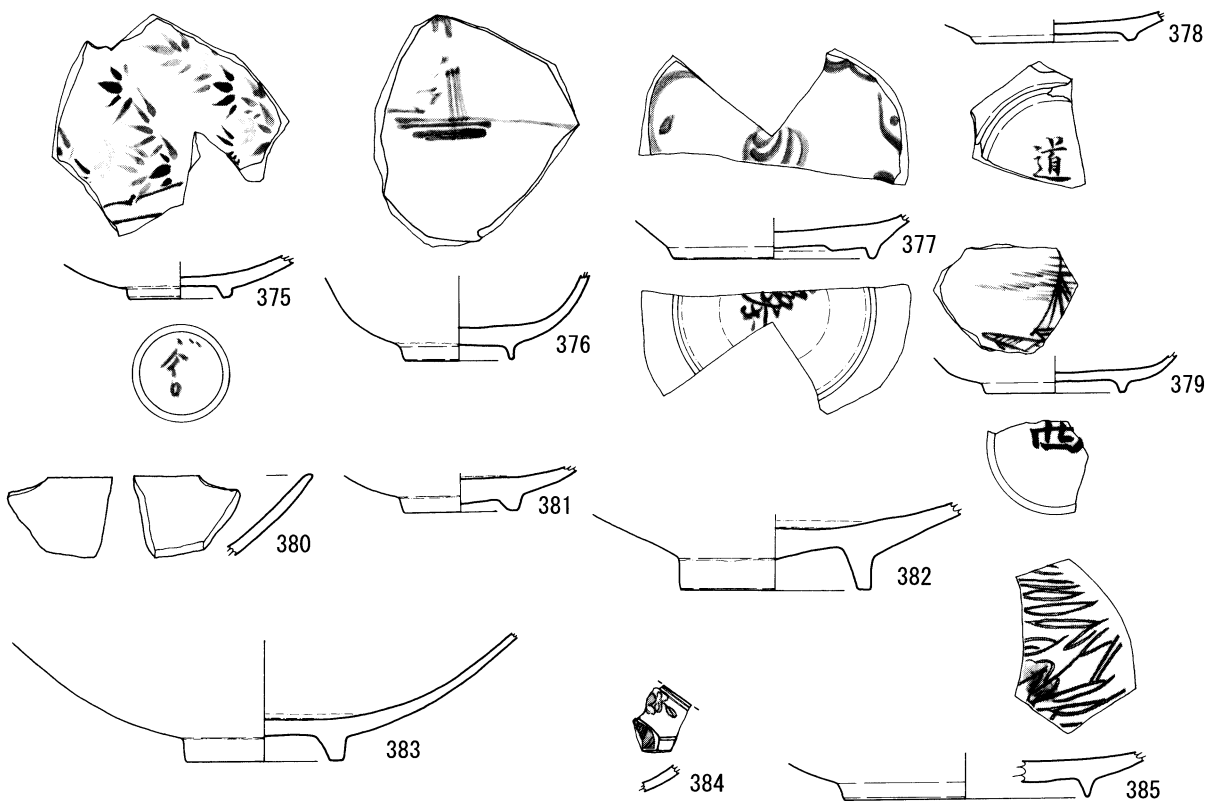
第34図 宮之城島津家出土遺物実測図(12)



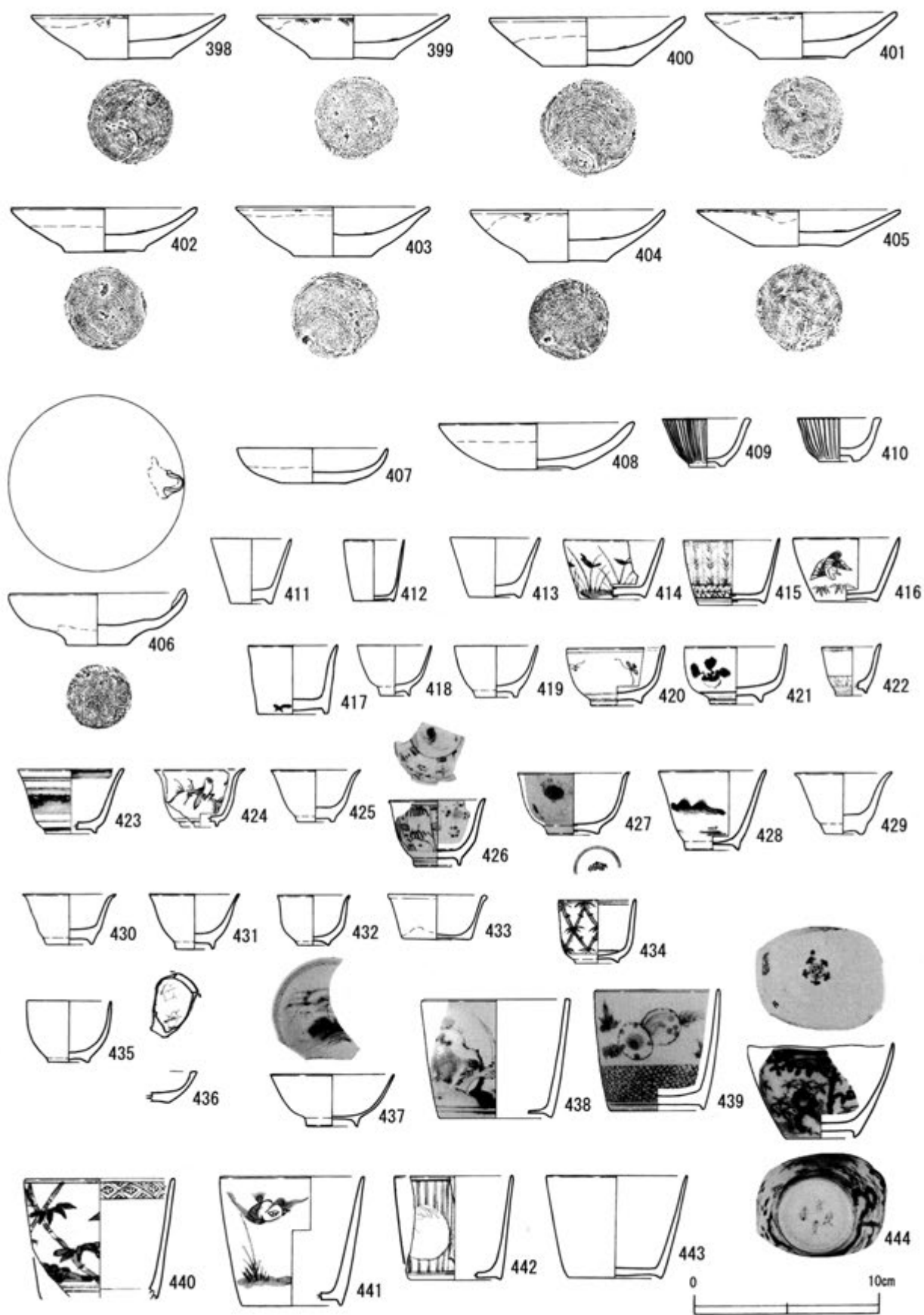
第35図 宮之城島津家出土遺物実測図(13)



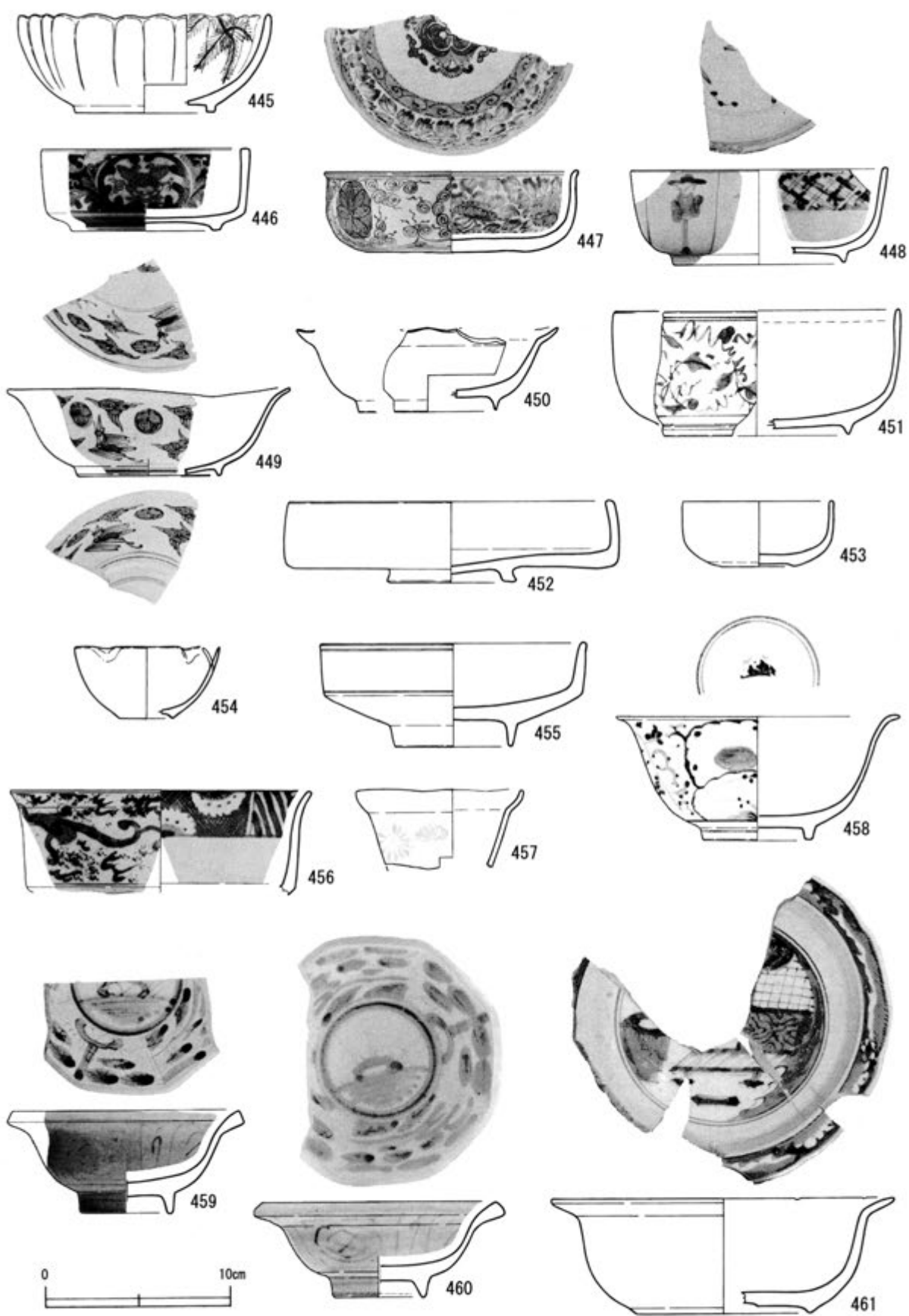
第36図 宮之城島津家出土遺物実測図(14)



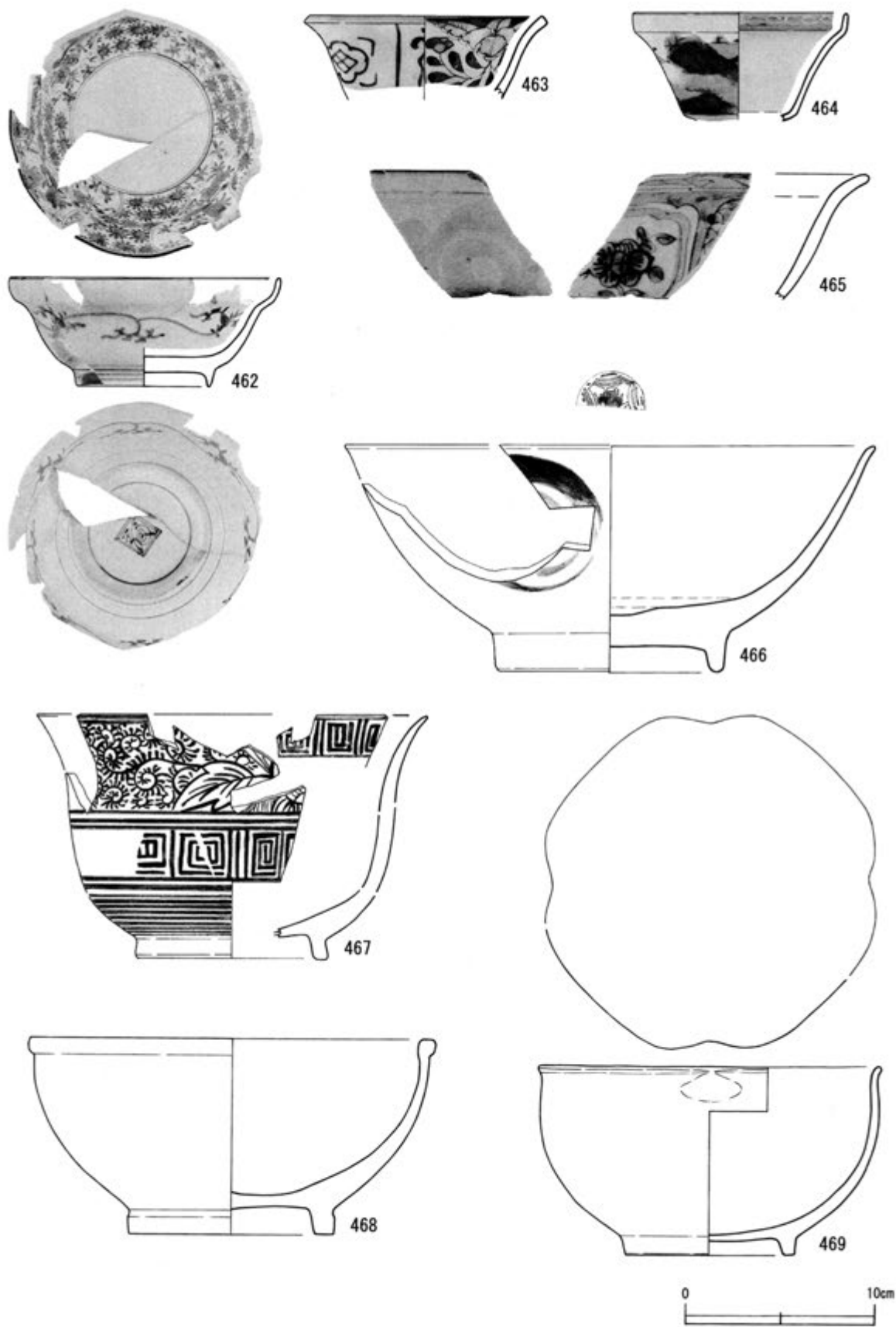
第37図 宮之城島津家出土遺物実測図(15)



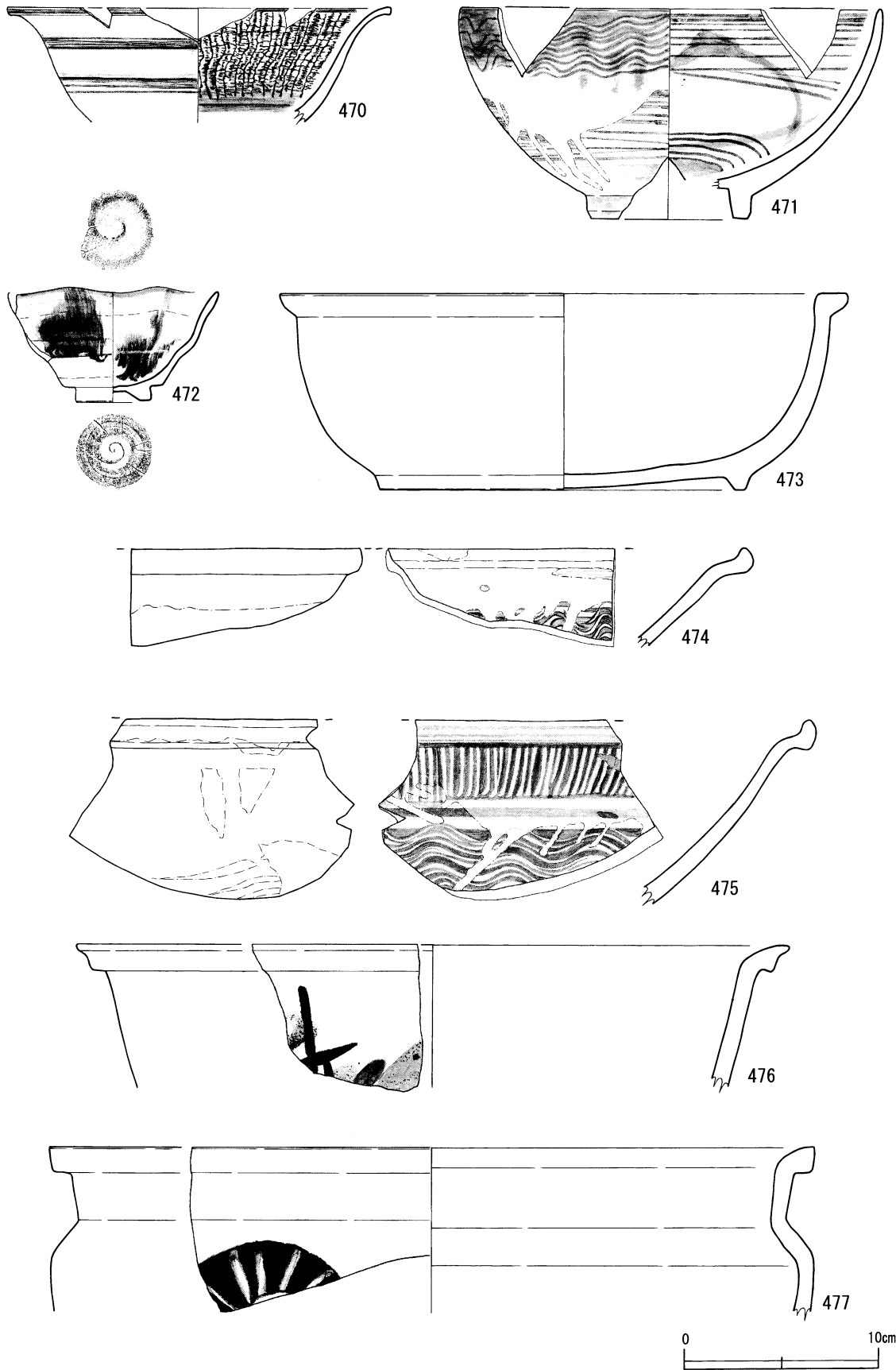
第38図 宮之城島津家出土遺物実測図(16)



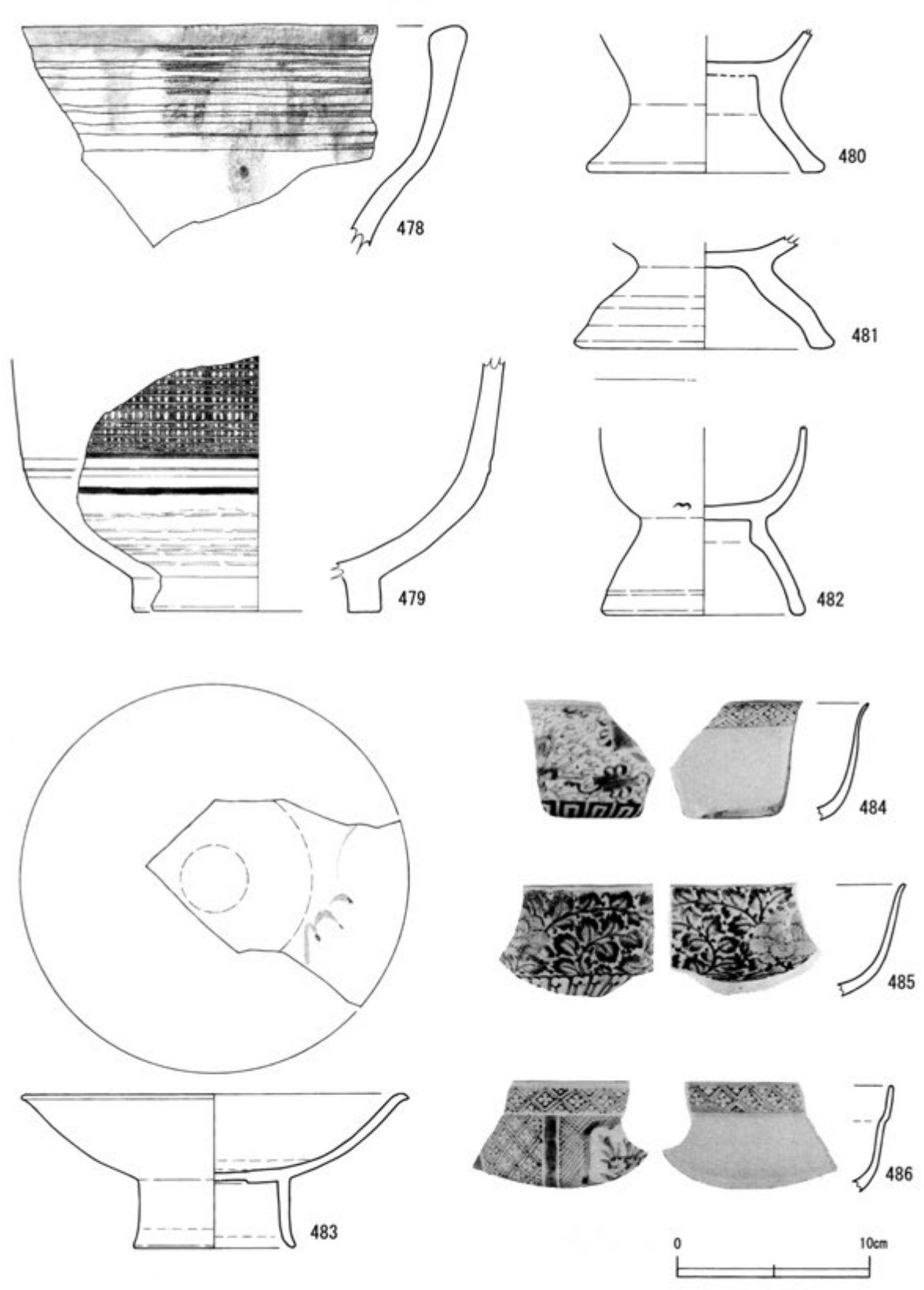
第39図 宮之城島津家出土遺物実測図(17)



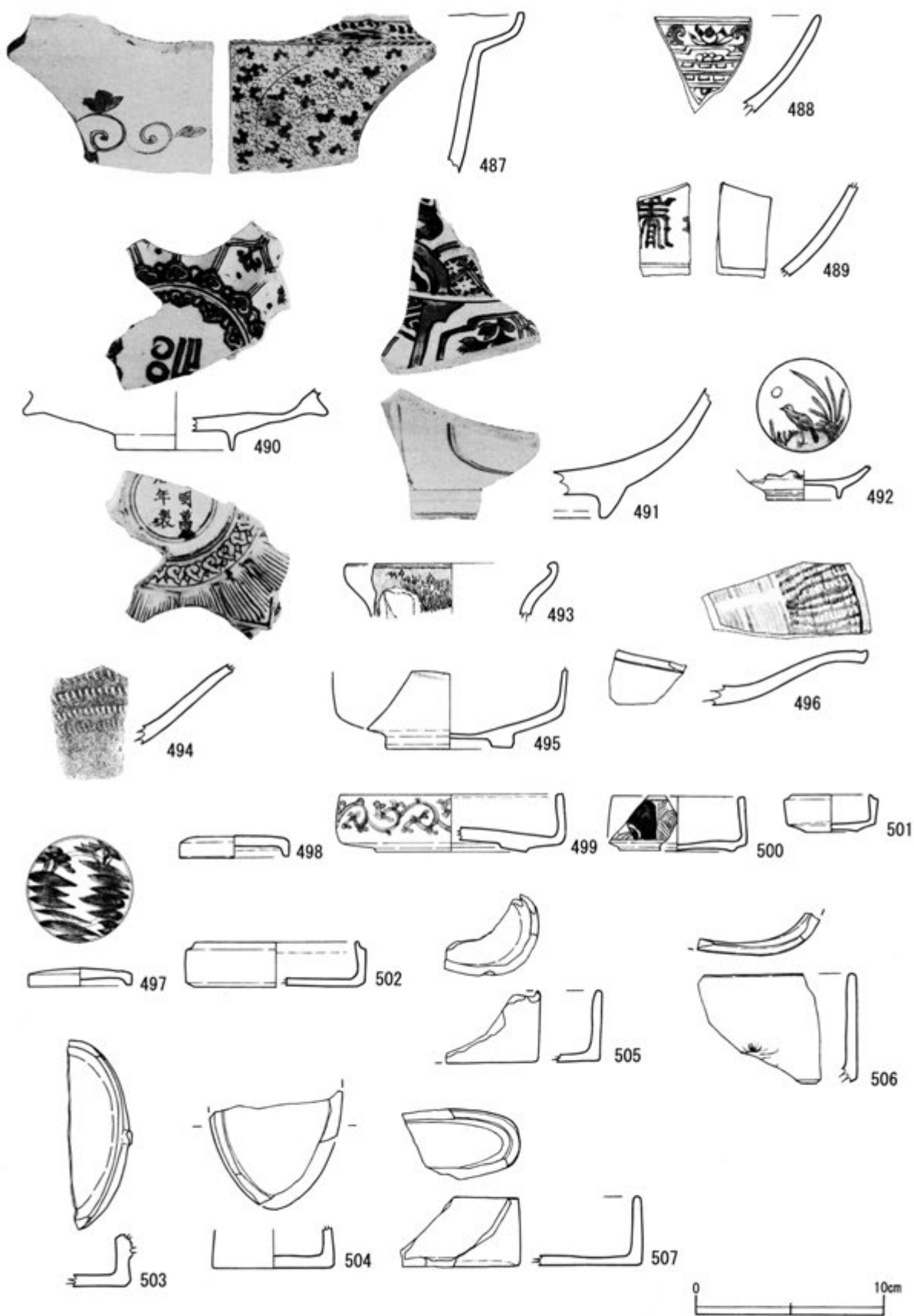
第40図 宮之城島津家出土遺物実測図(18)



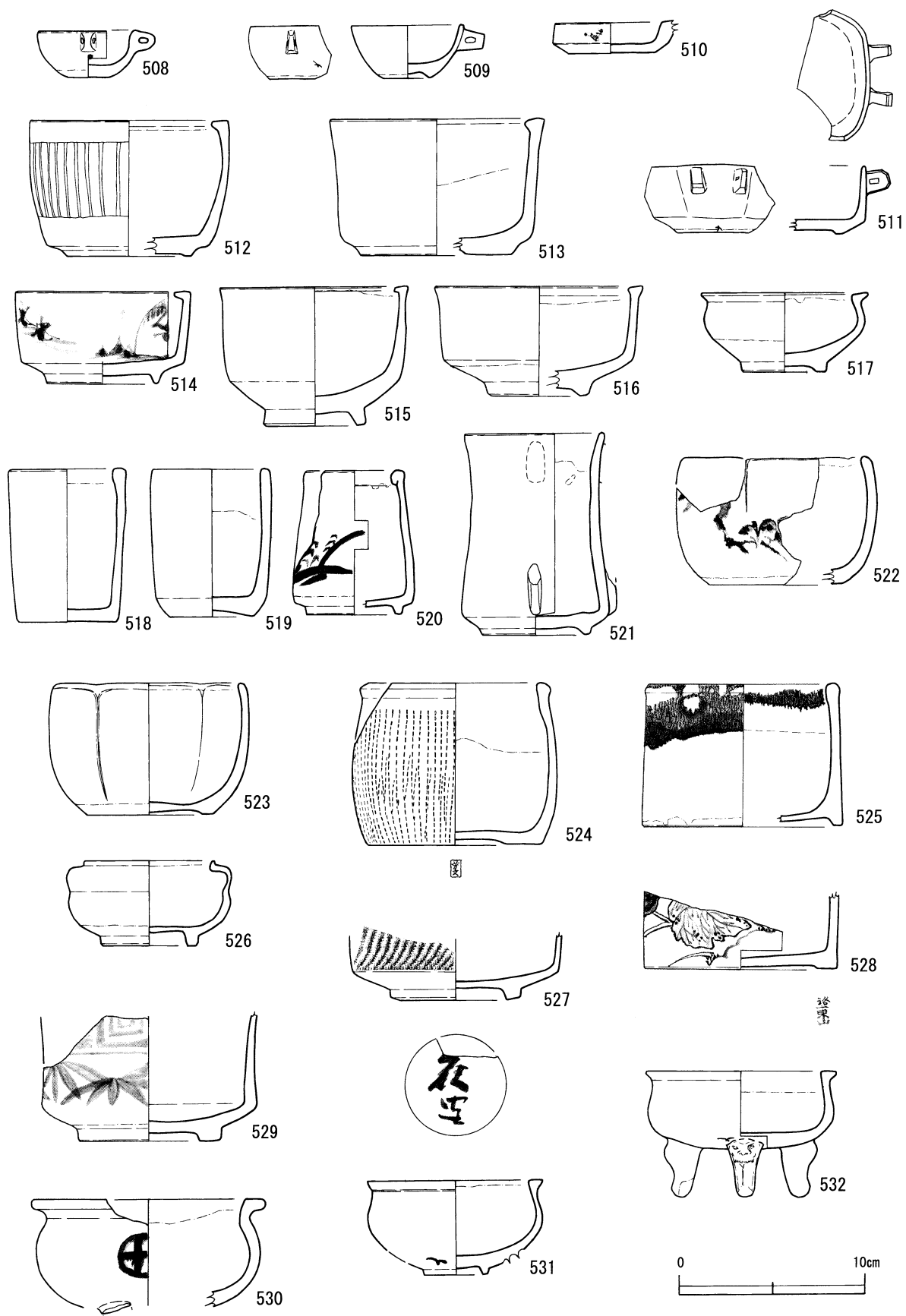
第41図 宮之城島津家出土遺物実測図(19)



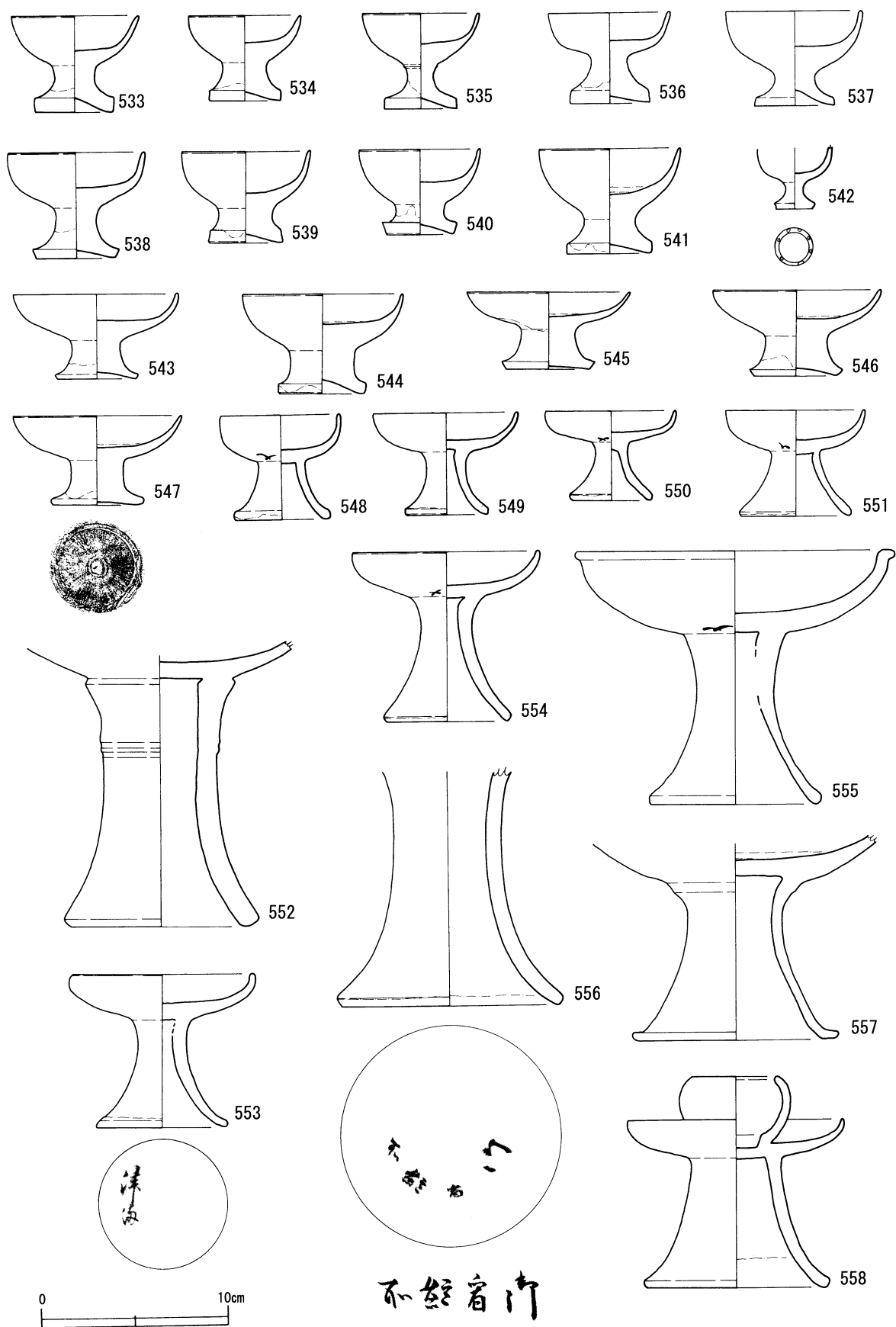
第42図 宮之城島津家出土遺物実測図(20)



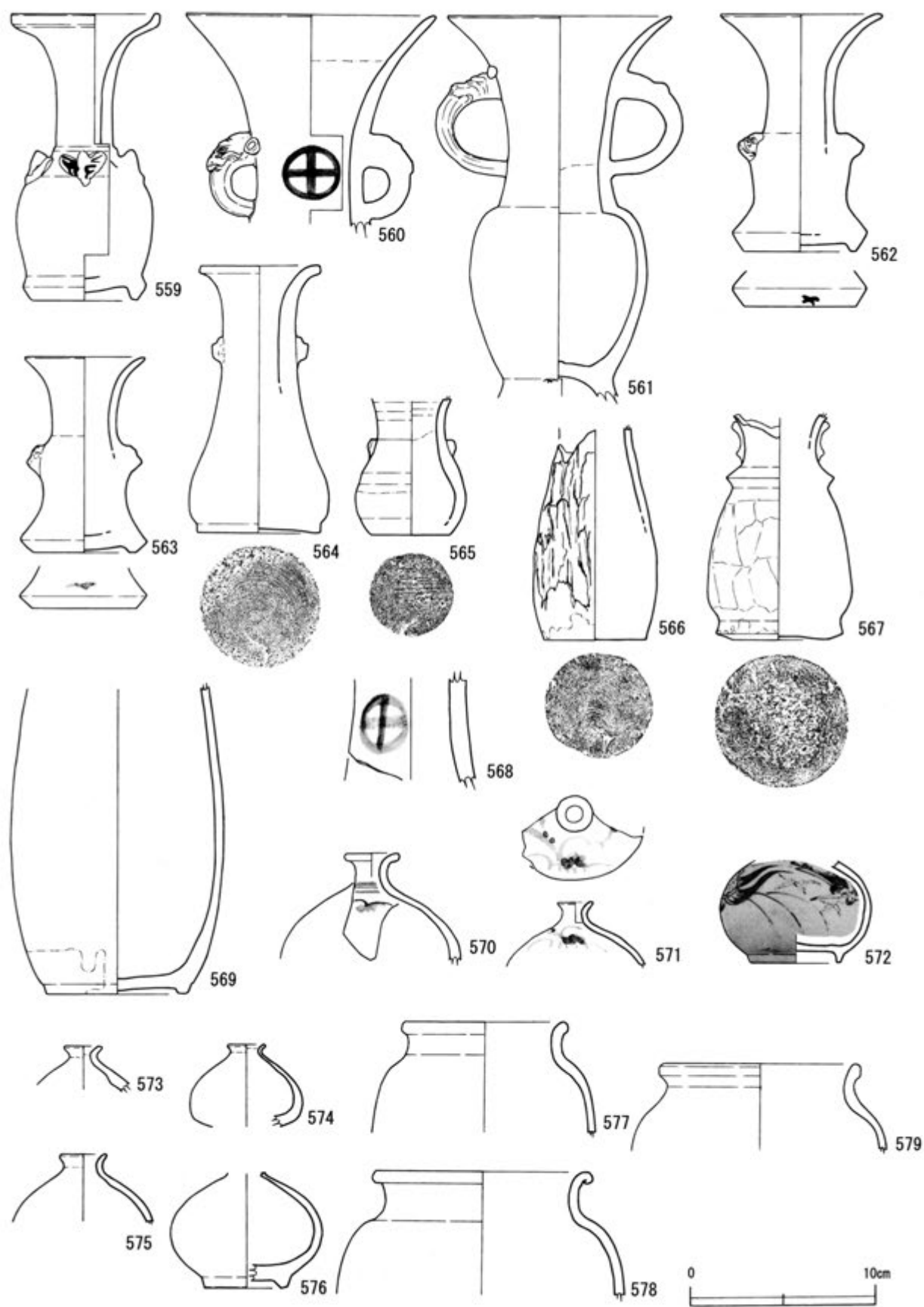
第43図 宮之城島津家出土遺物実測図(21)



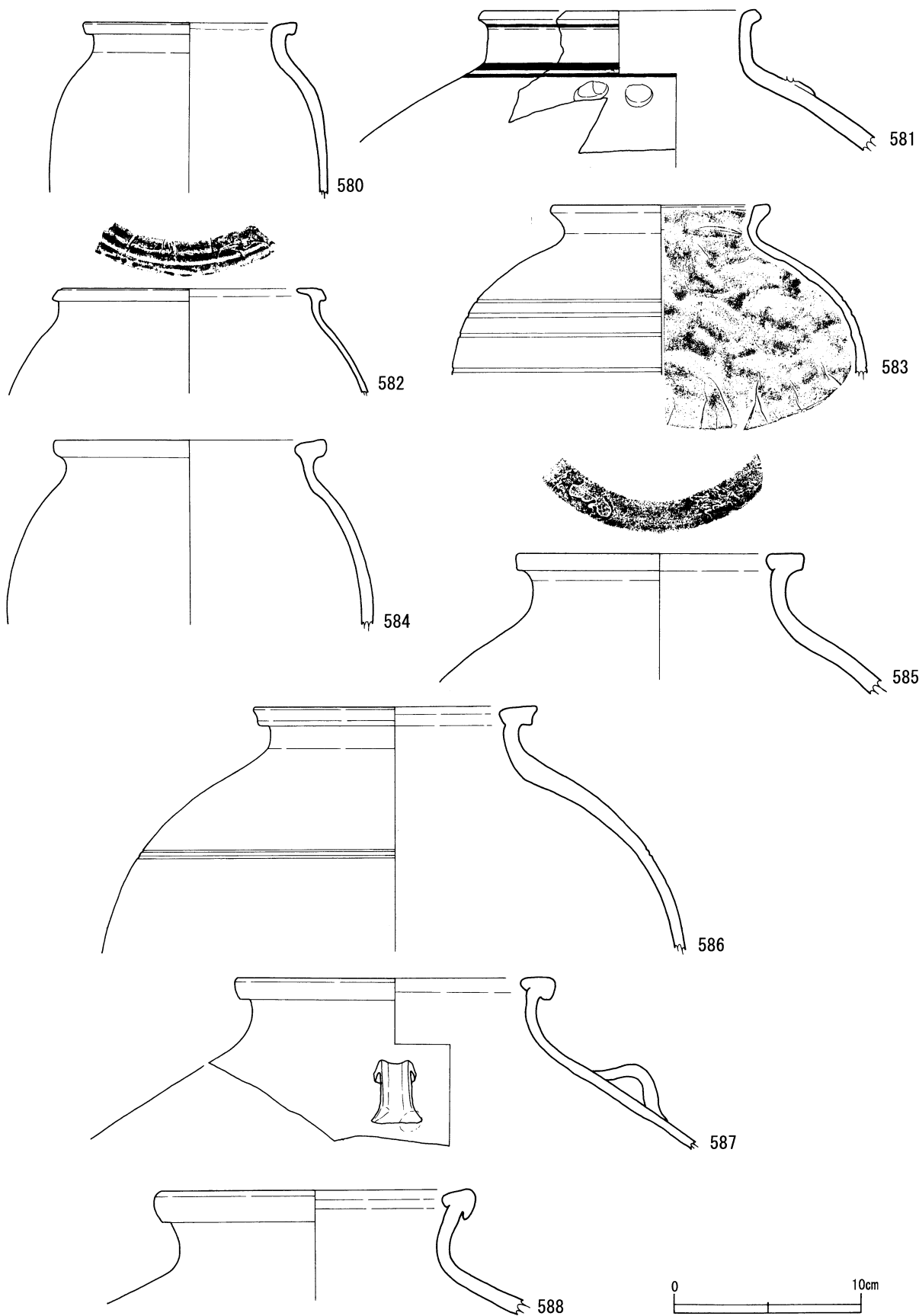
第44図 宮之城島津家出土遺物実測図(22)



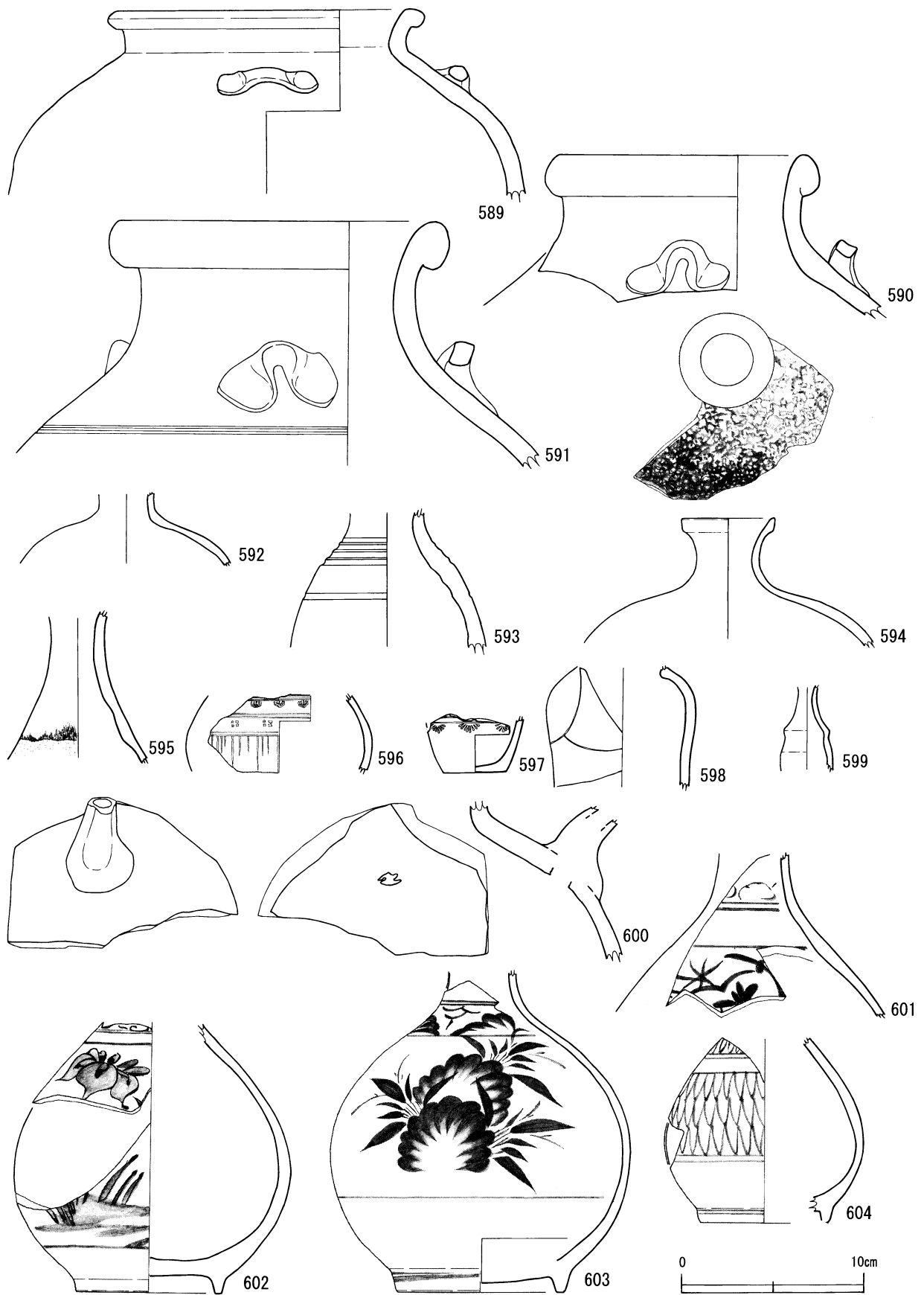
第45図 宮之城島津家出土遺物実測図(23)



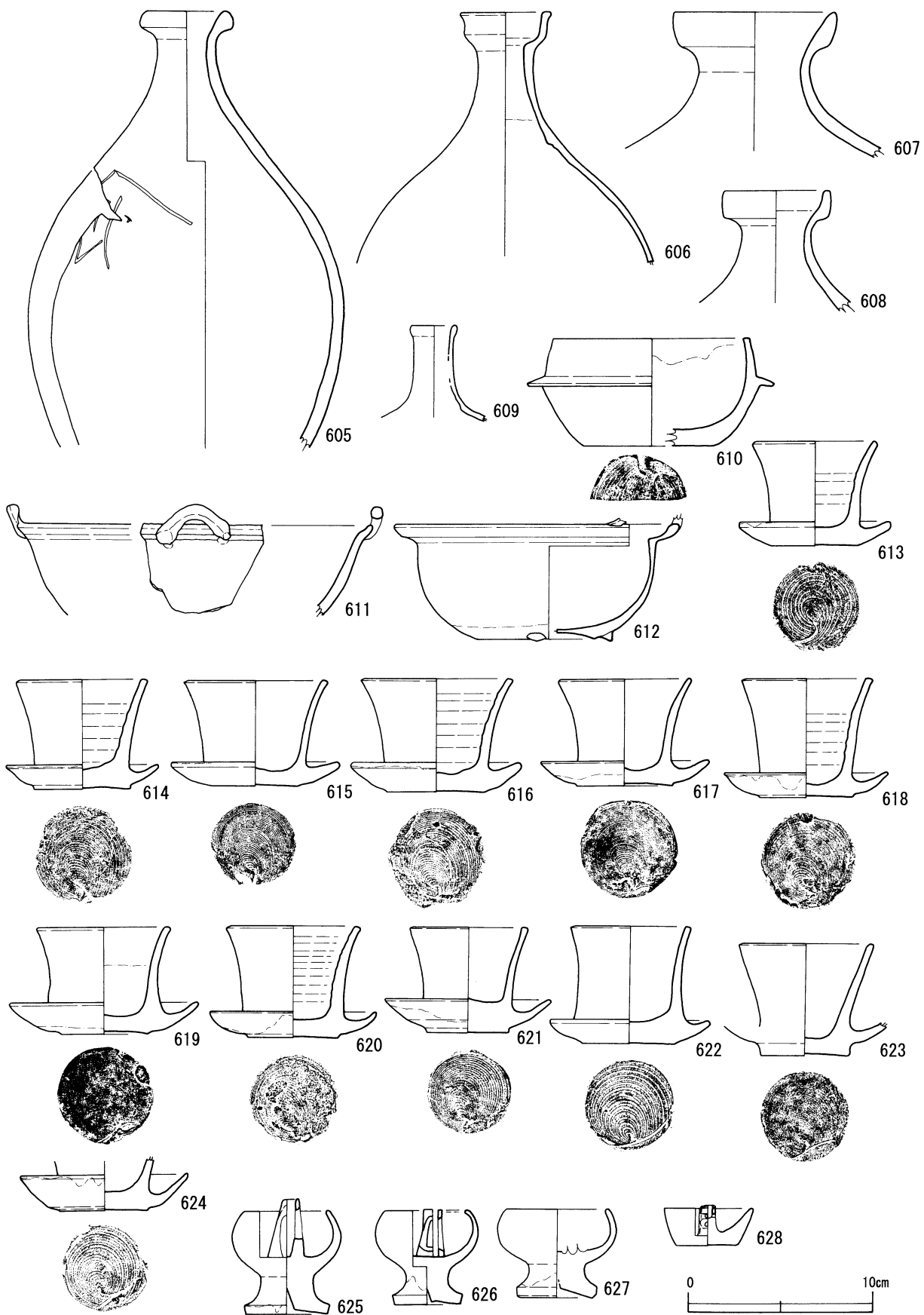
第46図 宮之城島津家出土遺物実測図(24)



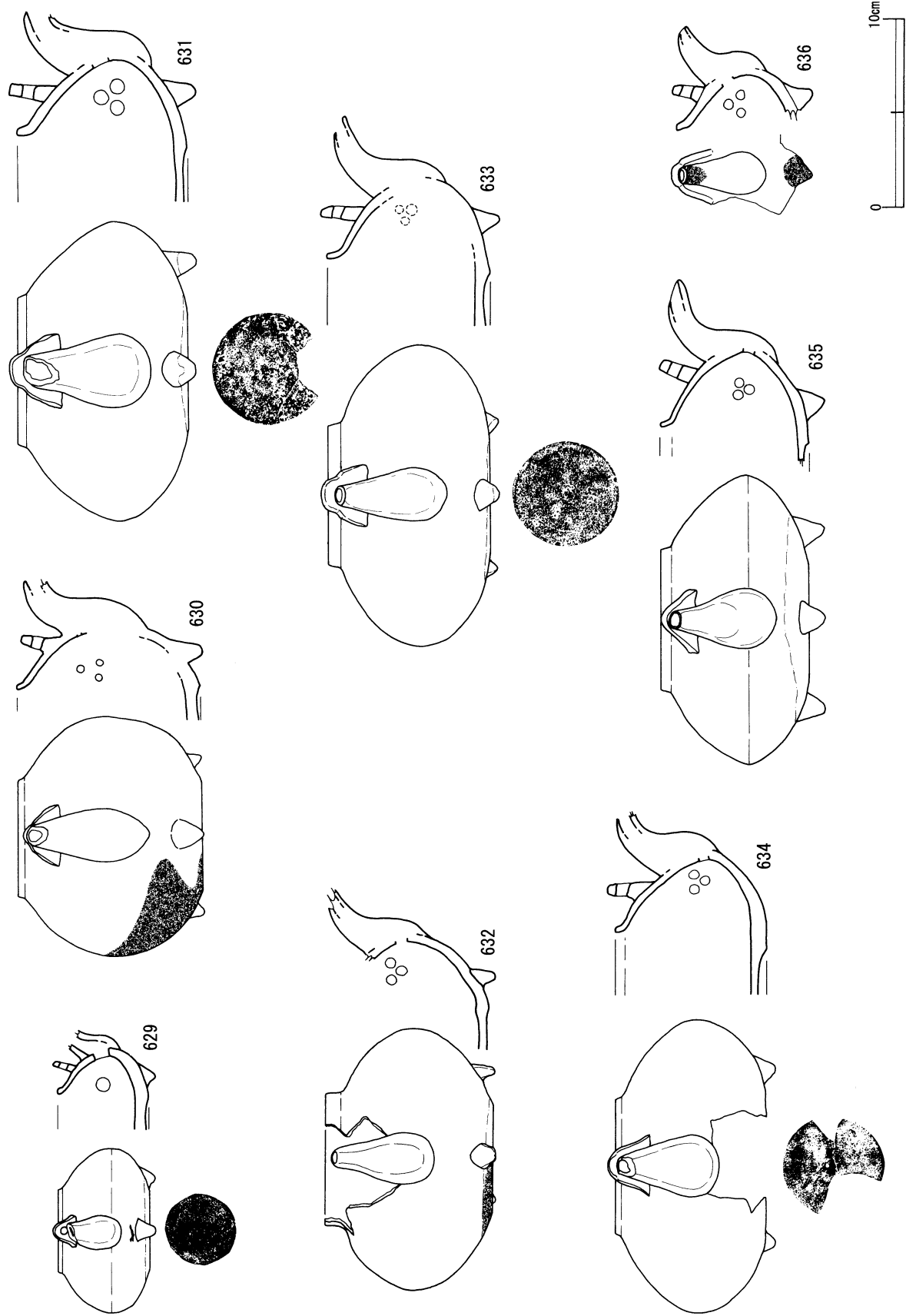
第47図 宮之城島津家出土遺物実測図(25)



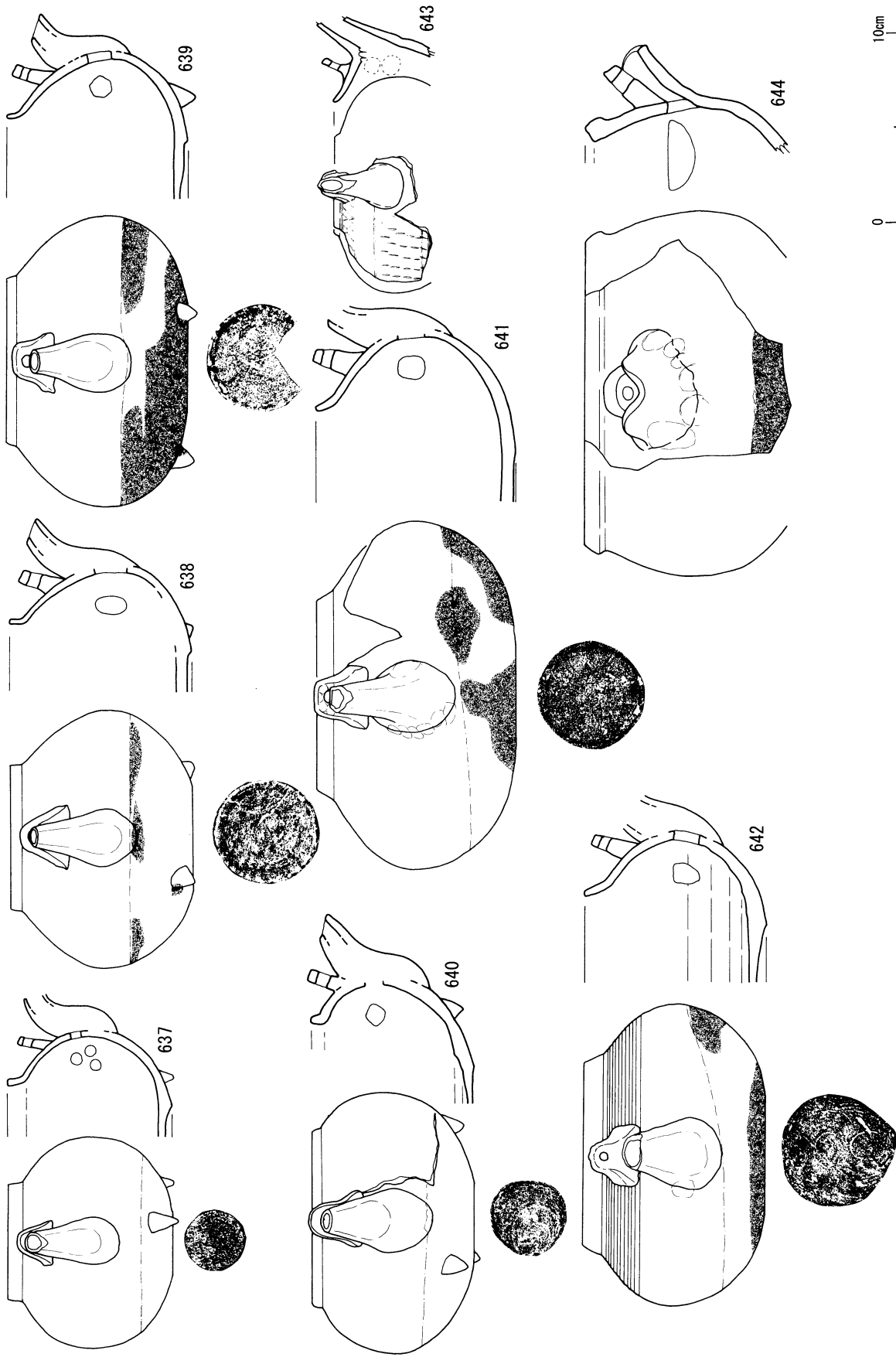
第48図 宮之城島津家出土遺物実測図(26)



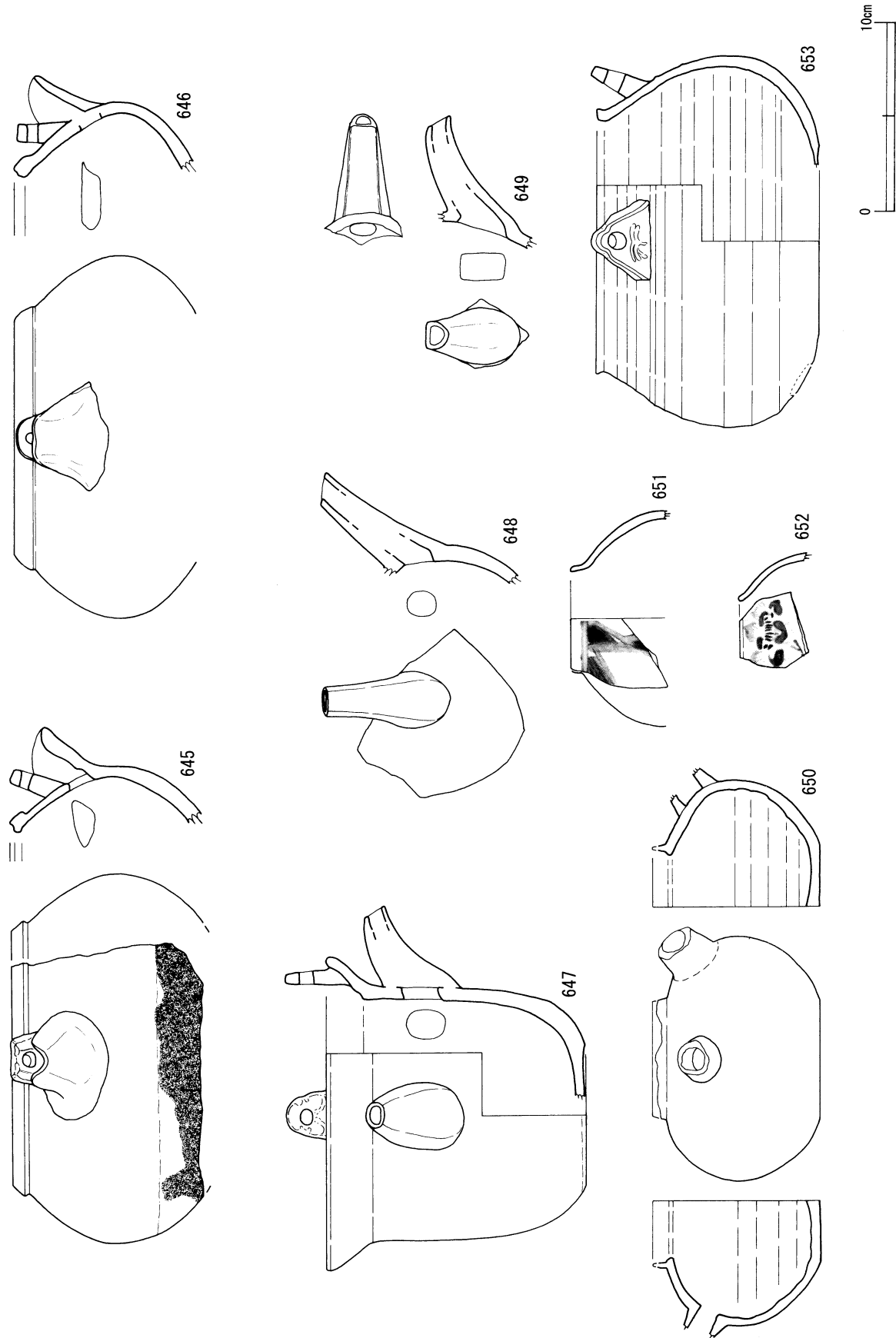
第49図 宮之城島津家出土遺物実測図(27)



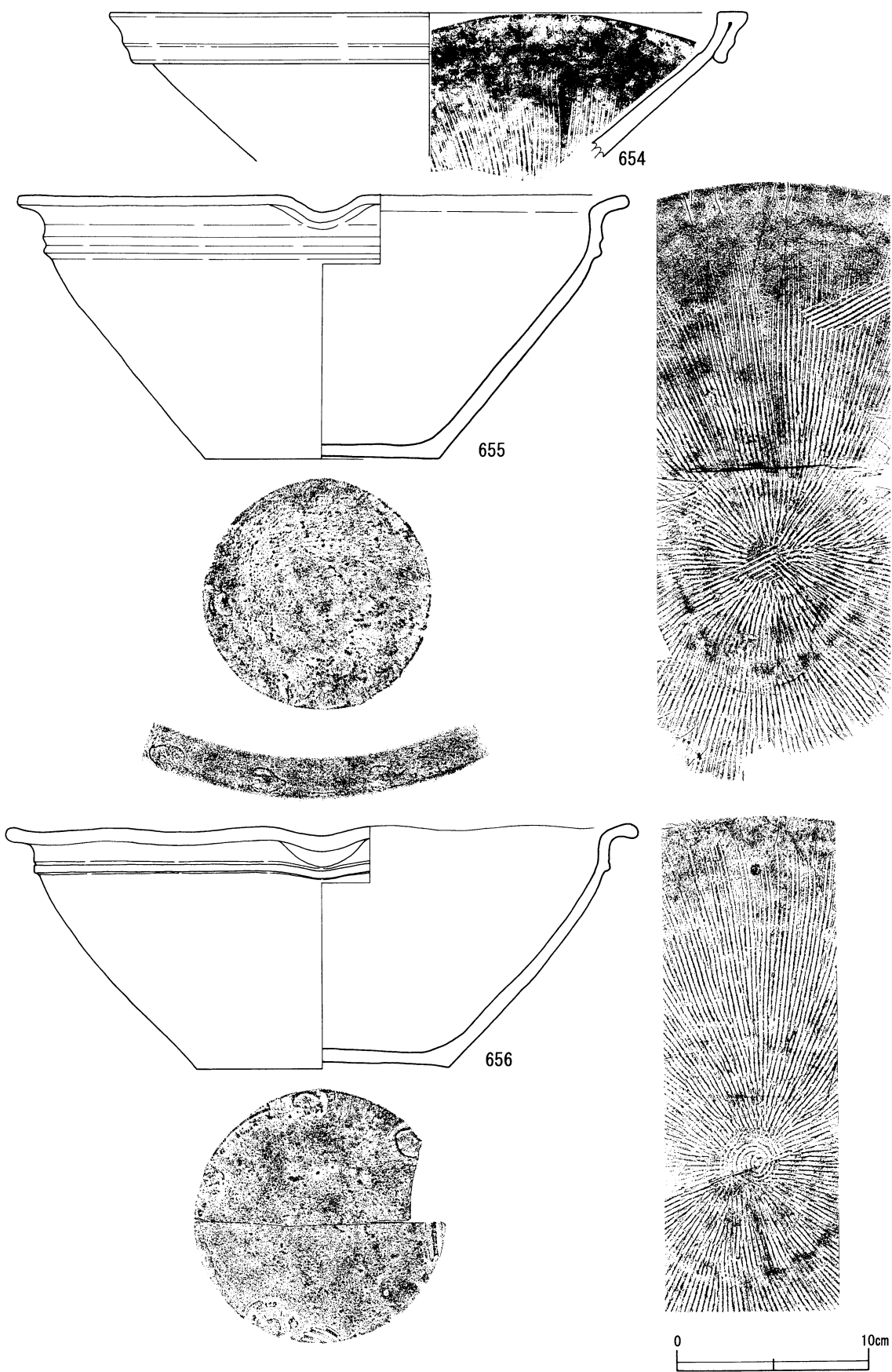
第50图 宮之城島津家出土遺物実測図(28)



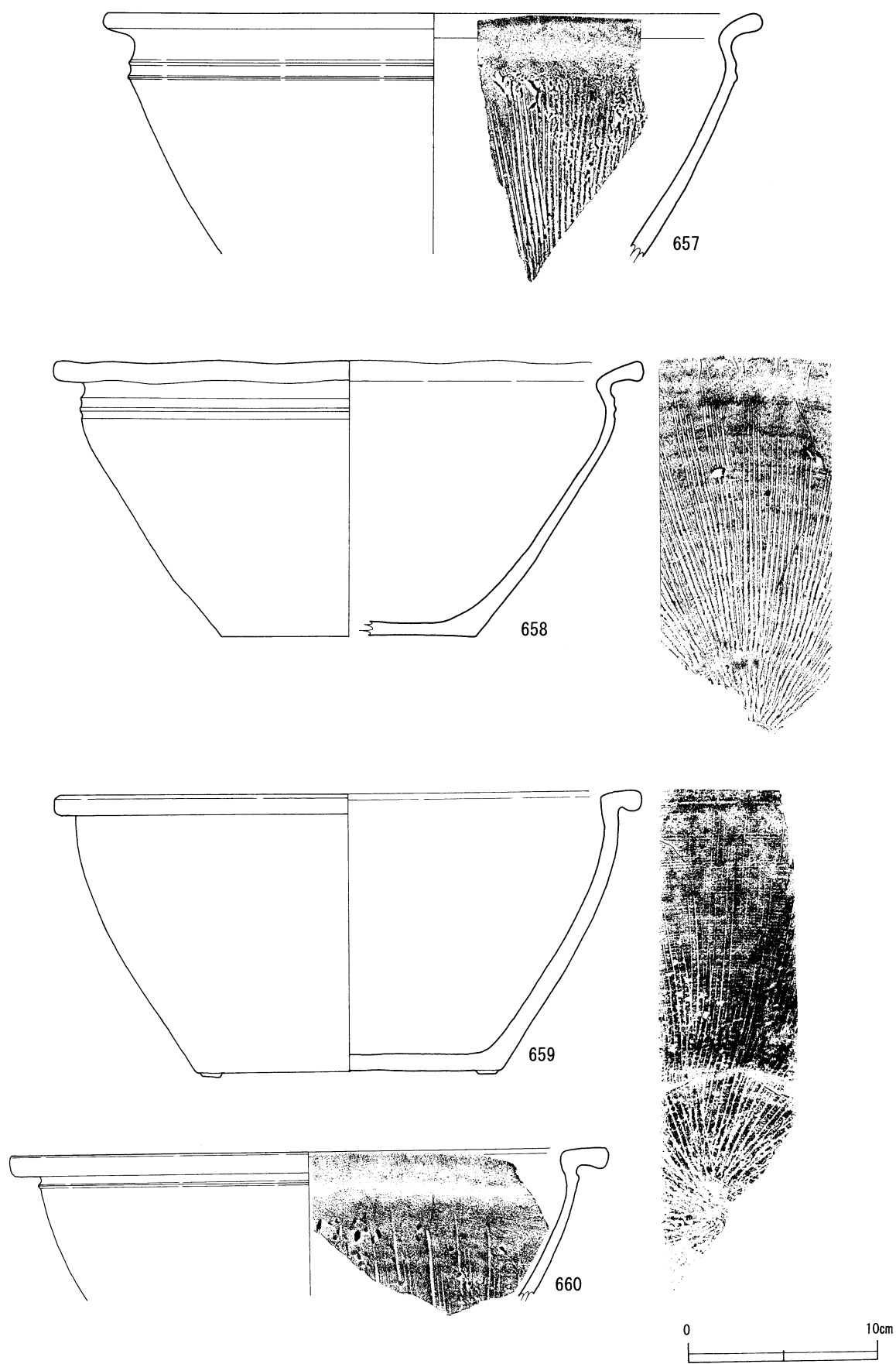
第51図 宮之城島津家出土遺物実測図(29)



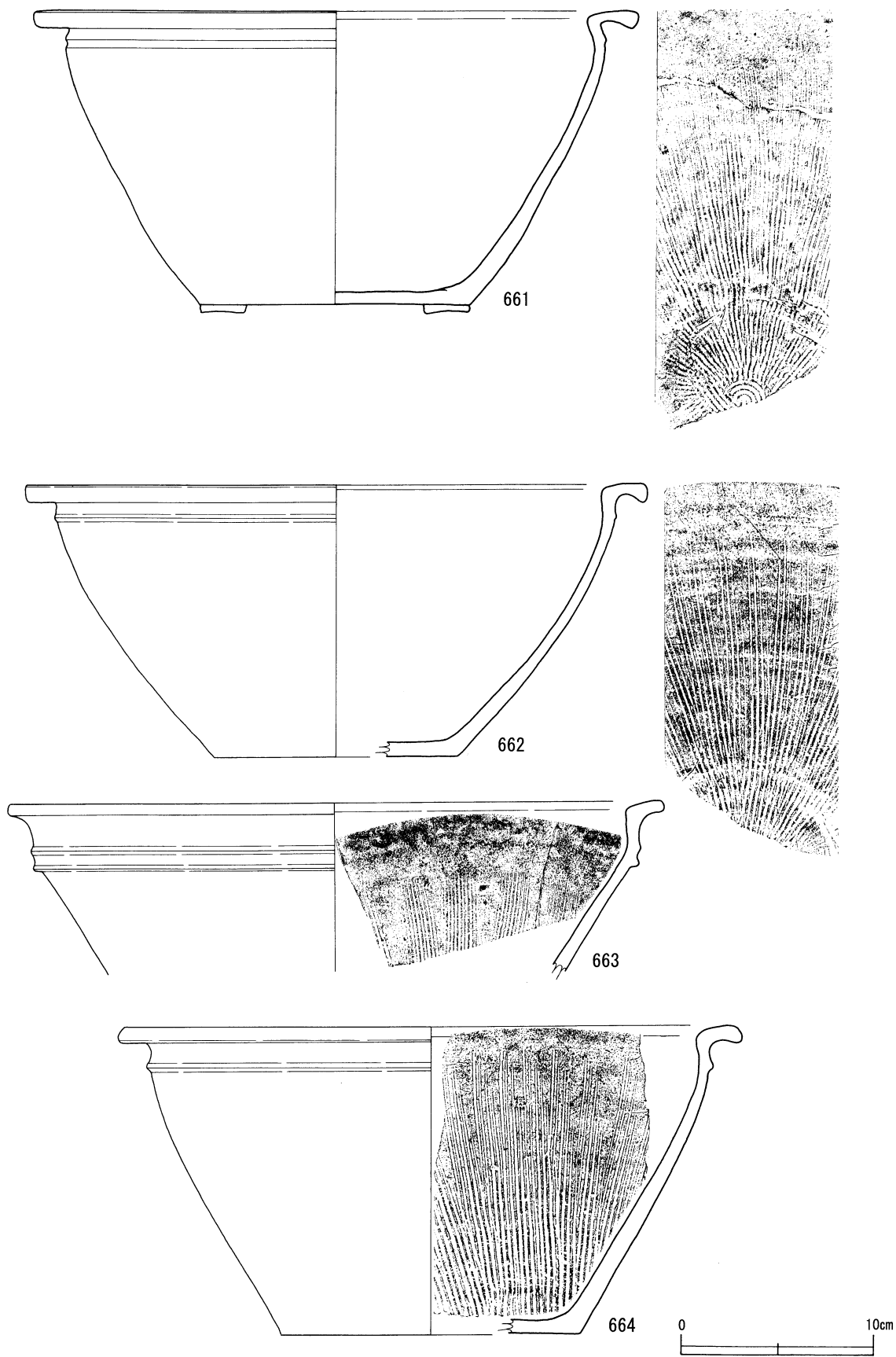
第52図 宮之城島津家出土遺物実測図(30)



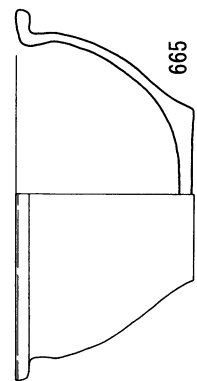
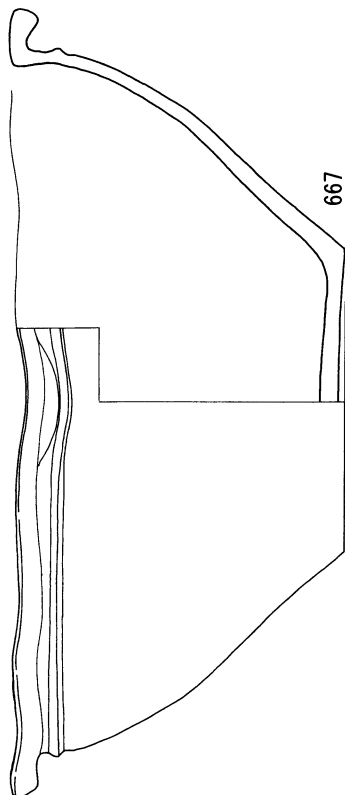
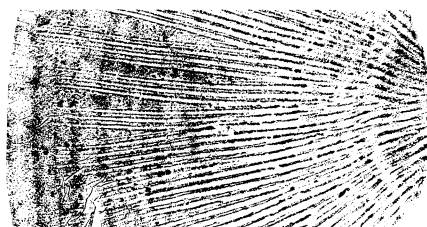
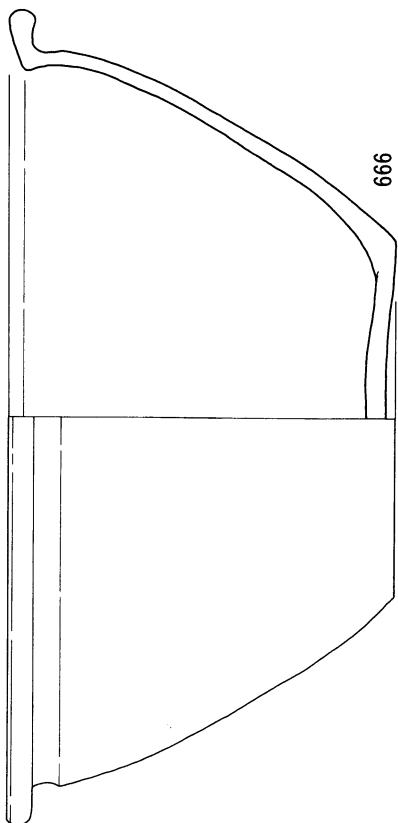
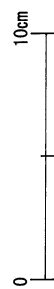
第53図 宮之城島津家出土遺物実測図(31)



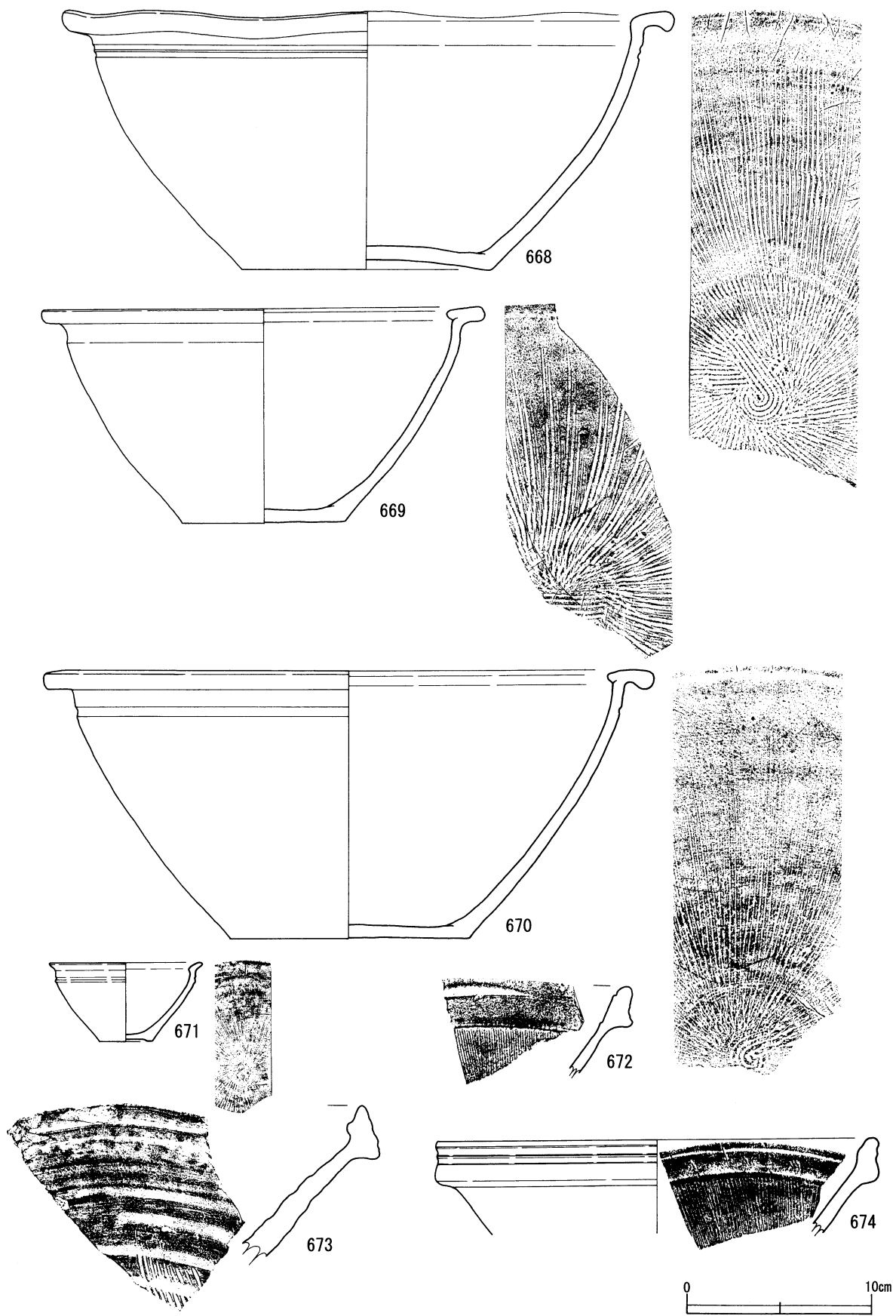
第54図 宮之城島津家出土遺物実測図(32)



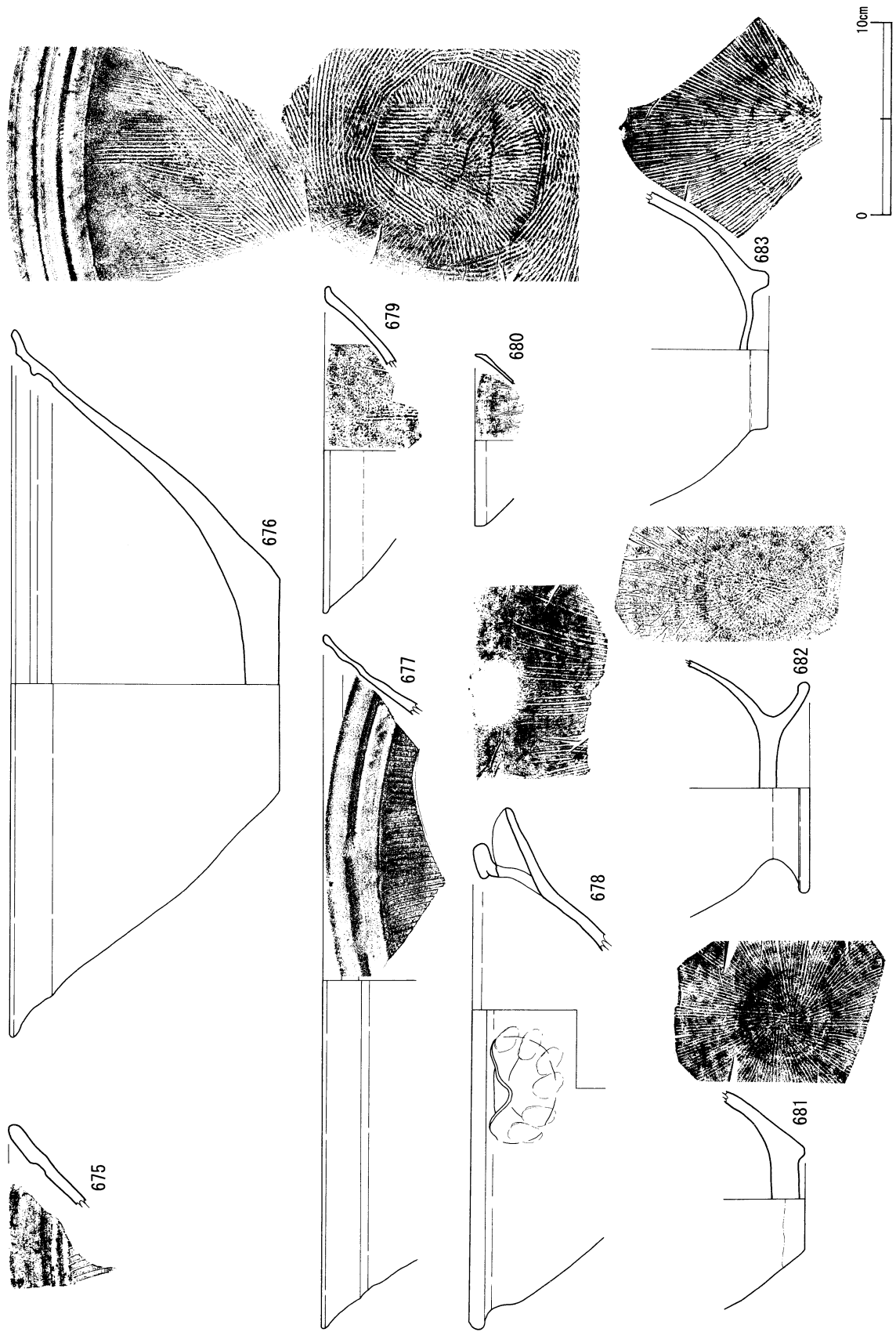
第55図 宮之城島津家出土遺物実測図(33)



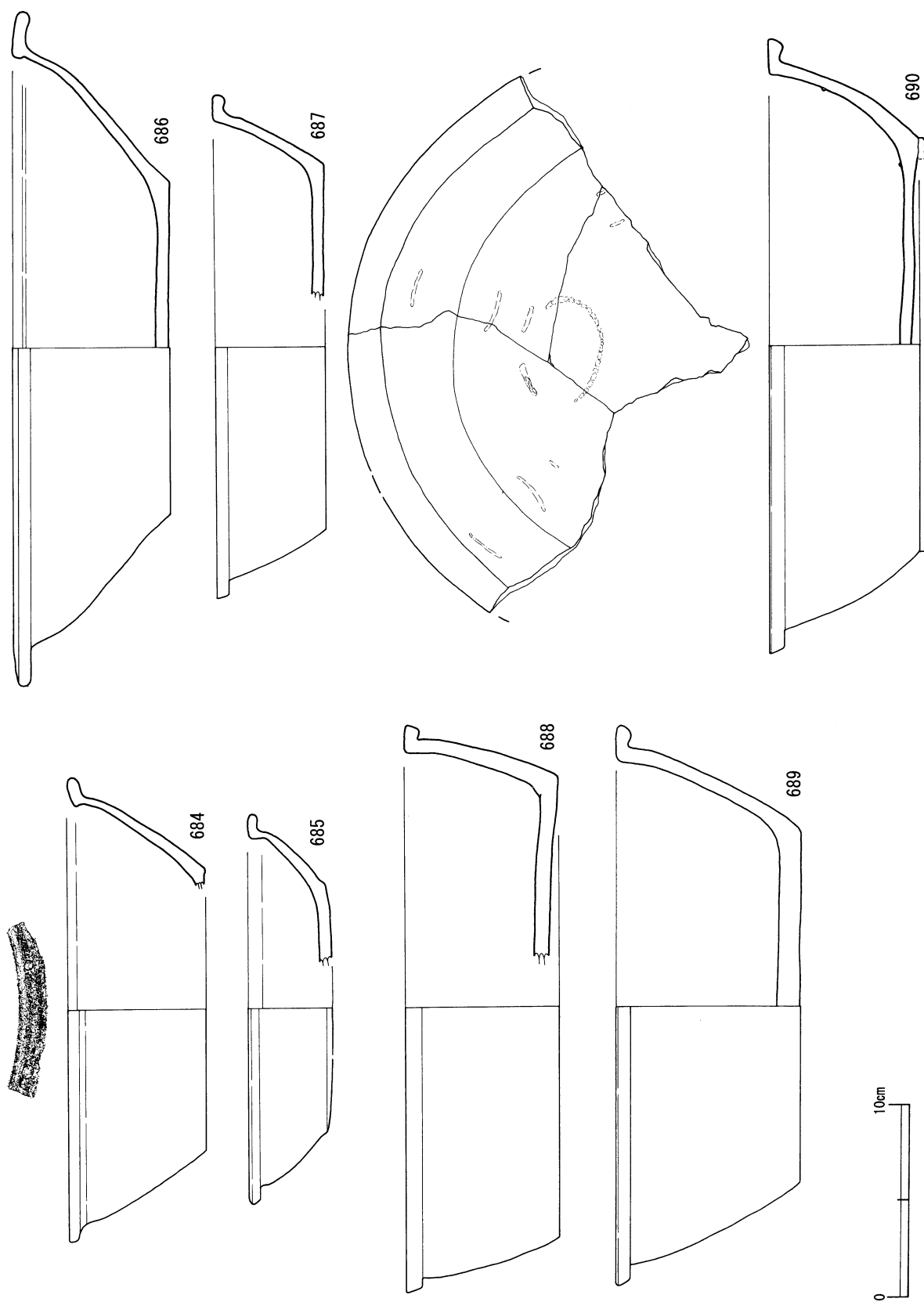
第56図 宮之城島津家出土遺物実測図(34)



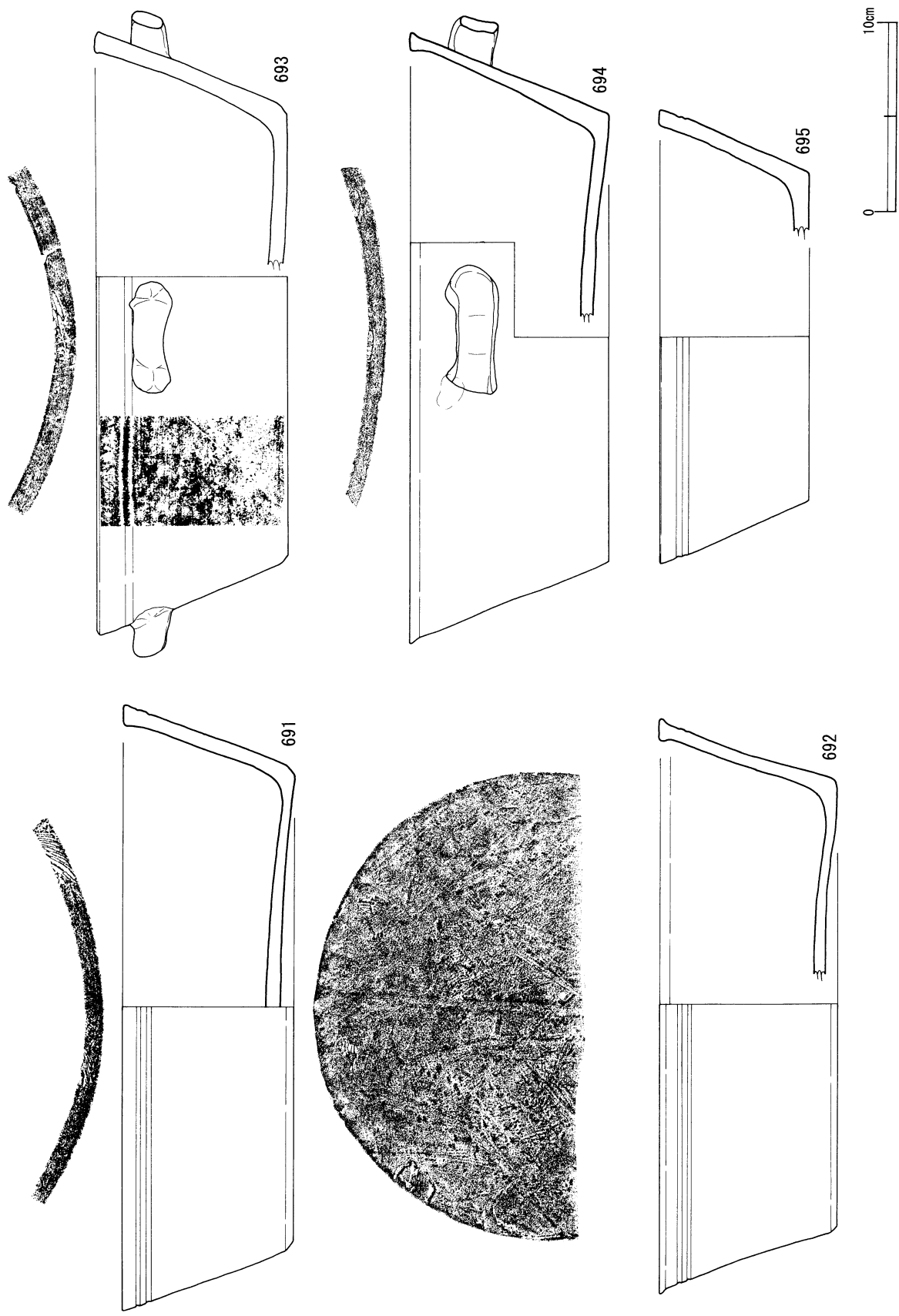
第57図 宮之城島津家出土遺物実測図(35)



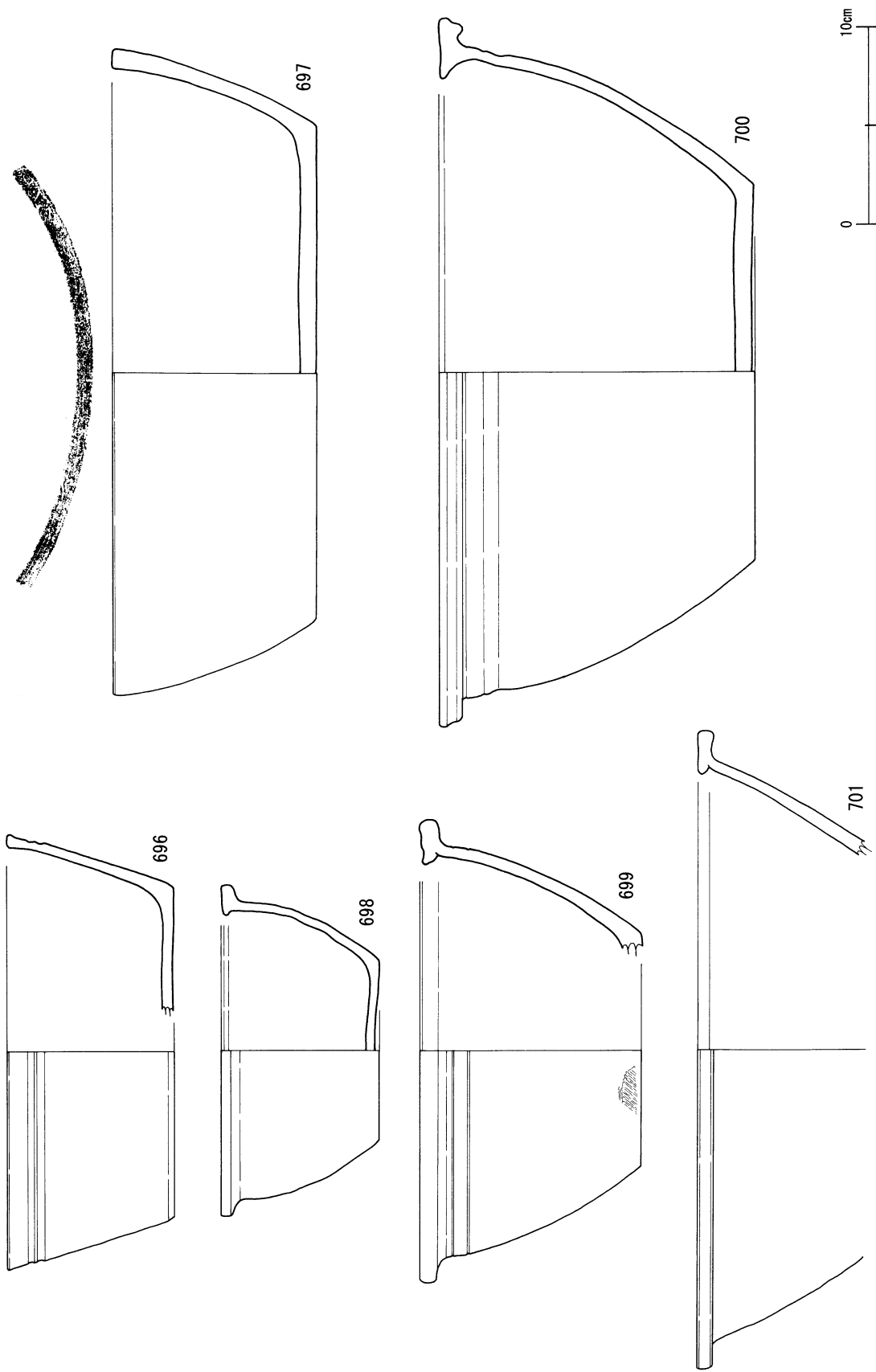
第58图 宮之城島津家出土遺物実測図(36)



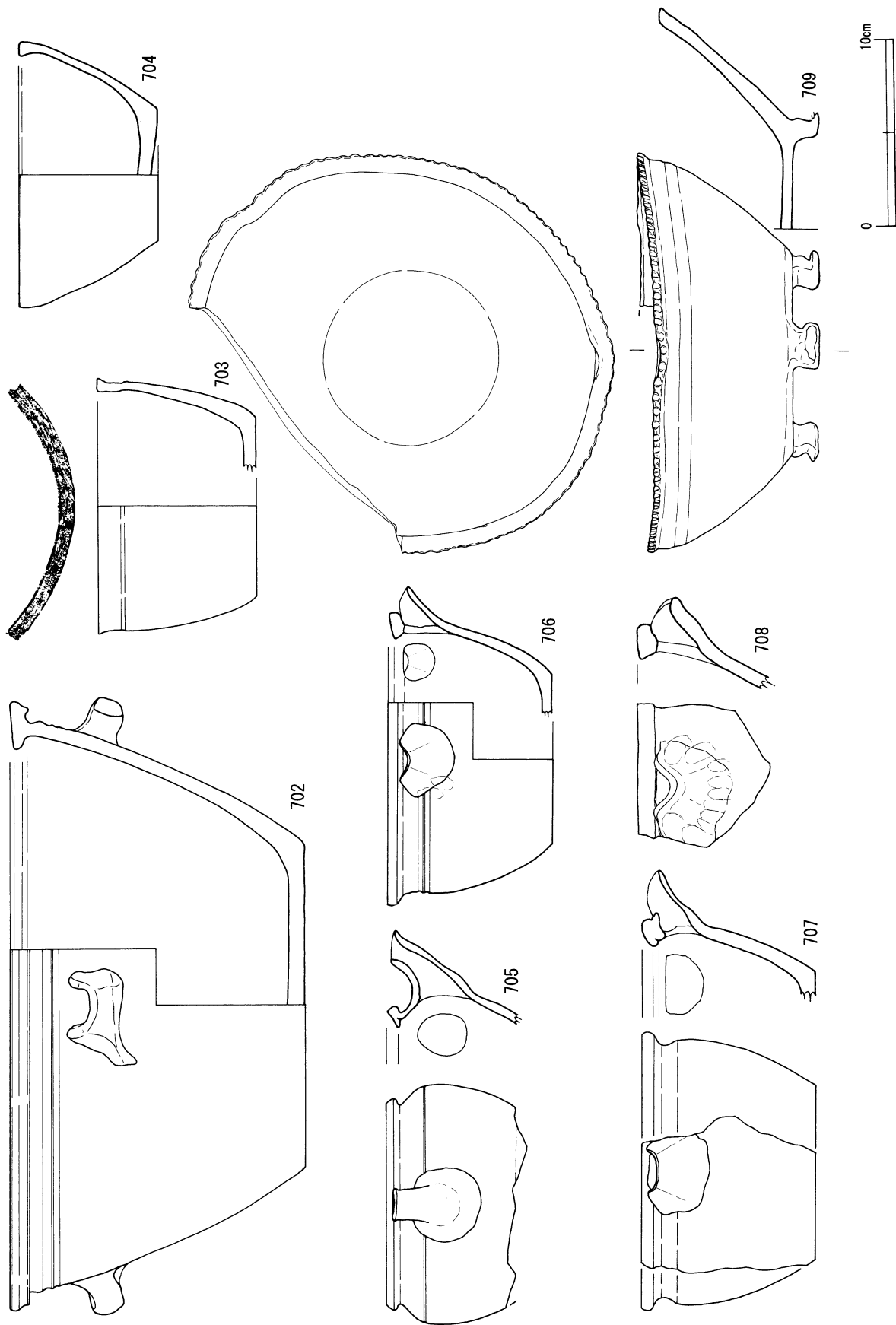
第59図 宮之城島津家出土遺物実測図(37)



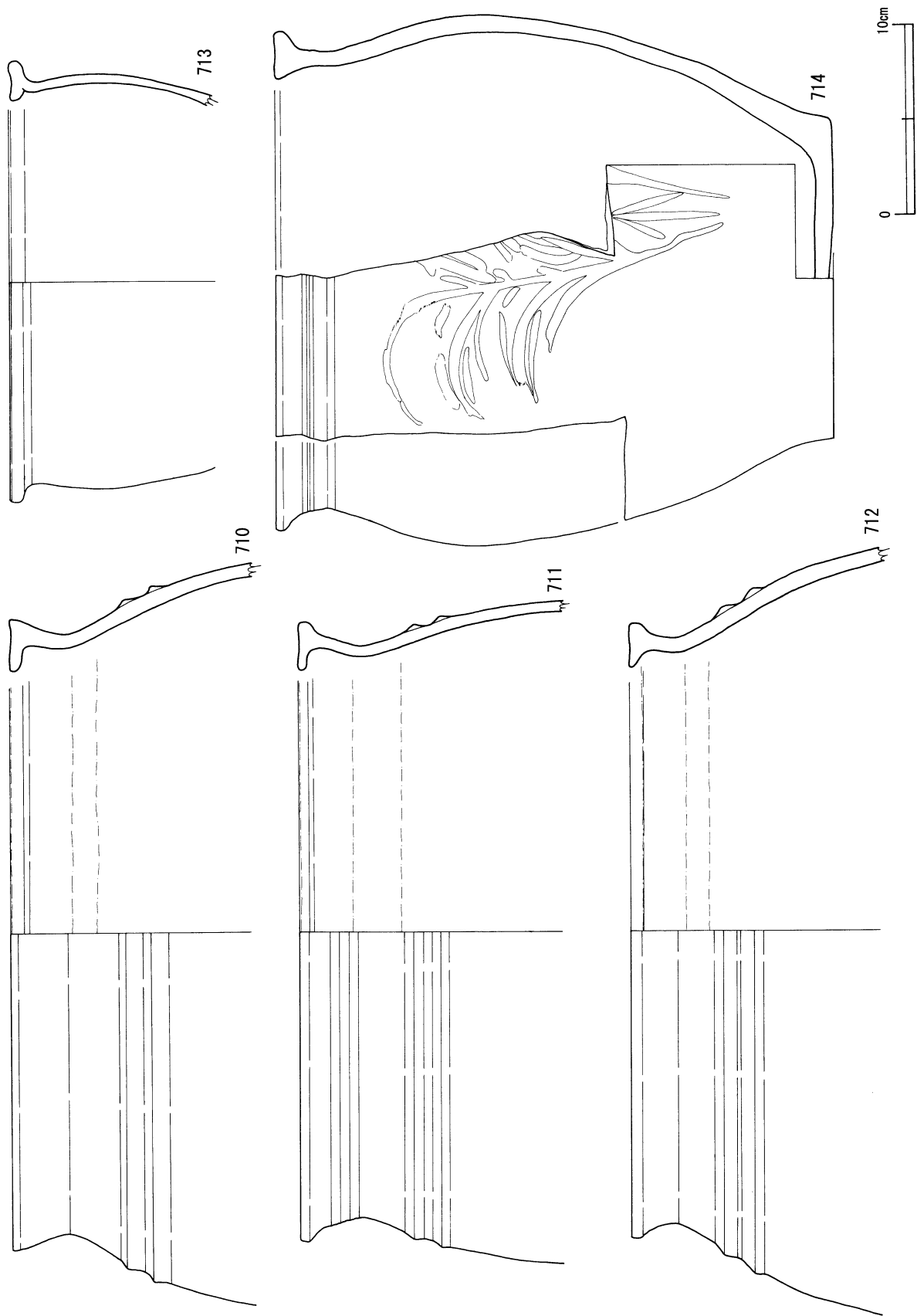
第60図 宮之城島津家出土遺物実測図(38)



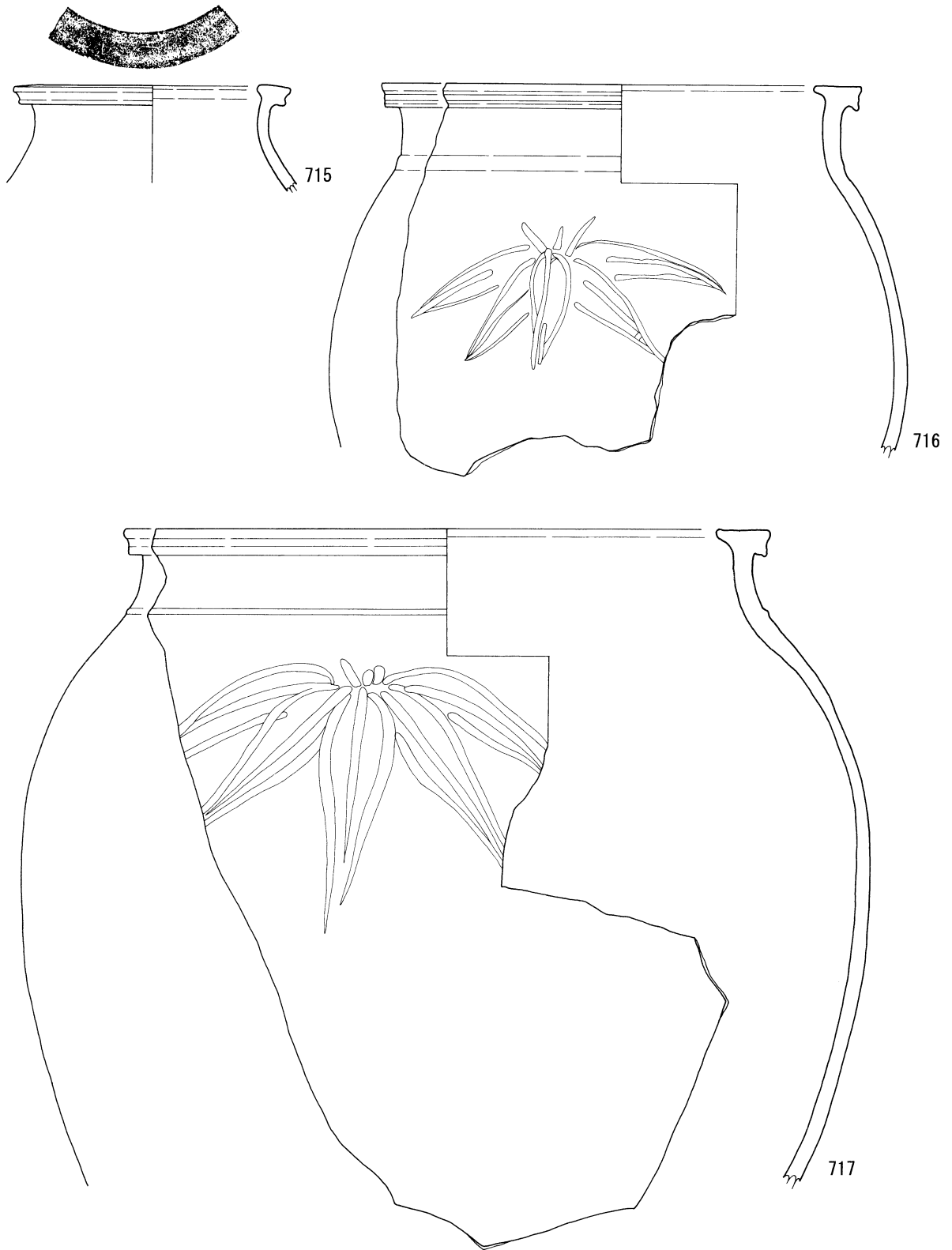
第61图 宮之城島津家出土遺物実測図(39)



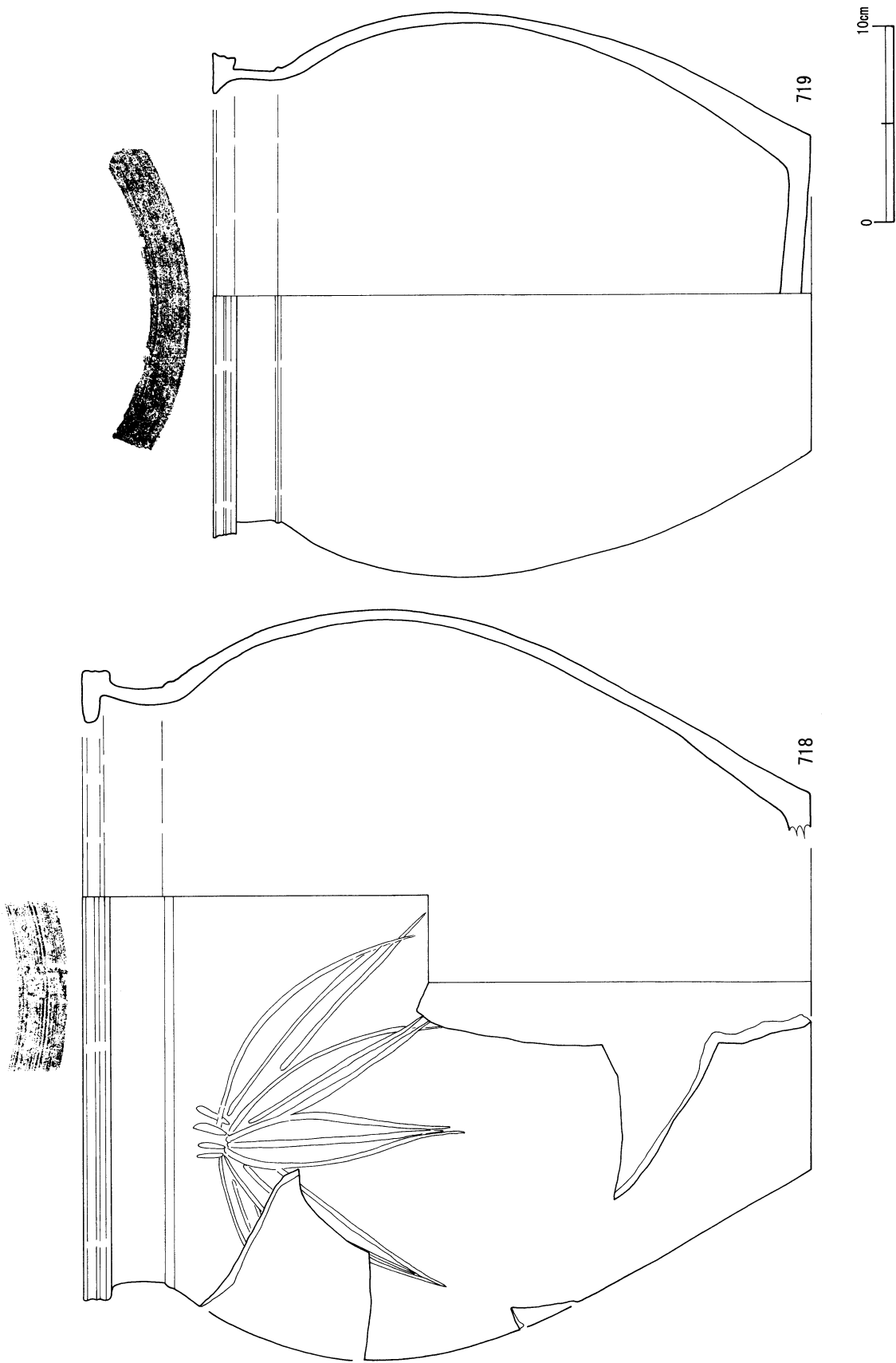
第02図 宮之城島津家出土遺物実測図(40)



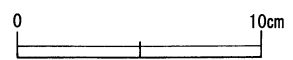
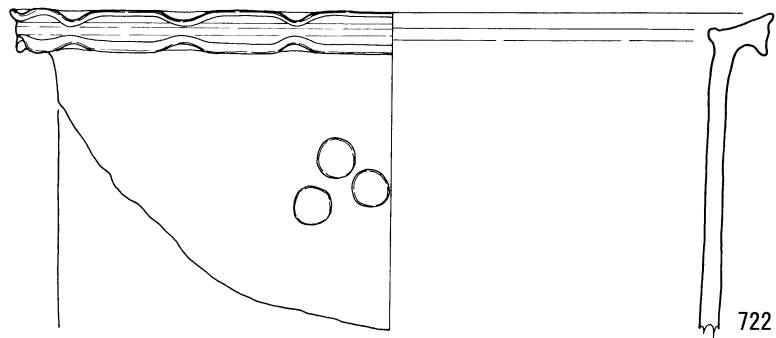
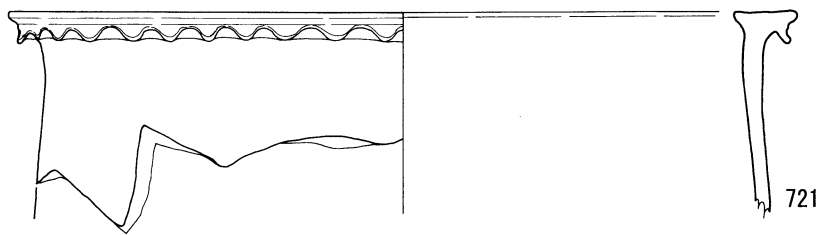
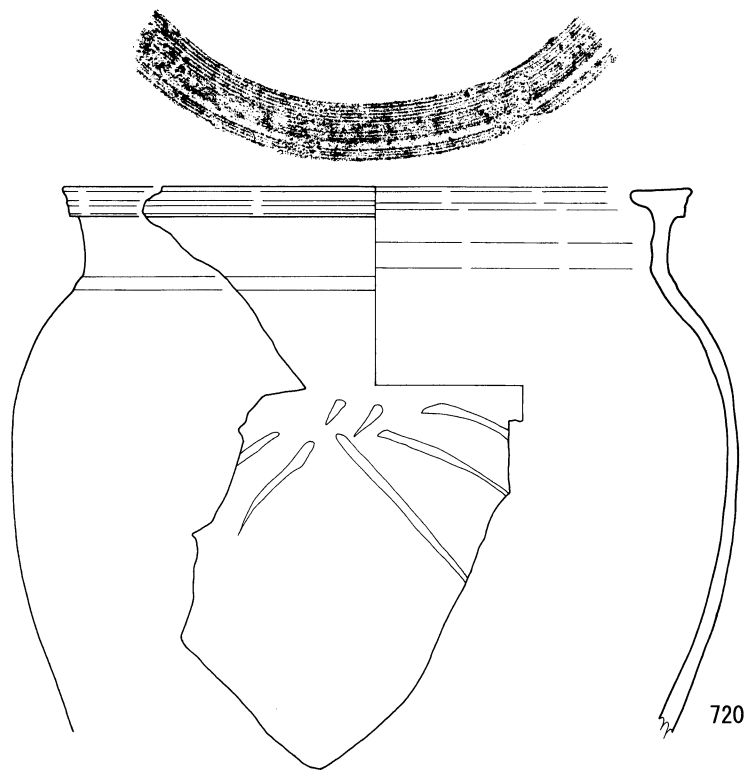
第63図 宮之城島津家出土遺物実測図(41)



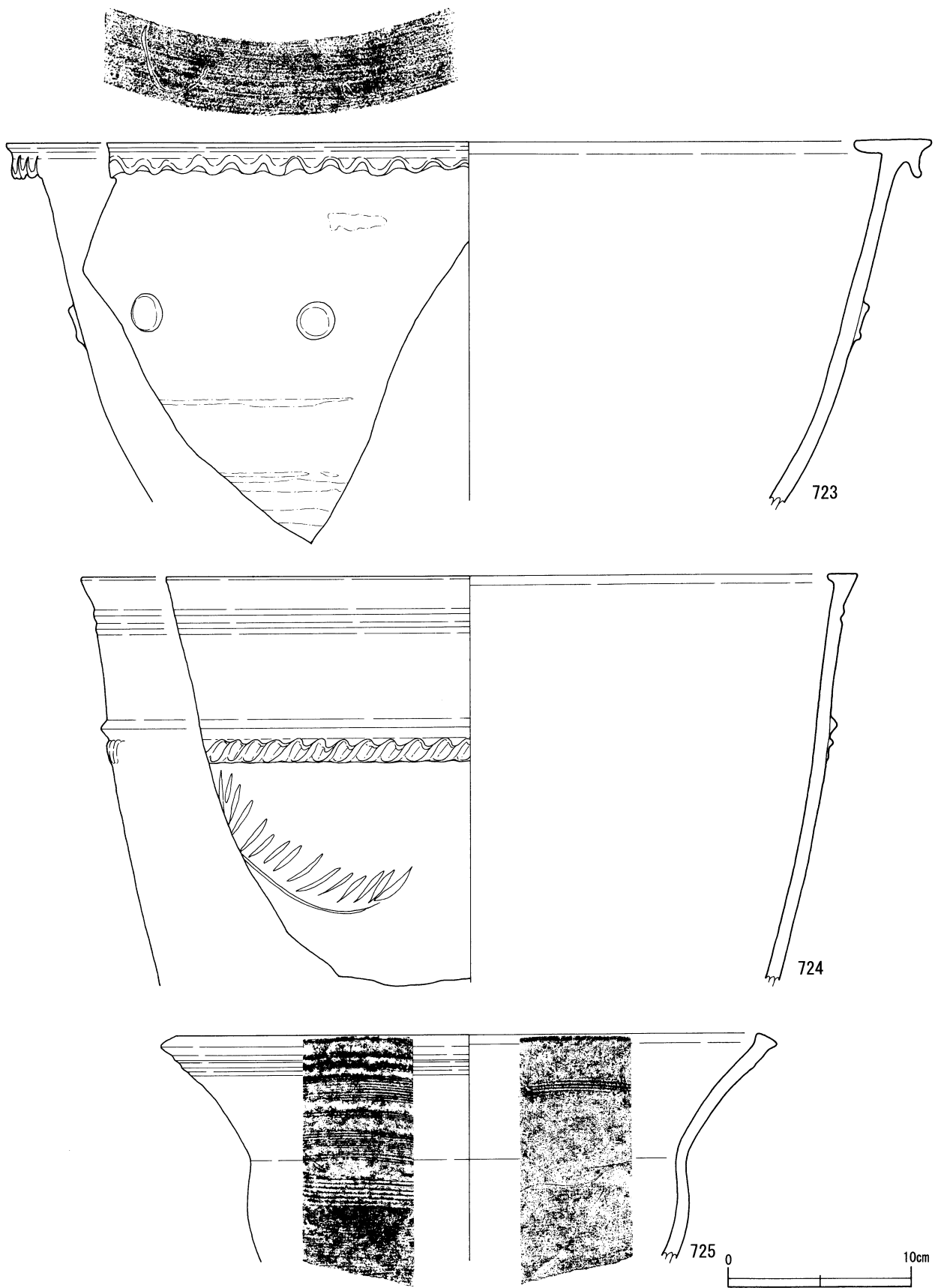
第64図 宮之城島津家出土遺物実測図(42)



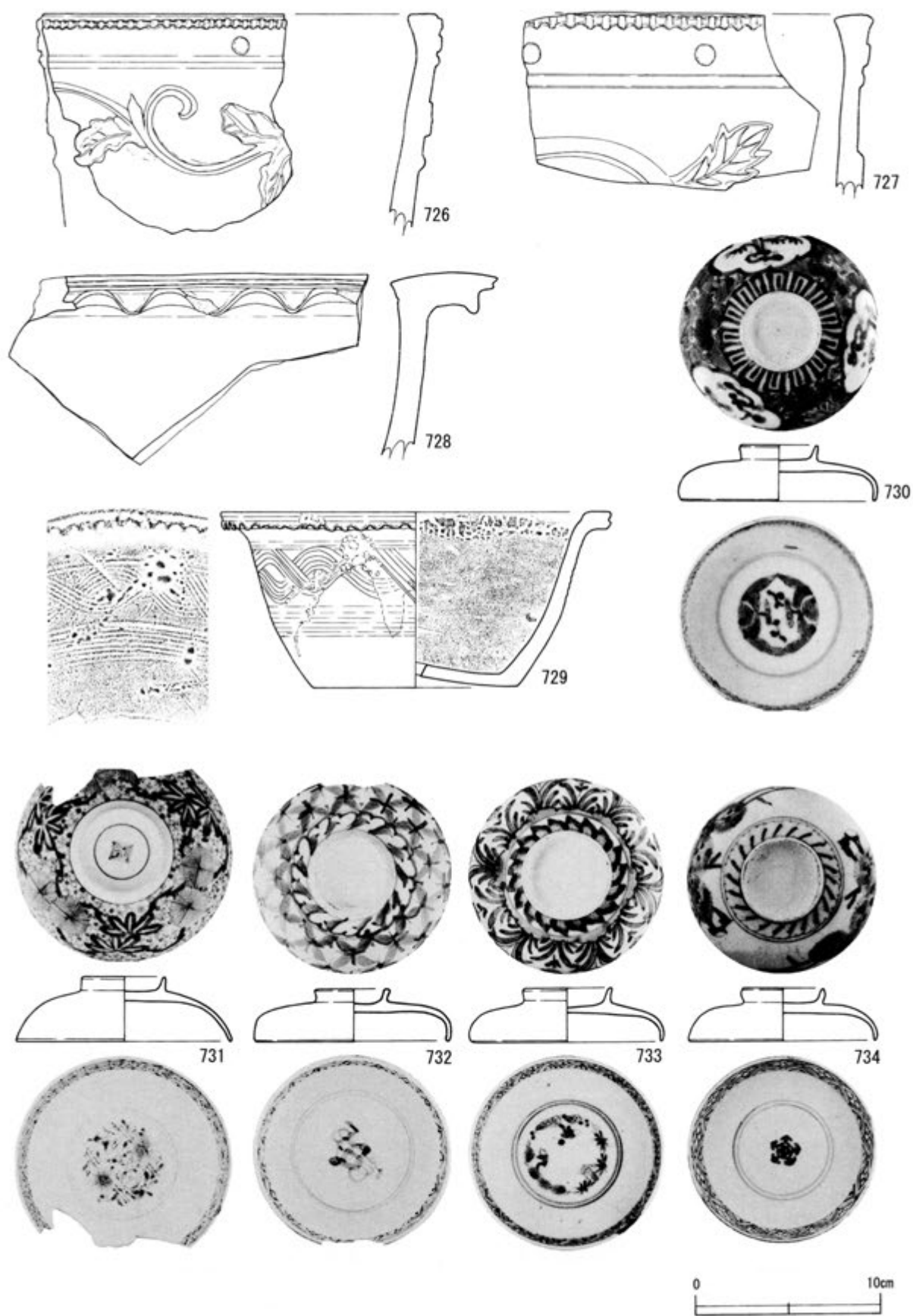
第65図 宮之城島津家出土遺物実測図(43)



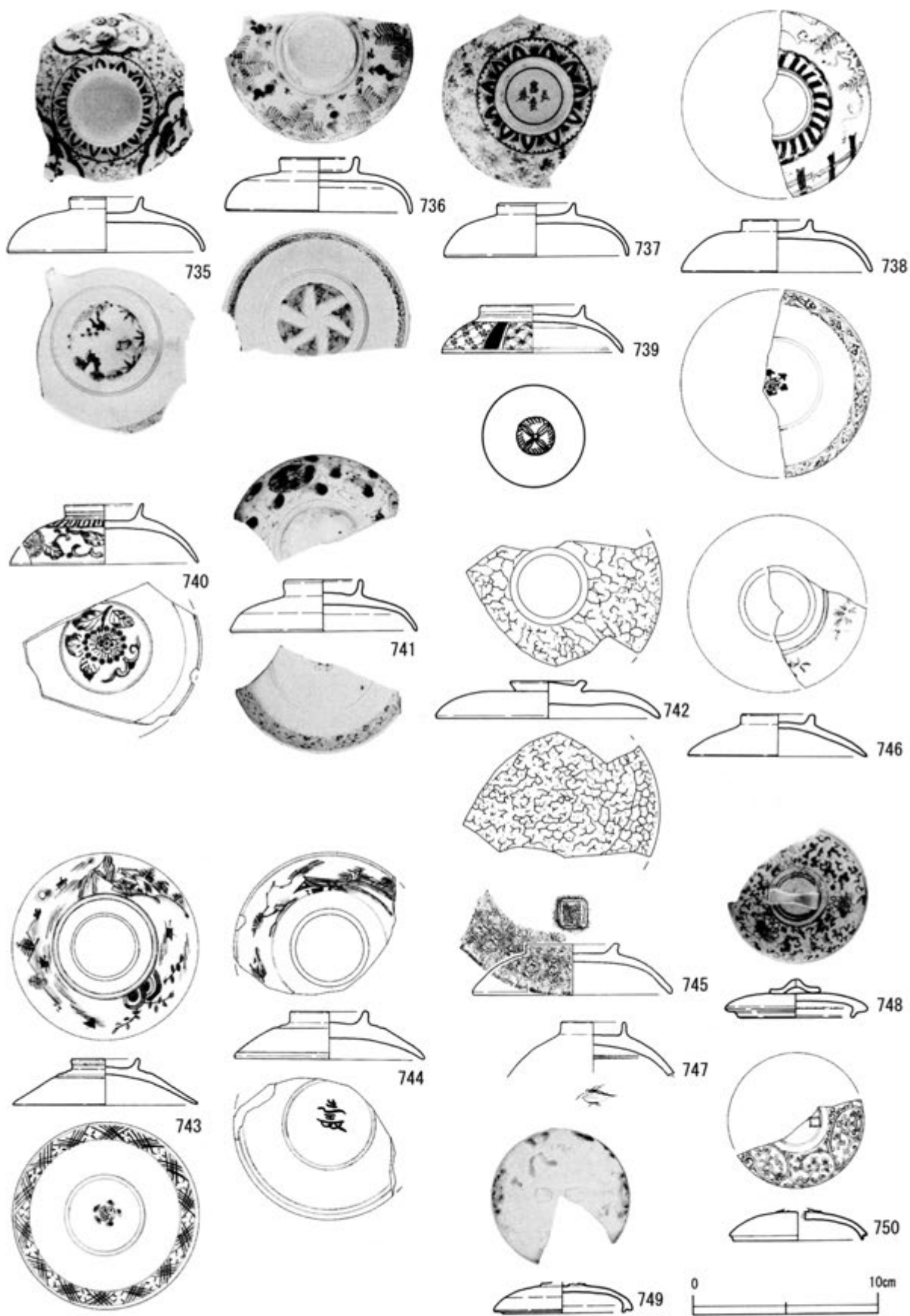
第66図 宮之城島津家出土遺物実測図(44)



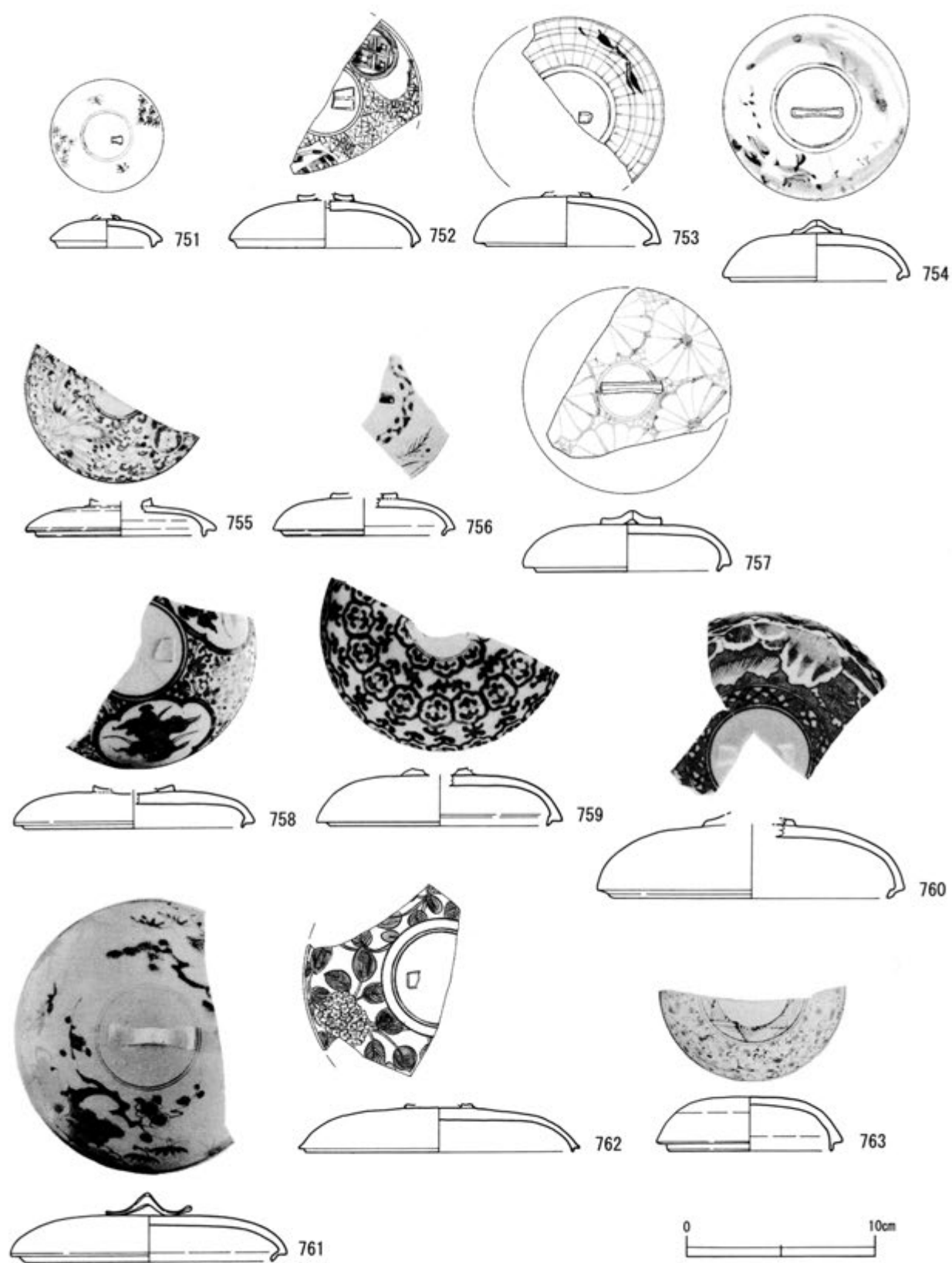
第67図 宮之城島津家出土遺物実測図(45)



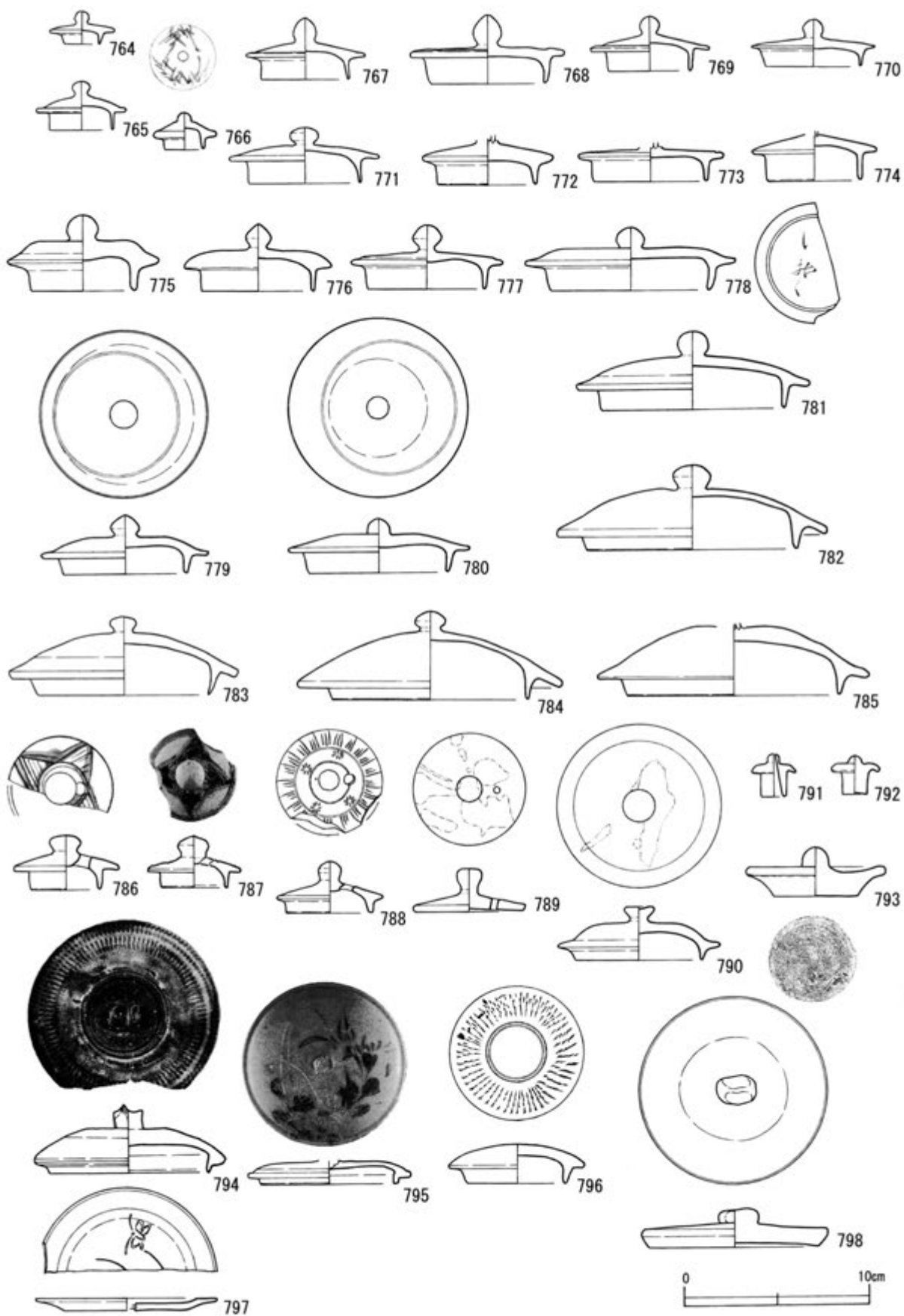
第68図 宮之城島津家出土遺物実測図(46)



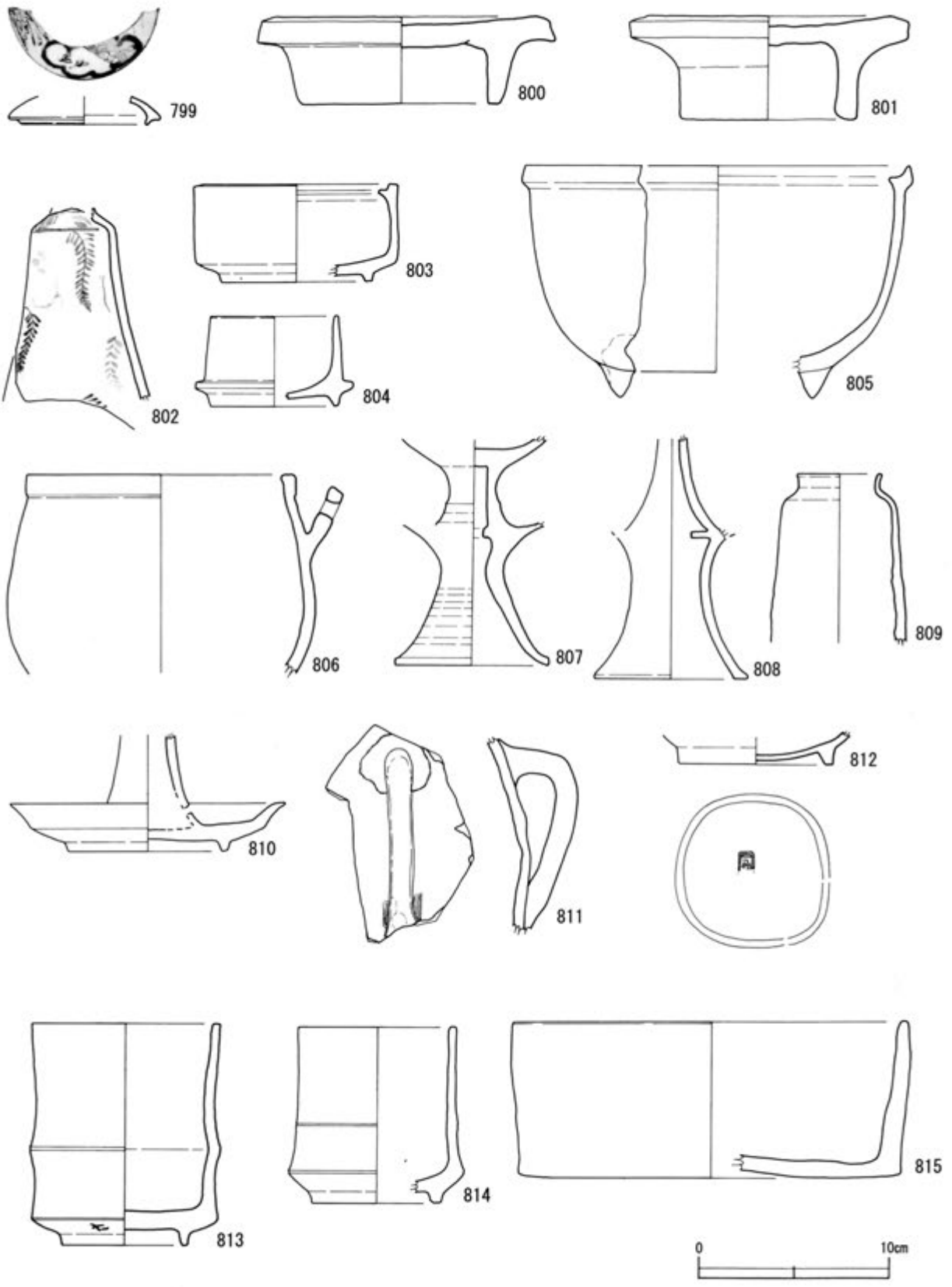
第69図 宮之城島津家出土遺物実測図(47)



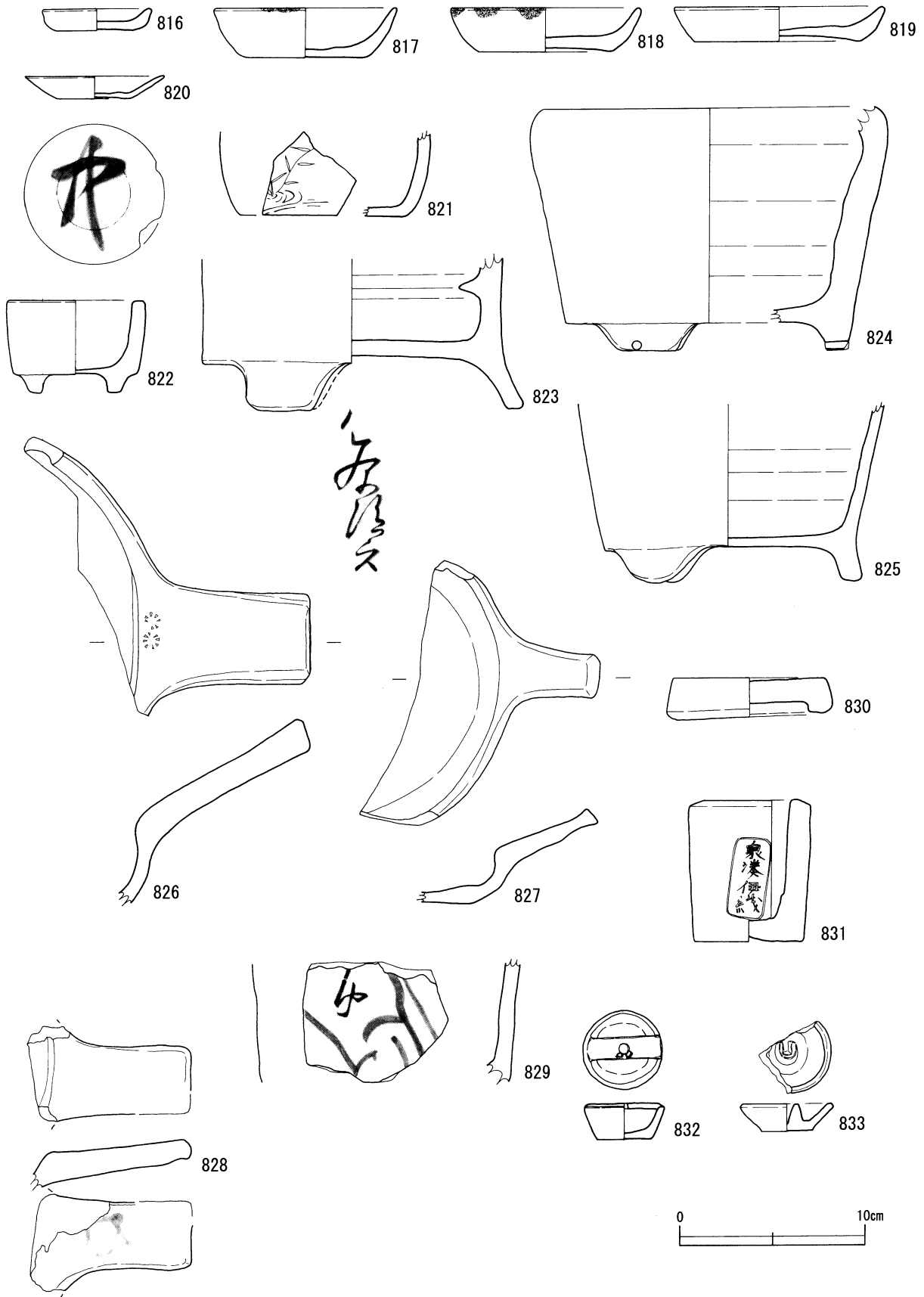
第70図 宮之城島津家出土遺物実測図(48)



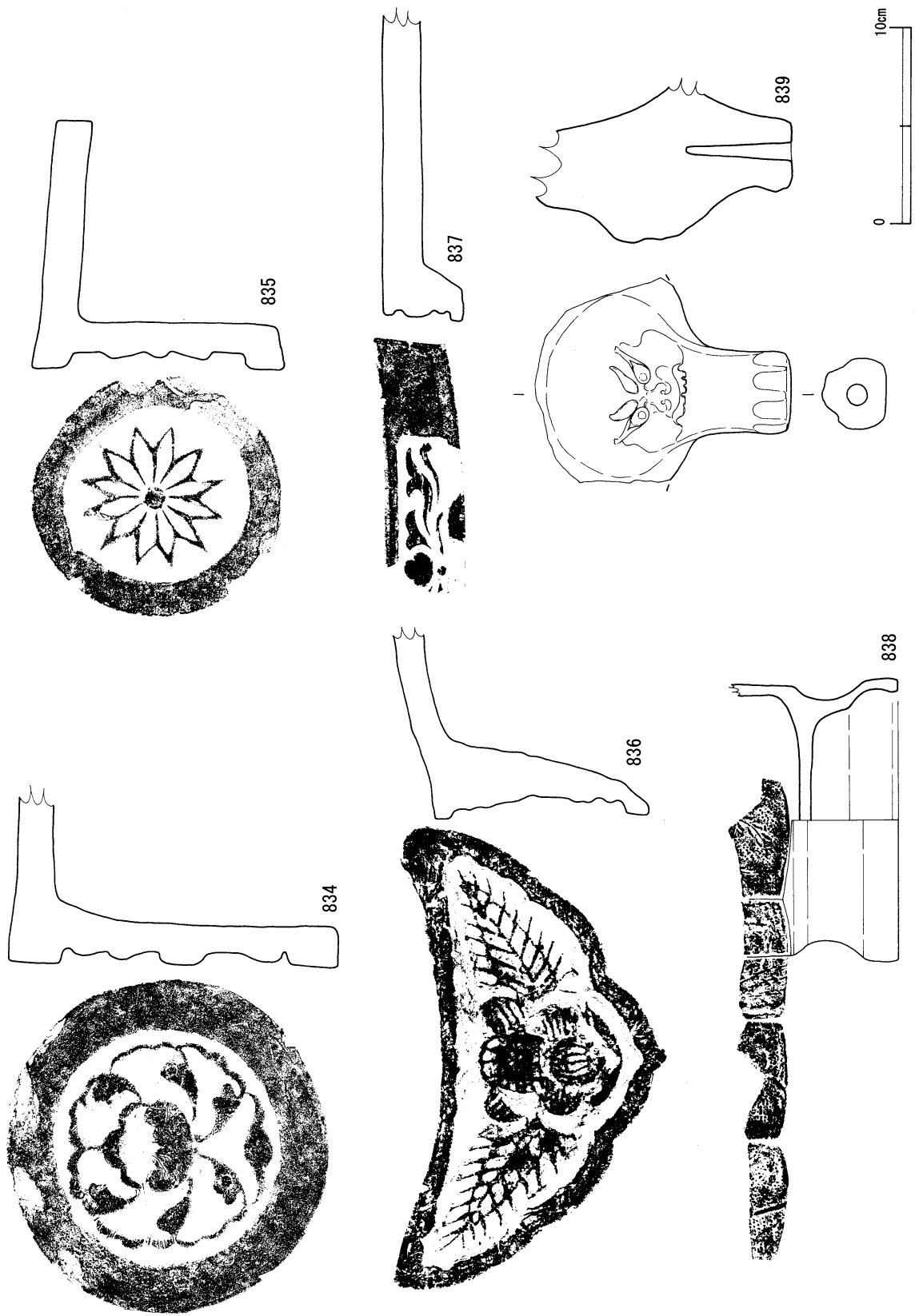
第71図 宮之城島津家出土遺物実測図(49)



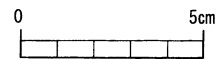
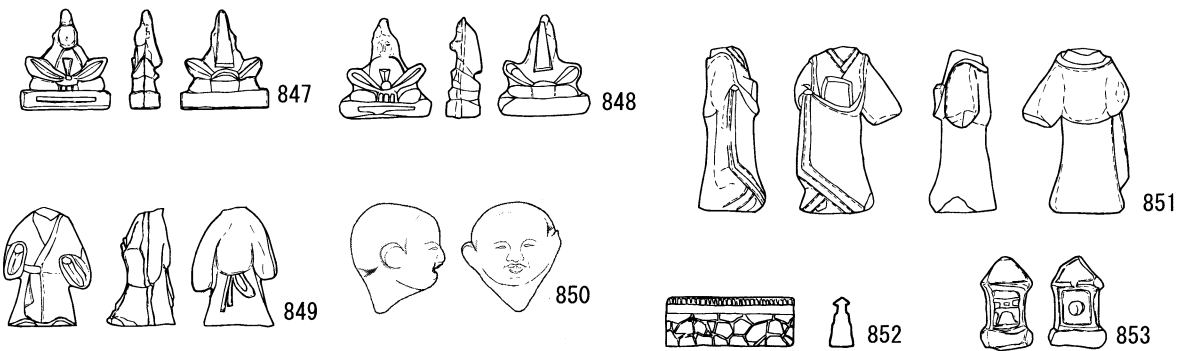
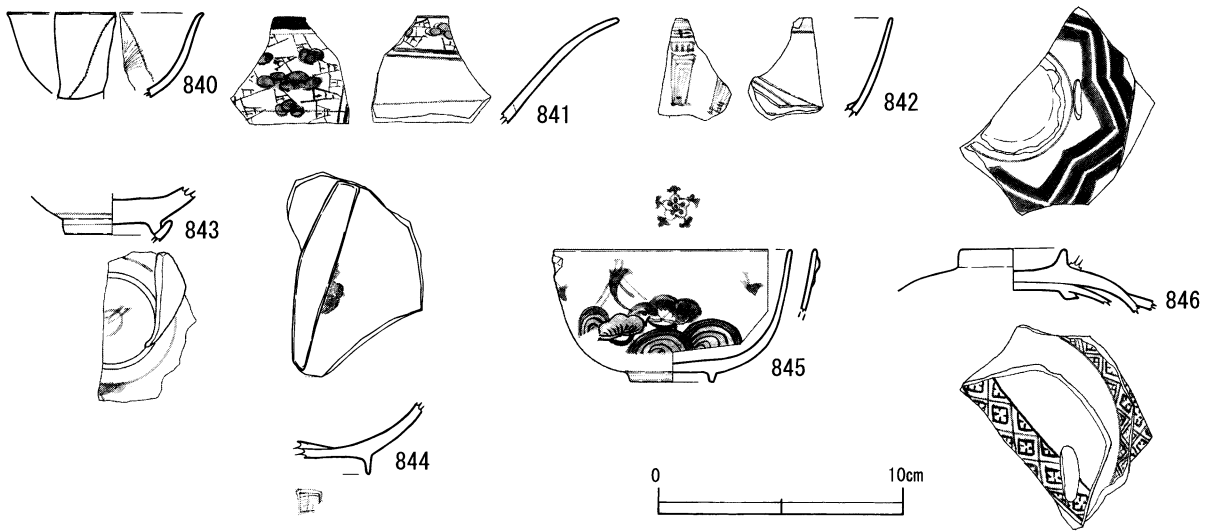
第72図 宮之城島津家出土遺物実測図(50)



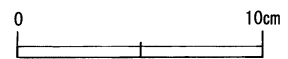
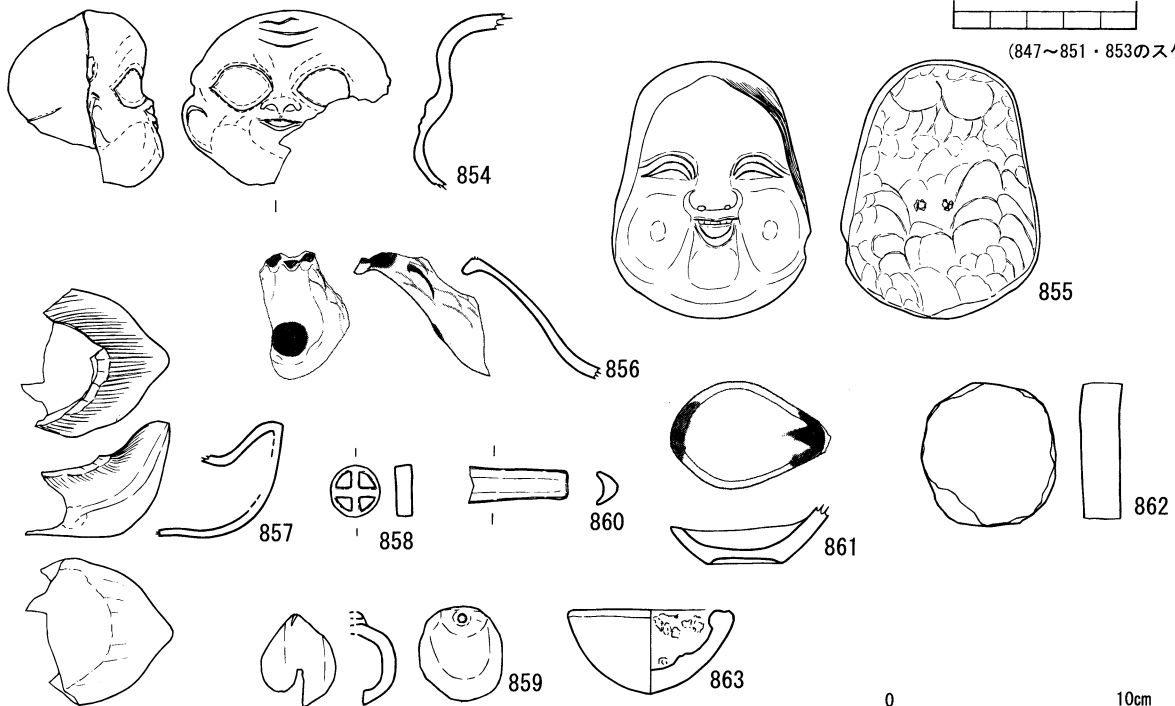
第73図 宮之城島津家出土遺物実測図(51)



第74図 宮之城島津家出土遺物実測図(52)

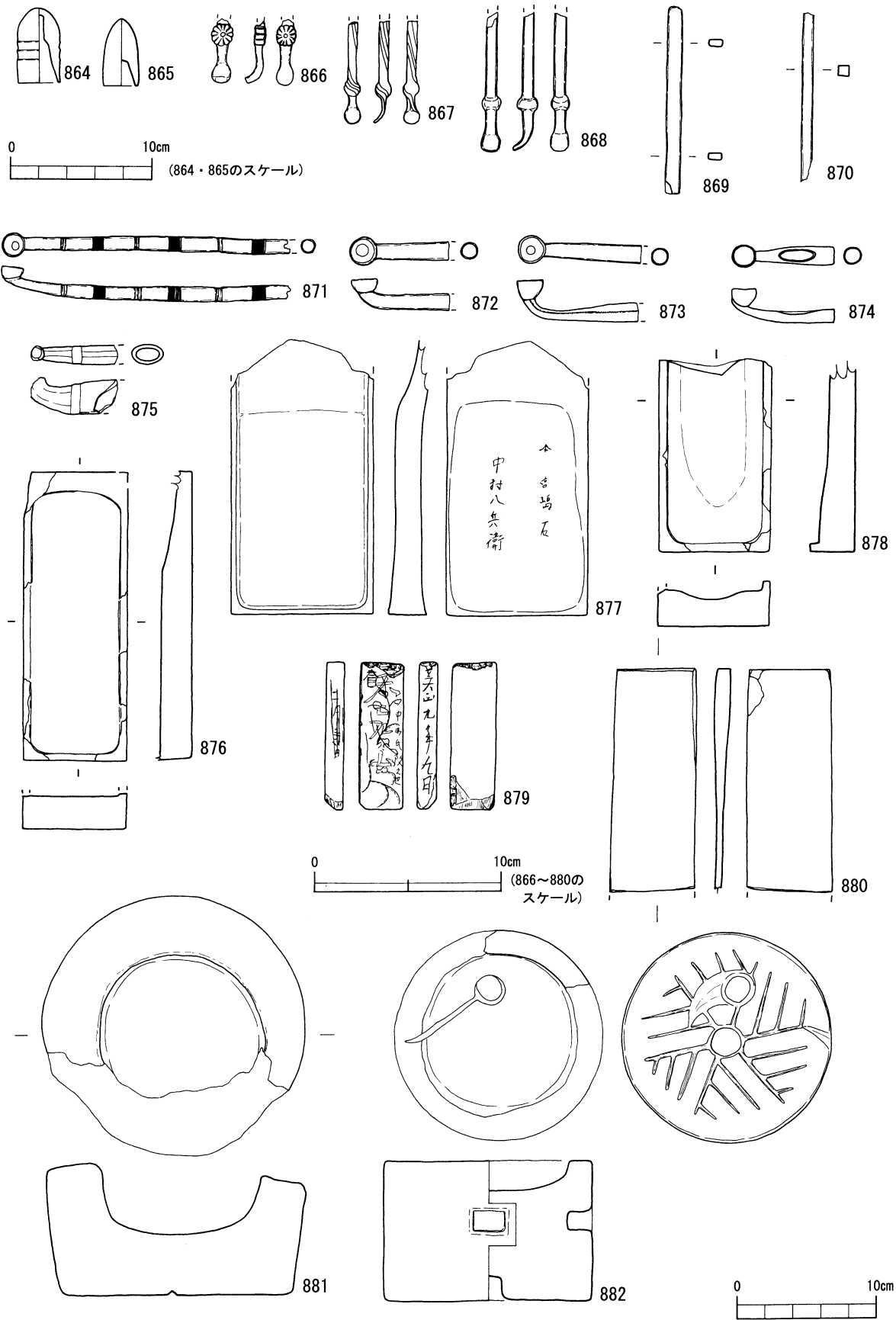


(847~851・853のスケール)

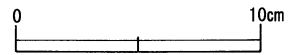
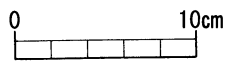
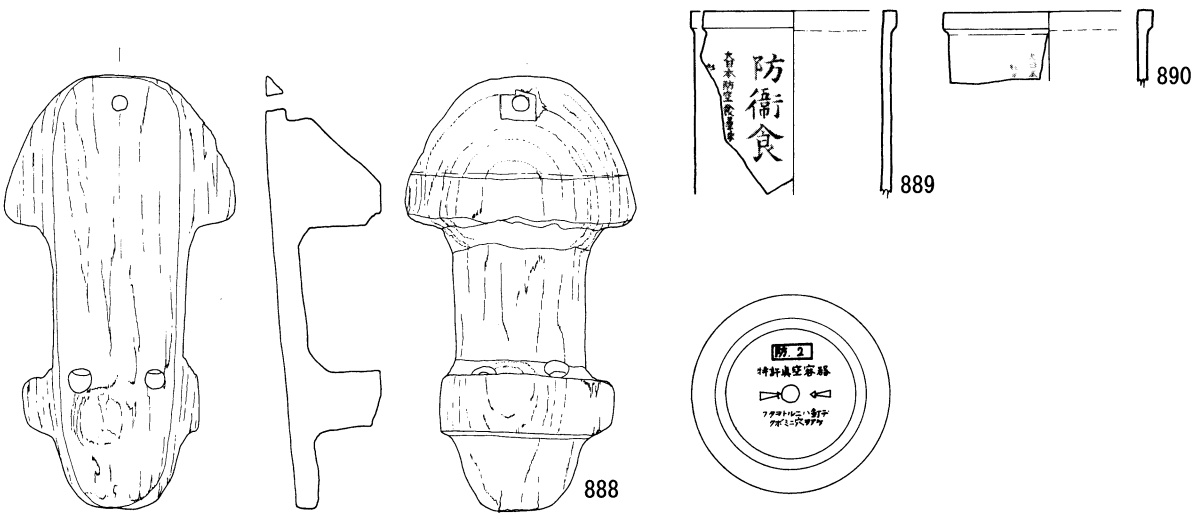
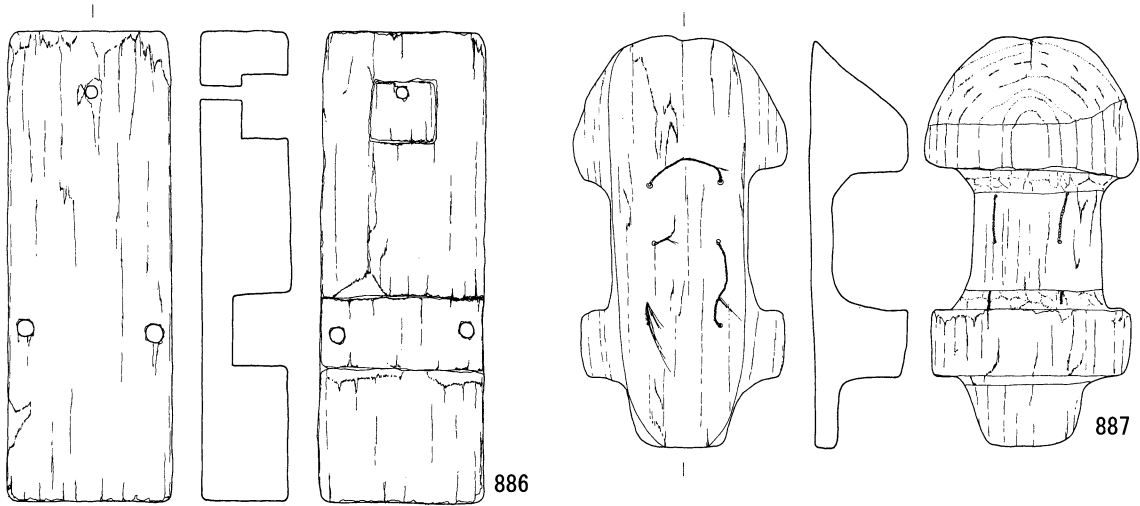
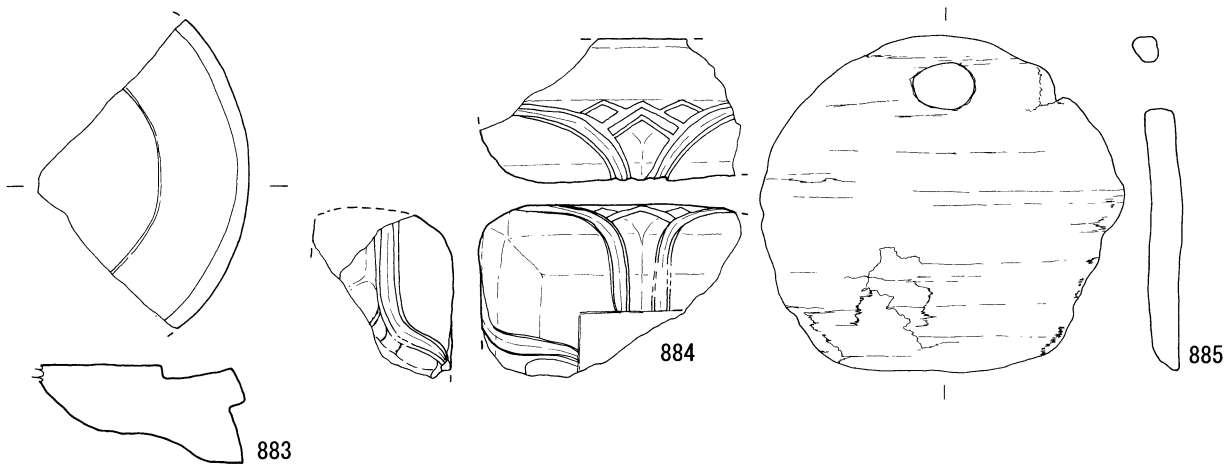


(852・854~863のスケール)

第75図 宮之城島津家出土遺物実測図(53)

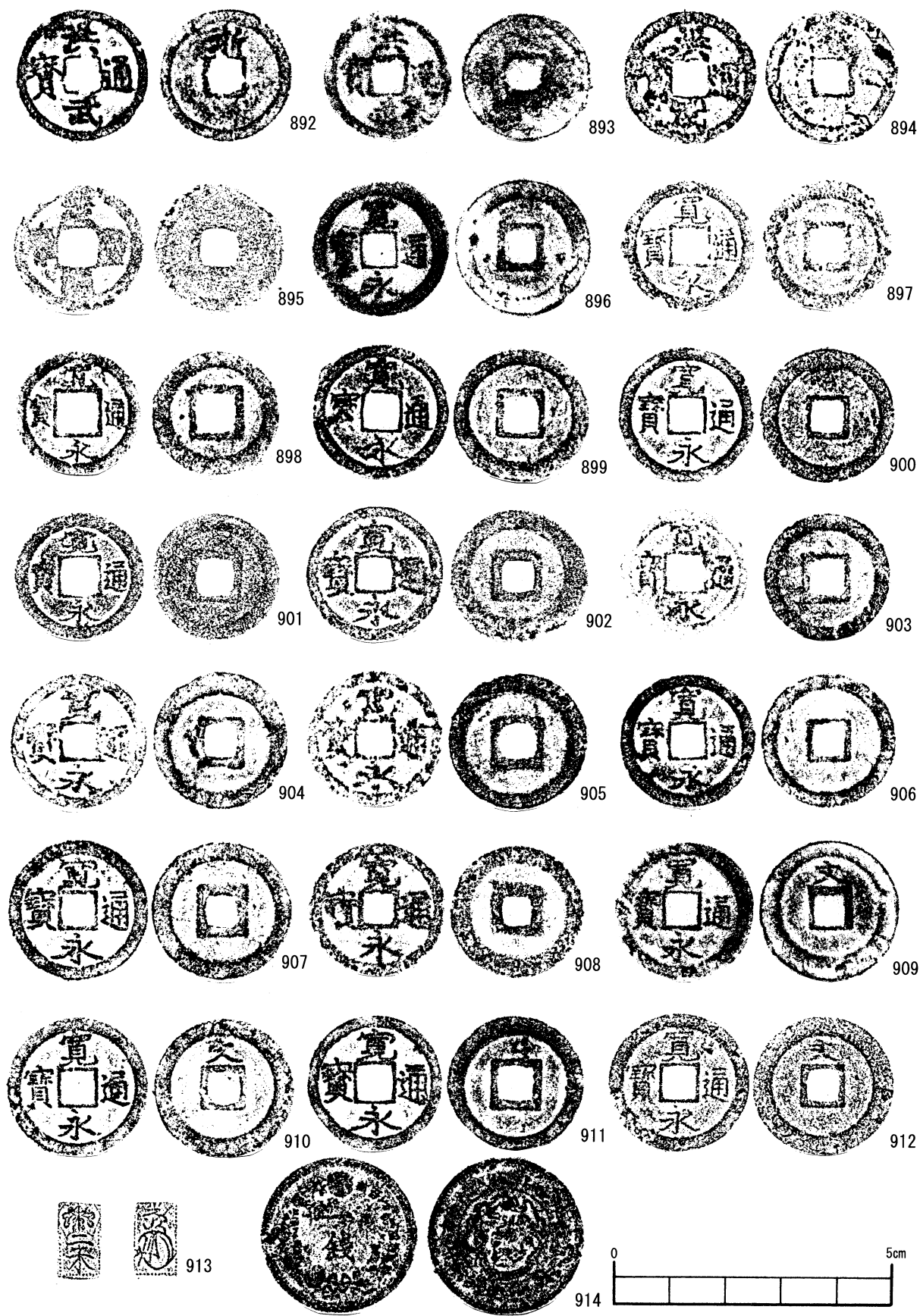


第76図 宮之城島津家出土遺物実測図(54)



(889~891のスケール)

第77図 宮之城島津家出土遺物実測図(55)



第78図 宮之城島津家出土遺物実測図(56)

第2表 垂水島津家屋敷跡出土遺物一覧表(1)

挿図	番号	区	器形	分類	法量(cm)			種類	生産地	備考
					口径	高さ	底径			
	1 D		碗形	1a	12	4.2	5.3	磁器		
	2 D		碗形	1a	11.6	5.5	4.8	磁器	薩摩	見込み:蛇ノ目釉剥
	3 D		碗形	1a	7.8			陶器	京焼系	
	4 D		碗形	1a	12.3	6.6	4.9	陶器	薩摩	豎野系
	5 D		碗形	1a	10	4.8	4.2	陶器	薩摩	
	6 D		碗形	1c	11.4	5.9	5	陶器	薩摩	見込み:蛇ノ目釉剥
	7 D		碗形	2	11.5	6	6	磁器		
	8 D		碗形	2	11.8	6.6	6	磁器		
	9 D		碗形	3a	9	4.8	3.6	磁器	薩摩	
	10 D		碗形	3a	12.6	5.5	6.4	磁器	薩摩	
	11 D		碗形	4	11			陶器	薩摩	
6	12 D		碗形	4	10			陶器	薩摩	加治木・始良系
	13 D		碗形	5b	9	5.35	5	磁器		
	14 D		碗形	6	6.6			磁器		
	15 D		碗形	6	8.4	13.8	4.4	磁器		
	16 D		碗形		11.2	6	3.7	青磁	肥前	
	17 D		碗形	8			5.6	磁器	肥前	
	18 D		碗形	8			4.2	磁器		
	19 D		碗形	8			4.1	陶器	薩摩	刻書「二」
	20 D		碗形	8			4.2	陶器	薩摩	加治木・始良系 龍門司 墨書「は」 見込み:蛇ノ目釉剥
	21 D		皿形	3a	13.8	4.2	8.3	磁器		
	22 D		皿形	3b	12.4	4.2	4.4	磁器	薩摩	見込み:蛇ノ目釉剥
	23 D		皿形	2	8	2	5	磁器		
	24 D		皿形	2	12.4	2.4	7.4	陶器		
	25 D		皿形	4a	25.2	3.9	16	磁器	肥前	ハリ支え痕
	26 D		皿形	7			14.6	磁器	中国	
	27 D		皿形	8a	10	2.2	4.5	陶器	薩摩	見込み:砂目
	28 D		皿形	8a	10	2.5	4.4	陶器	薩摩	口縁部内外面共にスス付着 見込み:胎土目
	29 D		皿形	8a	11	2.5	5	陶器	薩摩	見込み:蛇ノ目釉剥
	30 D		皿形	8a	11.4	2.55	4.5	陶器	薩摩	見込み:砂目
	31 D		皿形	8a	10.8	2.3	4.4	陶器	薩摩	見込み:砂目
	32 D		猪口形	2	5	3.3	2.8	磁器		
	33 D		猪口形	3	5.4	3	2	陶器	薩摩	
7	34 D		猪口形	4	5.6	4	2.6	陶器	薩摩	
	35 D		猪口形				2.2	陶器	薩摩	豎野系
	36 D		猪口形	6	8	5.6	4.5	磁器		千鳥印鉄絵1羽
	37 D		皿形	1	4.4	12.8	5	陶器	薩摩	加治木・始良系 龍門司 見込み:蛇ノ目釉剥
	38 D		鉢形	2	7.4	4.3	3.2	磁器	中国	
	39 D		鉢形	2	10.5	5.1		磁器		
	40 D		皿形	5			4.4	陶器	肥前	
	41 D		鉢形	5	19			陶器	薩摩	加治木・始良系
	42 D		鳥鉢・餌猪口形	5	9.6			陶器	薩摩	
	43 D		德利形					磁器		
	44 D		壺形	2b			18	陶器	薩摩	
	45 D		器台形		7.6	4.8	6	陶器	薩摩	
	46 D		器台形		7.4	6.2	5.2	陶器	薩摩	
	47 D		注口形	1a				陶器	薩摩	
8	48 D		注口形	3	12			陶器	薩摩	底部付近スス付着
	49 D		注口形	3				陶器	薩摩	
	50 D		注口形	6	5.4			陶器	薩摩	
	51 D		注口形	6				陶器	薩摩	
	52 D		摺り鉢形	2	31			陶器	薩摩	苗代川系
	53 D		摺り鉢形	3	33.2			陶器	薩摩	苗代川系
	54 D		摺り鉢形	3	30			陶器	薩摩	苗代川系
	55 D		摺り鉢形	4			12	陶器	琉球	
	56 D		捏ね鉢形	1b	24.5	6.9	18	陶器	薩摩	苗代川系
	57 D		捏ね鉢形	1b	22	7.1	17	陶器	薩摩	苗代川系
	58 D		甕形	2b	18.4			陶器	薩摩	苗代川系
9	59 D		捏ね鉢形	2	32.6	15.8	17.8	陶器	薩摩	苗代川系
	60 D		植木鉢形				18	陶器		
	61 D		蓋形	1	5.6	9	18	陶器		見込み:蛇ノ目釉剥
	62 D		蓋形	3	13.6	4.2	10.8	陶器	薩摩	
	63 D		蓋形	3	8.8	3.05	6.5	陶器	薩摩	
	64 D		蓋形	3	4.8	3.5	4.8	陶器	薩摩	
	65 D		蓋形	3	7	3.4	4.8	陶器	薩摩	
	66 D		蓋形	3	6.6	2.8	3.8	陶器	薩摩	墨書
	67 D		蓋形	3	12	3.4		陶器	薩摩	墨書
	68 D		蓋形	4	5.6		3.5	陶器	琉球	
	69 D		蓋形	6	10.5	1.2		陶器	薩摩	
10	70 D		その他		2.8	11.6	5.4	磁器		
	71 D		その他		4			陶器		
	72 D		皿形		10.4	2.6	7.8	土器		口縁部にスス付着
	73 D		皿形		11.9	2.3	7.8	土器		
	74 D		耳皿					土器		
	75 D		鉢形					土器		
	76 D		鉢形					土器		

第3表 垂水島津家屋敷跡出土遺物一覧表(2)

挿図	番号	区	器形	分類	法量(cm)			種類	生産地	備考
					口径	高さ	底径			
	77 D		鉢形					瓦質土器		
	78 D		鉢形				9.8	土器		
	79 D		鉢形				11	土器		
	80 D		焼塩壺		5.4	8.8	5.5	土器		
10	81 D		軒丸					瓦		
	82 D		軒丸					瓦		
	83 D		軒平					瓦		
	84 D		軒平					瓦		
	85 D		埴塼		4.6	3.2				
	86 D		基石						石製品	

第4表 垂水島津家屋敷跡出土遺物一覧表(3)

挿図	番号	種類	直径(cm)	内径(cm)	重量(g)	挿図	番号	種類	直径(cm)	内径(cm)	重量(g)
11	87	寛永通宝	2.57	0.59	3.28	11	95	寛永通宝	2.33	0.60	3.00
	88	寛永通宝	2.52	0.60	2.97		96	寛永通宝	2.33	0.60	2.37
	89	寛永通宝	2.40	0.57	3.06		97	寛永通宝	2.34	0.61	1.71
	90	寛永通宝	2.45	0.66	3.81		98	寛永通宝	2.50	0.50	2.77
	91	寛永通宝	2.43	0.57	2.40		99	寛永通宝	2.52	0.66	3.21
	92	寛永通宝	2.42	0.61	3.05		100	寛永通宝	2.50	0.58	3.31
	93	寛永通宝	2.19	0.65	1.49		101	寛永通宝	1.93	0.50	1.02
	94	寛永通宝	2.30	0.64	2.52						

第5表 宮之城島津家屋敷跡遺構内出土遺物一覧表(1)

挿図	番号	遺構名	器形	分類	法量(cm)			種類	生産地	備考
					口径	高さ	底径			
	1	掃きだめ	碗形	1a	9.7	4.5	3.8	磁器		
	2	掃きだめ	碗形	1a	11.5			磁器		
	3	掃きだめ	碗形	1c	10.6	5	4	磁器		見込み:蛇ノ目釉剥
	4	掃きだめ	碗形	1c	11	5.45	4.2	磁器		見込み:蛇ノ目釉剥
	5	掃きだめ	碗形	3a	11	5.9	4.2	磁器		
	6	掃きだめ	碗形	3a	10.2	5.6	4.3	磁器		
	7	掃きだめ	碗形	3a	8.6	4.5	3.6	磁器		
	8	掃きだめ	碗形	3a	10	5.1	3.8	磁器		
	9	掃きだめ	碗形	3a	9.6	5.4	3.7	磁器		
15	10	掃きだめ	碗形	3a	10.4	5.5	4	磁器		
	11	掃きだめ	碗形	3a	10	6.2	3.8	磁器		
	12	掃きだめ	碗形	3a	10.2	6.15	4	磁器		
	13	掃きだめ	碗形	3a	10.4	6.3	3.9	磁器		
	14	掃きだめ	碗形	3a	10.4	5.4	3.8	磁器		見込み:胎土目
	15	掃きだめ	碗形	3a	10.4	5.8	4	磁器		
	16	掃きだめ	碗形	3a	10.6	6.3	3.8	磁器		見込み:砂目
	17	掃きだめ	碗形	6	7	5.7	3.8	磁器		
	18	掃きだめ	皿形	4a	9.6	2	5.6	磁器		
		19	溝上面土坑	碗形	1a	8.8	4	3.8	磁器	
	20	溝上面土坑	碗形	1a	9.8	4.75	3.9	磁器		
	21	溝上面土坑	碗形	1a	10	5.2	4	磁器		
	22	溝上面土坑	碗形	1a	10.2	5.7	4	磁器		
	23	溝上面土坑	碗形	1a	9.8	5.1	3.7	磁器		
	24	溝上面土坑	碗形	1a	10.4	5.45	3.4	磁器		
	25	溝上面土坑	碗形	1a	9.8	5.15	3.6	磁器		
	26	溝上面土坑	碗形	1a	10	5.7	3.7	磁器		
	27	溝上面土坑	碗形	1a	5.2	5.5	3	陶器	京焼系	墨書 二
16	28	溝上面土坑	碗形	1a	13.4	6.05	5	陶器		
	29	溝上面土坑	碗形	3a	9.4	6	3.6	磁器	中国	
	30	溝上面土坑	碗形	3a	10.3	5.15	4.4	陶器	薩摩 加治木・始良系	龍門司窯
	31	溝上面土坑	碗形	7	7.2	8.8	4	磁器		
	32	溝上面土坑	皿形	1c	6.2	2.7	2.5	磁器		
	33	溝上面土坑	皿形	2	9.4	2.5	5	磁器		軸着痕あり
	34	溝上面土坑	皿形	2	10.9	2.6	6.9	磁器		
	35	溝上面土坑	皿形	2				磁器		
	36	溝上面土坑	皿形	2	14.9	5	8.8	磁器		
	37	溝上面土坑	皿形	2	9.2	2.7	5.6	陶器	薩摩	
	38	溝上面土坑	皿形	2	9.6	2.5	5.8	陶器		
	39	溝上面土坑	皿形	3a	14.4	4.8	8.9	磁器		
17	40	溝上面土坑	皿形	3a	14	4.95	7.2	磁器		
	41	溝上面土坑	皿形	4a	9.2	3.1	3.8	磁器		
	42	溝上面土坑	皿形	4a	11.8	2.6	7.6	陶器		

第6表 宮之城島津家屋敷跡遺構内出土遺物一覽表(2)

挿図	番号	遺構名	器形	分類	法量(cm)			種類	生産地	備考
					口径	高さ	底径			
	43	溝上面土坑	皿形		12.2	2.4	4	陶器		
	44	溝上面土坑	皿形		9	2.7	3.4	陶器		
	45	溝上面土坑	猪口形	4	6.6	3	2.4	磁器	中国	
	46	溝上面土坑	猪口形	4	6.6	3.1	2.4	磁器	中国	
	47	溝上面土坑	猪口形	6	7.4	5.9	6	磁器		
	48	溝上面土坑	鉢形		17.4	6.8	8.3	陶器		
	49	溝上面土坑	火入れ鉢形	1	9.8			磁器		
17	50	溝上面土坑	火入れ鉢形	1	9.6	10.9	9	陶器		
	51	溝上面土坑	火入れ鉢形	1	10.6	5.8	5.2	陶器		
	52	溝上面土坑	火入れ鉢形	2	9			陶器	薩摩	豎野系
	53	溝上面土坑	火入れ鉢形	2			4.4	陶器	薩摩	豎野系
	54	溝上面土坑	火入れ鉢形	2	11.2	8.15	6	陶器		
	55	溝上面土坑	高环形	1a	7.6	6.7	4.4	磁器		
	56	溝上面土坑	高环形	1a	7			磁器		
	57	溝上面土坑	高环形	1a	6.6			磁器		
	58	溝上面土坑	高环形	1a	6.8	4.6	3.9	陶器		
	59	溝上面土坑	高环形	2	17.2			陶器	薩摩	豎野系
	60	溝上面土坑	瓶形	3			5.4	陶器		
	61	溝上面土坑	ひょうそく形	1	4.9	4.9	3.4	陶器		
	62	溝上面土坑	注口形	4	14.6			陶器	薩摩	豎野系
	63	溝上面土坑	蓋形	1	4.2	2.75	10	磁器		
	64	溝上面土坑	蓋形	1	4.2	3	4.2	磁器		
	65	溝上面土坑	蓋形	2	10.2			磁器		
18	66	溝上面土坑	蓋形	2	11.2	3.6	10.3	磁器		
	67	溝上面土坑	蓋形	2	8.2	2.55	7	磁器		
	68	溝上面土坑	蓋形	3	11.5	4		磁器		
	69	溝上面土坑	蓋形	3	7.7	3	5.8	陶器	薩摩	墨書
	70	溝上面土坑	その他				5.6	陶器		
	71	溝上面土坑	その他				4.8	陶器		
	72	溝上面土坑	その他					磁器		新家持許第82464号 名古屋 八神幸助
	73	溝上面土坑	軽石					軽石		
	74	土坑1	碗形	1c	7.6	3.8	3.7	陶器	薩摩	加治木・始良系
	75	土坑1	瓶形		7			陶器	薩摩	
	76	土坑1	皿形		13.35	3	8.9	土器		見込み・蛇ノ目釉剥
19	77	土坑1	皿形		9.6	2	6.4	土器		
	78	土坑1	皿形		9.4	1.6	6.4	土器		
	79	土坑1	皿形		11	1.9	8.6	土器		
	80	土坑1	皿形		9.9	1.7	7.5	土器		
	81	土坑1	皿形		10.4	1.8	8.3	土器		
	82	土坑2	碗形	1a	9.2	5.7	3.2	陶器	京焼系	
	83	土坑2	碗形	1a	9.2			陶器	京焼系	
	84	土坑2	碗形	1a	9.4	5.2	2.8	陶器	京焼系	
	85	土坑2	碗形	1a	9.3			陶器	京焼系	
	86	土坑2	碗形	1a	11	6.9	3.8	陶器	薩摩	豎野系
20	87	土坑2	碗形	8			2.8	陶器	京焼系	墨書
	88	土坑2	皿形	2	12	4.8	3.6	陶器	京焼系	
	89	土坑2	猪口形	6	7.6	5.5	4.6	磁器		
	90	土坑2	鉢形	2	30	13	11	磁器	中国	
	91	土坑2	火入れ鉢形	1	5.1	8.3	5.2	陶器	薩摩	加治木・始良系
	92	土坑2	摺り鉢形	6	38			陶器	肥前	龍門司窯 口唇部敲打痕・剥離、底部墨書
	93	土坑2	摺り鉢形	7	23.4	11.6	10	陶器	薩摩	苗代川系
21	94	土坑2	壺形				21	陶器	薩摩	苗代川系
	95	土坑2	鉢形		19.6	17.3	18.6	陶器	薩摩	豎野系
	96	土坑2	焙烙					土器	薩摩	千鳥印語須絵1羽
22	97	土坑2	ひょうそく形		3.7	1.5	2.5	土器	薩摩	中心部分にスス付着
	98	土坑2	鉢形		27.4	20.5	17.8	瓦質		

第7表 宮之城島津家屋敷跡出土遺物一覽表(1)

挿図	番号	区	器形	分類	法量(cm)			種類	生産地	備考
					口径	高さ	底径			
	99	A	碗形	1a	7.9	3.9	3.2	磁器		
	100	A	碗形	1a	7.0	3.3	2.4	磁器	肥前	色絵
	101	C	碗形	1a	9.0	3.8	4.4	磁器	中国	
	102	C	碗形	1a	9.6	4.6	4.1	磁器		
	103	C	碗形	1a	9.6	4.6	3.8	磁器		
	104	C	碗形	1a	10.0	5.0	3.0	磁器		
	105	A	碗形	1a	10.0	4.5	4.0	磁器		色絵
23	106	C	碗形	1a	10.2	4.8	3.8	磁器		
	107	A	碗形	1a	9.2			磁器		家紋入り
	108	A	碗形	1a	9.6	5.1	4.0	磁器		
	109	A	碗形	1a	8.4	5.1	3.3	磁器	肥前	色絵
	110	A	碗形	1a	10.4	5.5	4.9	磁器		
	111	A	碗形	1a	10.5	5.1	3.9	磁器		
	112	A	碗形	1a	11.6	6.2	4.8	磁器		
	113	C	碗形	1a	12.2	6.8	4.6	磁器		
	114	A	碗形	1a	10.0	5.8	4.6	磁器		

第8表 宮之城島津家屋敷跡出土遺物一覧表(2)

挿図	番号	区	器形	分類	法量(cm)			種類	生産地	備考
					口径	高さ	底径			
	115 C		碗形	1a	10.0			磁器		
	116 C		碗形	1a	11.0	5.6	4.4	磁器		
	117 A		碗形	1a	15.0	6.5	5.2	磁器		
	118 C		碗形	1a	11.2	6.2	4.6	磁器		
	119 C		碗形	1a	15.3	7.3	6.6	磁器	中国	
	120 C		碗形	1a	14.8	7.0	6.5	磁器	中国	
	121 C		碗形	1a	15.0	7.0	6.4	磁器	中国	
	122 C		碗形	1a	6.0	3.0	2.4	陶器	薩摩 豎野系	
	123 C		碗形	1a	6.4	3.2	2.5	陶器	薩摩 豎野系	千鳥印呉須絵1羽
	124 C		碗形	1a	9.6	3.6	3.4	陶器	薩摩 豎野系	千鳥印呉須絵1羽
	125 C		碗形	1a	9.0	5.2	3.4	陶器	薩摩 豎野系	千鳥印鉄絵1羽
	126 C		碗形	1a	8.6	5.1	3.6	陶器	薩摩 豎野系	千鳥印鉄絵1羽
	127 B		碗形	1a	11.0	6.0	4.2	陶器	薩摩 豎野系	千鳥印呉須絵2羽
	128 C		碗形	1a	11.3	5.8	4.6	陶器	薩摩 豎野系	千鳥印呉須絵1羽
24	129 C		碗形	1a	12.0	5.6	4.6	陶器	薩摩 豎野系	千鳥印鉄絵1羽
	130 A		碗形	1a	10.0			陶器	薩摩 豎野系	家紋有り
	131 A		碗形	1a	9.9	5.2	4.0	陶器	薩摩 豎野系	象嵌
	132 C		碗形	1a	10.0			陶器	薩摩 豎野系	象嵌
	133 A		碗形	1a	11.7	5.5	4.0	陶器	薩摩	
	134 A		碗形	1a	10.0			陶器	薩摩	
	135 C		碗形	1a	9.3	5.5	3.1	陶器	京焼系	
	136 C		碗形	1a	9.5	5.7	2.9	陶器	京焼系	
	137 C		碗形	1a	9.6			陶器	京焼系	
	138 C		碗形	1a	9.0			陶器	京焼系	
	139 C		碗形	1a	9.1	6.0	3.2	陶器	京焼系	
	140 A		碗形	1a	10.7			陶器	京焼系	
	141 C		碗形	1a	9.4	5.5	3.2	陶器	京焼系	
	142 C		碗形	1a	9.6			陶器	京焼系	
	143 C		碗形	1a	9.2			陶器	京焼系	
	144 C		碗形	1a	9.2	5.8	3.0	陶器	京焼系	
	145 C		碗形	1a	9.6			陶器	京焼系	
	146 A		碗形	1a	10.0			陶器		薩摩もしくは京焼の可能性あり
	147 A		碗形	1a	9.6	5.4	4.8	陶器	京焼系	
	148 C		碗形	1a	9.8	5.7	3.3	陶器	京焼系	見込み:目跡あり
	149 C		碗形	1a	12.4	7.0	4.8	陶器	唐津	
	150 C		碗形	1b	9.4			磁器		
	151 C		碗形	1b	7.8	4.2	4.2	磁器		
	152 A		碗形	1b	8.4	4.3	4.6	磁器		
	153 C		碗形	1c	7.6	4.4	3.6	陶器	薩摩	見込み:蛇ノ目釉剥
	154 C		碗形	1c	7.8	4.2	3.6	陶器	薩摩 加治木・始良系	見込み:蛇ノ目釉剥
	155 C		碗形	1c	8.6	4.0	4.0	陶器	薩摩 加治木・始良系	見込み:蛇ノ目釉剥
	156 C		碗形	1c	8.5	3.8	4.0	陶器	薩摩 加治木・始良系	見込み:蛇ノ目釉剥
	157 C		碗形	1c	11.0	6.0	4.4	陶器	薩摩	見込み:蛇ノ目釉剥
	158 C		碗形	1c	12.0	6.0	4.4	陶器	薩摩	見込み:蛇ノ目釉剥
25	159 C		碗形	1c	12.0	6.5	4.8	陶器	薩摩 加治木・始良系 元立院窯	見込み:蛇ノ目釉剥
	160 A		碗形	1c	12.0	6.0	5.1	陶器	薩摩	見込み:蛇ノ目釉剥
	161 C		碗形	1c	10.6	5.6	4.6	陶器	薩摩	見込み:蛇ノ目釉剥
	162 A		碗形	1c	12.0	5.4	4.4	陶器	薩摩	見込み:蛇ノ目釉剥
	163 A		碗形	1c	11.0	5.5	4.8	陶器	薩摩	見込み:蛇ノ目釉剥
	164 A		碗形	1c	12.4	6.1	5.4	陶器	薩摩	見込み:蛇ノ目釉剥
	165 A		碗形	1c	16.0	7.4	5.8	陶器	薩摩	見込み:蛇ノ目釉剥
	166 C		碗形	1c	12.2	6.4	4.5	陶器	薩摩	見込み:蛇ノ目釉剥
	167 C		碗形	1c	12.4	5.8	4.8	陶器	薩摩 加治木・始良系 龍門司窯	見込み:蛇ノ目釉剥
	168 A		碗形	2	11.6	6.2	6.4	磁器	薩摩	
	169 A		碗形	2	11.4	6.1	6.2	磁器	薩摩	
	170 A		碗形	2	10.4	6.0	5.0	磁器		
	171 A		碗形	2	10.4	6.4	6.0	磁器		
	172 A		碗形	3a	8.2	4.6	3.2	磁器	中国	
	173 A		碗形	3a	8.4	4.7	3.6	磁器	中国	徳化窯
	174 A		碗形	3a	8.4	4.6	3.6	磁器	中国	徳化窯
	175 A		碗形	3a	9.3	4.2	4.6	磁器	中国	
	176 A		碗形	3a	8.0	4.5	3.0	磁器	中国	
	177 一括		碗形	3a	7.4	3.9	3.7	磁器	中国	
	178 A		碗形	3a	9.5	5.0	3.4	磁器	中国	
	179 A		碗形	3a	12.0	6.7	5.0	青磁	肥前	
	180 C		碗形	3a				磁器		
	181 A		碗形	3a	5.4	10.3	4.0	磁器	薩摩	
	182 A		碗形	3a	9.4	5.0	4.0	磁器	中国	
26	183 A		碗形	3a	10.2	5.4	4.2	磁器		色絵
	184 A		碗形	3a	13.0	5.4	7.0	磁器	中国	
	185 A		碗形	3a	11.0	5.7	4.0	磁器	薩摩	
	186 A		碗形	3a	10.0	5.0	3.8	磁器		
	187 A		碗形	3a	10.6	5.5	4.1	磁器		
	188 C		碗形	3a	12.1			磁器	肥前	
	189 A		碗形	3a	10.0	5.8	4.5	磁器		
	190 A		碗形	3a	10.0	5.1	5.2	磁器	中国	
	191 C		碗形	3a	14.4	7.9	6.0	磁器	中国	

第9表 宮之城島津家屋敷跡出土遺物一覧表(3)

挿図	番号	区	器形	分類	法量(cm)			種類	生産地	備考	
					口径	高さ	底径				
26	192 C		碗形	3a	14.0			磁器	中国		
	193 A		碗形	3a	9.8	5.1	3.8	陶器			
	194 C		碗形	3a	12.0	6.9	5.0	陶器	薩摩		
	195 C		碗形	3a	13.2	7.3	5.0	陶器	薩摩 加治木・始良系	元立院窯 蛇蝎釉	
	196 C		碗形	3a	13.2	5.7	4.8	陶器	薩摩 加治木・始良系	元立院窯 蛇蝎釉	
	197 A		碗形	3a	11.5	5.2	4.6	陶器	薩摩 加治木・始良系	見込み:蛇ノ目釉剥	
	198 A		碗形	3a	9.8	5.6	3.6	陶器	薩摩		
	199 A		碗形	3b	9.6	5.7	4.2	磁器	薩摩	見込み:蛇ノ目釉剥	
	200 A		碗形	3b	10.2	5.8	4.0	磁器	薩摩	目跡・胎土目	
	201 A		碗形	3b	10.2	4.1	5.0	陶器	薩摩	見込み:蛇ノ目釉剥	
	202 C		碗形	3b	8.4	4.5	3.8	陶器	薩摩 加治木・始良系	龍門司窯 蛇ノ目 古段階の可能性が高い	
	203 C		碗形	3b	14.0	7.6	5.4	陶器		見込み:蛇ノ目釉剥	
	204 C		碗形	4	8.0	4.0	3.3	陶器	薩摩 加治木・始良系	龍門司窯	
	205 C		碗形	4	9.0	4.6	4.0	陶器	薩摩 加治木・始良系	龍門司窯	
	27	206 C		碗形	4	9.5	4.9	3.8	陶器	京焼系	
		207 C		碗形	4	10.2	4.5	3.4	陶器	京焼系	
		208 C		碗形	4	8.4	5.2	3.9	陶器	京焼系	墨書 ちさこ
		209 C		碗形	4	8.8	5.2	3.8	陶器	京焼系	
		210 C		碗形	4	9.4	4.8	3.6	陶器	京焼系	墨書
		211 C		碗形	4	9.4	5.3	3.6	陶器	京焼系	墨書 西
		212 C		碗形	4	9.2	5.5	3.6	陶器	京焼系	
		213 C		碗形	4	9.0	5.0	3.8	陶器	薩摩 豎野系	
		214 A		碗形	4	11.8			陶器	薩摩 豎野系	
		215 C		碗形	4			3.5	陶器	京焼系	墨書
		216 A		碗形	5a	8.0	6.8	4.2	青磁	肥前	
		217 A		碗形	5a	7.2	6.0	4.1	磁器		
218 A			碗形	5a	7.2	5.4	3.6	磁器			
219 C			碗形	5a	7.6	6.7	4.0	磁器			
220 C			碗形	5a	8.0			磁器			
221 C			碗形	5a	8.2	6.2	4.0	磁器			
222 C			碗形	5a	8.0			磁器			
223 C			碗形	5a	10.1	7.8	7.2	磁器			
224 C			碗形	5a	8.0	6.1	4.4	磁器			
225 A			碗形	5a	8.0			磁器		色絵	
226 C			碗形	5a	11.2	7.7	7.6	磁器			
227 C			碗形	5a	6.2	4.1	3.3	陶器	薩摩 加治木・始良系	龍門司窯	
228 C			碗形	5a	5.4	3.9	3.3	陶器	薩摩 加治木・始良系	龍門司窯	
229 C			碗形	5a	6.0	4.0	3.5	陶器	薩摩 加治木・始良系	龍門司窯	
230 A			碗形	5a	6.4	4.5	3.4	陶器	薩摩		
231 A			碗形	5a	7.2	5.5	4.1	陶器	京焼系		
232 C		碗形	5a	7.8	5.8	4.7	陶器	薩摩 加治木・始良系	元立院窯 蛇蝎釉		
28	233 A		碗形	5b	8.5	7.9	6.4	磁器	肥前		
	234 C		碗形	5b	9.0	8.5	6.5	磁器	肥前		
	235 C		碗形	5b	12.4			磁器			
	236 A		碗形	6	6.6	5.1	3.8	磁器		薩摩産の可能性がある	
	237 A		碗形	6	4.8	4.9	3.4	陶器	薩摩 加治木・始良系	龍門司窯	
	238 C		碗形	6	6.6	4.0	3.4	陶器	薩摩 加治木・始良系	龍門司窯	
	239 C		碗形	6	8.8	6.2	6.0	陶器	薩摩 加治木・始良系	龍門司窯	
	240 C		碗形	6	8.8	6.0	4.3	陶器	薩摩 加治木・始良系	龍門司窯	
	241 C		碗形	7	11.4			磁器	肥前		
	242 A		碗形	7	9.0	5.5	3.6	陶器	肥前		
	243 A		碗形	7	12.1	7.2	5.0	陶器	薩摩 加治木・始良系	元立院窯 蛇蝎釉	
	244 C		碗形	7	12.0	5.9	4.8	陶器	薩摩 加治木・始良系	天目碗	
	245 C		碗形	7	13.0			陶器		天目碗	
	246 A		碗形	8				磁器	肥前		
	247 C		碗形	8			3.4	磁器	中国	清朝期	
	248 C		碗形	8			5.0	磁器	肥前		
	249 A		碗形	8			3.2	磁器	中国		
	250 C		碗形	8			6.5	磁器	中国		
	251 A		碗形	8				磁器	中国		
	252 B		碗形	8				陶器	肥前 内野山系	銅緑釉	
	253 A		碗形	8				陶器	薩摩 豎野系	家紋有り	
	254 C		碗形	8	8.4			陶器	京焼系		
	255 C		碗形	8			4.2	陶器	薩摩 豎野系	千鳥印呉須絵3羽	
	256 C		碗形	8			4.5	陶器	京焼系	刻書	
	257 C		碗形	8			5.7	陶器	京焼系	刻書	
	258 C		碗形	8			3.7	陶器	京焼系	墨書	
29	259 C		碗形	8			3.5	陶器	京焼系	墨書	
	260 C		碗形	8			3.4	陶器	京焼系	墨書	
	261 C		碗形	8			3.6	陶器	京焼系	墨書	
	262 A		碗形	8			5.0	陶器	薩摩		
	263 C		碗形	8			4.2	陶器	薩摩		
	264 A		碗形	8			3.6	陶器			
	265 C		碗形	8			5.0	陶器	薩摩 加治木・始良系	元立院窯	
	266 B		碗形	8			6.0	陶器			
	267 A		碗形	8			5.0	陶器	薩摩	見込み:蛇ノ目釉剥	
	268 A		碗形	8			4.6	陶器	薩摩	見込み:蛇ノ目釉剥	

第10表 宮之城島津家屋敷跡出土遺物一覧表(4)

挿図	番号	区	器形	分類	法量(cm)			種類	生産地	備考
					口径	高さ	底径			
	269 A		碗形	8			4.8	陶器	薩摩	見込み:蛇ノ目釉剥
	270 A		皿形	1a	4.6	1.6	1.4	磁器		
	271 A		皿形	1a	4.6	1.5	1.5	磁器		
	272 C		皿形	1b	6.9	1.7	4.4	磁器		
	273 A		皿形	1b	5.6	1.6	2.9	磁器		
	274 C		皿形	1b			3.3	磁器		
	275 C		皿形	1c	5.2	2.1	2.0	磁器		
	276 C		皿形	1c	6.6	2.6	3.3	陶器	薩摩	加治木・始良系
	277 C		皿形	1c	6.5	2.8	3.2	陶器	薩摩	
	278 A		皿形	1c	6.2	2.4	3.4	陶器	薩摩	加治木・始良系 龍門司窯 見込み:蛇ノ目釉剥
29	279 B		皿形	1c	6.5	3.3	3.4	陶器	薩摩	加治木・始良系 龍門司窯 底部墨書
	280 C		皿形	1c	7.0	2.4	3.2	陶器	薩摩	見込み:蛇ノ目釉剥
	281 C		皿形	1c	6.8	3.1	3.4	陶器	薩摩	見込み:蛇ノ目釉剥
	282 B		皿形	1c	6.4	2.5	3.0	陶器	薩摩	加治木・始良系 龍門司窯
	283 A		皿形	1c	7.0	3.3	3.3	陶器	薩摩	加治木・始良系 龍門司窯 見込み:蛇ノ目釉剥
	284 C		皿形	1c	8.4	2.5	3.8	陶器	薩摩	加治木・始良系 見込み:蛇ノ目釉剥
	285 B		皿形	1c	8.5	2.6	3.8	陶器	薩摩	加治木・始良系 見込み:蛇ノ目釉剥
	286 C		皿形	1c	8.4	4.0	2.0	陶器	薩摩	見込み:蛇ノ目釉剥
	287 C		皿形	2	10.2	1.9	6.2	磁器		
	288 C		皿形	2	9.0	1.9	5.6	磁器	肥前	
	289 A		皿形	2	10.5	2.6	5.8	磁器		
	290 A		皿形	2	10.5	2.3	6.0	磁器	薩摩	
	291 A		皿形	2	10.0	2.0	5.8	磁器		
	292 C		皿形	2	11.0	2.4	6.2	磁器	肥前系	
	293 C		皿形	2	10.6	2.3	7.0	磁器		
	294 C		皿形	2	10.0	2.0	6.0	磁器		
30	295 C		皿形	2	12.0	2.3	7.6	磁器		
	296 C		皿形	2	11.6	3.8	6.4	磁器		
	297 C		皿形	2	12.0	2.1	7.6	磁器		
	298 A		皿形	2	12.2	2.6	8.1	磁器		
	299 C		皿形	2	10.5	2.4	6.1	磁器	肥前	
	300 C		皿形	2	14.2	4.1	7.8	磁器		
	301 C		皿形	2	12.8	3.5	8.1	磁器		
	302 A		皿形	2	12.6	2.8	7.6	磁器		
	303 A		皿形	2	10.3	3.2	5.2	磁器		
	304 C		皿形	2	14.4	4.5	8.2	磁器		
	305 B		皿形	2	11.6	3.3	6.3	磁器		
	306 A		皿形	2				磁器		
31	307 A		皿形	2	20.0	3.0	13.3	磁器	肥前	
	308 A		皿形	2	10.8	3.0	6.4	陶器	イギリス	ドーソン窯
	309 C		皿形	2	12.4	4.7	3.8	陶器	京焼系	墨書
	310 C		皿形	2	12.3	4.3	4.0	陶器	京焼系	
	311 A		皿形	2	10.8			陶器	京焼系	
	312 A		皿形	2	9.8	2.5	6.6	陶器	薩摩	
	313 C		皿形	2	13.0			陶器	京焼系	
	314 C		皿形	2	12.4	4.2	3.8	陶器	京焼系	
	315 C		皿形	3a	9.8	3.1	3.8	青磁		
	316 A		皿形	3a	9.3	2.7	5.0	磁器	中国	
	317 C		皿形	3a	10.0	2.6	4.8	磁器	中国	
	318 C		皿形	3a	12.8	3.6	7.4	磁器		
	319 C		皿形	3a	12.8	3.1	6.8	磁器	肥前	
32	320 C		皿形	3a	11.0	3.1	6.8	磁器		
	321 B		皿形	3a	13.2	3.6	7.0	磁器		
	322 A		皿形	3a	8.1	2.4	5.8	磁器		
	323 C		皿形	3a		4.4		磁器	肥前	
	324 C		皿形	3a	14.8	4.4	8.4	磁器		A区と接合
	325 C		皿形	3a	23.2	5.9	7.0	陶器	肥前	
	326 C		皿形	3a	11.2	3.5	3.8	陶器	唐津	
	327 C		皿形	3a	12.0	3.7	4.0	陶器	唐津	
	328 C		皿形	3a	9.6	2.9	2.8	磁器	中国	
	329 C		皿形	3b	14.0	2.6	7.6	磁器		見込み:蛇ノ目釉剥
	330 B		皿形	3b	10.8	3.2	5.6	磁器	中国	見込み:蛇ノ目釉剥
	331 A		皿形	3b	9.6	2.8	4.8	磁器		
	332 C		皿形	3b	12.8	4.1	5.4	陶器		見込み:蛇ノ目釉剥
	333 C		皿形	3b	16.0	4.6	5.6	陶器	薩摩	見込み:蛇ノ目釉剥
33	334 C		皿形	3b	8.2	4.6	5.8	青磁		蛇ノ目 青磁器の焼成不良
	335 C		皿形	4	9.6	2.9	3.8	磁器		
	336 C		皿形	4	8.8	2.5	4.4	磁器	中国	蓋形の可能性がある
	337 C		皿形	4	10.8	2.5	6.1	磁器		近代の遺物か?
	338 B		皿形	4	13.6	4.4	8.0	青磁		
	339 C		皿形	4	14.4	3.8	8.9	磁器		
	340 A		皿形	4	14.4	3.8	7.6	磁器		
	341 C		皿形	4	22.4	4.1	11.4	磁器	肥前	底部にハリ支え痕が見られる
	342 C		皿形	4	20.3	3.0	13.6	磁器	肥前	底部にハリ支え痕が見られる
34	343 A		皿形	4	23.0	3.1	13.4	磁器		
	344 C		皿形	4	10.0	5.2	9.6	陶器	薩摩	
	345 A		皿形	4	4.8	2.4	2.7	磁器		見込み:蛇ノ目釉剥

第11表 宮之城島津家屋敷跡出土遺物一覽表(5)

挿図	番号	区	器形	分類	法量(cm)			種類	生産地	備考	
					口径	高さ	底径				
34	346 C		皿形	4	9.5	2.4	3.8	陶器	薩摩	加治木・始良系 龍門司窯	見込み:蛇ノ目釉刺
	347 C		皿形	4	12.8		3.8	陶器	薩摩	加治木・始良系 龍門司窯	見込み:蛇ノ目釉刺
	348 C		皿形	4	14.0	4.7	4.6	陶器	薩摩		見込み:蛇ノ目釉刺
	349 C		皿形	5	10.2	1.9	4.0	磁器			
	350 C		皿形	5	10.0	1.9	5.8	磁器			
	351 C		皿形	5	10.2	2.2	4.7	磁器			
	352 C		皿形	5	9.4	2.0	5.2	磁器			
	353 C		皿形	6	9.6	2.4	5.9	磁器			
	354 C		皿形	6	8.0	2.5	3.6	磁器	瀬戸・美濃		
	355 C		皿形	6	7.9	2.2	3.6	磁器	瀬戸・美濃		
35	356 C		皿形	6	7.6	2.2	3.8	磁器	瀬戸・美濃		
	357 C		皿形	6			3.5	磁器			色絵
	358 A		皿形	6				磁器			
	359 C		皿形	6				磁器			
	360 A		皿形	6				磁器			
	361 A		皿形	7	10.5	2.5	4.2	陶器	薩摩 豎野系		千鳥印呉須絵2羽
	362 C		皿形	7	19.8	4.4	8.6	陶器	薩摩	加治木・始良系 山元窯	
	363 C		皿形	7	19.4	3.5	14.0	陶器			
	364 C		皿形	7	24.8	5.4	8.0	陶器	薩摩		
	365 C		皿形	7			15.2	青磁	肥前		
36	366 C		皿形	7		3.4		陶器	薩摩	豎野系	
	367 C		皿形	7				磁器			
	368 C		皿形	7			5.5	磁器	肥前		
	369 一括		皿形	7				磁器			虫食い
	370 A		皿形	7			14.8	磁器	肥前		瑠璃釉
	371 C		皿形	7			4.0	陶器	京焼系		墨書
	372 A		皿形	7			3.4	陶器	京焼系		墨書六ぼう星
	373 C		皿形	7			3.8	陶器	京焼系		墨書
	374 A		皿形	7			15.0	磁器	肥前		色絵
	375 C		皿形	7			4.0	陶器	京焼系		墨書
37	376 A		皿形	7			4.5	陶器	京焼系		
	377 B		皿形	7			8.2	陶器			
	378 B		皿形	7			6.4	陶器			
	379 B		皿形	7			5.6	陶器			
	380 C		皿形	7				陶器	肥前	内野山系	銅緑釉
	381 A		皿形	7			4.6	陶器	肥前	内野山系	銅緑釉, 蛇ノ目釉刺
	382 C		皿形	7			7.7	陶器	肥前	内野山系	銅緑釉, 蛇ノ目釉刺
	383 B		皿形	7			6.4	陶器	肥前	内野山系	銅緑釉, 蛇ノ目釉刺
	384 一括		皿形	7				磁器	中国		
	385 B		皿形	7			10.0	陶器	中国		
38	386 C		皿形	8a	10.3	2.4	4.4	陶器	薩摩		見込み:蛇ノ目釉刺
	387 C		皿形	8a	10.0	2.4	5.0	陶器	薩摩		見込み:胎土目
	388 C		皿形	8a	10.0	2.6	4.5	陶器	薩摩		見込み:蛇ノ目釉刺
	389 A		皿形	8a	9.8	2.6	5.2	陶器	薩摩		見込み:胎土目
	390 C		皿形	8a	10.8	2.5	6.0	陶器	薩摩		見込み:胎土目
	391 A		皿形	8a	9.7	2.4	5.5	陶器	薩摩		見込み:胎土目
	392 C		皿形	8a	9.4	2.6	4.0	陶器	薩摩		見込み:胎土目
	393 C		皿形	8a	10.0	2.5	5.4	陶器	薩摩		見込み:胎土目
	394 C		皿形	8a	10.2	2.4	4.0	陶器	薩摩		見込み:胎土目
	395 C		皿形	8a	9.6	2.5	3.4	陶器	薩摩		見込み:胎土目
38	396 A		皿形	8a	10.8	2.4	4.5	陶器	薩摩		見込み:胎土目
	397 A		皿形	8a	9.0	2.5	4.3	陶器	薩摩		見込み:胎土目
	398 C		皿形	8a	10.4	2.4	4.6	陶器	薩摩		見込み:砂目
	399 C		皿形	8a	10.4	2.4	4.5	陶器	薩摩		見込み:砂目
	400 C		皿形	8a	10.4	2.6	4.8	陶器	薩摩		見込み:砂目
	401 C		皿形	8a	10.2	2.5	4.6	陶器	薩摩		見込み:砂目
	402 C		皿形	8a	10.0	2.4	4.4	陶器	薩摩		見込み:砂目
	403 C		皿形	8a	10.4	2.7	4.4	陶器	薩摩		見込み:砂目
	404 C		皿形	8a	10.4	2.8	4.2	陶器	薩摩		見込み:砂目
	405 A		皿形	8a	10.8	2.0	4.4	陶器	薩摩		見込み:砂目
38	406 C		皿形	8a	9.5	2.8	3.2	陶器			
	407 C		皿形	8b	8.0	1.9	3.4	陶器	薩摩		
	408 A		皿形	8b	10.5	2.5	4.0	陶器	薩摩	豎野系	
	409 A		猪口形	1	4.7	2.6	2.0	磁器			
	410 A		猪口形	1	4.5	2.3	2.2	磁器			
	411 A		猪口形	2	4.4	3.5	2.3	磁器			
	412 C		猪口形	2	3.2	3.3	2.2	磁器			
	413 A		猪口形	2	4.8	3.2	2.8	磁器			
	414 C		猪口形	2	5.4	3.2	3.6	磁器			
	415 C		猪口形	2	5.2	3.5	3.6	磁器			
38	416 C		猪口形	2	5.7	3.5	3.3	磁器			
	417 C		猪口形	2	4.8	3.7	3.8	陶器	薩摩	豎野系	千鳥印鉄絵1羽
	418 A		猪口形	3	4.0	3.7	1.6	磁器			
	419 A		猪口形	3	4.4	2.8	2.3	磁器			
	420 A		猪口形	3	4.8	3.1	2.8	磁器			
	421 A		猪口形	3	5.5	3.1	2.9	磁器			
	422 C		猪口形	4	3.3	2.6	1.8	磁器			

第12表 宮之城島津家屋敷跡出土遺物一覧表(6)

挿図	番号	区	器形	分類	法量(cm)			種類	生産地	備考
					口径	高さ	底径			
	423	C	猪口形	4	5.8	3.5	2.8	磁器		
	424	C	猪口形	4	5.0	3.1	1.8	磁器	中国	
	425	A	猪口形	4	4.8	2.8	2.0	磁器		
	426	C	猪口形	4	5.2	3.6	2.5	磁器		
	427	A	猪口形	4	6.0	3.4	2.6	磁器		
	428	A	猪口形	4	5.8	4.3	2.9	磁器		
	429	A	猪口形	4	5.2	4.3	4.2	磁器		
	430	A	猪口形	4	5.0	2.7	2.5	磁器		
	431	B	猪口形	4	4.8	2.9	2.2	陶器	薩摩	
	432	C	猪口形	4	3.9	2.7	1.7	陶器	薩摩	
38	433	C	猪口形	5	5.2	2.4	3.7	磁器		
	434	C	猪口形	5	4.2	3.4	2.3	磁器		
	435	C	猪口形	5	4.5	3.3	2.2	陶器	薩摩 豎野系	
	436	A	猪口形	5				磁器		
	437	A	猪口形	5	6.5	2.8	2.6	磁器		薄手
	438	C	猪口形	6	8.0	6.3	6.0	磁器		
	439	C	猪口形	6	6.6	6.5	5.0	磁器		
	440	C	猪口形	6	8.2			磁器		
	441	C	猪口形	6	7.8	6.9	7.4	磁器		
	442	C	猪口形	6	6.4	5.6	5.0	磁器		
	443	C	猪口形	6	7.5	5.4	4.8	磁器		
	444	C	猪口形	6	7.6	5.1	3.6	磁器	肥前	
	445	A	鉢形	1	12.4	5.4	7.6	磁器		
	446	C	鉢形	1	11.0	4.4	7.9	磁器		
	447	C	鉢形	1	13.5	4.3	8.2	磁器	肥前	高台がなく、底部が蛇ノ目釉剥
	448	A	鉢形	1	13.4	5.0	9.0	磁器		
	449	C	鉢形	1	14.8	4.7	7.4	磁器		
	450	C	鉢形	1	12.2	7.4	4.4	磁器		
	451	C	鉢形	1	15.2	6.7	10.0	磁器		
	452	C	鉢形	1	17.4	4.3	7.0	陶器		貝目痕あり
39	453	A	鉢形	1	8.0	3.5	3.8	陶器	薩摩 豎野系	
	454	C	鉢形	1	7.8	3.8	2.8	磁器		
	455	C	鉢形	1	14.4	5.5	6.2	陶器	薩摩	軟質磁器の可能性もある
	456	A	鉢形	1	16.0			磁器		
	457	A	鉢形	1	9.0			磁器		
	458	C	鉢形	1	15.0	6.7	5.8	磁器		
	459	A	鉢形	1	12.0	5.5	4.6	磁器	薩摩	
	460	B	鉢形	1	12.4	5.0	4.6	磁器	薩摩	
	461	C	鉢形	1	18.2	6.1	9.2	磁器		
	462	A	鉢形	1	14.0	5.8	6.8	磁器	肥前	
	463	A	鉢形	1	12.0			磁器		
	464	A	鉢形	1	11.0			磁器		
40	465	B	鉢形	2				磁器	中国	
	466	C	鉢形	2	27.8	11.9	11.6	磁器	中国	見込み:蛇ノ目釉剥
	467	A	鉢形	2	20.4	12.8	10.0	陶器	薩摩	
	468	B	鉢形	2	21.0	10.3	10.8	陶器	薩摩 加治木・始良系 龍門司窯	
	469	C	鉢形	2	17.7	9.9	8.8	陶器	薩摩 豎野系	
	470	C	鉢形	2	19.6			陶器	薩摩	
	471	C	鉢形	2	21.0	10.8	8.0	陶器		
	472	A	鉢形	2	10.8	5.9	3.8	陶器	萩焼?	
41	473	A	鉢形	3	28.8	10.0	19.5	陶器	薩摩	側面や割れ口にスス付着
	474	C	鉢形	3				陶器	肥前	
	475	C	鉢形	3			15.2	陶器		
	476	C	鉢形	3	36.0			陶器	肥前	
	477	C	鉢形	3	39.0			陶器	肥前	
	478	A	鉢形	3				陶器		
	479	B	鉢形	3		12.4		陶器	肥前	
42	480	A	鉢形	4		12.0		陶器	薩摩 豎野系	袋状
	481	A	鉢形	4		12.6		陶器	薩摩 豎野系	杯洗か
	482	C	鉢形	4		10.4		陶器	薩摩 豎野系	千鳥印呉須絵1羽 袋状
	483	C	鉢形	4	19.6	7.9	8.2	陶器		見込み:蛇ノ目釉剥
	484	A	鉢形	5				磁器	肥前	
	485	C	鉢形	5				磁器	肥前	
	486	C	鉢形	5				磁器	肥前	
	487	A	鉢形	5				磁器		
	488	C	鉢形	5				磁器	中国	色絵
	489	A	鉢形	5				磁器	中国	
	490	B	鉢形	5		6.0		磁器	中国	
	491	B	鉢形	5				磁器		
43	492	C	鉢形	5		4.0		磁器	中国	
	493	C	鉢形	5	11.0			陶器		
	494	A	鉢形	5				陶器	薩摩	
	495	C	鉢形	5		6.7		陶器		
	496	A	鉢形	5				陶器	薩摩	
	497	C	段重・合子形		5.6	0.9		磁器		
	498	A	段重・合子形		5.8	1.1	5.8	磁器		
	499	C	段重・合子形		11.8	3.1	8.0	磁器		

第13表 宮之城島津家屋敷跡出土遺物一覧表(7)

挿図	番号	区	器形	分類	法量(cm)			種類	生産地	備考
					口径	高さ	底径			
	500 C		段重・合子形		7.0	2.9	6.0	磁器		
	501 C		段重・合子形		5.0	2.5	2.7	磁器		
	502 C		段重・合子形		8.5	2.4	8.6	磁器		
43	503 A		餐水入れ形		6.8	2.5		磁器		
	504 C		餐水入れ形					陶器	薩摩 豎野系	
	505 A		餐水入れ形					陶器	京焼系	
	506 C		餐水入れ形			5.8		陶器	薩摩 豎野系	
	507 C		餐水入れ形				3.1	陶器		
	508 A		鳥鉢・餌猪口形		5.0	2.5	2.1	陶器	薩摩 豎野系	
	509 C		鳥鉢・餌猪口形		5.8	3.0	2.5	陶器	薩摩 豎野系	千鳥印鉄絵1羽
	510 C		鳥鉢・餌猪口形		5.8	1.6	4.6	陶器	薩摩 豎野系	千鳥印鉄絵1羽
	511 C		鳥鉢・餌猪口形			3.7		陶器	薩摩 豎野系	千鳥印呉須絵1羽
	512 C		火入鉢形	1	10.6	7.3	6.6	青磁		
	513 C		火入鉢形	1	13.4	7.3	8.0	青磁		
	514 C		火入鉢形	1	9.4	4.9	5.8	磁器		
	515 C		火入鉢形	1	10.0	7.4	5.4	陶器	薩摩	
	516 A		火入鉢形	1	11.0	5.9	5.0	陶器	薩摩	
	517 C		火入鉢形	1	8.8	4.3	4.4	陶器	薩摩	
	518 C		火入鉢形	1	6.0	8.2	5.2	磁器		
44	519 A		火入鉢形	1	6.4	4.6	7.9	青磁		
	520 A		火入鉢形	1	5.7	7.7	5.2	陶器		
	521 A		火入鉢形	1	7.4	10.8	5.8	陶器	薩摩	
	522 C		火入鉢形	1	9.6	6.8	7.2	陶器		
	523 C		火入鉢形	1	10.0	7.0	6.8	陶器		
	524 B		火入鉢形	1	9.0	8.7	9.0	陶器	薩摩 加治木・始良系 龍門司窯	銘:芳文,川原次郎太作
	525 A		火入鉢形	1	10.0	7.7	10.6	陶器		
	526 C		火入鉢形	1	7.0	4.5	5.0	陶器	薩摩	
	527 C		火入鉢形	1			7.0	陶器		墨書
	528 C		火入鉢形	1			10.2	陶器		
	529 C		火入鉢形	1			7.5	陶器		
	530 A		火入鉢形	2	12.6			陶器	薩摩 豎野系	家紋あり
	531 C		火入鉢形	2	9.4	5.0	3.4	陶器	薩摩 豎野系	千鳥印鉄絵1羽
	532 C		火入鉢形	2	10.2	6.7		陶器	薩摩 豎野系	千鳥印鉄絵1羽
45	533 A		高坏形	1a	6.8	5.1	4.2	磁器		
	534 A		高坏形	1a	6.0	4.5	3.8	磁器		
	535 A		高坏形	1a	6.1	5.0	3.9	磁器		
	536 A		高坏形	1a	6.4	4.8	4.2	磁器		
	537 A		高坏形	1a	7.4	5.0	4.2	磁器		
	538 C		高坏形	1a	7.2	5.6	4.2	陶器	薩摩	
	539 C		高坏形	1a	6.8	4.8	4.0	陶器	薩摩	
	540 C		高坏形	1a	6.4	4.5	3.6	陶器	薩摩	
	541 C		高坏形	1a	8.5	5.5	4.4	陶器	薩摩	見込み:蛇ノ目釉刺
	542 A		高坏形	1a			2.0	陶器	薩摩 豎野系	目跡有り
	543 A		高坏形	1b	8.8	4.4	4.2	陶器	薩摩 加治木・始良系 龍門司窯	見込み:蛇ノ目釉刺
	544 C		高坏形	1b	8.5	5.3	4.5	陶器	薩摩	見込み:蛇ノ目釉刺
	545 C		高坏形	1b	8.6	4.1	4.4	陶器	薩摩	見込み:蛇ノ目釉刺
	546 C		高坏形	1b	9.0	4.5	4.4	陶器	薩摩	見込み:2重蛇ノ目
	547 C		高坏形	1b	9.0	4.7	4.8	陶器	薩摩	見込み:蛇ノ目釉刺
	548 C		高坏形	2	6.4	5.5	5.0	陶器	薩摩 豎野系	千鳥印鉄絵1羽
	549 C		高坏形	2	7.6	5.4	4.2	陶器	薩摩 豎野系	
	550 C		高坏形	2	6.8	4.8	4.2	陶器	薩摩 豎野系	千鳥印呉須絵
	551 A		高坏形	2	7.4	5.6	5.6	陶器	薩摩 豎野系	千鳥印鉄絵1羽
	552 A		高坏形	2			9.6	磁器		
553 A		高坏形	2	10.0	8.1	7.0	陶器	薩摩 豎野系	墨書	
554 A		高坏形	2	9.8	9.0	6.6	陶器	薩摩 豎野系	千鳥印鉄絵1羽	
555 C		高坏形	2	16.6	13.5	9.0	陶器	薩摩 豎野系	千鳥印鉄絵1羽	
556 A		高坏形	2			11.8	陶器	薩摩 豎野系	墨書:御看経所	
557 C		高坏形	2			11.0	陶器	薩摩 加治木・始良系 龍門司窯	見込み:蛇ノ目釉刺	
558 C		高坏形	3	4.4	11.1	9.4	陶器	薩摩 豎野系		
559 一括		瓶形	1	8.8	15.4	5.6	青磁器	肥前		
560 A		瓶形	1	13.4			陶器	薩摩 豎野系	家紋有り	
561 C		瓶形	1	12.0			陶器	薩摩 豎野系	千鳥印呉須絵1羽	
562 C		瓶形	2	8.6	12.8	6.0	陶器	薩摩 豎野系	千鳥印鉄絵1羽	
563 C		瓶形	2	6.4	10.6	5.4	陶器	薩摩 豎野系	千鳥印鉄絵1羽	
564 C		瓶形	2	6.3	14.3	6.6	陶器	薩摩		
565 A		瓶形	2			4.2	陶器	薩摩	底部系切り	
566 C		瓶形	2			5.5	陶器	薩摩		
567 C		瓶形	2			6.8	陶器	薩摩		
46	568 A		瓶形	3				陶器	薩摩 豎野系	家紋あり
	569 C		瓶形	3			7.6	陶器	薩摩	
	570 C		壺形	1	2.7			磁器		
	571 A		壺形	1	2.0			磁器		
	572 C		壺形	1			4.9	磁器		
	573 A		壺形	1	2.0			陶器	薩摩 加治木・始良系 龍門司窯	
	574 C		壺形	1	2.0			陶器	薩摩 加治木・始良系 龍門司窯	
	575 A		壺形	1	2.6			陶器	薩摩 加治木・始良系 龍門司窯	
	576 A		壺形	1			4.5	陶器	薩摩 加治木・始良系 龍門司窯	

第14表 宮之城島津家屋敷跡出土遺物一覧表(8)

挿図	番号	区	器形	分類	法量(cm)			種類	生産地	備考
					口径	高さ	底径			
	577 C		壺形	2a	8.4		陶器	薩摩		
	578 C		壺形	2a	11.4		陶器	薩摩		
	579 A		壺形	2a	10.8		陶器	薩摩		
	580 C		壺形	2b	11.2		陶器			
	581 B		壺形	2b	14.4		陶器	京焼系		
47	582 C		壺形	2b	13.4		陶器		薄手 口唇部貝目あり	
	583 C		壺形	2b	11.6		陶器		内面タタキ	
	584 C		壺形	2b	14.4		陶器	薩摩		
	585 C		壺形	2b	15.0		陶器	薩摩		
	586 C		壺形	2b	15.4		陶器	薩摩		
	587 C		壺形	2b	17.0		陶器	薩摩		
	588 C		壺形	2b	16.4		陶器	薩摩		
	589 C		壺形	2b	17.2		陶器			
	590 C		壺形	2c	13.8		陶器	琉球		
	591 C		壺形	2c	17.0		陶器	琉球		
	592 A		壺形	3			陶器	薩摩		
	593 A		壺形	3			陶器	琉球		
	594 B		壺形	3	5.0		陶器	薩摩	加治木・始良系 元立院窯 蛇蝸釉	
	595 C		壺形	3			陶器		朝鮮唐津の可能性がある	
48	596 A		壺形	3			陶器	薩摩	豎野系 象嵌	
	597 A		壺形	3		3.4	陶器	薩摩	豎野系	
	598 A		壺形	3			陶器	薩摩	加治木・始良系 龍門司窯	
	599 B		壺形	3			陶器			
	600 C		壺形	3			陶器			
	601 A		徳利形				磁器			
	602 C		徳利形			7.8	磁器			
	603 C		徳利形			9.0	磁器			
	604 B		徳利形			7.0	磁器			
	605 C		徳利形		4.2		陶器			
	606 C		徳利形		4.8		陶器	肥前		
	607 C		徳利形		8.6		陶器	薩摩		
	608 C		徳利形		5.6		陶器	薩摩		
	609 A		徳利形		2.6		陶器	薩摩		
	610 C		釜形		10.5	5.7	7.0	陶器	薩摩	苗代川系
	611 A		土鍋形		19.2			陶器		近代の可能性
	612 A		土鍋形		15.4	6.3	6.2	陶器		近代の可能性
	613 C		器台形		6.4	5.6	4.6	陶器	薩摩	
	614 C		器台形		7.2	5.8	5.2	陶器	薩摩	
	615 C		器台形		7.8	5.6	4.6	陶器	薩摩	
49	616 C		器台形		8.2	6.0	5.2	陶器	薩摩	
	617 C		器台形		7.0	5.7	5.2	陶器	薩摩	
	618 C		器台形		7.0	6.3	5.0	陶器	薩摩	
	619 C		器台形		7.2	5.7	4.6	陶器	薩摩	
	620 C		器台形		6.6	5.9	5.0	陶器	薩摩	
	621 C		器台形		6.4	5.6	4.5	陶器	薩摩	加治木・始良系 元立院窯
	622 A		器台形		6.5	6.3	5.0	陶器	薩摩	
	623 C		器台形		7.4	5.9	4.9	陶器	薩摩	
	624 C		器台形				4.6	陶器	薩摩	
	625 一括		ひょうそく形	1	4.4	6.1	4.4	陶器	薩摩	
	626 C		ひょうそく形	1	4.2	5.0	3.6	陶器	薩摩	
	627 A		ひょうそく形	1	5.4	4.7	3.8	陶器	薩摩	
	628 一括		ひょうそく形	2	4.8	2.1	3.4	陶器	薩摩	
	629 C		注口形	1a	4.2	5.2	4.2	陶器	薩摩	豎野系 千鳥印呉須絵1羽
	630 A		注口形	1a	6.0	9.8	5.6	陶器	薩摩	豎野系 スス付着
	631 C		注口形	1a	7.8	9.5	5.8	陶器	薩摩	スス付着
50	632 A		注口形	1a	6.0	8.9	5.8	陶器	薩摩	
	633 C		注口形	1a	7.4	9.0	5.6	陶器	薩摩	
	634 C		注口形	1a	7.0	8.9	5.0	陶器	薩摩	豎野系
	635 C		注口形	1a	7.4	8.7	5.8	陶器	薩摩	
	636 A		注口形	1a				陶器	薩摩	豎野系 スス付着
	637 C		注口形	1b	6.0	8.9	3.2	陶器	薩摩	
	638 C		注口形	1b	7.5	9.7	5.5	陶器	薩摩	スス付着
	639 C		注口形	1b	8.6	9.9	6.0	陶器	薩摩	
51	640 A		注口形	1b	8.4	8.5	3.8	陶器	薩摩	
	641 C		注口形	1c	9.8	10.4	5.2	陶器	薩摩	
	642 C		注口形	1c	9.8	9.5	6.4	陶器	薩摩	
	643 A		注口形	2	5.0			陶器	琉球	
	644 A		注口形	3	15.8	10.6		陶器	薩摩	底部付近にスス付着
	645 C		注口形	3	13.2			陶器	薩摩	
	646 C		注口形	3	12.2			陶器	薩摩	スス付着
	647 C		注口形	4	16.4	13.7	7.4	陶器	薩摩	
	648 C		注口形	4				陶器	薩摩	豎野系
52	649 C		注口形	4				陶器	薩摩	豎野系
	650 一括		注口形	5	6.0	8.8	6.4	陶器		2次焼成を受けている
	651 C		注口形	6	5.0			陶器	琉球	明治以降の可能性が高い
	652 C		注口形	6				陶器	京焼系	
	653 C		注口形	6	14.0	11.3	5.6	陶器	薩摩	

第15表 宮之城島津家屋敷跡出土遺物一覧表(9)

挿図	番号	区	器形	分類	法量(cm)			種類	生産地	備考
					口径	高さ	底径			
53	654 C		擂り鉢形	1	32.8			陶器	薩摩	口唇部目跡
	655 C		擂り鉢形	2	31.4	13.5	12.0	陶器	薩摩	苗代川系
	656 C		擂り鉢形	2	32.0	12.5	13.0	陶器	薩摩	苗代川系
54	657 C		擂り鉢形	2	34.0			陶器	薩摩	苗代川系
	658 C		擂り鉢形	2	30.4	14.5	13.4	陶器	薩摩	苗代川系
	659 A		擂り鉢形	3	30.9	14.7	16.0	陶器	薩摩	苗代川系
55	660 C		擂り鉢形	3	31.4			陶器	薩摩	苗代川系
	661 C		擂り鉢形	3	31.4	15.1	14.0	陶器	薩摩	苗代川系
	662 C		擂り鉢形	3	32.0	14.0	12.6	陶器	薩摩	苗代川系
56	663 C		擂り鉢形	3	33.6			陶器	薩摩	苗代川系
	664 C		擂り鉢形	3	32.4	15.8	15.6	陶器	薩摩	苗代川系
	665 C		擂り鉢形	3	15.0	7.3	7.0	陶器	薩摩	苗代川系
57	666 C		擂り鉢形	3	33.0	15.8	14.4	陶器	薩摩	苗代川系
	667 C		擂り鉢形	3	31.8	13.3	12.2	陶器	薩摩	苗代川系
	668 C		擂り鉢形	3	33.0	13.8	13.6	陶器	薩摩	苗代川系
58	669 C		擂り鉢形	4	24.0	12.0	8.8	陶器	薩摩	苗代川系
	670 C		擂り鉢形	4	32.8	24.4	13.0	陶器	薩摩	苗代川系
	671 B		擂り鉢形	4	8.4	4.2	1.8	陶器	薩摩	苗代川系
59	672 C		擂り鉢形	5				陶器	堺・明石系	
	673 C		擂り鉢形	5				陶器	備前	中世の遺物と思われる
	674 A		擂り鉢形	5	23.4			陶器	堺・明石系	
60	675 A		擂り鉢形	6				陶器	肥前	
	676 C		擂り鉢形	6	36.6	14.0	11.0	陶器	肥前	
	677 C		擂り鉢形	6	35.8			陶器	肥前	
61	678 C		擂り鉢形	7	24.0			陶器	薩摩	苗代川系
	679 A		擂り鉢形	8	17.0			陶器	薩摩	苗代川系
	680 A		擂り鉢形	8	9.0			陶器	薩摩	苗代川系
62	681 C		擂り鉢形	8			5.3	陶器	薩摩	加治木・始良系
	682 C		擂り鉢形	8			10.8	陶器	薩摩	
	683 A		擂り鉢形	8			7.8	陶器	薩摩	
63	684 C		捏ね鉢形	1a	24.0	7.3	14.8	陶器	薩摩	苗代川系
	685 C		捏ね鉢形	1a	20.2	4.3	13.0	陶器	薩摩	苗代川系
	686 C		捏ね鉢形	1a	34.8	8.2	17.0	陶器	薩摩	苗代川系
64	687 C		捏ね鉢形	1b	26.0	5.6	19.0	陶器	薩摩	苗代川系
	688 C		捏ね鉢形	1b	29.4	8.0	23.8	陶器	薩摩	苗代川系
	689 A		捏ね鉢形	1b	29.0	9.5	18.0	陶器	薩摩	苗代川系
65	690 C		捏ね鉢形	1b	31.6	7.8	21.6	陶器	薩摩	苗代川系
	691 C		捏ね鉢形	1c	31.8	9.1	24.4	陶器	薩摩	苗代川系
	692 C		捏ね鉢形	1c	30.0	9.3	23.4	陶器	薩摩	苗代川系
66	693 C		捏ね鉢形	1c	31.8	10.1	23.2	陶器	薩摩	苗代川系
	694 C		捏ね鉢形	1c	32.0	10.5	23.6	陶器	薩摩	苗代川系
	695 A		捏ね鉢形	1d	21.8	7.9	17.2	陶器	薩摩	苗代川系
67	696 C		捏ね鉢形	1d	22.0	8.5	16.6	陶器	薩摩	苗代川系
	697 C		捏ね鉢形	1d	28.5	10.4	12.4	陶器	薩摩	苗代川系
	698 C		捏ね鉢形	2	16.8	8.0	9.0	陶器	薩摩	苗代川系
68	699 C		捏ね鉢形	2	23.3	11.2	11.8	陶器	薩摩	苗代川系
	700 C		捏ね鉢形	2	35.6	15.9	19.0	陶器	薩摩	苗代川系
	701 A		捏ね鉢形	2	32.0			陶器	薩摩	苗代川系
69	702 C		捏ね鉢形	2	33.0	15.8	8.5	陶器	薩摩	苗代川系
	703 A		捏ね鉢形	2	13.6	8.4	9.6	陶器	薩摩	苗代川系
	704 C		捏ね鉢形	2	14.2	7.3	7.4	陶器	薩摩	苗代川系
70	705 C		捏ね鉢形	3	10.6			陶器	薩摩	苗代川系
	706 C		捏ね鉢形	3	15.4	8.8	9.0	陶器	薩摩	苗代川系
	707 C		捏ね鉢形	3	14.5	9.3	9.2	陶器	薩摩	苗代川系
71	708 A		捏ね鉢形	3				陶器	薩摩	苗代川系
	709 C		捏ね鉢形	4	21.3	8.5	12.2	陶器	薩摩	苗代川系
	710 C		甕形	1	33.0			陶器	薩摩	苗代川系
72	711 C		甕形	1	32.0			陶器	薩摩	苗代川系
	712 C		甕形	1	32.0			陶器	薩摩	苗代川系
	713 A		甕形	2a	23.0			陶器	薩摩	苗代川系
73	714 C		甕形	2b	26.0	29.3	16.8	陶器	薩摩	苗代川系
	715 A		甕形	2b	14.2			陶器	薩摩	苗代川系
	716 C		甕形	2b	24.6			陶器	薩摩	苗代川系
74	717 C		甕形	2b	33.0			陶器	薩摩	苗代川系
	718 C		甕形	2b	32.0	37.0	19.2	陶器	薩摩	苗代川系
	719 C		甕形	2b	24.6	30.4	16.0	陶器	薩摩	苗代川系
75	720 C		甕形	2b	25.4			陶器	薩摩	苗代川系
	721 C		甕形	2c	32.0			陶器	薩摩	苗代川系
	722 C		甕形	2c	31.0			陶器	薩摩	苗代川系
76	723 C		甕形	2c	49.8			陶器	薩摩	苗代川系
	724 C		甕形	3	42.0			陶器	薩摩	苗代川系
	725 C		甕形	4	31.4			陶器	薩摩	苗代川系
77	726 C		植木鉢形	1	20.8			陶器	琉球	
	727 C		植木鉢形	1				陶器	琉球	
	728 C		植木鉢形	2				陶器	琉球	
78	729 C		植木鉢形	2	18.4	9.4	10.8	陶器	薩摩	
	730 C		蓋形	1	4.0	3.0	10.2	磁器	肥前	

第16表 宮之城島津家屋敷跡出土遺物一覧表(10)

挿図	番号	区	器形	分類	法量(cm)			種類	生産地	備考
					口径	高さ	底径			
68	731 C		蓋形	1	4.4	3.5	11.4	磁器	肥前	
	732 C		蓋形	1	4.2	2.8	10.3	磁器	肥前	
	733 C		蓋形	1	4.6	2.9	10.1	磁器	肥前	
	734 C		蓋形	1	4.2	2.9	9.8	磁器	肥前	
	735 C		蓋形	1	3.8	2.9	10.4	磁器	肥前	
	736 C		蓋形	1	4.0	2.9	9.8	磁器		
	737 C		蓋形	1	4.0	2.8	9.7	磁器	肥前	
	738 C		蓋形	1	3.8	2.8	10.2	磁器		
	739 A		蓋形	1	5.6	2.6	9.6	磁器		
	740 C		蓋形	1	4.3	3.2	10.2	磁器		
69	741 A		蓋形	1	4.0	10.0	2.7	磁器		
	742 C		蓋形	1	4.0	2.0	12.0	陶器	薩摩	蛇蝎釉
	743 C		蓋形	1	3.6	2.5	10.0	磁器		
	744 C		蓋形	1	4.2	2.6	10.2	磁器		
	745 A		蓋形	1	4.9	2.7	10.6	陶器	中国	
	746 A		蓋形	1	9.6	2.3		陶器	薩摩	
	747 C		蓋形	1	3.3			磁器	肥前	
	748 C		蓋形	2	7.6	2.1		磁器		
	749 A		蓋形	2	7.4	1.4		磁器		
	750 C		蓋形	2	7.4		7.0	磁器	肥前	
70	751 A		蓋形	2	5.2	1.5		磁器		
	752 C		蓋形	2	10.0	2.8	9.0	磁器	肥前	
	753 A		蓋形	2	9.8	2.5		磁器		
	754 A		蓋形	2	9.6	2.5		磁器		
	755 A		蓋形	2	10.1			磁器		
	756 C		蓋形	2	9.5			磁器		
	757 A		蓋形	2	11.0	2.2		磁器		
	758 A		蓋形	2	12.5			磁器		
	759 C		蓋形	2	13.0	2.7		磁器		
	760 C		蓋形	2	16.1			磁器		
71	761 C		蓋形	2	14.4	3.6		磁器		
	762 C		蓋形	2	14.7	2.5	14.0	磁器		
	763 A		蓋形	3	9.8	2.8		磁器		球状つまみ欠損
	764 A		蓋形	3	3.5	1.7	2.0	陶器	薩摩	
	765 A		蓋形	3	4.9	2.6	3.4	陶器	薩摩	
	766 A		蓋形	3	3.3	2.0	2.2	陶器	薩摩 豎野系	
	767 A		蓋形	3	6.4	3.3	4.8	陶器	薩摩	
	768 A		蓋形	3	8.0	3.6	6.2	陶器	薩摩	
	769 A		蓋形	3	6.4	2.9	4.5	陶器	薩摩	
	770 A		蓋形	3	6.5	2.5	5.0	陶器	薩摩	
72	771 A		蓋形	3	8.0	3.0	6.0	陶器	薩摩	
	772 A		蓋形	3	7.0		5.4	陶器	薩摩 豎野系	
	773 C		蓋形	3	7.8		6.2	陶器	薩摩	
	774 A		蓋形	3	6.1		5.0	陶器	薩摩	墨書陶器
	775 C		蓋形	3	8.2	5.7	4.1	陶器		
	776 C		蓋形	3	8.0	6.1	3.6	陶器	薩摩	
	777 C		蓋形	3	8.2	3.4	6.4	陶器	薩摩	
	778 C		蓋形	3	11.2	3.4	8.2	陶器	薩摩	
	779 C		蓋形	3	9.0	3.1	6.7	陶器	薩摩	重ね焼き跡
	780 C		蓋形	3	9.7	2.9	7.2	陶器	薩摩	重ね焼き跡
73	781 C		蓋形	3	12.4	4.2	9.8	陶器	薩摩	
	782 A		蓋形	3	14.4	4.5	11.2	陶器	薩摩	上面に重ね焼きの跡あり
	783 A		蓋形	3	12.4	4.2	9.2	陶器	薩摩	
	784 A		蓋形	3	14.2	4.7	10.4	陶器	薩摩	上面に重ね焼きの跡あり
	785 A		蓋形	3	14.6		11.2	陶器	薩摩	上面に重ね焼きの跡あり
	786 A		蓋形	4	5.7	2.9	4.0	陶器	琉球	
	787 C		蓋形	4	5.0	4.4		陶器	琉球	
	788 A		蓋形	4	5.8	2.8	4.7	陶器	琉球	象嵌
	789 C		蓋形	4	6.0	2.3		陶器	薩摩	近代の遺物か？
	790 C		蓋形	5	8.7	2.8	6.9	陶器	薩摩 加治木・始良系	
74	791 C		蓋形	5	2.4	2.3	1.3	陶器	薩摩 豎野系	
	792 C		蓋形	5	2.6	2.1	1.3	陶器	薩摩	
	793 C		蓋形	5	7.6	2.7	4.6	陶器		
	794 A		蓋形	5	10.4	3.7		陶器	薩摩 加治木・始良系	
	795 A		蓋形	5	8.7			陶器		
	796 A		蓋形	6	7.4	2.1	5.4	陶器	琉球	飛びカンナ
	797 A		蓋形	7	10.0	0.6	6.6	陶器		
	798 C		蓋形	7	10.0	2.1		陶器		
	799 A		蓋形	7	6.4			磁器		
	800 C		蓋形	7	14.0	4.5	10.2	陶器	琉球	
75	801 C		蓋形	7	14.5	5.3	9.0	陶器	琉球	墨書
	802 C		その他					磁器	肥前	色絵
	803 C		その他		10.6	5.0	7.8	陶器	薩摩 豎野系	
	804 B		その他		6.6	4.7	6.6	陶器		
	805 C		その他		20.0	12.0	10.0	陶器	薩摩	
	806 A		その他		14.0			陶器	薩摩	
	807 C		その他				11.1	陶器		灯明皿としての用途が想定される

第17表 宮之城島津家屋敷跡出土遺物一覧表(11)

挿図	番号	区	器形	分類	法量(cm)			種類	生産地	備考		
					口径	高さ	底径					
	808	C	その他				8.0	陶器	薩摩	堅野系		
	809	C	その他		4.4			陶器	薩摩			
	810	A	その他		14.3		8.3	陶器	薩摩	堅野系	灯明皿としての用途が考えられる	
72	811	C	その他					陶器			取っ手付き	
	812	B	その他				8.0	瓦質?				
	813	C	その他		9.8	11.5	6.6	陶器	薩摩	堅野系	千鳥印鉄絵2羽	
	814	A	その他		8.2	9.1	6.8	陶器	薩摩	堅野系		
	815	C	その他		20.6	8.1	20.0		薩摩		さや鉢	
	816	C	皿形		5.6	1.2	3.8	土器				口縁部にスス付着
	817	C	皿形		9.5	2.7	6.0	土器				口縁部にスス付着
	818	C	皿形		9.9	2.4	7.2	土器				口縁部にスス付着
	819	C	皿形		11.0	1.9	8.8	土器				
	820	C	皿形		7.6	1.2	3.8	土器				墨書
	821	C	鉢形				10.4	土器				
	822	C	鉢形		7.2	4.9	6.6	土器				
	823	C	鉢形				16.4	土器				墨書
73	824	C	鉢形		17.6	12.9	14.8	土器				
	825	C	鉢形				13.0	土器				
	826	C	焙烙					土器				
	827	C	焙烙					土器				
	828	A	焙烙					土器	薩摩			墨書
	829	B	鉢形					土器				墨書
	830	C	蓋形		9.0	2.2	8.2	土器				焼塩壺の蓋の可能性
	831	C	焼塩壺		6.6	7.5	6.0	土器				
	832	C	ひょうそく形		4.2	1.7	2.8	土器				スス付着
	833	A	ひょうそく形		5.0	1.5	2.7	土器				スス付着
	834	C	軒丸瓦					瓦				
	835	C	軒丸瓦					瓦				
74	836	一括						瓦				
	837	A	軒平瓦					瓦				
	838	C	鉢形				14.2	瓦質				中世の可能性あり
	839	B	鉢形					瓦質				獅子頭部分
	840	A	特殊		8.0			磁器				焼き継ぎ 碗形
	841	A	特殊					磁器				焼き継ぎ有 鉢形
	842	A	特殊					磁器				熔着2個体 碗形
	843	C	特殊				3.8	磁器				熔着痕 碗形
	844	A	特殊					磁器				熔着2個体 碗形
	845	C	特殊		9.6	5.4	3.4	磁器				熔着痕 碗形
846	A	特殊		4.2			磁器				熔着3個体 蓋形	
	847	A	人形					土製品				
	848	B	人形					土製品				
	849	A	人形					土製品				
	850	B	人形					土製品				首のみ
75	851	B	人形					土製品				
	852	A	ミニチュア					陶器				土塀
	853	B	ミニチュア					土製品				
	854	C	土製・陶磁製品					土製品				面
	855	C	土製・陶磁製品					土製品				おかめ
	856	C	土製・陶磁製品					磁器				鶏か? 色絵
	857	C	土製・陶磁製品					磁器				亀か?
	858	C	土製・陶磁製品					土製品				罫十字か?
	859	A	土製・陶磁製品					土製品				鈴形土製品
	860	A	その他					磁器				レンゲ
	861	A	その他					磁器			レンゲ	
	862	C	その他					陶器			メンコ	
	863	C	その他		6.8	3.4		土器			るつぼ	
	864	A	鉛玉					鉛			西南戦争関連か	
	865	B	鉛玉					鉛				
	866	A	こうがい					ガラス製品				
	867	一括	こうがい					ガラス製品				
	868	一括	こうがい					ガラス製品				
	869	A	こうがい					ガラス製品				
	870	A	こうがい					ガラス製品				
	871	A	キセル					金属製品				
	872	A	キセル					金属製品				
76	873	A	キセル					金属製品				
	874	C	キセル					金属製品				
	875	A	キセル					陶器?				
	876	A	硯					石製品				
	877	A	硯					石製品				刻書:中村八兵衛?
	878	A	硯					石製品				
	879	A	砥石?					石製品				刻書:中馬氏院之也?・天正九年九月?
	880	C	砥石					石製品				
	881	C						石製品				
	882	C	石臼					石製品				
77	883	C						石製品				
	884	C						石製品				

第18表 宮之城島津家屋敷跡出土遺物一覧表(12)

挿図	番号	区	器形	分類	法量(cm)			種類	生産地	備考
					口径	高さ	底径			
	885	C	蓋				木製品			
	886	C	下駄				木製品			
	887	C	下駄				木製品			
77	888	C	下駄				木製品			
	889	C	その他		8.4		磁器		戦時中 防衛食器	
	890	C	その他		8.4		磁器		戦時中 防衛食器	
	891	C	その他		8.1	1.1	磁器		戦時中 防衛食器	

第19表 宮之城島津家屋敷跡出土遺物一覧表(13)

挿図	番号	種類	区	直径(cm)	内径(cm)	重量(g)	挿図	番号	種類	区	直径(cm)	内径(cm)	重量(g)
	892	洪武通宝	A	2.38	0.65	2.63		904	寛永通宝	C	2.42	0.56	2.52
	893	洪武通宝	A	2.30	0.50	3.59		905	寛永通宝	C	2.44	0.59	3.13
	894	洪武通宝	C	2.36	0.60	2.15		906	寛永通宝	C	2.44	0.57	3.34
	895	洪武通宝	C	2.37	0.66	2.40		907	寛永通宝	C	2.50	0.53	3.56
	896	寛永通宝	A	2.50	0.60	3.12		908	寛永通宝	C	2.43	0.50	2.98
78	897	寛永通宝	A	2.35	0.60	2.59	78	909	寛永通宝	A	2.50	0.60	3.32
	898	寛永通宝	A	2.27	0.70	2.66		910	寛永通宝	A	2.53	0.60	3.56
	899	寛永通宝	A	2.44	0.70	3.37		911	寛永通宝	A	2.46	0.62	3.22
	900	寛永通宝	A	2.42	0.60	3.29		912	寛永通宝	A	2.53	0.57	3.86
	901	寛永通宝	A	2.21	0.66	2.22		913	二朱金	A	1.30	0.80	1.60
	902	寛永通宝	B	2.43	0.54	2.82					(縦)	(横)	
	903	寛永通宝	C	2.27	0.62	2.38		914	一銭		2.70		6.84

第6章 調査のまとめ

第1節 遺構について

今回の発掘調査においては、調査地中央部分において石垣溝が検出され、これが垂水島津家と宮之城島津家の屋敷境を示す遺構である可能性が極めて高いことがわかった。しかし、その上面に位置する遺物廃棄土坑からは、大正13年6月特許取得の遺物が出土しており、屋敷の廃絶と大きく時間的な隔たりが生じている。この点に関しては、まず、明治年間の基礎より低いレベルにある点や屋敷が練兵場として利用されていた点、その後競馬などが催されている点などから、やはり明治初年の段階で造成が施されていたと思われる。その後、旧県庁舎建設時に再度大規模な造成工事を実施した際、再度廃棄土坑を構築し、結果複数期のものが重なったために生じたものであると想定したい。

さて、天保年間の鹿児島城下絵図によると、旧県庁の区画は現在とあまり変化しておらず、両屋敷の敷地を推定する手がかりとして位置づけられるものと思われる。また、各調査区において根石が確認され、これはすり鉢状に地下までしっかりと組まれており、軟弱な地盤を補強して建物を建てていたことがうかがえる。調査区が狭く、建物の規模や性格などは不明であるが、建て替えも行われていたと考えられる。

第2節 遺物について

遺物は、江戸時代から明治時代にかけての陶磁器類が中心に出土している。これらの出土資料は膨大な数に上り、今回の整理報告ではこれらの資料を十分に検討出来たとは言いがたい。よって、いくつかの項目に焦点を当てて当遺跡出土の遺物を概観してみたい。

まず、京焼風陶器の出土量が多い点を挙げたい。

次に、轡十字の家紋が記された白色胎土の薩摩焼き、いわゆる白薩摩があることを挙げたい。このような資料

は、これまでも鹿児島城や松尾城跡など島津家縁の土地などで出土しており、当地が島津分家の屋敷であったことを裏付ける資料として位置づけられるものである。

次に、焼継のある資料が出土している点を挙げたい。このような技術者が、薩摩藩内に存在していたのかそれとも焼継が施されたものが流入してきたのか、今後の類例を待って検討してしていく必要がある。

次に、国外産の陶磁器も中国を中心に出土しているが、イギリスのドーソン窯製作の皿も出土している点を挙げたい。これは、「ザ・サブライズ」というパターンの小皿で、当屋敷跡からは2個体分が出土している。

次に、特に陶器に多い傾向があるが、文字や文様の記された資料が多く発見されている点を挙げたい。さらに、これは京焼風陶器に多い。高台部分が無釉であり書きやすかったのであろうか。これに関連して、薩摩焼に同様な文字があらかじめ記された資料がある。これは、施釉前に記されており、先に挙げた資料が単なる落書きではなく、特定の場所などを示す印であった可能性も考えられよう。この点に関しては、高坏形底部内面に御看経所の墨書があり、器形から仏具と考えられる点からも指摘できよう。このように、陶磁器に墨書を施す例が当時どの程度あったのか薩摩藩内の資料はもちろんのこと他藩の資料とも比較検討を進めていく必要がある。

次に、第2次世界大戦時のものとして、防衛食器と呼ばれるものを挙げたい。これは、戦時中に缶詰の代用品として製造されたものである。小松旭氏の研究によれば、「戦時中において軍事関係及び官公庁関係施設」に多く出土する傾向がうかがえるという(小松 1999)。当屋敷跡出土の資料も、この傾向と合致する。このような戦時中の資料も、歴史を語る貴重な文化財であり、記録化の方向性には細心の注意が必要である。

さて、鹿児島県内の陶磁器研究は近年の窯跡の発掘調査によって、ようやく基準資料が積み上げられつつあるが、消費地の様相は今なお不明瞭である。これは、鹿児

島城下や周辺の村落、あるいは地方等に共通して言えることである。この要因の1つには、江戸時代以降現在に至るまで連綿と生活が営まれており、発掘調査が困難であったり、宅地造成や様々な都市開発により破壊されていることが挙げられよう。解明されていることのほうが少ない事実と向き合った場合、近世遺跡の取り扱いに関しては慎重に対応していかななくてはならない。

また、薩摩藩生産の陶磁器独自の編年を早急に整備充実させていく必要がある。この場合、近世遺跡における遺物の現場での選別廃棄は、詳細なデータを抽出した後に実施する必要がある。

第3節 垂水・宮之城島津家屋敷跡の変遷

両屋敷に関する詳細な記録は、報告書作成期間中では探すことが出来なかった。今後、資料収集と現地踏査や発掘調査によってより発展的に鹿児島城下の変遷を明らかにしていく必要がある。屋敷が設置される以前及び、設置された詳細な時期に関しては明確に示すことができなかった。この点に関しては、今後明らかにして行かなくてはならない課題である。

次に、屋敷が取り払われて以降の土地利用の変遷をまとめてみたい。現段階では明治3年10月2日には両屋敷を取り払って練兵場を造る旨の文書があり、この頃に両屋敷がその役目を終えたことがうかがえる。練兵場とは、明治はじめに実施された藩政改革によって設置されたもので、その後、明治4年の廃藩置県によりその役目を終えている。明治8年頃には酪農会社が放牧地として利用していたようである。明治10年の西南戦争時には、薩軍はこの旧練兵場から出陣したことがわかっている(吉満2002)。明治27年には、鹿児島尋常中学校が設立された。西南戦争から学校設立以前の土地利用については、競馬が催されていたという記述が残っている。明治43年には、教室の一部や付属施設6棟が火災により焼失し、大正2年に学校は移転された。鹿児島県庁が当地へ移転したのは、大正14年10月のことである。これ以降、平成8年に鴨池新町に移転するまでの間、県政の中心地として機能していた。

第4節 総括

以上のように、両屋敷跡の発掘調査により江戸時代を中心とした多くの成果が上がっている。これと同時に、多くの問題点も浮き彫りにされた。城跡や、上級武士階級層の屋敷や寺院等の発掘調査は実施され、ある程度の調査成果は上がっている。しかし、それ以外になると十分であるとは言い難い。当時の階層社会が、遺構や遺物にどのように反映されるのか全く不明なままである。この点を考古学的手法で明らかにしていく必要がある。

◆引用・参考文献

- 小松 旭 1999 「防衛食容器に関する一考察」『西海考古』創刊号 西海考古同人会
- 橋口 亘 2002 「鹿児島県地域における16～19世紀の陶磁器出土様相～鹿児島県地域の近世陶磁器流通～」『鹿児島地域史研究』2
- 吉満庄司 2002 「西南戦争における薩軍出陣の「練兵場」について」『敬天愛人』第20号 (財)西郷南洲顕彰会
- 渡辺芳郎 2002 「鹿児島県・宮崎県における肥前陶磁」『国内出土の肥前陶磁－西日本の流通を探る』九州近世陶磁学会



第79図 明治10年鹿児島略図



第80図 明治42年発行地図

付 編

垂水・宮之城島津家屋敷跡出土の近世陶磁器について

渡 辺 芳 郎（鹿児島大学法文学部）

2002年12月4日、鹿児島県立埋蔵文化財センター・黒川忠広氏のご厚意により、垂水・宮之城島津家屋敷跡出土の近世陶磁器を実見する機会を得た。垂水島津家は藩主・島津本家に次ぐ「一門」四家のうちの一家であり、宮之城島津家も「一門」の下の「一所持」というように、ともに薩摩藩においては高位に属する家格である。また屋敷も鹿児島城のすぐ前という、いわば「一等地」に所在する。このような遺跡の性格と、出土した陶磁器の内容とがどのように関連するかは、鹿児島城下町だけでなく、薩摩藩内における陶磁器の流通形態・使用形態などを考える上で、興味深い示唆を与えてくれる。

本稿は、この遺跡出土の近世陶磁器、とくに国産陶磁器について、気づいた点を整理し、それが持つ意味について警見を述べるものである。ただし膨大な資料を十分に観察する時間が得られなかったため、多分に「印象批評」的な内容に終始してしまうことをご容赦願いたい。

垂水・宮之城島津家屋敷跡出土の近世国産陶磁器全体において、以下の4点がまず目に付く特徴として挙げられる。

- (1) 堅野窯系製品（とくに白薩摩）の出土量が多いこと
- (2) 京焼系の色絵陶器の出土量が多いこと
- (3) 肥前系磁器のうち、上手の大皿や色絵製品が目立つこと
- (4) 在地産染付磁器の出土が目立つこと

まず(1)堅野窯系製品が多く出土している点であるが、具体的には白薩摩製品、白土・黒土の象嵌技法による三島手、宋胡録写などである。このことは鹿児島城跡の出土資料（戸崎・吉永編1983、弥栄編1992など）と共通するものである。本遺跡出土の白薩摩製品は、堅野冷水窯跡出土資料（戸崎他編1978）の素地や器種と共通するものが多く、冷水窯製品が、鹿児島城とともに、この両島津家にも供給されていたと推測される。一方で冷水窯出土資料とは異なる素地・特徴を持つ白薩摩も見られ、その一部は堅野長田窯・稻荷窯の製品である可能性を示唆している。

ところで出土した白薩摩には呉須と鉄絵による、いわゆる「千鳥印」を描くものが多く見られる。「千鳥印」の意味については、さまざまな議論があるが（大武2002など参照）、いまだ決着を見ていない。考古学の立場か

らすれば、性急に意味を求める前に、「千鳥印」の形態分類、描かれる器種とその特徴など、事象としての整理を行い、その上で出土状況などを検討した上で、描く意味について議論を進めるべきであろう。その点で本遺跡出土資料は、良好な手がかりとなる。

また三島手・宋胡録写も、鹿児島城跡出土のそれに比べると量的・器種的にやや少ないものの、比較的多く出土していることも注目される。筆者はかつて、これら堅野系製品が、当時の社会的身分や階層と結びついて流通していた可能性を指摘したが（渡辺2000・2001）、本遺跡から数多く出土していることは、これを支持する材料となる。

(2)京焼系色絵陶器は、大龍寺跡（出口編1992）をはじめとして、鹿児島城下町の他の遺跡からも出土しているが、本遺跡の出土量は、それらを上回るものと思われる。上級武士層における京焼系色絵陶器への需要の高さがうかがわれる。京焼系陶器は、一種のブランドとして全国的に流通し、肥前地方でもそれをコピーした製品（肥前系京焼風陶器）を生産していたことで有名であるが、薩摩焼の側から見ると、「京焼志向」が強く存在していたと推定される。つまり各種文献には、多少の「伝承」的色合いも強いものの、数度にわたって京焼窯場へと堅野系陶工が修行に出たと伝えられ、その技術導入の成果として「薩摩錦手」が作られるようになったと考えられている（野元1982など）。また堅野冷水窯跡などから出土した白薩摩の中には、せんじ碗や小杉碗を模倣したと考えられる器形が含まれていることも、「京焼志向」の一端を示しているよう。

もちろん京焼系色絵陶器が数多く出土していることが、直接に薩摩焼における錦手出現に結びつくわけではないが、京焼系色絵陶器に対する需要の高さが、堅野系窯場における錦手薩摩生産へと向かうバックボーンとして存在したと想像されよう。

(3)肥前系磁器は、薩摩藩による他藩産陶磁器流入の規制があったとはいえ（川内市歴史資料館編2000）、近世を通じて遺跡から出土しており（渡辺2002）、当時の人々にとって欠くことのできない製品であったと考えられる。本遺跡出土の肥前磁器は、その出土量が増大する18世紀以降の「くらわんか手」も見られるが、それとともに上手の大皿類や、色絵磁器なども目立つ点は、鹿児

島城跡や、宮之城島津家の菩提寺である宮之城町宗功寺跡出土資料（川添編1997）などと共通性がある。また輸出品にしばしば見られる色絵の鳥形と思われる置物なども出土している点は注目されよう。

このほか本遺跡からは、明朝から清朝にかけての中国産陶磁器、イギリス・ドーソン窯の小皿、また琉球産の陶器類など海を渡ってきた陶磁器類も多く、一方、国内産としては肥前産のいわゆる二彩唐津の甕や大鉢、関西系と思われる碗類、山口の萩焼碗など、さまざまな産地の製品が出土しており、上記(1)～(3)の諸特徴とあわせて、上級武士層の陶磁器の使用状況を知る上で重要である。他藩の城下町遺跡との比較検討が必要であろう。また元立院窯産の蛇蝎釉碗が出土しているが、これは文献が伝えているように、茶道具として用いられた可能性もある。

以上の(1)～(3)は、垂水・宮之城島津家屋敷跡という遺跡の性格そのものと結びつく特徴であるが、(4)はやや異なる意味合いを持つものと考えられる。本遺跡の「はきだめ状遺構」より大量の染付磁器が出土しているが、その中に鹿児島在産地と考えられる端反碗が多く含まれている。鹿児島における磁器生産は、18世紀後半、天草陶石の流通により、川内市平佐焼を中心に本格化する。鹿児島では、19世紀前半から中頃にかけて、在産陶磁器の増加が顕著になることが指摘されているが（橋口2002）、本資料はその一端を示すものといえよう。

本遺跡は上級武士層の屋敷地とはいえ、当然、彼らの下で働くさまざまな人々も生活していたはずである。本遺跡からは、苗代川産の甕・壺・鉢・摺鉢や、加治木・始良系の陶器碗・皿・杯、「くらわんか手」の肥前磁器なども多量に出土しており、その組み合わせは鹿児島県内の他の近世遺跡の様相と共通するものである（渡辺2002）。これらは、多少の地域差を持つ可能性はあるが、近世鹿児島の一般的な陶磁器組成と推定され、本遺跡では、屋敷内で働く人々の日用品であったと考えられる。同様に、「はきだめ状遺構」の在産染付磁器もまた彼らが使用していたと想像される。つまり、これら染付磁器の廃棄の契機は不明であるが、一括廃棄であるとするならば、19世紀前半から中頃の人々の生活の中に在産磁器がかなり浸透していたことを示す好材料と言えよう。今後の在産磁器の流通様相を知る上で貴重な手がかりとなる。

以上まとめるならば、垂水・宮之城島津家屋敷跡出土の陶磁器の組成は、上級武士層の使用の様相とともに、屋敷内において働いていた人々のそれをも伝えていると

言える。それゆえ本遺跡と、他の城下町遺跡や近世遺跡の出土資料とを比較することで、社会階層間での陶磁器組成の違い、つまりは陶磁器流通や使用における社会階層的差異の抽出が可能になるであろう。また逆に薩摩藩の中心地であり、名実ともに最高位に位置する島津本家の住まい・鹿児島城跡との比較も必要となろう。本遺跡のより詳細な分析が求められる。

2002年12月26日 了

◆参考文献

- 大武進2002「唐千鳥印の「陶家窯印説」についての試論」『からから記念号』pp. 139-150
川添俊行編1997『松尾城及び宗功寺跡(3)』宮之城町教育委員会 宮之城
川内市歴史資料館編2000『用と美 平佐焼の世界展』図録 川内市歴史資料館 川内
田沢金吾・小山富士夫1941『薩摩焼の研究』座右宝刊行会 東京(1987年 国書刊行会復刻 東京)
出口浩編1992『大龍遺跡 第1集 歴史時代編 大龍寺跡』鹿児島市教育委員会 鹿児島
戸崎勝洋他編1978『堅野(冷水)窯址』社団法人鹿児島共済南風病院 鹿児島
戸崎勝洋・吉永正史編1983『鹿児島(鶴丸)城本丸跡』鹿児島県教育委員会 鹿児島
野元堅一郎1982「薩摩」『日本やきもの集成12』平凡社 pp. 123-131 東京
橋口亘2002「鹿児島県地域における16～19世紀の陶磁器の出土様相－鹿児島県地域の近世陶磁器流通－」『鹿児島地域史研究』No. 1 pp. 3-14
弥栄久志編1992『鹿児島城二之丸跡(遺物編)』鹿児島県教育委員会 鹿児島
渡辺芳郎2000「宋胡録と薩摩焼宋胡録写－考古学資料の検討－」『メコン流域の文明化に関する考古学的研究 科学研究費補助金研究成果報告書(代表 新田栄治)』鹿児島大学法文学部 pp. 68-91 鹿児島
渡辺芳郎2001「考古学から見た近世薩摩焼」『鹿児島学のプロフィール2』鹿児島大学 pp. 43-48 鹿児島
渡辺芳郎2002「鹿児島県・宮崎県における肥前陶磁」『国内出土の肥前陶磁－西日本の流通を探る』九州近世陶磁学会 pp. 679-835 有田

※資料観察ならびに本稿執筆の機会を与えてくださった黒川忠広氏に感謝申し上げます。

垂水・宮之城島津家屋敷跡出土陶磁

— 国外産輸入陶磁を中心に —

橋 口 巨

1 はじめに

垂水・宮之城島津家屋敷跡発掘調査の整理作業に伴い、同遺跡出土の中近世遺物を実見する機会を得た。本稿では垂水・宮之城島津家屋敷跡出土の中近世陶磁、特に国外産輸入陶磁を中心にその出土様相について述べてみたい。

垂水・宮之城島津家屋敷跡出土の輸入陶磁には、明～清代を中心とした中国産のものと、19世紀のイギリス産のものがみられる。

2 中国産陶磁

中国製品については明～清代の青花磁器が多く出土している。

明代：

明代の青花では、景德鎮窯系のものと漳州窯系の製品がみられる。鹿児島県下の山城遺跡等の多くでポピュラーにみられる碁笥底の青花皿（小野染付皿C群）図328や、漳州窯系の粗製青花（鈴木G群）などが垂水・宮之城島津家屋敷跡でも出土している。17世紀明末頃の芙蓉手の製品や、色絵製品では赤・緑色を用いた色絵合子蓋、漳州窯系の色絵皿などもみられるほか、青釉小皿などの彩釉陶器の類も確認できる（註1）。また図490は蓮花を模した17世紀明末頃の青花の盤とみられ、高台内には「大明萬曆年製」銘が記される。類品として東京国立博物館の「青花蓮花形盤」があるが（註2）、遺跡からの出土例は稀少とみられる。

県内の外城・郷村部に立地する諸遺跡でポピュラーにみられる青花碗・皿が垂水・宮之城島津家屋敷跡でも出土している一方で、大皿を含む芙蓉手の製品（図491など）や、「古染付」と俗称されるような類の明末の青花、色絵製品などがみられる点は、垂水・宮之城島津家屋敷跡に該当する垂水・宮之城島津家屋敷跡において、比較的高い社会階層の人々の存在を反映しているものと考えられる（註3）。

清代：

清代の製品には、景德鎮窯系とみられるものと、徳化窯など福建省系や広東省系とみられるものなどがある。

清朝青花には花文等を描いた各種の碗（図176や190など、ほか多数）がみられ、皿（図336ほか）などもある。図182などのやや小振りの端反小碗類は、長崎・沖縄・江戸遺跡などを中心に、他種に比べ比較的多く報告されているものである。大橋康二氏の年代観でⅧ期（18世紀

後半～19世紀中葉）とされている（大橋1996）。

図184は、福建・広東省系の青花碗で、高台の高いやや大振りの碗である。沖縄・長崎などで出土が多く報告されている。大橋康二氏の年代観でⅧ期（1680～18世紀）とされている。

図175は、福建省徳化窯系の口ハゲ白磁碗とみられる。同じく口ハゲの碗で図101のような青花碗もある。また、同じく口ハゲの色絵碗も確認できる。

図90は、福建・広東省系の粗製青花の鉢（または大振りの碗）で、沖縄などで多く出土報告のあるタイプである。見込が蛇ノ目釉剥ぎされており、文様筆描きの製品の他、図489のような印青花もみられる。

景德鎮窯系とみられる清代の青花碗の中には、外面褐釉（図177）・外面青磁釉（図178）・外面瑠璃釉の製品もあり、粉彩の小碗（図247）なども確認される。

垂水・宮之城島津家屋敷跡の清代磁器の出土様相をみると、県内の諸近世遺跡の中では比較的製品種類の多様さが目立っている。県内における清代磁器の出土様相については、外城・郷村部に比べ、鹿児島城下（鹿児島城含む）にその出土例が集中し、種・量ともに豊富である傾向がみられ（橋口1999）、清朝磁器の出土が郷村部の遺跡に比べて種・量ともに豊富な垂水・宮之城島津家屋敷跡の様相は、鹿児島城下の遺跡における清朝磁器の出土傾向に矛盾しないあり方といえる。

もっとも、このような、郷村部の遺跡と鹿児島城下の遺跡の出土近世陶磁器を比較した場合における、後者の種・量の豊富さは清朝磁器の場合に限られたものではなく、出土近世陶磁全体について同様のことがいえる。このことは、言うまでもなく鹿児島城下が薩摩の「都市」として、薩摩における物流・消費の中心地としての役割を担ったことを端的に示している。

前述した清代の製品のうち、印青花をはじめとした福建・広東省系の粗製の製品は、日本国内における出土例が景德鎮窯系の製品などに比べると少ない。垂水・宮之城島津家屋敷跡ではこれら福建・広東省系の粗製品から、景德鎮窯系の青花・色絵まで幅広い種の清朝産の磁器がみられ、琉球貿易等を通じた薩摩藩地域への多様な清朝磁器の流入を反映している。鎖国下の近世薩摩における唐物（中国製品）の受容については、文献に記録されている部分もあるが、近世薩摩における唐物の消費実態を探る上で、近世遺跡における清朝磁器の出土様相の把握は重要な課題である。また、このような「琉球－薩摩」ルートによって日本本土に流入した清朝磁器には、垂水・宮之城島津家屋敷跡のような薩摩藩内で消費されたものだけでなく、抜荷などの非合法行為も含めた様々なかたちで、『北越秘説』の例のように、薩摩藩外の国内他地

域へと運ばれたものもあったようである。

<註>

3 ヨーロッパ産陶器

ヨーロッパ産陶器については、イギリスのドーン窯製の硬質陶器皿(図308)が出土している。図柄のパターン名は「ザ・サプライズ」。コバルトを用いたプリントウェアである。高台内にインプレスト・マークとプリントドマークが施されている。

県内の遺跡におけるヨーロッパ製陶器の確認例はこれまでのところ垂水・宮之城島津家屋敷跡を含め3例があるのみで、そのうち2例がオランダのマーストリヒト、P・レグラー窯製のプリントウェアであり、イギリスの製品は垂水・宮之城島津家屋敷跡のものが唯一の例である。3例とも19世紀頃のプリント・ウェアであるが、県内の遺跡で頻繁に確認されているといったような状況ではないので、受容はそれほど多くはなく、薩摩地域では比較的珍しい陶磁器ではあつただろうと考えられ(橋口・上東2002)、垂水・宮之城島津家屋敷跡における出土の意味が注目される。

4 まとめ

外国産輸入陶磁を中心に垂水・宮之城島津家屋敷跡における陶磁器の出土様相についてみてきたが、国産の高級品を含め、ランクの高い陶磁器の出土がみられることは、鹿児島城下に位置する垂水・宮之城島津家屋敷跡の持つ、薩摩における上級武家屋敷地としての性格を反映したものといえる。また、外城・郷村部の遺跡と比べた場合の出土陶磁の多様性も、上記のような垂水・宮之城島津家屋敷跡の性格が反映していると考えられる。

出土陶磁の主体をなす国内産陶磁に混ざって、粗製青花などを含めた清代の磁器が一定量みられることは、鎖国下の近世日本において琉球貿易を行っていた薩摩藩の対外的特殊性を反映したものと考えられ、薩摩の上級武家屋敷地における清朝磁器の消費実態がうかがえる点で興味深い。

本稿は大まかな概観に終始してしまっただが、垂水・宮之城島津家屋敷跡の出土陶磁は膨大な量であり、内包されている大小様々なテーマは数多く、今後さらなる詳細な遺物分析が期待されよう。

- (註1) 図385は、緑釉と黄褐色の釉が施された線刻文のある盤とみられる。華南三彩と呼ばれる一群などの中に類似した意匠の製品が認められる。
- (註2) 平凡社版中国の陶磁⑧『元・明の青花』(中沢富士夫・長谷川祥子1995)の挿図71。中沢氏の本文によれば、この東京国立博物館の「青花蓮花形盤」は万曆官窯の作品とみられる。
- (註3) 国内産陶磁についても、比較的高い社会階層の人々の存在を示唆するような、堅野系白薩摩や国産の色絵製品などの陶磁器が豊富に出土している。渡辺芳郎氏は「社会階層の違いによって使っている陶磁器に違いが見られる」とし、鹿児島城跡・鹿児島市大龍遺跡・鹿児島市域外の近世遺跡を比較し、堅野系製品の出土量の遺跡間格差に言及している(渡辺2001)。

<謝辞>

本稿作成にあたり、調査担当者の黒川氏に多大なご助力・ご教示をいただきました。また若松重弘氏に文献の利用でお世話になりました。文末ながら記して感謝いたします。

<引用・主要参考文献>

- 小野正敏 1982 「15～16世紀の染付碗・皿の分類と年代」『貿易陶磁研究』No.2 日本貿易陶磁研究会
- 鈴木秀典 1990 「17世紀の貿易陶磁器に関する研究成果」『貿易陶磁研究』No.10 日本貿易陶磁研究会
- 續伸一郎 1995 「中世後期の貿易陶磁」『概説 中世の土器・陶磁器』中世土器研究会編 真陽社
- 福建省博物館 1997 『漳州窯』福建漳州地区明清窯址調査発掘報告之一 福建人民出版社
- 中沢富士夫・長谷川祥子 1995 『元・明の染付』平凡社版中国の陶磁⑧ 平凡社
- 渡辺芳郎 2001 「考古学から見た近世薩摩焼」『鹿児島学のプロフィール2』鹿児島大学
- 大橋康二 1995 「九州における明末～清時代の中国磁器の出土分布とその内容について」『青山考古』No.12 青山考古学会
- 扇浦正義 1994 「長崎港市における近世輸入陶磁器の様相」『長崎県の考古学—中・近世研究特集—』長崎県考古学会
- 橋口亘 1999 「薩摩出土の清朝磁器—琉球口唐物の日本本土流入—」『貿易陶磁研究』No.19 日本貿易陶磁研究会
- 日本貿易陶磁研究会編 1999 『貿易陶磁研究』No.19
- 鹿児島県歴史資料センター黎明館 1998 『海洋国家・薩摩—薩摩に鎖国はなかった—』図録 鹿児島県歴史資料センター黎明館
- 橋口亘・上東克彦 2002 「鹿児島県内の遺跡におけるヨーロッパ製陶器—薩摩におけるヨーロッパ製陶器の受容—」『からから』No.11

垂水・宮之城島津家屋敷跡出土の陶磁器の記銘について

堂 満 幸 子

垂水家・宮之城家は藩政時代を通じて島津家一門・一所持の家格を有し、鹿児島城の東北に当たる斜向かいに屋敷があった。その屋敷跡から出土した陶磁器の中には、施釉されていない部分に墨書を施す資料が見受けられた。主な器種としては、碗形・皿形・高坏形等であり、これらのうち判読の委嘱を受けた資料について記述する。

垂水島津家屋敷跡出土遺物所見

- 垂水18 碗形に「要一」墨書
- 垂水20 碗形に「は」墨書
- 垂水65 蓋形に「□川瀬七 門田直介」墨書。□は築もしくは築の文字にも読める。
- 垂水66 蓋形に「一印御方」と判読できる墨書。
- 垂水75 鉢形に「安右衛門」刻書
- 垂水76 鉢形に「安右衛門」刻書

宮之城島津家屋敷跡出土遺物所見

- 宮之城42 皿形に「宮茶」染め付け
- 宮之城69 蓋形に「奥入附」，その右左に「卯 二月」の年月が見られる。墨書。納入の年月であろうか。
- 宮之城208 碗形に「ちさと」と判読できる墨書がある。
- 宮之城211 碗形に「西」墨書
- 宮之城215 碗形に「満」と判読できる墨書がある。
- 宮之城257 碗形に「伊原」刻書
- 宮之城259 碗形に「商」と判読できる墨書がある。
- 宮之城375 皿形に「□□□」墨書があるが字体が不鮮明で判読不明である。
- 宮之城527 火入れ鉢形に「□拾四□」墨書。上部の文字が欠げ下部は字体が不鮮明で判読不明である。
- 宮之城553 高坏形に「津満」変体仮名で「つま」と読める墨書。
- 宮之城556 (高坏の脚台の内面に) 看経，即ち読経をする場所を意味する「御看経所」と判読できる墨書がある。
- 宮之城774 蓋形に「い楚」墨書。「楚」は変体仮名で「そ」と読むと「いそ」となる。
- 宮之城820 土器皿形に「中」墨書
- 宮之城877 「本 宮 島 中村八兵衛」刻書

ま と め

258・260・261・309・371～373などの陶磁器に見られる墨書の記銘については個々に列記しなかったが、これらの記銘は、所有者もしくは使用・収納部署を表すものと考えられ、宮之城258・260・261・279・309・371～373などに見られる「○」「△」「□」「☆」「◎」「◇」「□」等の印も同様の意味合いで記されたものであろう。

垂水75・76等に見られる印刻は、制作者もしくは制作に関わる刻銘であろうと考えられる。

圖 版



屋敷跡から鹿児島城を望む



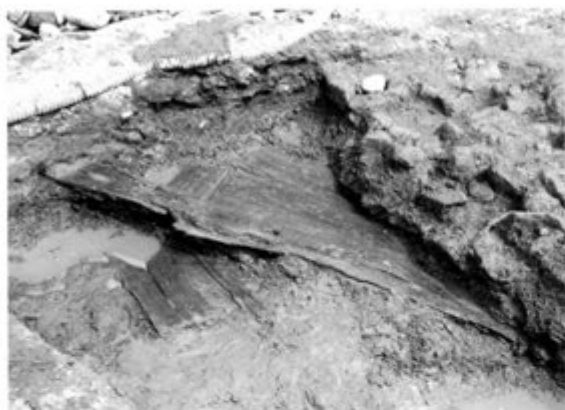
作業風景



垂水島津家屋敷跡遺構検出状況



宮之城島津家屋敷跡A区遺構検出状況



①上層より板出土



②廃棄土坑内の遺物出土状況



③クイ検出状況 1



④クイ検出状況 2



⑤完掘状況

屋敷境溝検出状況



掃きだめ状遺構検出状況



宮之城島津家屋敷跡B区遺構検出状況



土坑 1 検出状況



垂水島津家土層断面



宮之城島津家土層断面



遺構実測風景①



遺構実測風景②



掃きだめ状遺構出土遺物



土坑 2 出土遺物



碗形 2 · 3 類



猪口形



高坏形



碗形 1 類



碗形 4 · 5 · 6 類



皿形



皿形8類・器台形・ひょうそく形



鉢形・餐水入れ形



瓶 形



注口形



火入鉢形



壺形・徳利形



すり鉢形



こね鉢形・植木鉢形・甕形



蓋形



瓦



防衛食容器



古 錢



H11年度発掘作業員



H12年度発掘作業員



整理作業の様子



整理指導の様子



鹿児島陶磁器研究会の様子



H14年度整理作業員



曳家工事前の旧鹿児島県庁舎本館

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(48)
かごしま県民交流センター建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

垂水・宮之城島津家屋敷跡

発行年月日 2003年3月
発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-4461 鹿児島県国分市上之段1175番地1
☎0995-48-5811
印刷 有限会社 アート印刷
〒892-0861 鹿児島市東坂元二丁目29-1
☎099-247-5111



旧薩藩御城下絵図抜粋